

第7期生駒市障がい者福祉計画に関する アンケート調査結果 報告書

障害者手帳所持者を対象としたアンケート調査

令和6年3月

生駒市 障がい福祉課

<目次>

I. アンケート調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象者	1
3. 調査期間	1
4. 調査方法	1
5. 回収状況	1
II. アンケート調査結果	4
1. 回答者の属性.....	4
2. 日常生活について	23
3. 障害福祉サービスなどの利用について	44
4. 保健・医療について	56
5. 就労支援について(18歳以上の方のみ)	61
6. 相談支援や情報について	65
7. 災害時の避難などについて	71
8. 権利擁護などについて	77
9. コミュニケーションについて.....	94
10. 生駒市の障がい福祉施策について	104
11. 自由意見	112
III. アンケート調査票	117

I. アンケート調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、第7期生駒市障がい者福祉計画（計画期間：令和6～8年度）を策定するにあたり、障害者手帳を所持する方の生活状況や考えを伺うことで、障がい者の意識や生活実態、福祉サービスの課題を的確に把握し、計画策定の基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

2. 調査対象者

生駒市在住の障害者手帳所持者（令和5年7月1日現在で65歳未満の方）から、1,500人を無作為抽出。

3. 調査期間

令和5年8月16日（水）～8月31日（木）

4. 調査方法

郵送配布、郵送回収及びWEBフォームによる回収。

5. 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
手帳所持者 総数	1,500 件	880 件 ※うち WEB による回答 198 件	58.7%
身体障害者手帳所持者	599 件	347 件	
療育手帳所持者	473 件	319 件	
精神障害者保健福祉手帳所持者	428 件	265 件	
所持手帳不明	—	14 件	

※複数の手帳を所持する重複所持者がいるため、各手帳所持者の回答件数の合計は有効回答数 880 件を上回ります。

●年代別（2区分）、所持手帳別の内訳

所持手帳	18 歳未満	18 歳以上	年齢 無回答	合計
身体障害者手帳	21 件	324 件	2 件	347 件
療育手帳	106 件	212 件	1 件	319 件
精神障害者保健福祉手帳	10 件	251 件	4 件	265 件
所持手帳不明	2 件	7 件	5 件	14 件
手帳所持者 総数	133 件	736 件	11 件	880 件

※複数の手帳を所持する重複所持者がいるため、各手帳所持者の回答件数の合計は有効回答数 880 件を上回ります。

年齢無回答（n=11）はクロス集計の対象としていません。

（参考）重複所持者の内訳について

手帳所持者総数（880件）のうち、身体障害者手帳と療育手帳の重複所持が32件、身体障害者手帳と精神障害者保健福祉手帳の重複所持が13件、療育手帳と精神障害者保健福祉手帳の重複所持が6件となっており、3種類全ての重複所持が7件となっています。

また、各手帳一つだけ所持が808件となっており、重複所持58件、所持手帳不明14件を合わせると計880件となります。

	身体 (n=347)	療育 (n=319)	精神 (n=265)		
身体も所持	295 件			一つだけ所持 身体 295 件 療育 274 件 精神 239 件 計 808 件	重複所持 身体+療育 32 件 身体+精神 13 件 療育+精神 6 件 3種類全て 7 件 計 58 件
療育も所持	32 件	274 件			
精神も所持	13 件	6 件	239 件		
3種類全て所持		7 件			

重複している件数

◆『障がいの種別（年代別）』による分析について

「身体障害者手帳」所持者及び「療育手帳」所持者を「子ども（18歳未満）」と「大人（18歳以上）」に区分し、さらに「18歳以上の身体障害者手帳所持者」を障がいの程度により2区分【重度（1級・2級）と軽度（3～6級）】し、以下に示す6区分を『障がいの種別（年代別）』として分析を行います。

《障がいの種別（年代別）の回答件数》

		区分の考え方	回答件数 ※
区分 表記	身体障がい・子ども	「身体障害者手帳」所持者で18歳未満の方	21 件
	身体障がい（重度）・大人	「身体障害者手帳」所持者の18歳以上で1級・2級の方	145 件
	身体障がい（軽度）・大人	「身体障害者手帳」所持者の18歳以上で3級～6級の方	158 件
	知的障がい・子ども	「療育手帳」所持者で18歳未満の方	106 件
	知的障がい・大人	「療育手帳」所持者で18歳以上の方	212 件
	精神障がい	「精神障害者保健福祉手帳」所持者	265 件
区分判明者			847 件
上記区分不可		所持手帳不明（14件）、「身体障害者手帳」所持者で年齢不明（1件）、「療育手帳」所持者で年齢不明（1件）、「身体障害者手帳」所持者の18歳以上で等級不明（17件）	33 件
手帳所持者 総数			880 件

※複数の手帳を所持する重複所持者がいるため、回答件数の合計は有効回答数 880 件を上回ります。

障がいの種別区分不可（n=33）はクロス集計の対象としていません。

(参考)障がいの種別(6区分)の年齢3区分別の件数

	18歳未満	18歳以上 40歳未満	40歳以上	合計
身体障がい・子ども	21件	—	—	21件
身体障がい(重度)・大人	—	24件	121件	145件
身体障がい(軽度)・大人	—	23件	135件	158件
知的障がい・子ども	106件	—	—	106件
知的障がい・大人	—	128件	84件	212件
精神障がい	10件	84件	167件	261件

※障がいの種別(年代別)の区分不可(33件)は集計の対象としていません(2ページ下段参照)。

※精神障害者保健福祉手帳所持者の年齢無回答(4件)は集計の対象としていません(1ページ下段参照)。

★集計値について

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。
- 図表中の「N(number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に応じた数)に該当します。
- 図表中の「n」は、クロス集計において項目別に区分された集計対象者数(あるいは回答者限定設問の限定条件に応じた数)に該当します。
- クロス修正を実施する際は、無回答等は集計の対象としません。また、クロス集計で使用するn値については、参照ページで示されている数値、もしくは図表又はグラフ下に注釈で記載しているように算出した数値です。

Ⅱ. アンケート調査結果

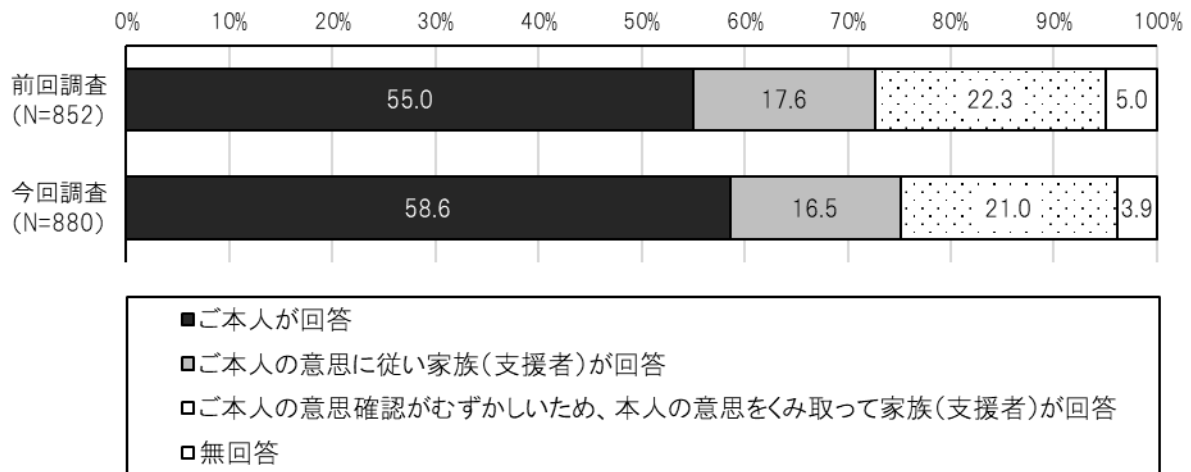
Ⅰ. 回答者の属性

○このアンケートは、どなたが記入されますか。

「ご本人が回答」の割合が58.6%と最も高く、次いで「ご本人の意思確認がむずかしいため、本人の意思をくみ取って家族（支援者）が回答」の割合が21.0%、「ご本人の意思に従い家族（支援者）が回答」の割合が16.5%となっています。

前回調査※と比べると、大きな変化はみられません。

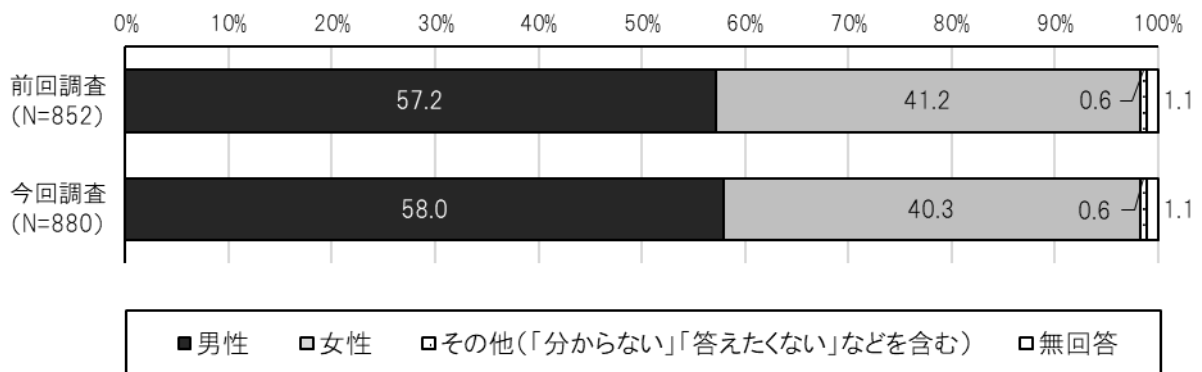
※前回調査：第6期計画策定にあたり、令和2年7月に実施したアンケート調査（有効回答数：852件）



問Ⅰ. あなたの性別をお答えください。

「男性」の比率が58.0%で、「女性」の40.3%を上回っています。

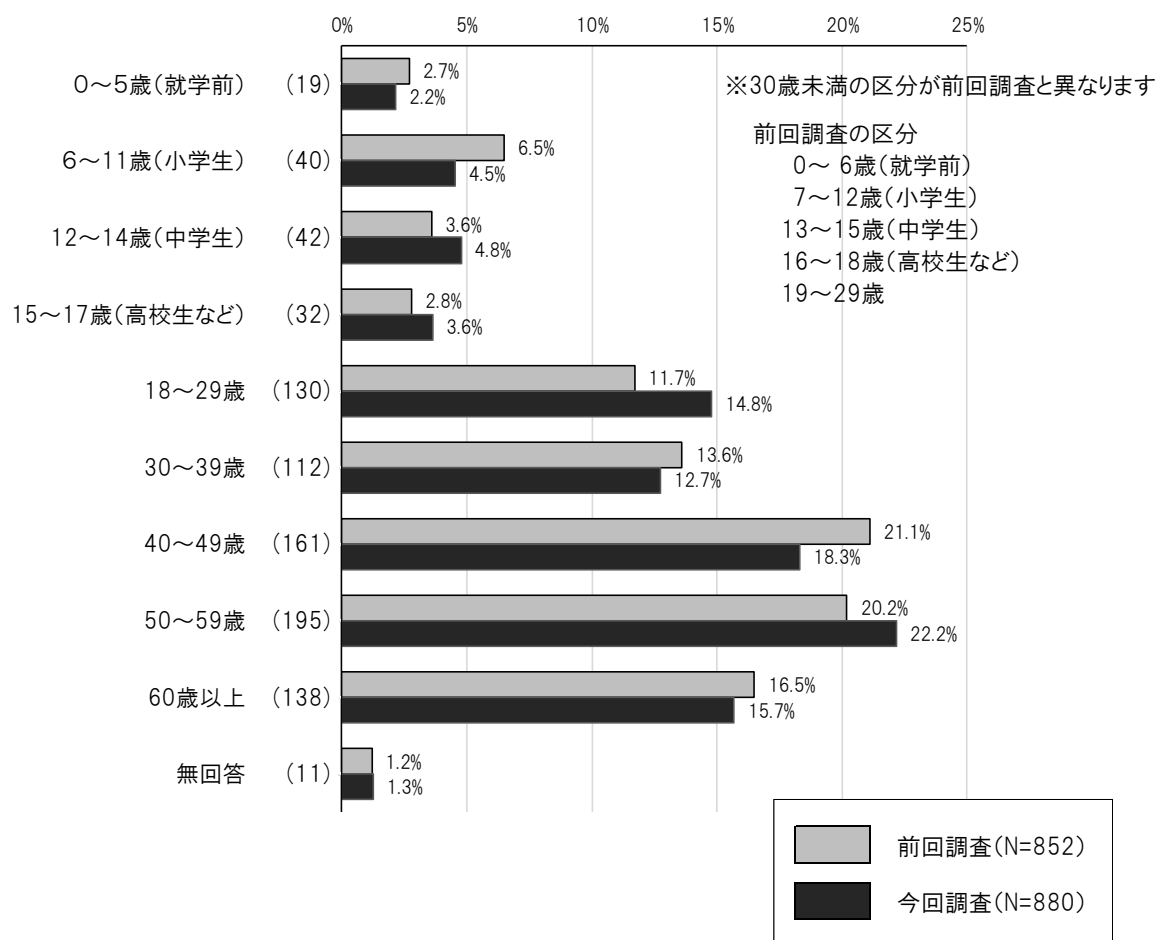
前回調査と比べると、大きな変化はみられません。



問2. あなたの年齢はおいくつですか。令和5年4月1日現在の年齢でお答えください。

「50～59歳」の比率が22.2%と最も高く、次いで「40～49歳」が18.3%、「60歳以上」が15.7%となっています。

前回調査と比べると、「40～49歳」の比率が減少している一方で、「50歳～59歳」が増加しており、比率の高さの順番が入れ替わっています。



年齢によるクロス集計については、設問に応じて上記の9区分と設問内容に応じて18歳未満、18～39歳、40～59歳、60歳以上を集約した以下の4区分で分析を進めます。
 なお、クロス集計にあたっては無回答11件を含めません。

18歳未満	18～39歳	40～59歳	60歳以上
133件(15.1%)	242件(27.5%)	356件(40.5%)	138件(15.7%)

また、以下の設問については、18歳以上、40歳以上を対象としています。

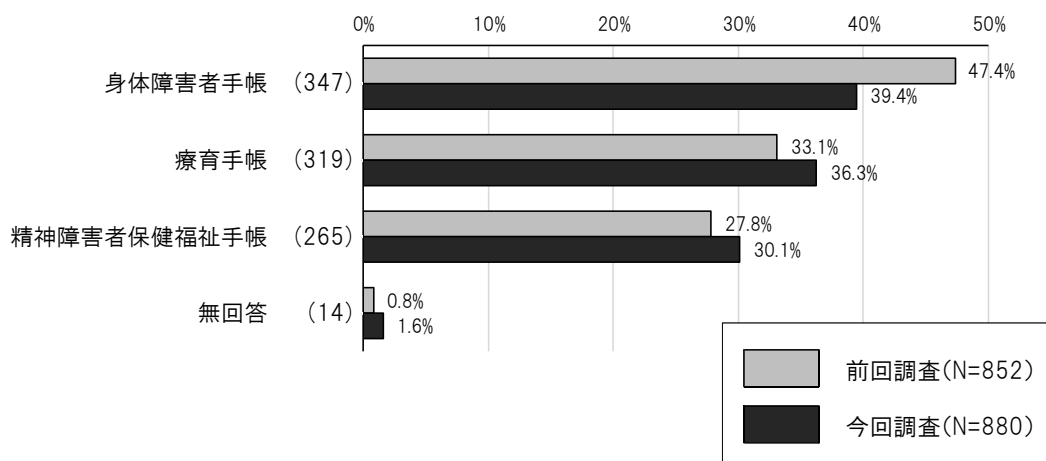
- 18歳以上(736件)を対象 : 問6(14ページ～16ページ上段)、
問24・25(61ページ～64ページ)
- 40歳以上(494件)を対象 : 問7(16ページ下段～17ページ)

問3. お持ちの障害者手帳の種類すべてと手帳に書かれている障がいの程度をお答えください。
(身体障害者手帳所持者については障がいの内容も含む)

所持している障害者手帳【複数回答】

「身体障害者手帳」の比率が39.4%、「療育手帳」が36.3%、「精神障害者福祉手帳」が30.1%となっています。

前回調査と比べると、「身体障害者手帳」の比率が減少し、「療育手帳」「精神障害者福祉手帳」が増加しています。



●所持手帳×年齢

クロス集計の項目については、「当該設問×クロス集計分析を行う設問」と表示します

「身体障害者手帳」の比率は、概ね年齢が上がるにつれて高くなり、50～59歳で56.9%、60歳以上で81.9%となっています。

「療育手帳」の比率は0～5歳で94.7%となっており、概ね年齢が上がるにつれて低くなっています。

「精神障害者保健福祉手帳」の比率は、30～39歳、40～49歳で高くなっており、この年齢層では「身体障害者手帳」、「療育手帳」の比率を上回っています。

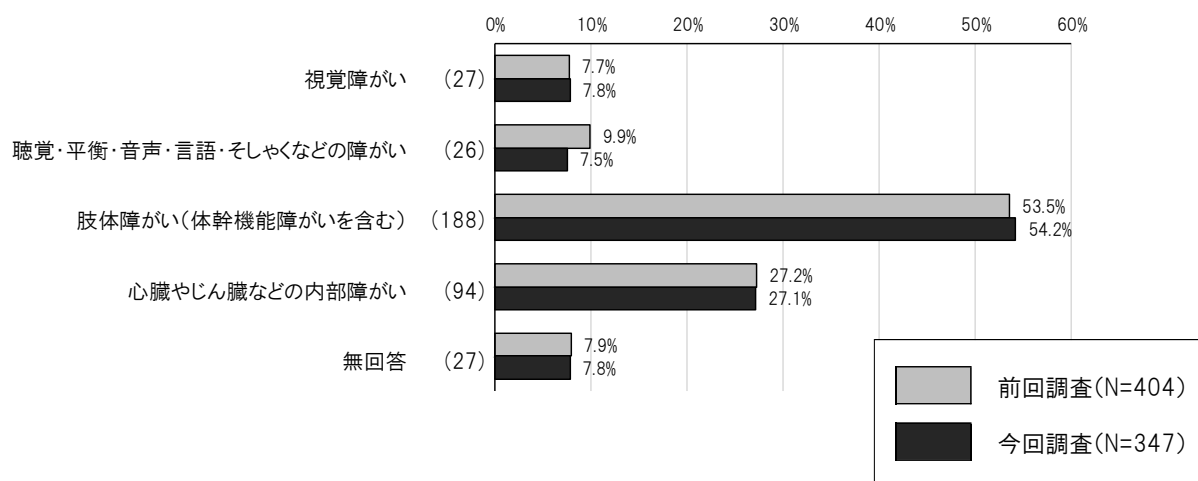
	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	無回答
総数(N=880)	39.4%	36.3%	30.1%	1.6%
0～5歳(就学前) (n=19)	10.5%	94.7%	0.0%	0.0%
6～11歳(小学生) (n=40)	10.0%	82.5%	7.5%	0.0%
12～14歳(中学生) (n=42)	23.8%	71.4%	9.5%	2.4%
15～17歳(高校生など) (n=32)	15.6%	78.1%	9.4%	3.1%
18～29歳 (n=130)	16.9%	65.4%	26.9%	1.5%
30～39歳 (n=112)	24.1%	38.4%	43.8%	0.0%
40～49歳 (n=161)	31.7%	31.1%	43.5%	2.5%
50～59歳 (n=195)	56.9%	12.3%	37.9%	0.0%
60歳以上 (n=138)	81.9%	7.2%	16.7%	0.7%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

問3で身体障害者手帳を回答した方(347 件)の障がいの内容【複数回答】

「肢体障がい(体幹機能障がいを含む)」の比率が54.2%と最も高く、次いで「心臓やじん臓などの内部障がい」が27.1%となっています。

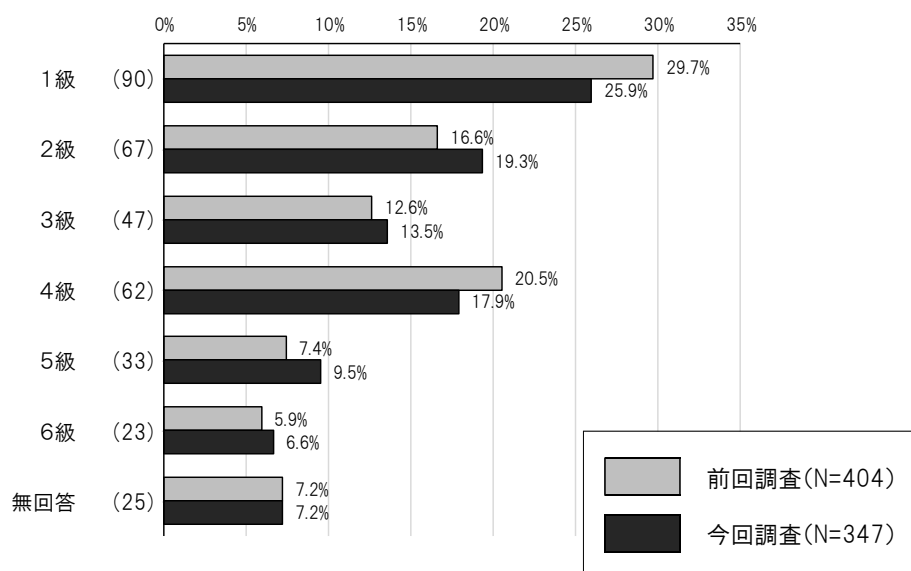
前回調査と比べ、大きな変化はありません。



問3で身体障害者手帳を回答した方(347 件)の障がいの程度

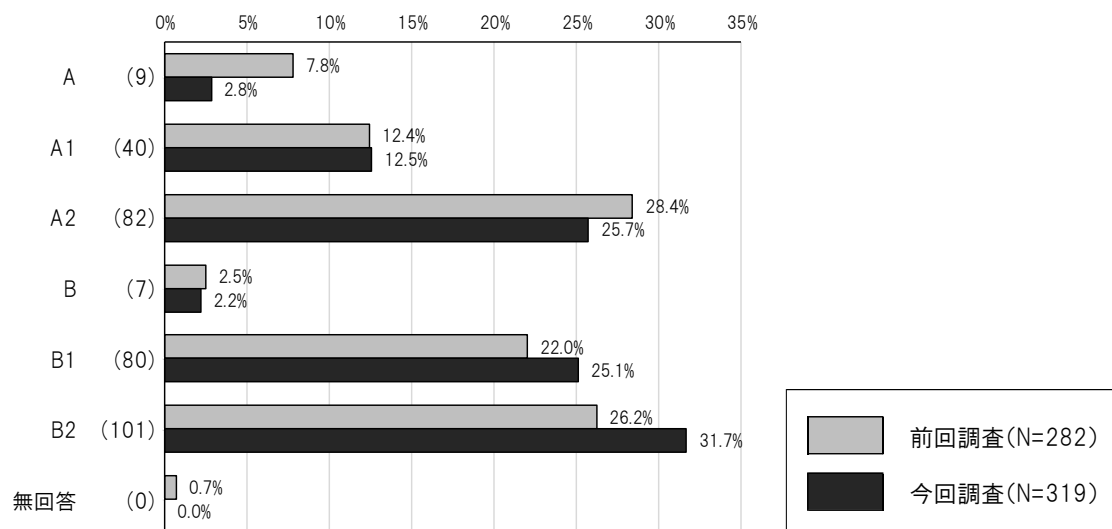
「1級」の比率が25.9%と最も高く、次いで「2級」が19.3%となっています。

前回調査と比べると、「1級」の比率が減少している一方で「2級」が増加していますが、「1級」「2級」を合わせた「重度」の比率に大きな変化はありません。



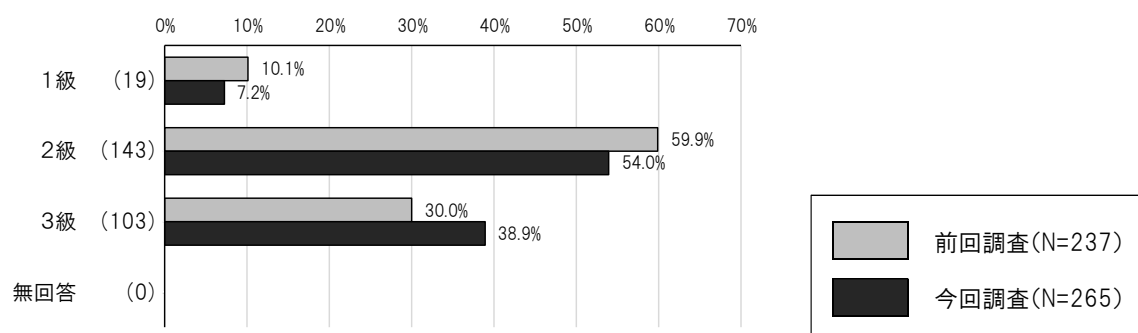
問3で療育手帳を回答した方(319件)の障がいの程度

「B2」の比率が31.7%と最も高く、次いで「A2」が25.7%、「B1」が25.1%となっています。
前回調査と比べると、「A」が減少している一方で「B1」「B2」が増加しています。



問3で精神障害者保健福祉手帳を回答した方(265件)の障がいの程度

「2級」の比率が54.0%と最も高く、次いで「3級」が38.9%となっています。
前回調査と比べると、「3級」の比率が増加しています。



(参考)障がいの種別(6区分)の集計 前回調査との比較

身体障害者手帳所持者が全体として減少していることから、身体障がい・子ども、身体・大人(重度)、身体・大人(軽度)の比率はいずれも減少しています。

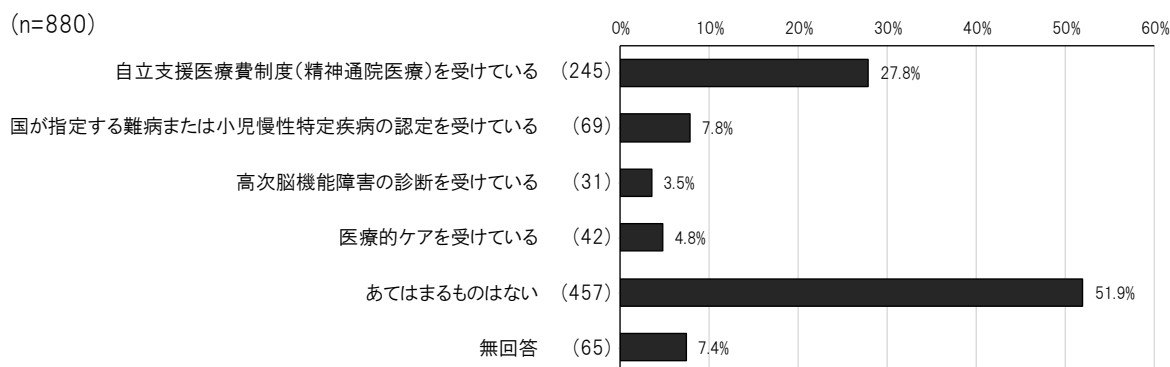
知的障がいについては、子どもの比率に大きな変化がない一方で、大人の比率が前回に比べて高くなっています。

	今回(N=880)		前回(N=852)		比率の差 今回－前回
	件数	比率	件数	比率	
身体障がい・子ども	21件	2.4%	41件	4.8%	-2.4%
身体障がい(重度)・大人	145件	16.5%	163件	19.1%	-2.7%
身体障がい(軽度)・大人	158件	18.0%	175件	20.5%	-2.6%
知的障がい・子ども	106件	12.0%	99件	11.6%	0.4%
知的障がい・大人	212件	24.1%	180件	21.1%	3.0%
精神障がい	265件	30.1%	237件	27.8%	2.3%

重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880、N=852)の件数を上回ります。

問4. あなたの疾病の認定などについて、おうかがいします。【複数回答】

「あてはまるものはない」の比率が最も高く51.9%となっており、次いで「自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている」の比率が27.8%となっています。



●疾病などの認定×障がいの種別

「自立支援医療制度（精神通院医療）を受けている」は、精神障がいが多くを占めており、「国が指定する難病または小児慢性特定疾患の認定を受けている」は、身体障がい・子どもが高くなっています。

「医療的ケアを受けている」についても、特に身体障がい（重度）・大人の比率が高くなっています。

	自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている	国が指定する難病または小児慢性特定疾患の認定を受けている	高次脳機能障害の診断を受けている	医療的ケアを受けている	あてはまるものはない	無回答
総数 (N=880)	27.8%	7.8%	3.5%	4.8%	51.9%	7.4%
身体障がい・子ども (n=21)	9.5%	38.1%	9.5%	4.8%	52.4%	0.0%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	11.0%	17.9%	5.5%	11.7%	51.0%	8.3%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	1.9%	10.8%	6.3%	7.0%	69.6%	6.3%
知的障がい・子ども (n=106)	2.8%	9.4%	0.9%	1.9%	75.5%	10.4%
知的障がい・大人 (n=212)	14.2%	4.2%	2.4%	3.8%	70.3%	9.0%
精神障がい (n=265)	78.1%	1.9%	4.9%	3.8%	14.0%	1.9%

重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)については本集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●疾病などの認定×年齢別

「自立支援医療制度（精神通院医療）を受けている」は、精神障害者保健福祉手帳を所持している比率が高い30～59歳（問3、6ページ下段参照）の年齢で高くなっています。

「国が指定する難病または小児慢性特定疾患の認定を受けている」は、14歳以下の比率が高くなっています。

	自立支援医療制度（精神通院医療）を受けている	国が指定する難病または小児慢性特定疾患の認定を受けている	高次脳機能障害の診断を受けている	医療的ケアを受けている	あてはまるものはない	無回答
総数 (N=880)	27.8%	7.8%	3.5%	4.8%	51.9%	7.4%
0～5歳(就学前) (n=19)	5.3%	21.1%	0.0%	5.3%	78.9%	0.0%
6～11歳(小学生) (n=40)	5.0%	10.0%	0.0%	5.0%	70.0%	10.0%
12～14歳(中学生) (n=42)	9.5%	14.3%	2.4%	0.0%	66.7%	11.9%
15～17歳(高校生など) (n=32)	9.4%	6.3%	3.1%	0.0%	68.8%	12.5%
18～29歳 (n=130)	20.0%	6.9%	2.3%	1.5%	61.5%	10.8%
30～39歳 (n=112)	38.4%	3.6%	2.7%	7.1%	44.6%	6.3%
40～49歳 (n=161)	44.7%	4.3%	5.0%	1.2%	46.0%	1.9%
50～59歳 (n=195)	36.9%	9.7%	3.1%	9.2%	41.0%	4.6%
60歳以上 (n=138)	13.8%	9.4%	5.8%	6.5%	56.5%	10.1%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

問4で「医療的ケアを受けている」と回答した方(42件)の医療的ケアの内容【複数回答】

「その他」を除くと、「経管栄養(経鼻胃管・腸ろう・胃ろうなど)」が8件と最も多く、次いで、「かくたん吸引(口腔・鼻腔・気管カニューレ内部などの吸引)」が6件、「吸入・ネブライザー」が5件となっています。

「その他」の記入内容については、「定期検査、投薬(処方)」「人工透析」「導尿治療、ストーマ」などが多くなっています。

回答数 42 件

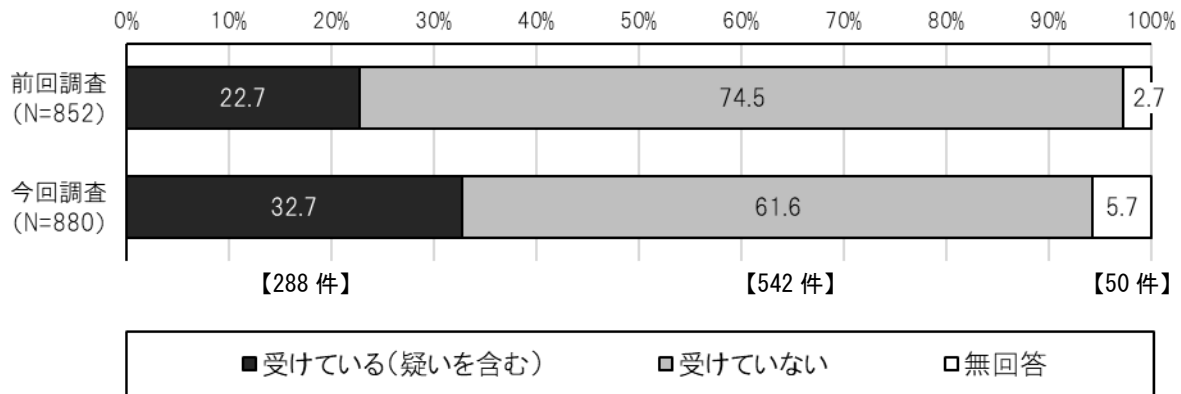
経管栄養(経鼻胃管・腸ろう・胃ろうなど)	8 件
かくたん吸引 (口腔・鼻腔・気管カニューレ内部などの吸引)	6 件
吸入・ネブライザー	5 件
気管切開部の管理	3 件
人工呼吸器の管理	3 件

主な 内 訳	その他	24 件
	定期検査、投薬(処方)	7 件
	人工透析	4 件
	導尿治療、ストーマ	4 件
	上記以外	9 件
無回答		4 件

問5. あなたは、発達障がいの診断を受けていますか。(自閉症スペクトラム、広汎性発達障がい、学習障がいなど)

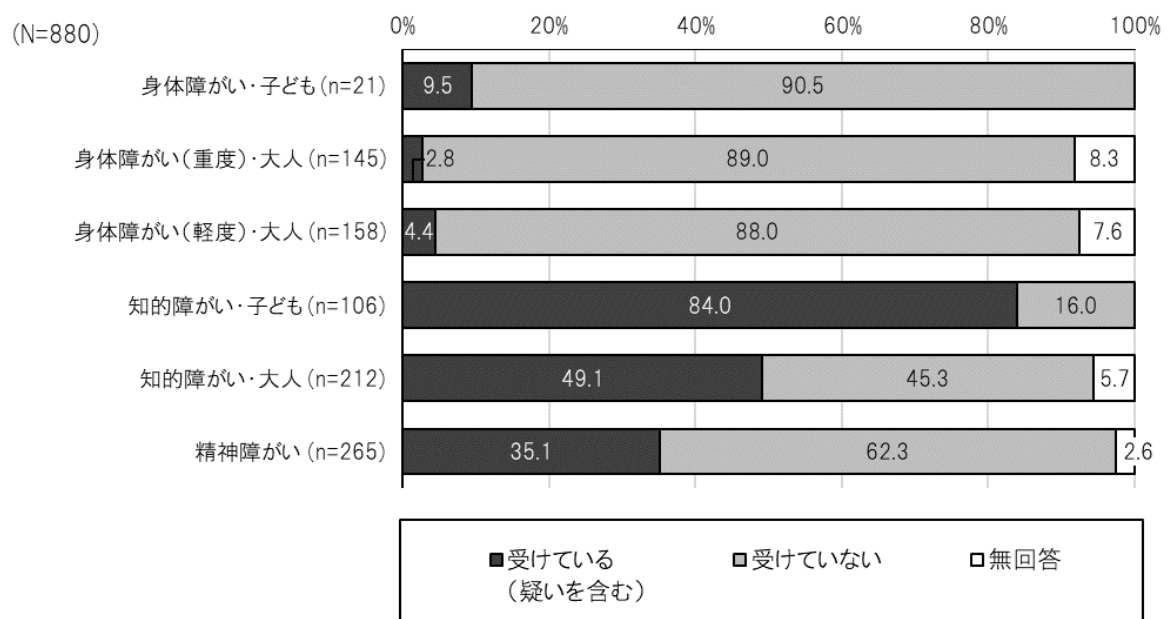
「受けている(疑いを含む)」が32.7%、「受けていない」が61.6%となっています。

前回調査と比べると、「受けている(疑いを含む)」の比率が22.7%から32.7%に増加しており、障がいの種別の変化(「身体障がい」が減少、「知的障がい」「精神障がい」が増加→問3(8ページ下段)参照)も要因と考えられます。



●発達障がいの診断×障がいの種別

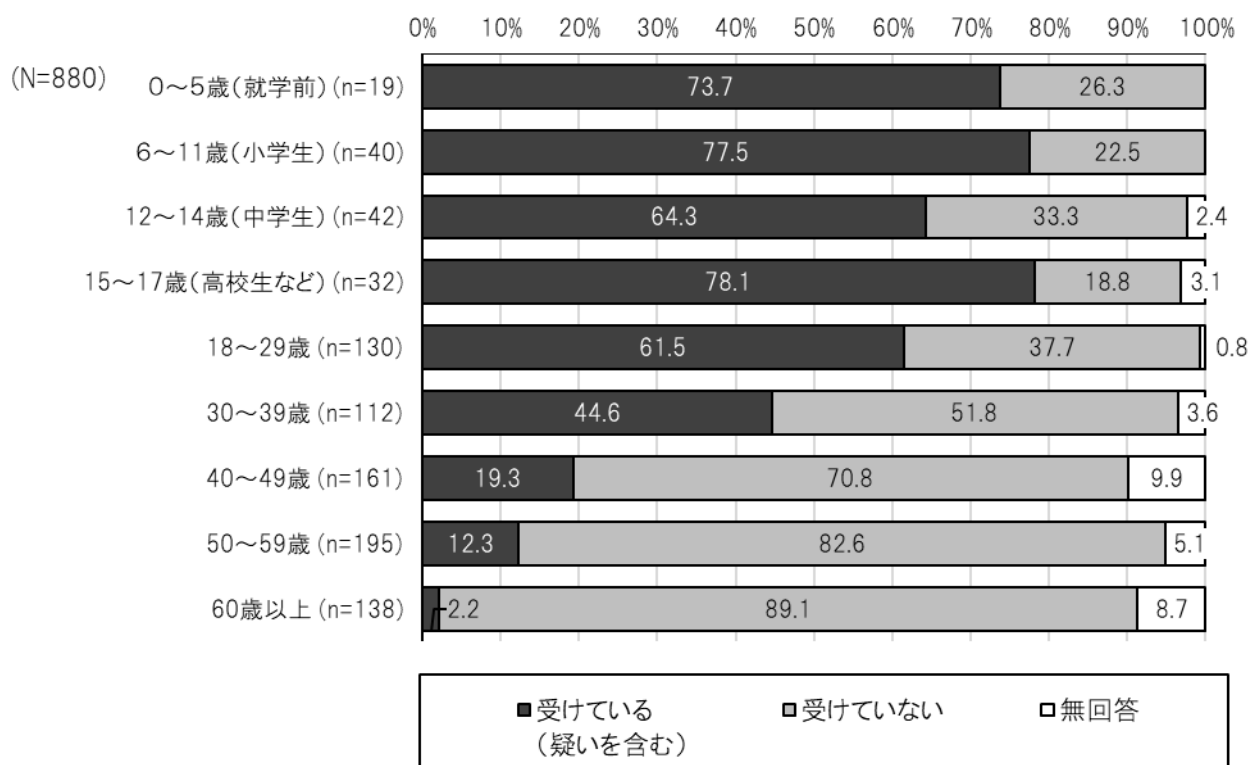
「受けている(疑いを含む)」は知的障がいが多くを占めており、身体障がいの比率が低くなっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2ページ参照)。

●発達障がい診断×年齢別

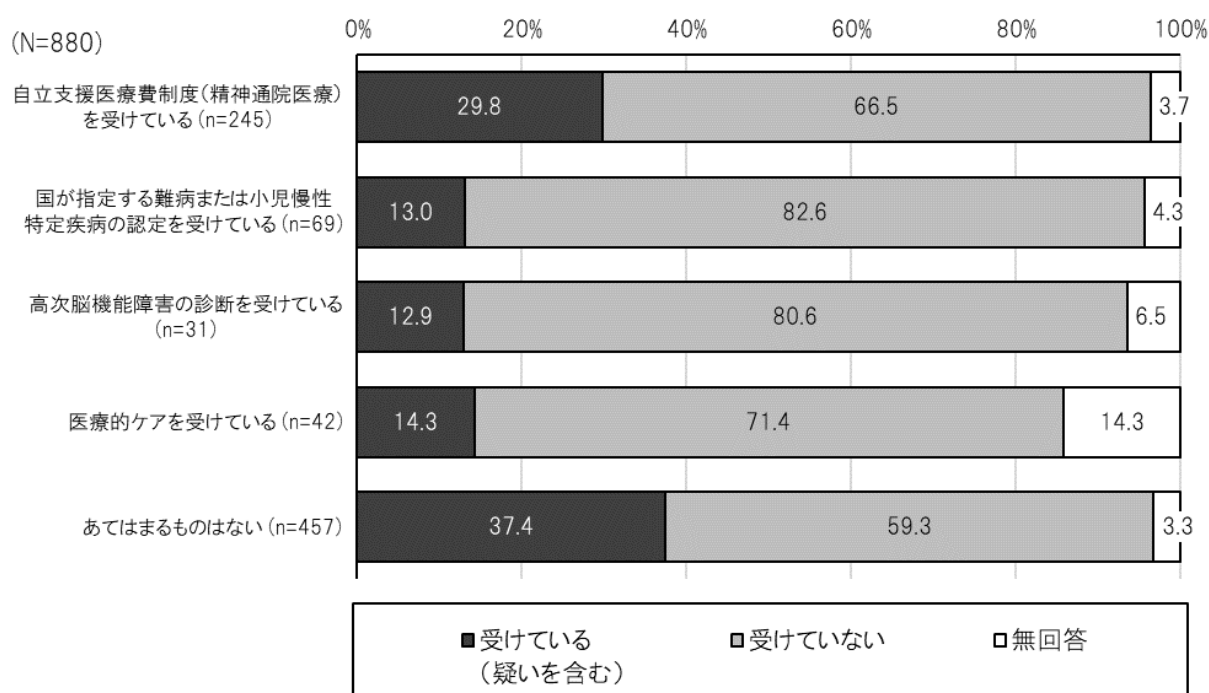
「受けている（疑いを含む）」は、概ね年齢が上がるにつれて、低くなっています。



年齢無回答（n=11）はクロス集計の対象としていません（5 ページ参照）。

●発達障がい診断×疾病などの認定別

「受けている（疑いを含む）」は、あてはまるものはない方が37.4%と最も高く、次いで自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている方が29.8%となっています。

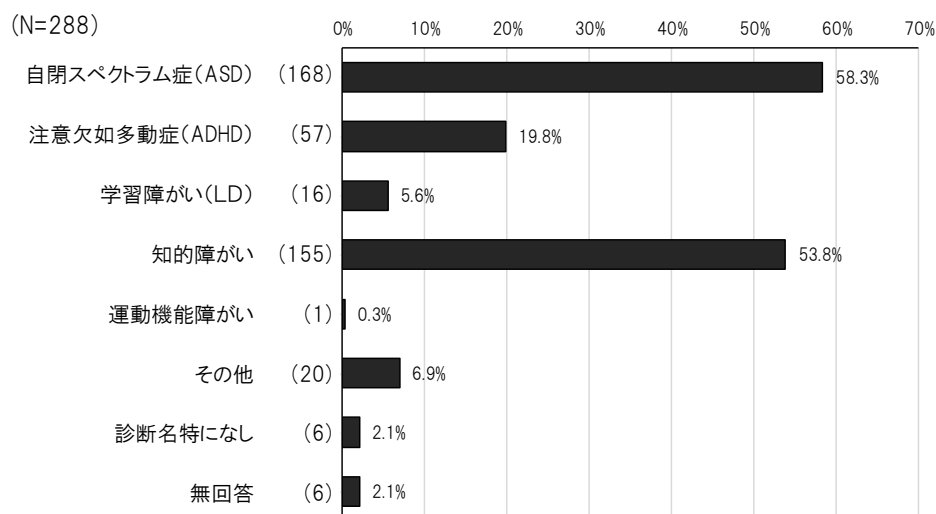


疾病などの認定無回答（n=65）はクロス集計の対象としていません（9 ページ上段参照）。また、重複回答を含むため、件数の合計（無回答を含む）は母集団（N=880）の件数を上回ります。

問5で発達障がいの診断を「受けている(疑いを含む)」と回答した方(288件)の診断結果【複数回答】

「自閉スペクトラム症(ASD)」の比率が最も高く58.3%となっており、次いで、「知的障がい」の比率が53.8%となっています。

「その他」の内訳については、広汎性発達障がい、発達遅滞、ダウン症などとなっています。



●発達障がいの診断結果×障がいの種別

「自閉スペクトラム症(ASD)」については、障がいの種別では精神障がいで68.8%と最も高く、次いで知的障がい・子どもが65.2%となっています。

身体障がいで発達障がいの診断を受けた方は子ども、大人合わせて13件(身体障がい・子ども:21件×9.5%=2件、身体障がい(重度)大人:145件×2.8%=4件、身体障がい(軽度)大人:158件×4.4%=7件、11ページ下段参照)となります。

	自閉 スペクトラム 症 (ASD)	注意欠如多動症 (ADHD)	学習障がい (LD)	知的 障がい	運動機能障がい	その他	診断名特になし	無回答
総数 (N=288)	58.3%	19.8%	5.6%	53.8%	0.3%	6.9%	2.1%	2.1%
身体障がい・子ども (n=2)	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
身体障がい(重度)・大人 (n=4)	25.0%	25.0%	0.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
身体障がい(軽度)・大人 (n=7)	42.9%	14.3%	0.0%	71.4%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
知的障がい・子ども (n=89)	65.2%	13.5%	7.9%	69.7%	0.0%	4.5%	0.0%	2.2%
知的障がい・大人 (n=104)	42.3%	8.7%	5.8%	81.7%	0.0%	7.7%	1.9%	1.9%
精神障がい (n=93)	68.8%	35.5%	5.4%	9.7%	0.0%	8.6%	4.3%	2.2%

障がいの種別の回答数(n値)については、11 ページ下段(発達障がいの診断×障がいの種別)のグラフ内の各種別の回答数(n値)に「受けている(疑いを含む)」の回答割合を乗じた値です【例:身体障がい・子ども n=2[n=21×9.5%]】。

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=288)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可は本集計の対象としていません。

●発達障がい診断結果×年齢別

「自閉スペクトラム症(ASD)」「知的障がい」の比率が全年代で高くなっています。

	自閉 スペクトラム 症 (ASD)	注意欠如多動症 (ADHD)	学習障がい (LD)	知的障がい	運動機能障がい	その他	診断名特になし	無回答
総数 (N=288)	58.3%	19.8%	5.6%	53.8%	0.3%	6.9%	2.1%	2.1%
0～5歳(就学前) (n=14)	64.3%	7.1%	0.0%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
6～11歳(小学生) (n=31)	77.4%	16.1%	3.2%	64.5%	0.0%	6.5%	0.0%	0.0%
12～14歳(中学生) (n=27)	66.7%	18.5%	7.4%	55.6%	0.0%	3.7%	0.0%	3.7%
15～17歳(高校生など) (n=25)	52.0%	16.0%	20.0%	76.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%
18～29歳 (n=80)	63.8%	16.3%	2.5%	53.8%	0.0%	10.0%	2.5%	2.5%
30～39歳 (n=50)	54.0%	26.0%	6.0%	36.0%	2.0%	10.0%	6.0%	2.0%
40～49歳 (n=31)	58.1%	19.4%	3.2%	54.8%	0.0%	3.2%	3.2%	0.0%
50～59歳 (n=24)	25.0%	29.2%	4.2%	50.0%	0.0%	8.3%	0.0%	4.2%
60歳以上 (n=3)	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

年齢別の回答数(n 値)については、12 ページ上段(発達障がいの診断×年齢別)のグラフ内の各種別の回答数(n値)に「受けている(疑いを含む)」の回答割合を乗じた値です【例:0～5歳(就学前) n=14[n=19×73.7%]】。

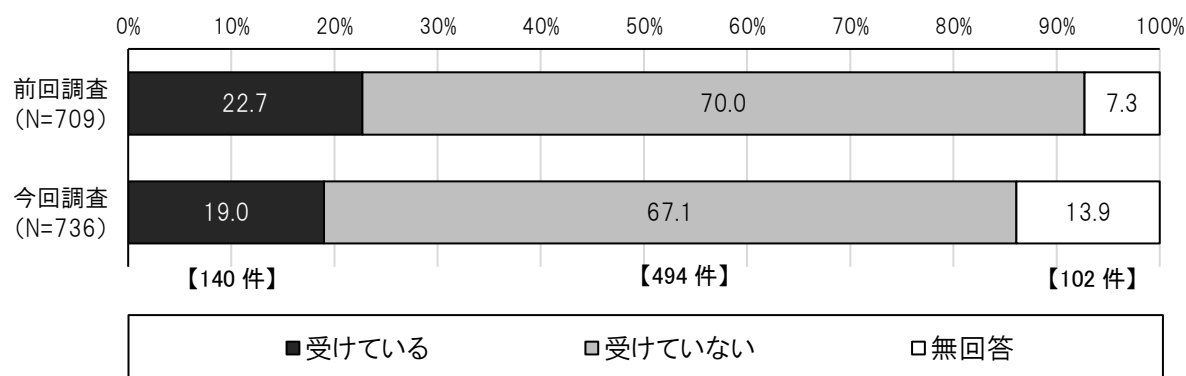
年齢無回答はクロス集計の対象としていません。

問6. 18 歳以上の方(736 件 5ページ参照)におたずねします。

現在、障害者総合支援法の障害支援区分の認定を受けていますか。

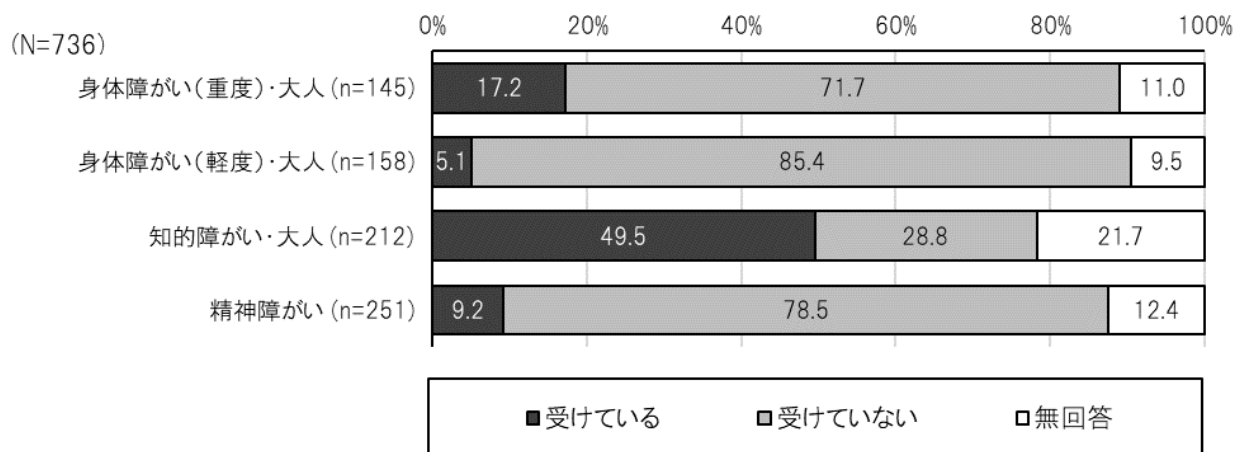
「受けている」が19.0%、「受けていない」が67.1%となっています。

前回調査と比べると、「無回答」の比率が増加していますが、「受けている」が3.7ポイント、「受けていない」が2.9ポイントとともに減少しており、「受けている」「受けていない」の相対比に大きな変化はありません。



●障害者総合支援法の認定×障がいの種別

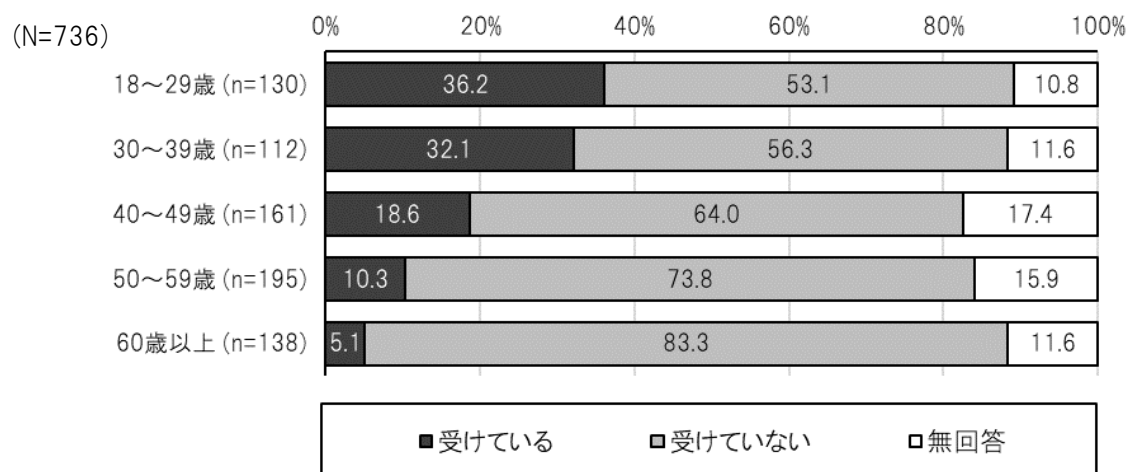
知的障がい・大人の「受けている」が49.5%と最も高くなっています。



18歳以上の障がいの種別の回答数(n値)については、3ページ上段(障がいの種別(6区分)の年齢3区分別の件数)参照。
また、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=736)の件数を上回ります。なお、障がいの種別区分不可は本集計の対象としていません。

●障害者総合支援法の認定×年齢別(18歳以上)

18～29歳の「受けている」が36.2%と最も高く、年齢が上がるにつれて「受けている」の比率が低くなっています。

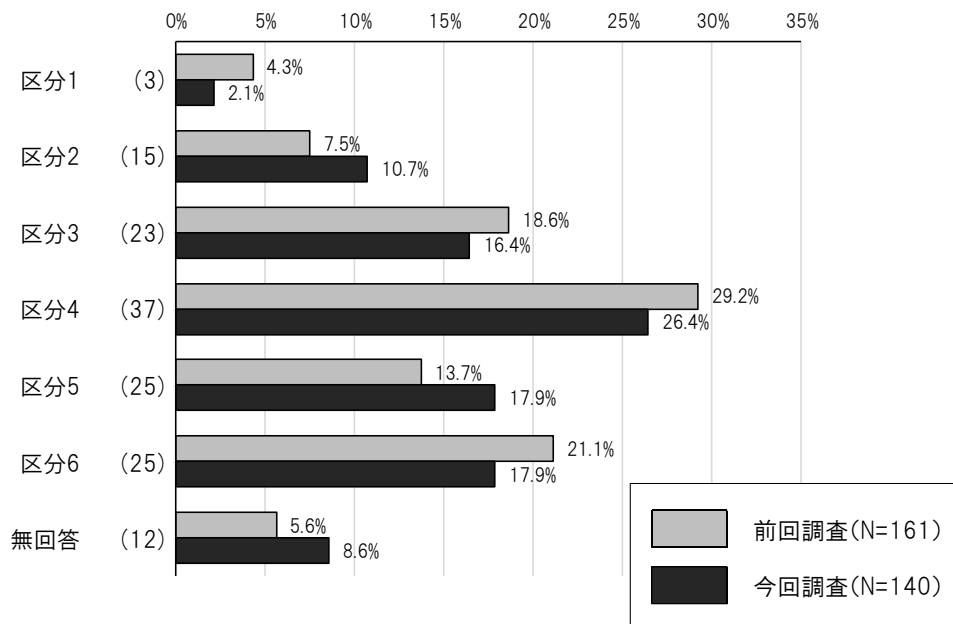


18歳以上の年齢別の回答数(n値)については、5ページ参照。

問6で「受けている」と答えた方(140件)を対象

問6-1. 認定された障害支援区分はどれですか。

「区分4」の比率が26.4%と最も高く、次いで「区分5」「区分6」が17.9%、「区分3」が16.4%となっています。

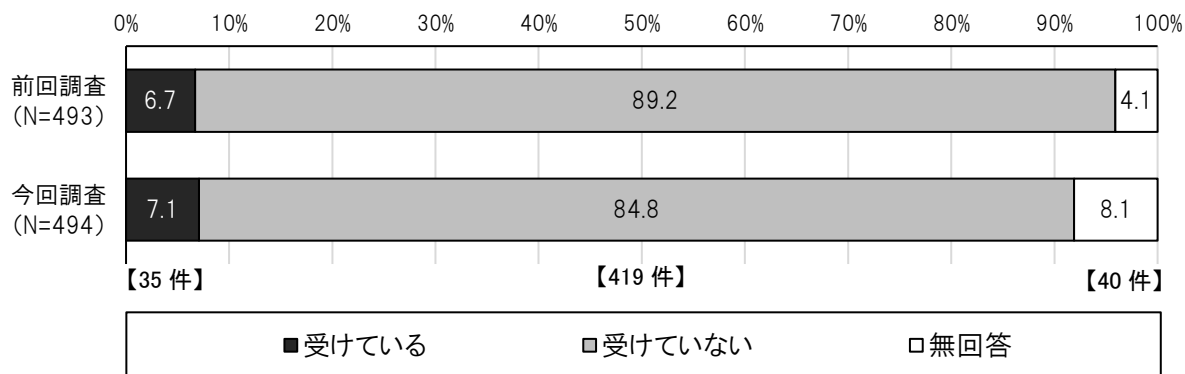


問7. 40歳以上の方(494件 5ページ参照)におたずねします。

現在、介護保険法の要介護認定を受けていますか。

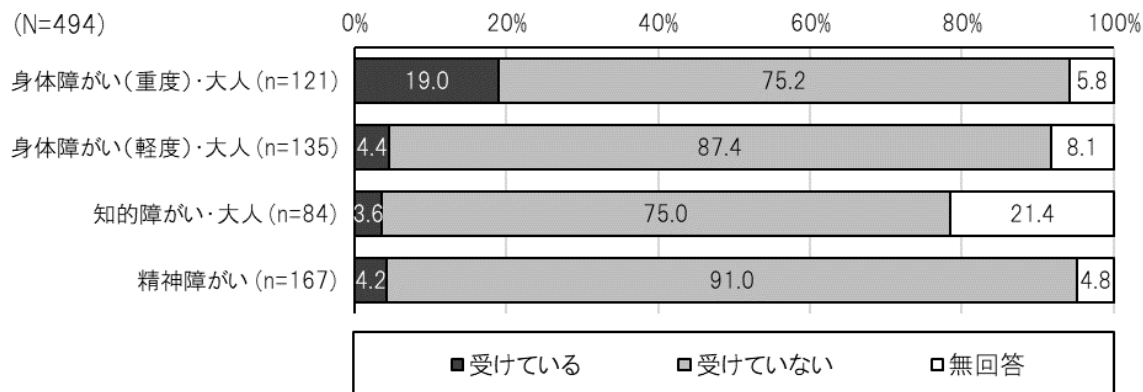
「受けている」が7.1%、「受けていない」が84.8%となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はみられません。



●介護認定×障がいの種別

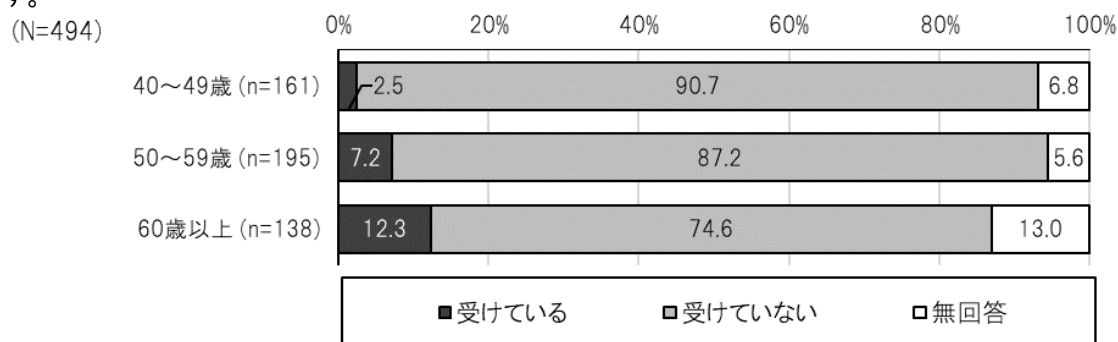
身体障がい(重度)・大人の「受けている」が19.0%と特に高くなっています。



40歳以上の障がいの種別の回答数(n値)については、3ページ上段(障がいの種別(6区分)の年齢3区分別の件数)参照。
また、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=494)の件数を上回ります。

●介護認定×年齢別(40歳以上)

60歳以上の「受けている」が12.3%と最も高く、年齢が上がるにつれて「受けている」の比率が高くなっています。

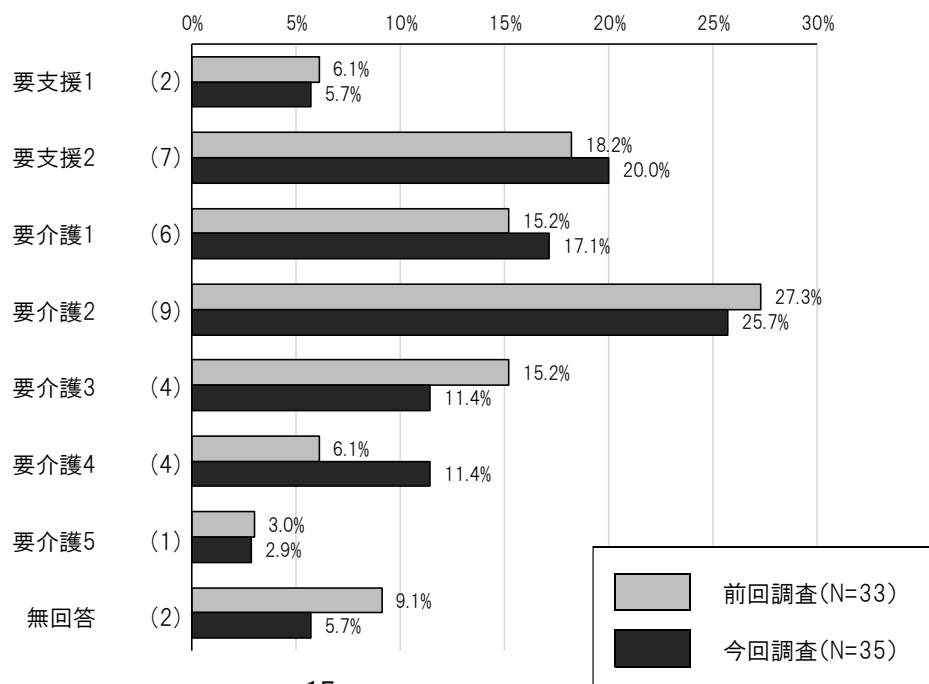


40歳以上の年齢別の回答数(n値)については、5ページ参照。

問7で「受けている」と答えた方(35件)を対象

問7-1. 認定された要介護認定区分はどれですか。

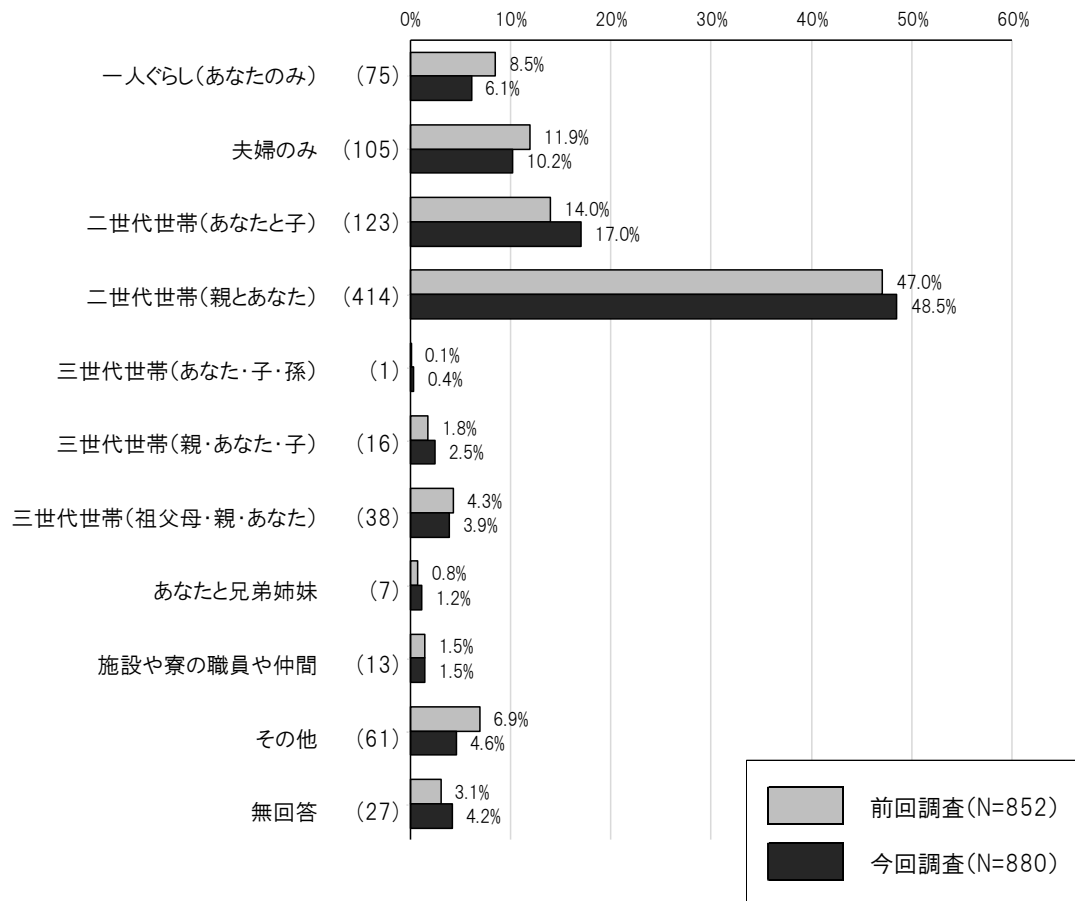
「要介護2」の比率が25.7%と最も高く、次いで「要支援2」が20.0%、「要介護1」が17.1%となっています。



問8. 家族構成はどれですか。あなたを中心にお答えください。なお、結婚されている場合は配偶者も含みます。

「二世世代世帯（親とあなた）」の比率が48.5%と最も高く、次いで「二世世代世帯（あなたと子）」が17.0%となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はみられませんが、「一人暮らし（あなたのみ）」「夫婦のみ」がやや減少しています。



なお、「その他」については、設問文に示されている「配偶者」及び回答対象者の「兄弟姉妹」「配偶者の親」が含まれる内容が多くなっており、「その他」の記入内容を踏まえて、家族構成のクロス集計については再集計した下表の左側の8区分により、分析を進めます。

★家族構成の再集計

再集計 項目	件数	元の件数	「その他」からの振り分け
①一人暮らし(あなたのみ)	75 件	75 件	なし
②夫婦のみ	106 件	105 件	1 件
③二世世代世帯(あなたと子)	128 件	123 件	5 件
④二世世代世帯(親とあなた)	453 件	414 件	39 件
⑤三世世代世帯(親・あなた・子)	17 件	16 件	1 件
⑥三世世代世帯(祖父母・親・あなた)	40 件	38 件	2 件
⑦その他 親族の世帯	21 件	三世世代世帯(あなた・子・孫) 1 件 あなたと兄弟姉妹 7 件	13 件
⑧施設や寮の職員や仲間	13 件	13 件	なし
無回答	27 件	27 件	なし
総数	880 件	819 件	61 件

※家族構成無回答(n=27)はクロス集計の対象としていません(18ページ上段参照)。

●家族構成×障がいの種別

身体障がい・子ども、知的障がい・子どもの「二世帯世帯（親とあなた）」「三世帯世帯（祖父母・親・あなた）」の比率が高くなっています。また、知的障がい・大人でも同様に両者が高くなっています。

身体障がい・大人では、重度・軽度ともに「夫婦のみ」が高くなっており、精神障がいは他の種別に比べて「一人暮らし（あなたのみ）」が高くなっています。

	（一人暮らし あなたのみ）	夫婦のみ	（二世帯世帯 あなたと子）	（二世帯世帯 親とあなた）	（三世帯世帯 祖父母・親・あなた）	（三世帯世帯 祖父母・親・あなた）	その他 親族の世帯	施設や寮の職員や仲間	無回答
総数(N=880)	8.5%	12.0%	14.5%	51.5%	1.9%	4.5%	2.4%	1.5%	3.1%
身体障がい・子ども (n=21)	0.0%	0.0%	0.0%	90.5%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	10.3%	26.9%	20.0%	33.8%	2.8%	0.7%	0.7%	0.3%	0.5%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	10.1%	25.9%	31.0%	23.4%	4.4%	1.9%	1.3%	0.0%	0.3%
知的障がい・子ども (n=106)	0.0%	0.0%	3.8%	79.2%	0.9%	8.5%	0.9%	0.1%	0.7%
知的障がい・大人 (n=212)	1.4%	0.9%	2.4%	75.5%	0.9%	7.5%	3.3%	1.1%	0.8%
精神障がい (n=265)	14.3%	7.9%	15.1%	49.8%	1.5%	4.2%	4.9%	0.1%	0.6%

重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)については本集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●家族構成×年齢別

「一人暮らし（あなたのみ）」「夫婦のみ」「二世帯世帯（あなたと子）」は年齢が上がるにつれて高くなっています。

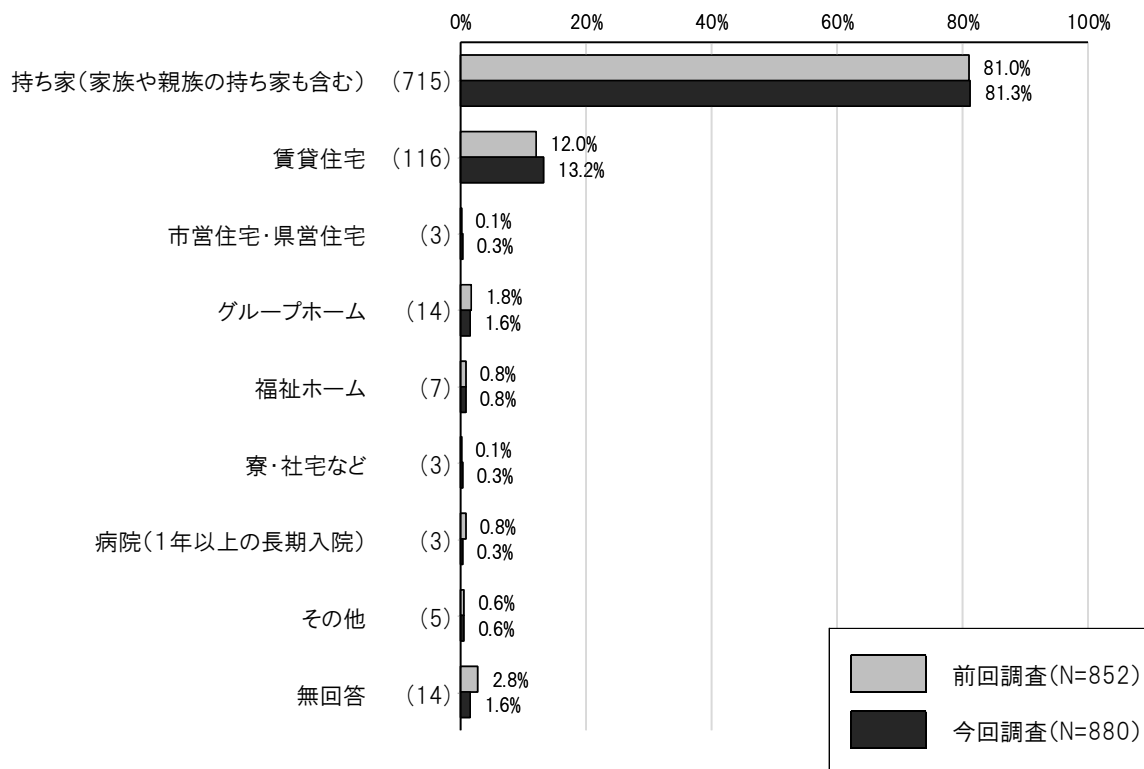
	（一人暮らし あなたのみ）	夫婦のみ	（二世帯世帯 あなたと子）	（二世帯世帯 親とあなた）	（三世帯世帯 祖父母・親・あなた）	（三世帯世帯 祖父母・親・あなた）	その他 親族の世帯	施設や寮の職員や仲間	無回答
総数(N=880)	8.5%	12.0%	14.5%	51.5%	1.9%	4.5%	2.4%	1.5%	3.1%
0～5歳(就学前) (n=19)	0.0%	0.0%	10.5%	78.9%	0.0%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%
6～11歳(小学生) (n=40)	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	2.5%	7.5%	0.0%	0.1%	0.3%
12～14歳(中学生) (n=42)	0.0%	0.0%	4.8%	71.4%	0.0%	11.9%	2.4%	0.0%	0.5%
15～17歳(高校生など) (n=32)	0.0%	0.0%	0.0%	90.6%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.1%
18～29歳 (n=130)	3.1%	0.8%	0.0%	75.4%	0.8%	13.1%	1.5%	25.0%	0.7%
30～39歳 (n=112)	6.3%	5.4%	10.7%	64.3%	0.0%	7.1%	0.9%	28.6%	0.5%
40～49歳 (n=161)	9.3%	8.1%	16.8%	55.3%	0.6%	1.9%	3.7%	33.3%	0.2%
50～59歳 (n=195)	15.4%	15.9%	24.1%	31.8%	5.1%	0.0%	4.1%	10.0%	0.5%
60歳以上 (n=138)	13.0%	39.1%	26.8%	14.5%	2.2%	0.0%	2.2%	5.6%	0.2%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

問9. あなたが、現在住んでいるお住まいはどれですか。

「持ち家」の比率が81.3%と最も高く、次いで、「賃貸住宅」が13.2%となっています。『施設入所者等（「グループホーム」「福祉ホーム」「病院（1年以上の長期入院）」を合わせた数）』は2.7%（24件）となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はみられません。



●お住まい×障がいの種別

知的障がい・大人の「グループホーム」が6.1%となっており、他の障がいの種別に比べて高くなっています。

	(家族や親族の持ち家も含む)	賃貸住宅	市営住宅・県営住宅	グループホーム	福祉ホーム	寮・社宅など	病院(1年以上の長期入院)	その他	無回答
総数 (N=880)	81.3%	13.2%	0.3%	1.6%	0.8%	0.3%	0.3%	0.6%	1.6%
身体障がい・子ども (n=21)	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	82.1%	13.1%	0.0%	0.7%	1.4%	0.0%	0.7%	0.7%	1.4%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	87.3%	9.5%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	1.9%
知的障がい・子ども (n=106)	81.1%	15.1%	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%	1.9%
知的障がい・大人 (n=212)	80.2%	10.4%	0.5%	6.1%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
精神障がい (n=265)	78.9%	17.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.4%	0.8%	1.1%	1.1%

重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)については本集計の対象としていません(2ページ参照)。

(参考)施設入所者等(グループホーム、福祉ホーム、病院(1年以上の長期入院)、20ページ上段参照)

×年齢別(4区分)及び障がいの種別

年齢別では、40～59歳が他の年齢層に比べて多くなっています(24件中12件)。

障がいの種別では、知的障がいが他の障がいに比べて多くなっています(24件中16件)。

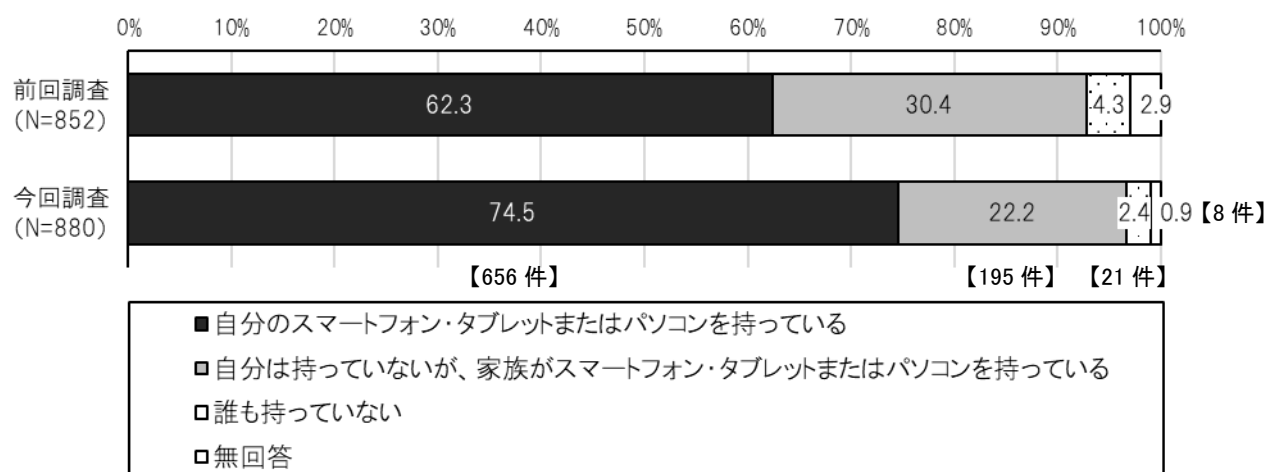
	総数	18歳未満	18～39歳	40～59歳	60歳以上	身体障がい (重度)	身体障がい (軽度)	知的障がい	精神障がい	区分不明
グループホーム	14		6	7	1	1	※1	12	1	
福祉ホーム	7	1	1	3	2	2		4		1
病院(1年以上の長期入院)	3			2	1	1			2	

※知的障がいと重複

問 10. あなたやご家族のインターネット環境についておたずねします。

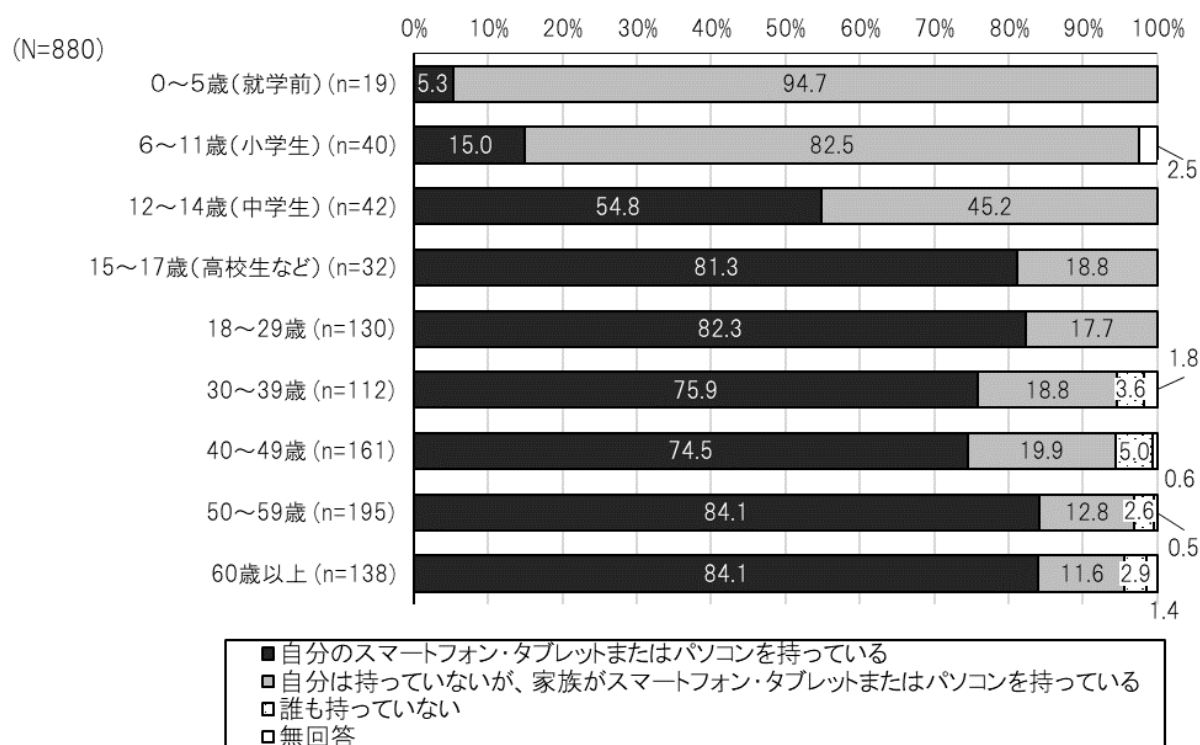
「自分のスマートフォン・タブレットまたはパソコンを持っている」が74.5%、「自分は持っていないが、家族がスマートフォン・タブレットまたはパソコンを持っている」が22.2%となっています。

前回調査と比べると、「自分のスマートフォン・タブレットまたはパソコンを持っている」の比率が62.3%から74.5%に増加しています。



●インターネット環境×年齢別

「自分のスマートフォン・タブレットまたはパソコンを持っている」の比率が30～39歳で75.9%、40～49歳で74.5%となっており、他の年齢層（15歳未満を除く）に比べて低くなっています。

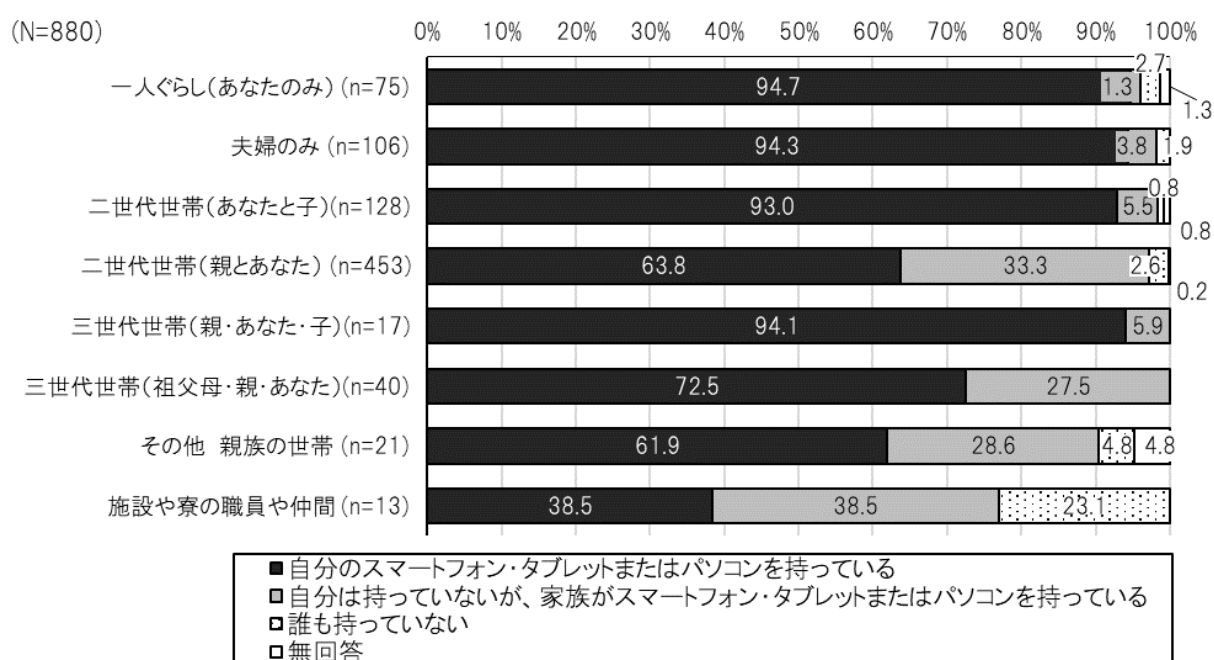


年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

●インターネット環境×家族構成別

一人暮らし(あなたのみ)の「自分のスマートフォン・タブレットまたはパソコンを持っている」の比率が94.7%と最も高く、次いで夫婦のみが94.3%となっており、世帯としてのスマートフォン・タブレット・パソコン普及は進んでいることがうかがえます。

施設や寮の職員や仲間については、母集団は13件と少ないものの、「誰も持っていない」の比率が23.1%と高くなっています。

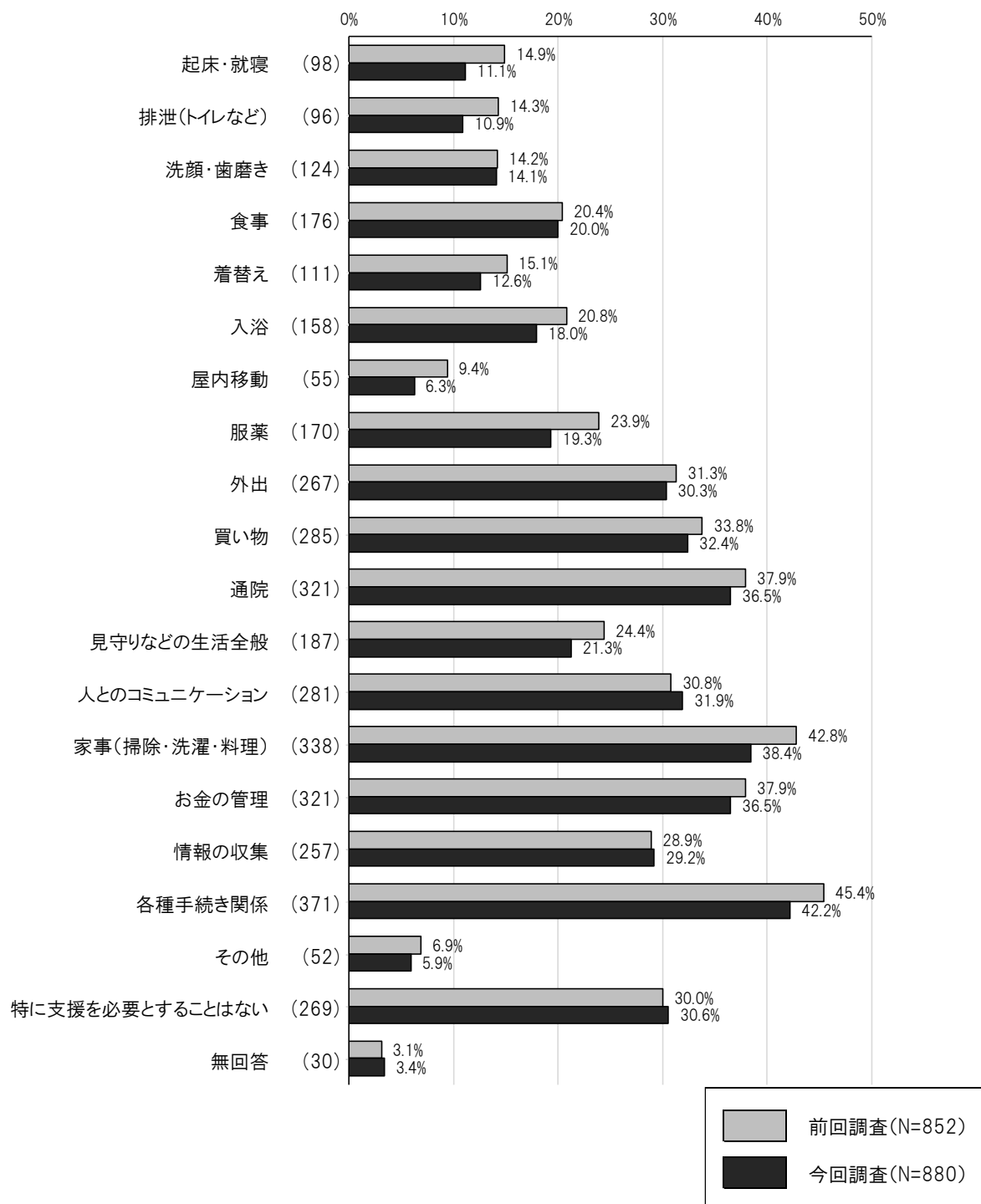


家族構成別については、家族構成無回答(n=27)をクロス集計の対象としていません(18 ページ参照)。

2. 日常生活について

問 11. 普段の生活で支援を必要としていることは何ですか。【複数回答】

「各種手続き関係」が42.2%と最も高く、次いで「家事（掃除・洗濯・料理）」が38.4%となっています。
「その他」の内訳としては、勉強・学校生活や仕事・就労に関する内容などとなっています。
前回調査と比べると、回答傾向としては大きな変化はみられません。



●必要とする生活支援×障がいの種別

子ども、大人ともに知的障がいの回答比率が全体的に高くなっています。また、身体障がい者については、子どもと大人の差が大きくなっている一方で、知的障がいについては、子どもと大人で大きな差がありません。

	起床・就寝	排泄（トイレなど）	洗顔・歯磨き	食事	着替え	入浴	屋内移動	服薬	外出	買い物	通院	見守りなどの生活全般	人とのコミュニケーション	家事（掃除・洗濯・料理）	お金の管理	情報の収集	各種手続き関係	その他	特に支援を必要とすることはない	無回答
総数 (N=880)	11.1%	10.9%	14.1%	20.0%	12.6%	18.0%	6.3%	19.3%	30.3%	32.4%	36.5%	21.3%	31.9%	38.4%	36.5%	29.2%	42.2%	5.9%	30.6%	3.4%
身体障がい・子ども (n=21)	0.0%	19.0%	14.3%	19.0%	23.8%	19.0%	0.0%	23.8%	47.6%	47.6%	61.9%	14.3%	28.6%	42.9%	52.4%	52.4%	57.1%	19.0%	14.3%	0.0%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	12.4%	12.4%	14.5%	19.3%	21.4%	27.6%	13.8%	17.2%	33.8%	30.3%	36.6%	20.7%	12.4%	37.9%	20.0%	6.6%	29.0%	4.1%	42.8%	5.5%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	3.2%	2.5%	3.2%	4.4%	3.8%	5.7%	2.5%	5.7%	12.0%	12.0%	13.3%	5.1%	9.5%	13.9%	9.5%	7.6%	9.5%	7.6%	65.2%	3.8%
知的障がい・子ども (n=106)	19.8%	34.9%	40.6%	33.0%	22.6%	40.6%	11.3%	32.1%	62.3%	59.4%	64.2%	47.2%	63.2%	64.2%	67.9%	59.4%	68.9%	4.7%	5.7%	1.9%
知的障がい・大人 (n=212)	21.7%	18.4%	26.4%	36.8%	23.1%	25.9%	12.7%	39.2%	48.6%	53.8%	60.4%	40.1%	51.9%	59.9%	70.8%	49.5%	68.9%	3.8%	11.3%	3.8%
精神障がい (n=265)	8.7%	4.2%	4.9%	17.4%	5.3%	9.4%	3.0%	14.3%	7.0%	23.4%	26.4%	13.6%	34.0%	34.0%	29.1%	24.5%	42.6%	8.7%	23.0%	3.4%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●必要とする生活支援×年齢別

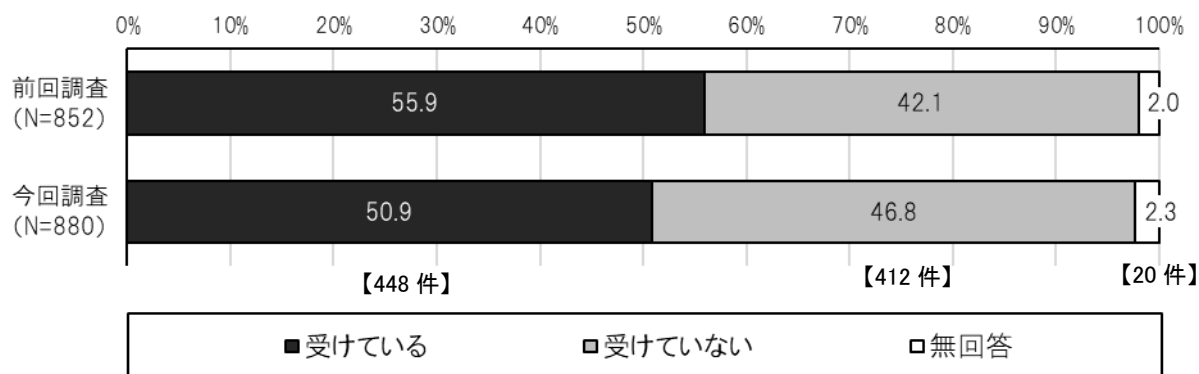
年齢が高くなるにつれて、概ね回答比率が減少する傾向にあります。

	起床・就寝	排泄（トイレなど）	洗顔・歯磨き	食事	着替え	入浴	屋内移動	服薬	外出	買い物	通院	見守りなどの生活全般	人とのコミュニケーション	家事（掃除・洗濯・料理）	お金の管理	情報の収集	各種手続き関係	その他	特に支援を必要とすることはない	無回答
総数 (N=880)	11.1%	10.9%	14.1%	20.0%	12.6%	18.0%	6.3%	19.3%	30.3%	32.4%	36.5%	21.3%	31.9%	38.4%	36.5%	29.2%	42.2%	5.9%	30.6%	3.4%
0～5歳(就学前) (n=19)	31.6%	89.5%	84.2%	84.2%	68.4%	84.2%	31.6%	47.4%	63.2%	57.9%	78.9%	63.2%	68.4%	63.2%	63.2%	47.4%	63.2%	5.3%	0.0%	0.0%
6～11歳(小学生) (n=40)	22.5%	35.0%	47.5%	32.5%	22.5%	47.5%	7.5%	42.5%	62.5%	55.0%	57.5%	45.0%	52.5%	52.5%	52.5%	47.5%	60.0%	10.0%	2.5%	5.0%
12～14歳(中学生) (n=42)	9.5%	11.9%	19.0%	11.9%	7.1%	16.7%	7.1%	21.4%	61.9%	59.5%	66.7%	40.5%	54.8%	64.3%	73.8%	71.4%	73.8%	9.5%	4.8%	0.0%
15～17歳(高校生など) (n=32)	12.5%	15.6%	12.5%	15.6%	6.3%	15.6%	0.0%	21.9%	40.6%	37.5%	50.0%	21.9%	50.0%	50.0%	62.5%	50.0%	59.4%	3.1%	21.9%	0.0%
18～29歳 (n=130)	16.2%	11.5%	19.2%	28.5%	14.6%	16.2%	12.3%	26.9%	38.5%	41.5%	49.2%	28.5%	49.2%	52.3%	49.2%	36.9%	58.5%	2.3%	18.5%	3.8%
30～39歳 (n=112)	19.6%	13.4%	18.8%	25.0%	16.1%	24.1%	8.9%	25.9%	35.7%	36.6%	39.3%	28.6%	36.6%	44.6%	50.9%	31.3%	53.6%	4.5%	23.2%	5.4%
40～49歳 (n=161)	9.3%	6.2%	9.3%	21.1%	9.3%	13.0%	3.1%	16.1%	25.5%	32.9%	32.3%	14.9%	28.6%	36.0%	37.3%	28.6%	39.1%	8.7%	28.6%	1.9%
50～59歳 (n=195)	4.1%	3.1%	4.6%	10.8%	8.7%	11.3%	3.1%	11.3%	6.4%	20.5%	23.6%	12.8%	21.5%	28.7%	20.5%	18.5%	29.7%	5.6%	43.1%	3.6%
60歳以上 (n=138)	4.3%	5.8%	4.3%	10.9%	8.7%	12.3%	3.6%	10.9%	8.1%	18.1%	22.5%	10.1%	8.0%	20.3%	10.9%	11.6%	16.7%	5.8%	55.8%	4.3%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

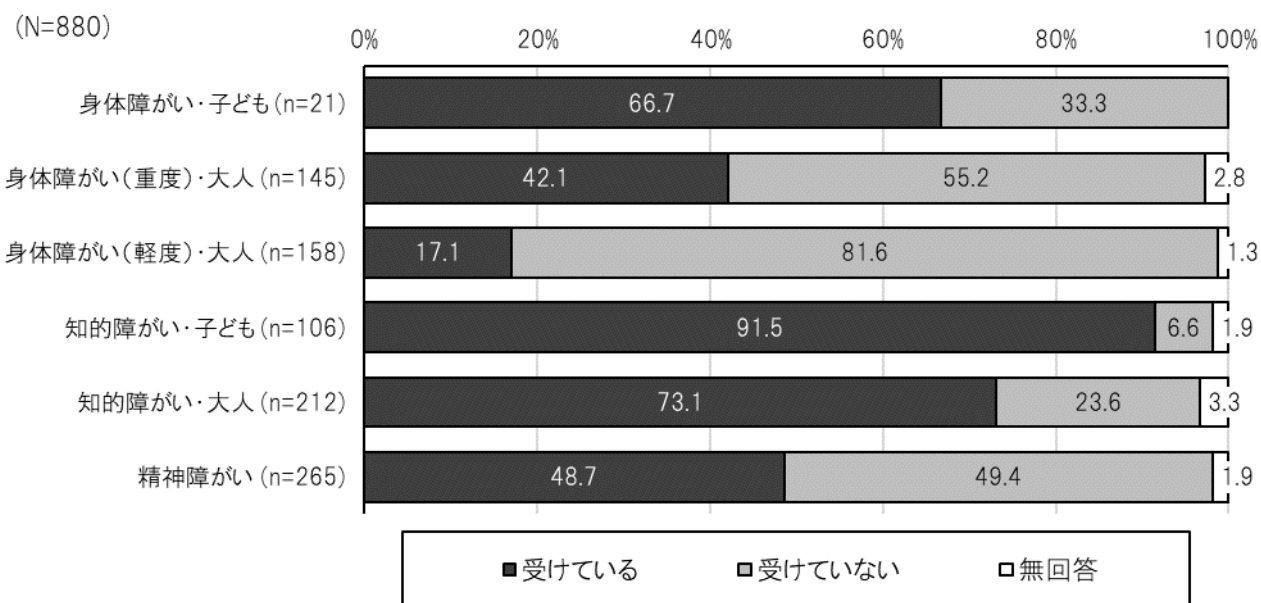
問 12. 普段、支援や世話を受けていますか。

「受けている」が 50.9%で、「受けていない」の 46.8%をやや上回っています。
前回調査と比べると、「受けている」の比率が減少しています。



● 支援や世話を受けているか×障がいの種別

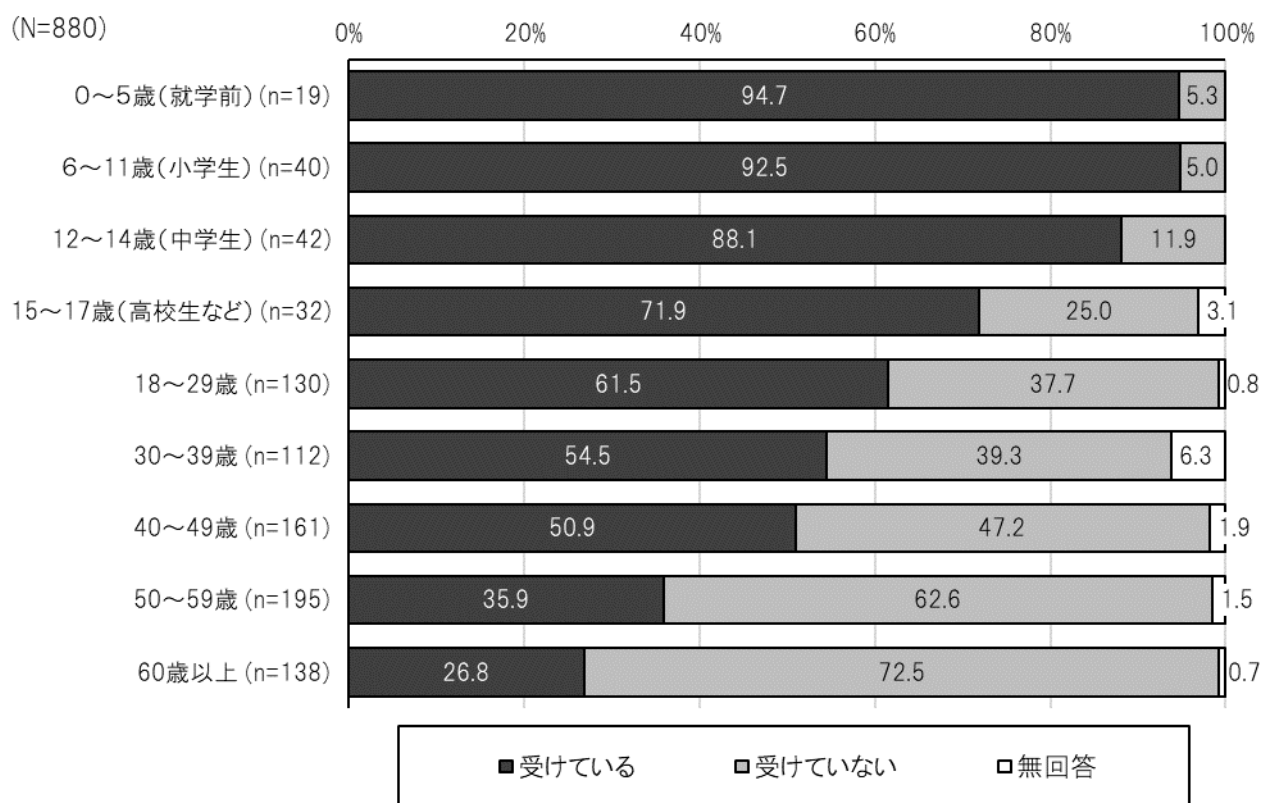
知的障がい・子どもの「受けている」の比率が91.5%と最も高く、次いで知的障がい・大人が73.1%、身体障がい・子どもが66.7%となっています。精神障がいについては、「受けている」が48.7%、「受けていない」が49.4%でほぼ同じ比率となっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●支援や世話を受けているか×年齢別

年齢が高くなるにつれて、全体的に回答比率が減少しています。



年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

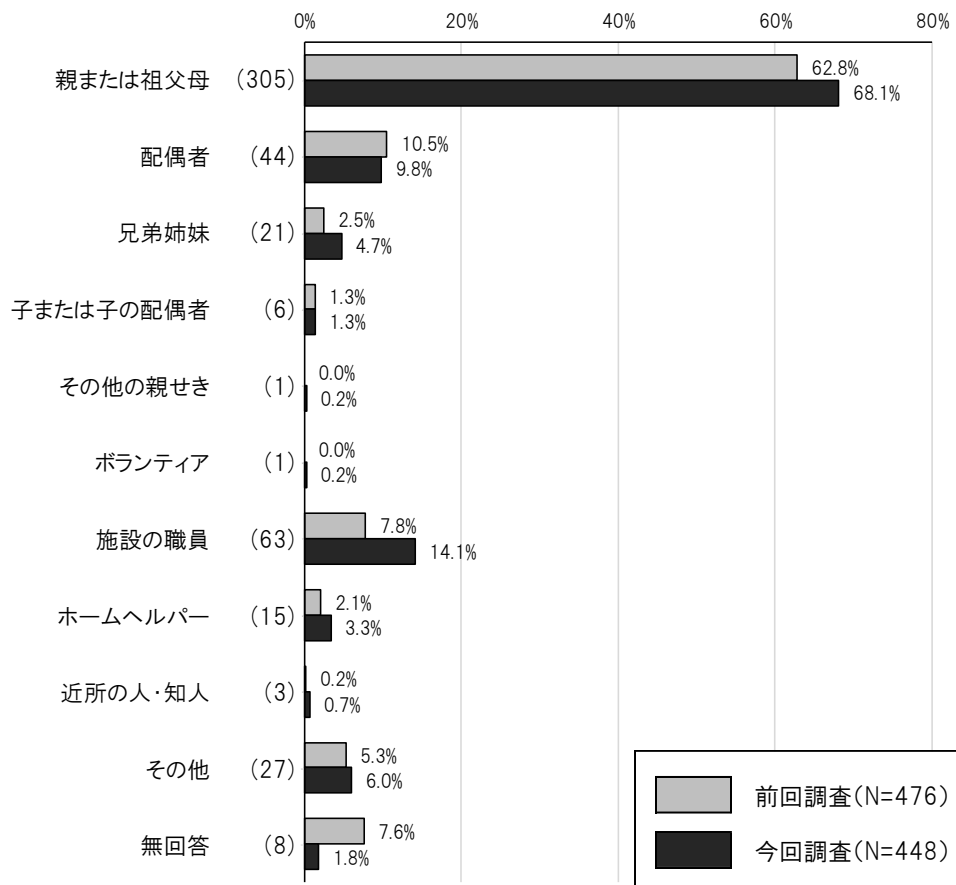
問12で「受けている」と答えた方(448件)にお聞きします。

問12-1.主にどなたが支援や世話をしていますか。【複数回答】

「親または祖父母」の比率が68.1%で最も高く、次いで「施設の職員」が14.1%となっています。

「その他」の主な内訳については、訪問看護師、病院の看護師などとなっています。

前回調査と比べると、「施設の職員」「兄弟姉妹」の増加率が大きくなっています。



●支援・世話をしている人×障がいの種別

「親または祖父母」の比率は、知的障がい(大人・子どもともに)で高くなっています。

「配偶者」の比率は身体障がい・大人が(重度・軽度ともに)高くなっています。

「施設の職員」の比率は、精神障がい(17.8%)が最も高く、次いで知的障がい・大人が16.1%となっており、身体障がいも含めて大人の比率が高くなっています。

	親または 祖父母	配偶者	兄弟 姉妹	子 または 子の 配偶者	その 他の 親 せき	ボ ラ ン テ ィ ア	施 設 の 職 員	ヘル パー ホーム	近 所 の 人 ・ 知 人	そ の 他	無 回 答
総数 (N=448)	68.1%	9.8%	4.7%	1.3%	0.2%	0.2%	14.1%	3.3%	0.7%	6.0%	1.8%
身体障がい・子ども (n=14)	78.6%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	7.1%
身体障がい(重度)・大人 (n=61)	41.0%	29.5%	4.9%	6.6%	0.0%	0.0%	14.8%	4.9%	3.3%	6.6%	1.6%
身体障がい(軽度)・大人 (n=27)	51.9%	29.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	7.4%	0.0%	3.7%	0.0%
知的障がい・子ども (n=97)	92.8%	2.1%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.2%	0.0%	1.0%	1.0%	1.0%
知的障がい・大人 (n=155)	81.9%	1.9%	5.2%	0.0%	0.0%	0.6%	16.1%	1.9%	0.6%	2.6%	2.6%
精神障がい (n=129)	53.5%	12.4%	7.8%	1.6%	0.0%	0.0%	17.8%	5.4%	1.6%	13.2%	0.0%

障がいの種別の回答数(n値)については、25ページ下段(支援や世話を受けているか×障がいの種別)のグラフ内の各種別の回答数(n値)に「受けている」の回答割合を乗じた値です【例: 身体障がい・子ども n=14[n=21×66.7%]】。

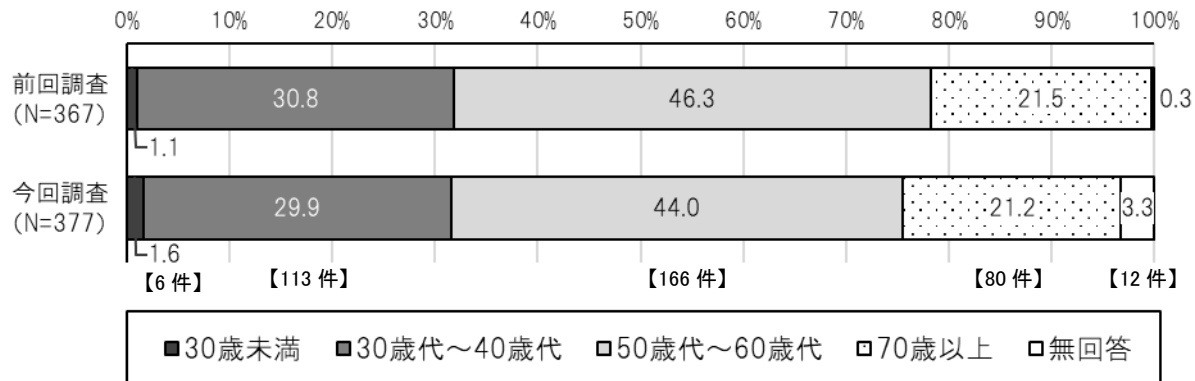
障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=448)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可はクロス集計の対象としていません。

問 12-1 で「親または祖父母(305件)」「配偶者(44件)」「兄弟姉妹(21件)」「子または子の配偶者(6件)」「その他の親せき(1件)」と答えた方(377件)にお聞きします。

問 12-2. 主な介助・支援者の年齢はおいくつですか。

「50歳代～60歳代」の比率が44.0%と最も高く、次いで「30歳代～40歳代」が29.9%、「70歳以上」が21.2%となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はみられません。

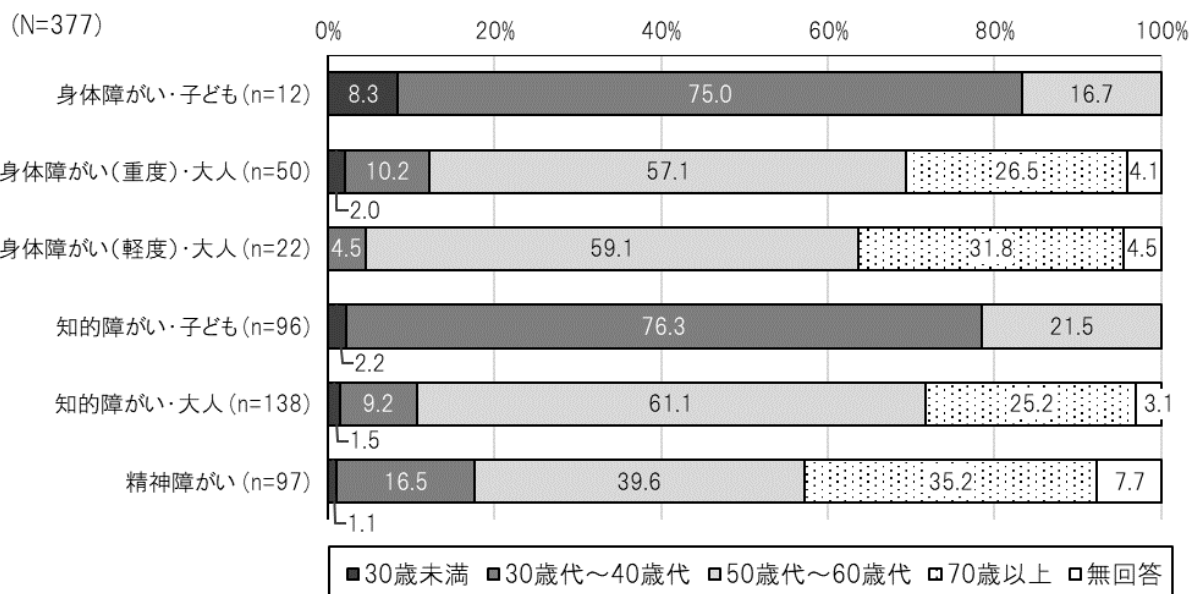


● 介助者の年齢×障がいの種別

子どもについては、身体障がい、知的障がいいずれも「30歳代～40歳代」の比率が最も高く、それぞれ75.0%、76.3%となっています。

大人については、身体障がい（重度）、身体障がい（軽度）、知的障がいいずれも「50歳代～60歳代」の比率が最も高く、それぞれ57.1%、59.1%、61.1%となっています。

精神障がいについては「70歳以上」が35.2%となっており、他の障がい種別に比べて高くなっています。



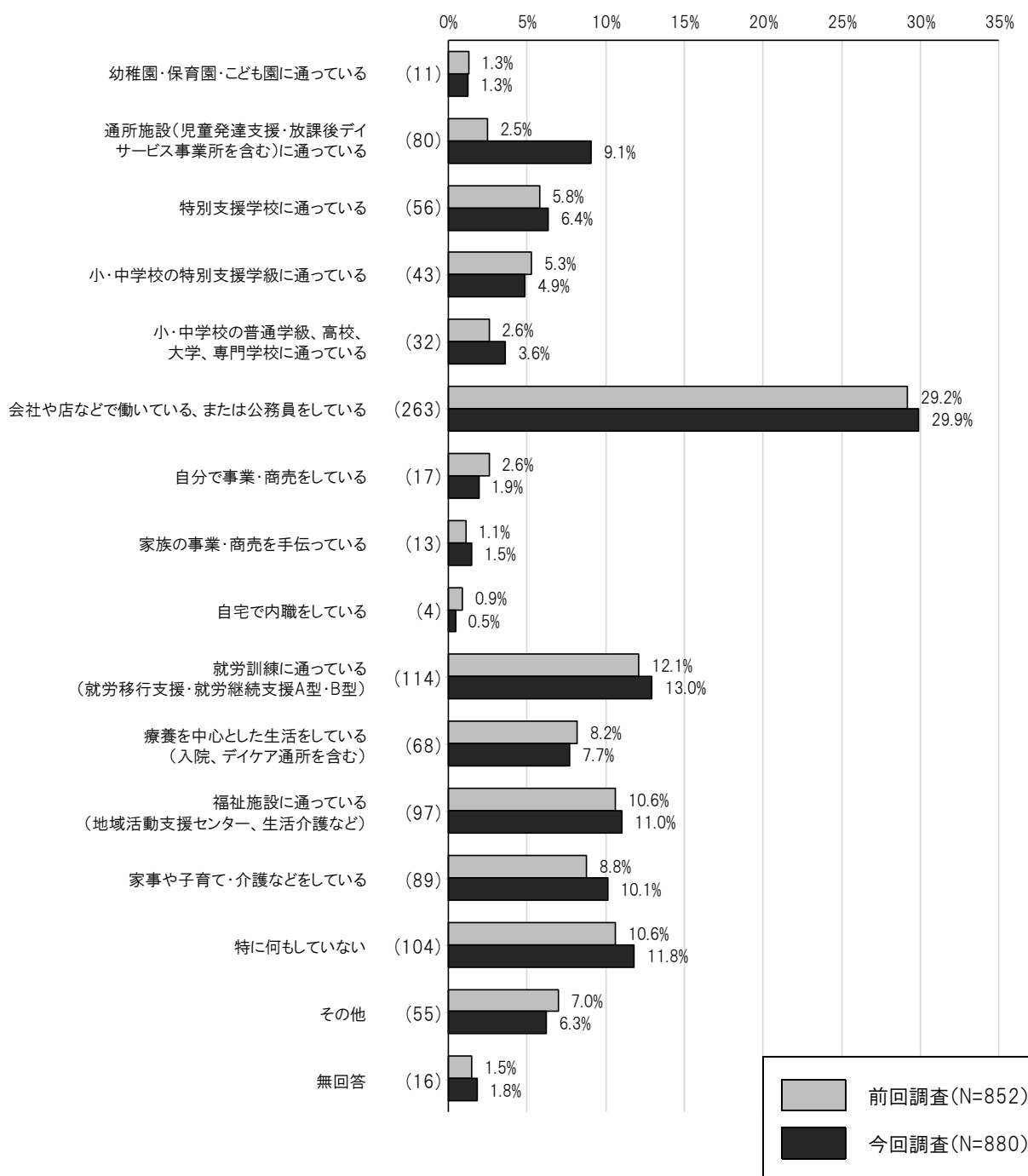
障がいの種別の回答数(n値)については、27 ページ下段(支援・世話をしている人×障がいの種別)の図表内の各種別の回答数(n値)に「親または祖父母」「配偶者」「兄弟姉妹」「子または子の配偶者」「その他の親せき」の回答割合を乗じた値です【例: 身体障がい・子ども n=12[n=14×(78.6%+0.0%+7.1%+0.0%+0.0%)]】。

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=377)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可はクロス集計の対象としていません。

問 13. 普段の日中、どのようにお過ごしですか。【複数回答】

「会社や店などで働いている、または公務員をしている」の比率が29.9%と最も高く、次いで「就労訓練に通っている（就労移行支援・就労継続支援 A 型・B 型）」が13.0%、「特に何もしていない」が11.8%となっています。

前回調査と比べると、「通所施設（児童発達支援・放課後デイサービス事業所を含む）に通っている」の増加が顕著となっていますが、他の過ごし方については大きな変化はみられません。



●日中の過ごし方×障がいの種別

「通所施設（児童発達支援・放課後デイサービス事業所を含む）に通っている」については、知的障がい・子どもの比率が最も高く56.6%となっており、身体障がい・子どもの19.0%を上回っています。

「会社や店などで働いている、または公務員をしている」は身体障がい（軽度）・大人が51.3%と最も高く、「就労訓練に通っている（就労移行支援・就労継続支援 A 型・B 型）」「福祉施設に通っている（地域活動支援センター、生活介護など）」は知的障がい・大人がそれぞれ27.4%、35.4%と最も高くなっています。

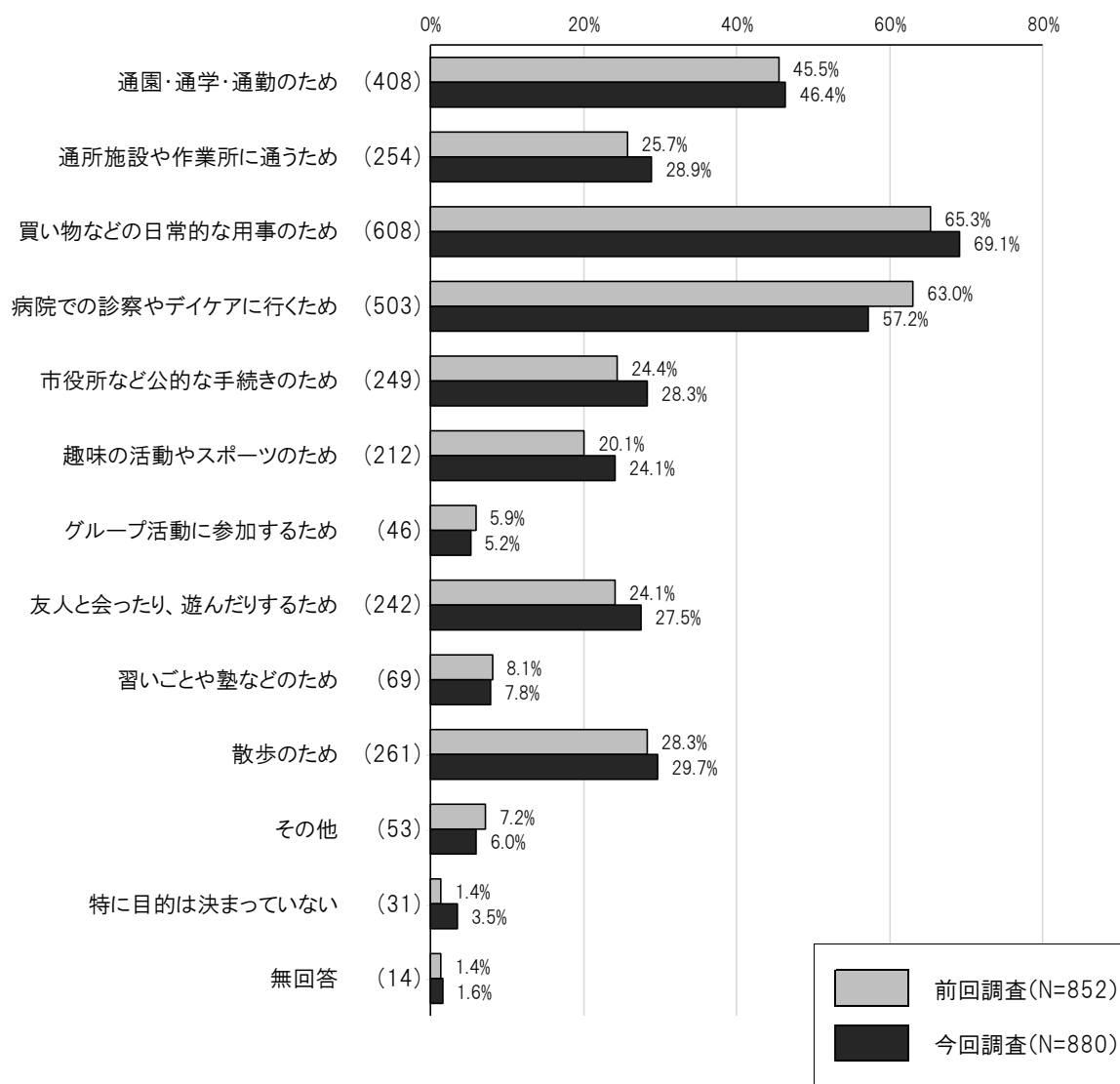
	幼稚園・保育園・こども園に通っている	通所施設（児童発達支援・放課後デイサービス事業所を含む）に通っている	特別支援学校に通っている	小・中学校の特別支援学級に通っている	小・中学校の普通学級、高校、大学、専門学校に通っている	会社や店などで働いている、または公務員をしている	自分で事業・商売をしている	家族の事業・商売を手伝っている	自宅で内職をしている	（就労移行支援・就労継続支援 A 型・B 型）	（地域活動支援センター、生活介護など）療養を中心とした生活をしている（入院、デイケア通所を含む）	家事や子育て・介護などを行っている	福祉施設に通っている	特に何もしていない	その他	無回答
総数 (N=880)	1.3%	9.1%	6.4%	4.9%	3.6%	29.9%	1.9%	1.5%	0.5%	13.0%	7.7%	11.0%	10.1%	11.8%	6.3%	1.8%
身体障がい・子ども (n=21)	0.0%	19.0%	38.1%	33.3%	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	4.8%	0.0%	4.8%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	0.0%	2.8%	0.7%	0.0%	1.4%	34.5%	5.5%	0.7%	0.0%	4.1%	11.0%	11.7%	10.3%	17.9%	8.3%	2.8%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	51.3%	3.8%	2.5%	1.3%	4.4%	3.2%	4.4%	14.6%	10.8%	8.2%	1.9%
知的障がい・子ども (n=106)	7.5%	56.6%	47.2%	30.2%	8.5%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%	1.9%	0.9%	0.0%
知的障がい・大人 (n=212)	0.9%	5.2%	0.5%	0.5%	1.4%	23.6%	0.5%	2.8%	0.0%	27.4%	3.8%	35.4%	1.9%	7.1%	4.2%	0.0%
精神障がい (n=265)	0.0%	1.9%	0.0%	1.5%	3.8%	27.5%	1.1%	1.5%	0.8%	19.2%	17.0%	5.3%	16.2%	19.6%	8.3%	1.5%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

問 14. 普段、どのような目的で外出しますか。【複数回答】

「買い物などの日常的な用事のため」の比率が69.1%と最も高く、次いで「病院での診察やデイケアに行くため」が57.2%となっています。

前回調査と比べると、回答傾向として大きな差はみられませんが、「病院での診察やデイケアに行くため」の比率がやや減少しています。



●外出目的×障がいの種別

「通園・通学・通勤のため」は、身体障がい・子ども、知的障がい・子どもの比率がいずれも9割を超えており、次いで身体障がい（軽度）・大人が53.2%となっています。

「病院での診察やデイケアに行くため」は、子ども・大人いずれも身体障がいで高くなっています。

	通園・通学・通勤のため	通所施設や作業所に通うため	買い物などの日常的な用事のため	病院での診察やデイケアに行くため	市役所など公的な手続きのため	趣味の活動やスポーツのため	グループ活動に参加するため	友人と会ったり、遊んだりするため	習いことや塾などのため	散歩のため	その他	特に目的は決まっていない	無回答
総数 (N=880)	46.4%	28.9%	69.1%	57.2%	28.3%	24.1%	5.2%	27.5%	7.8%	29.7%	6.0%	3.5%	1.6%
身体障がい・子ども (n=21)	90.5%	28.6%	76.2%	61.9%	9.5%	23.8%	0.0%	33.3%	38.1%	28.6%	9.5%	0.0%	4.8%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	35.9%	17.9%	64.3%	70.3%	33.8%	23.4%	4.8%	29.0%	0.7%	31.0%	4.8%	6.2%	2.8%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	53.2%	5.7%	80.4%	56.3%	39.2%	26.6%	6.3%	41.8%	5.1%	32.9%	5.1%	5.1%	2.5%
知的障がい・子ども (n=106)	93.4%	52.8%	56.6%	42.5%	1.9%	11.3%	0.0%	22.6%	29.2%	24.5%	4.7%	0.0%	0.0%
知的障がい・大人 (n=212)	30.7%	57.1%	58.5%	48.6%	8.5%	27.8%	8.0%	19.3%	4.7%	25.9%	8.0%	2.4%	0.9%
精神障がい (n=265)	34.3%	22.3%	70.9%	65.3%	44.2%	23.0%	5.3%	24.2%	3.8%	33.2%	6.8%	3.8%	1.9%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●外出目的×年齢別

「病院での診察やデイケアに行くため」の比率は、概ね年齢が上がるにつれて高くなっていますが、18歳未満では6～11歳でも高くなっています。

	通園・通学・通勤のため	通所施設や作業所に通うため	買い物などの日常的な用事のため	病院での診察やデイケアに行くため	市役所など公的な手続きのため	趣味の活動やスポーツのため	グループ活動に参加するため	友人と会ったり、遊んだりするため	習いことや塾などのため	散歩のため	その他	特に目的は決まっていない	無回答
総数 (N=880)	46.4%	28.9%	69.1%	57.2%	28.3%	24.1%	5.2%	27.5%	7.8%	29.7%	6.0%	3.5%	1.6%
0～5歳(就学前) (n=19)	73.7%	52.6%	68.4%	47.4%	10.5%	5.3%	0.0%	26.3%	10.5%	31.6%	5.3%	0.0%	0.0%
6～11歳(小学生) (n=40)	95.0%	45.0%	60.0%	60.0%	2.5%	22.5%	0.0%	22.5%	27.5%	17.5%	5.0%	0.0%	2.5%
12～14歳(中学生) (n=42)	95.2%	50.0%	61.9%	35.7%	0.0%	14.3%	0.0%	31.0%	54.8%	35.7%	2.4%	0.0%	0.0%
15～17歳(高校生など) (n=32)	96.9%	31.3%	50.0%	28.1%	3.1%	12.5%	0.0%	31.3%	25.0%	9.4%	6.3%	0.0%	0.0%
18～29歳 (n=130)	46.2%	46.2%	56.2%	49.2%	15.4%	39.2%	5.4%	32.3%	3.8%	26.9%	6.2%	0.0%	0.8%
30～39歳 (n=112)	33.0%	42.9%	73.2%	56.3%	25.9%	27.7%	6.3%	30.4%	2.7%	28.6%	3.6%	3.6%	0.0%
40～49歳 (n=161)	31.1%	27.3%	75.8%	60.9%	33.5%	21.1%	9.3%	21.1%	4.3%	35.4%	6.8%	4.3%	0.6%
50～59歳 (n=195)	46.7%	16.4%	74.9%	69.2%	44.6%	25.1%	5.6%	28.2%	2.1%	28.7%	6.2%	5.1%	1.0%
60歳以上 (n=138)	31.2%	6.5%	71.7%	59.4%	39.1%	18.1%	3.6%	28.3%	3.6%	34.1%	8.0%	7.2%	5.1%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

●外出目的×疾病などの認定別

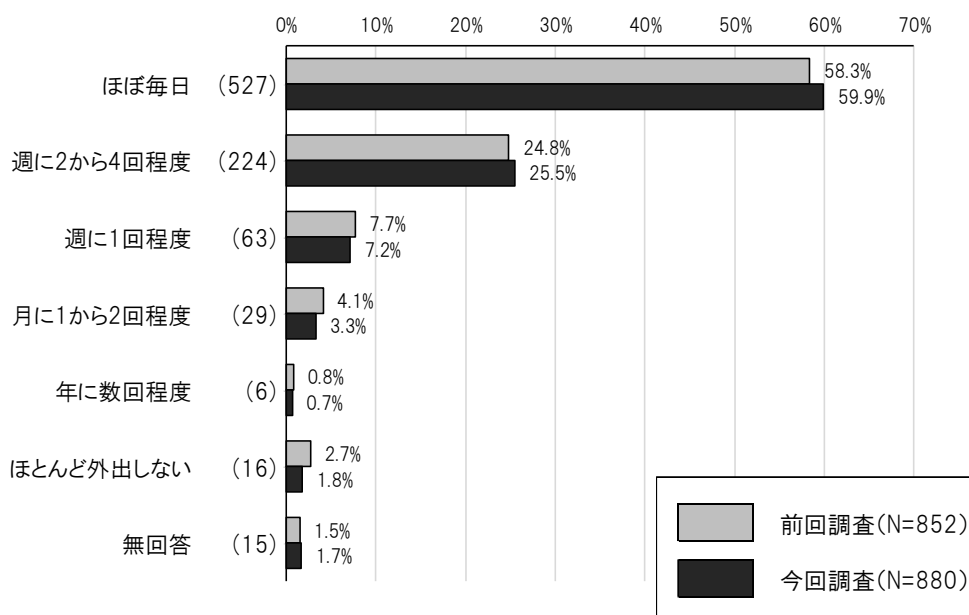
「病院での診察やデイケアに行くため」は、疾病などの認定を受けている方の比率が高く、自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている方では70.6%、国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている方では79.7%となっています。

	通園・通学・通勤のため	通所施設や作業所に通うため	買い物などの日常的な用事のため	病院での診察やデイケアに行くため	市役所など公的な手続きのため	趣味の活動やスポーツのため	グループ活動に参加するため	友人と会ったり、遊んだりするため	習いごとや塾などのため	散歩のため	その他	特に目的は決まっていない	無回答
総数 (N=880)	46.4%	28.9%	69.1%	57.2%	28.3%	24.1%	5.2%	27.5%	7.8%	29.7%	6.0%	3.5%	1.6%
自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている(n=245)	29.0%	27.3%	70.6%	70.6%	46.1%	19.6%	4.9%	23.3%	4.5%	33.1%	7.8%	4.9%	0.0%
国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている(n=69)	49.3%	24.6%	72.5%	79.7%	30.4%	27.5%	2.9%	23.2%	5.8%	29.0%	4.3%	1.4%	2.9%
高次脳機能障害の診断を受けている(n=31)	35.5%	38.7%	61.3%	67.7%	9.7%	9.7%	0.0%	16.1%	0.0%	25.8%	3.2%	3.2%	6.5%
医療的ケアを受けている(n=42)	42.9%	16.7%	66.7%	69.0%	35.7%	11.9%	4.8%	21.4%	2.4%	31.0%	9.5%	2.4%	7.1%
あてはまるものはない(n=457)	56.0%	29.1%	68.9%	48.6%	21.9%	27.1%	6.1%	31.7%	9.6%	29.3%	6.3%	3.3%	1.1%

疾病などの認定無回答(n=65)はクロス集計の対象としていません(9ページ上段参照)。また、重複回答を含むため、件数の合計(無回答を含む)は母集団(N=880)の件数を上回ります。

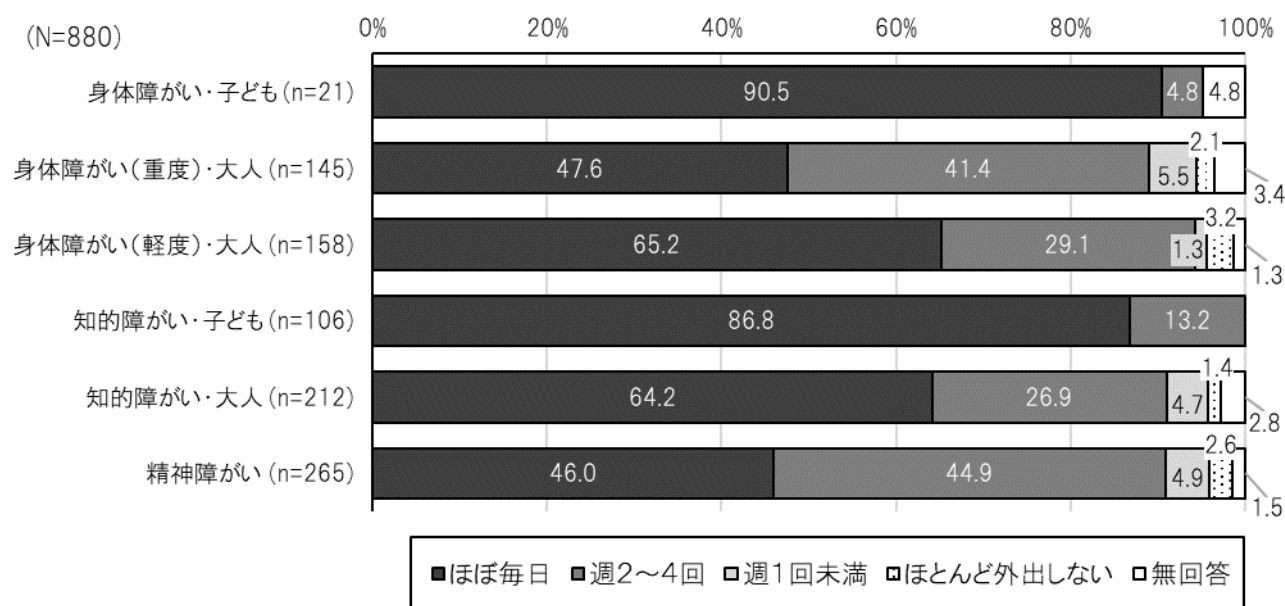
問15. 普段どのくらいの割合で外出しますか。

「ほぼ毎日」の比率が59.9%と最も高く、次いで「週に2から4回」が25.5%となっています。前回調査と比べると、大きな変化はみられません。



●外出頻度（集約）×障がいの種別

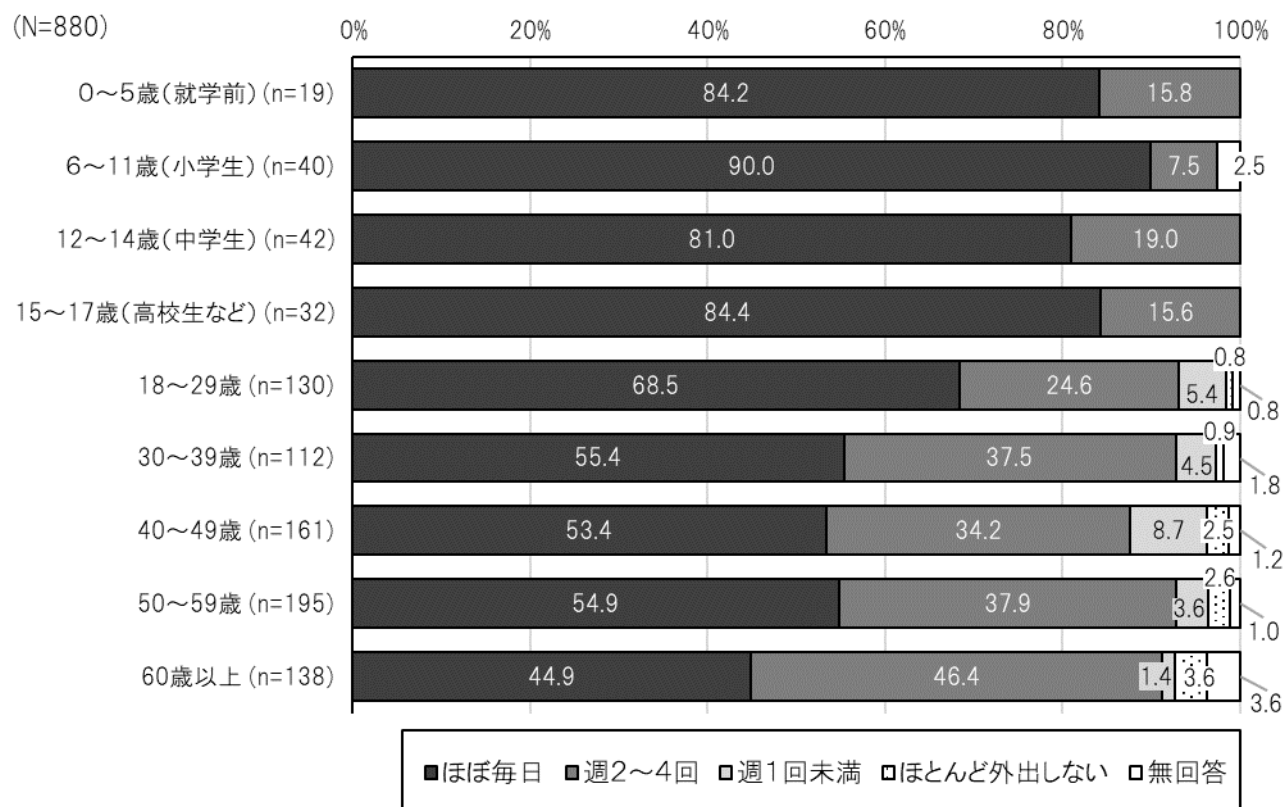
「ほぼ毎日」は、身体障がい（重度）・大人と精神障がいの比率が低く、それぞれ47.6%、46.0%となっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●外出頻度（集約）×年齢別

概ね年齢が上がるにつれて「ほぼ毎日」が低くなっています。

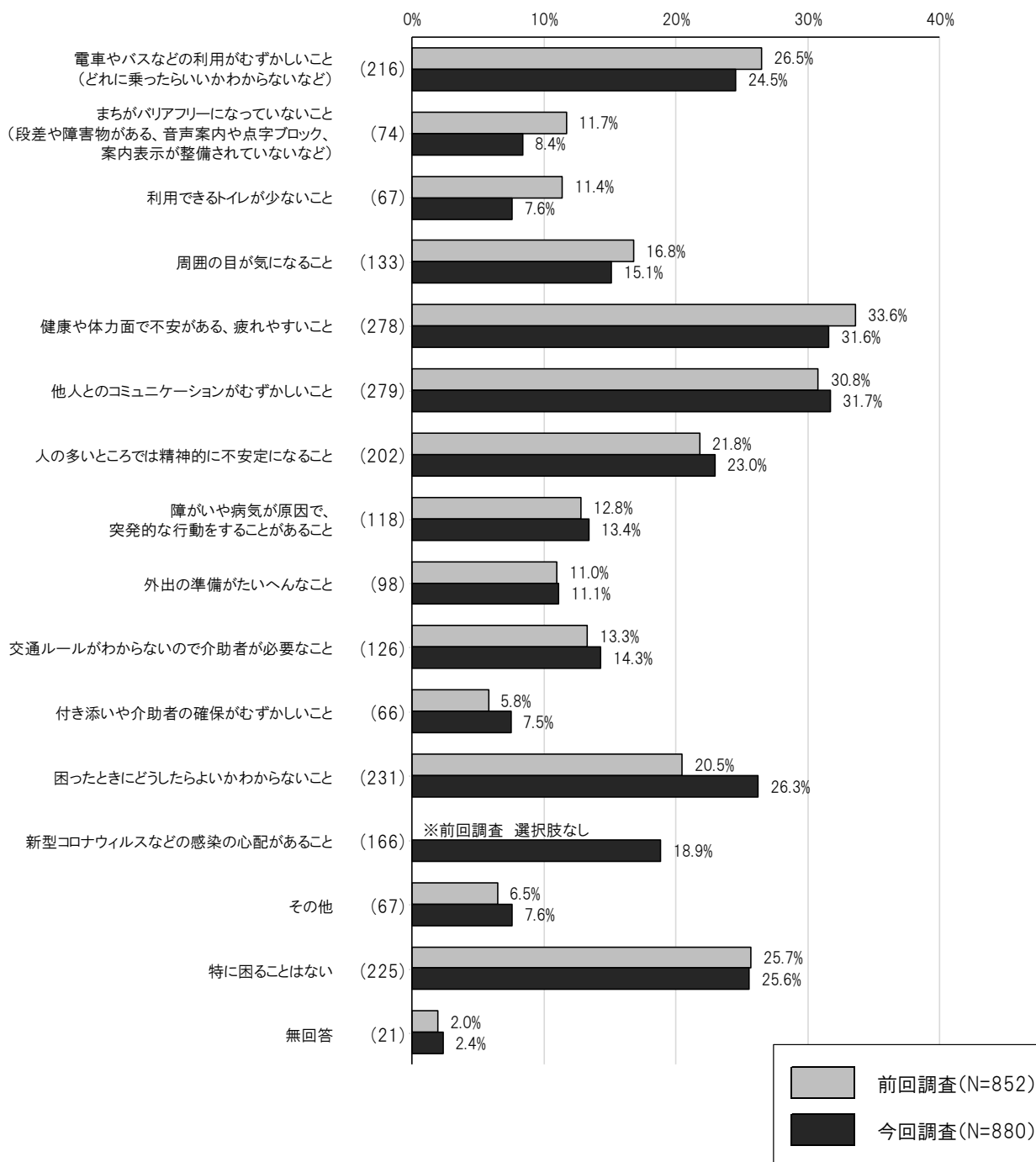


年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

問 16. 外出したり、外出しようとするときに困ることはありますか。【複数回答】

「他人とのコミュニケーションがむずかしいこと」の比率が31.7%と最も高く、次いで「健康や体力面で不安がある、疲れやすいこと」が31.6%となっています。

前回調査と比べると、「まちがバリアフリーになっていないこと」「利用できるトイレが少ないこと」が減少し、「困ったときにどうしたらよいかわからないこと」が増加していますが、全体的な回答の傾向として、大きな変化はみられません。



●外出の際に困ること×障がいの種別

「健康や体力面で不安がある、疲れやすいこと」については、身体障がい（重度）・大人、精神障がいの比率が高くなっています。

「他人とのコミュニケーションがむずかしいこと」については、知的障がい（子ども、大人いずれも）の比率が高くなっています。

	電車やバスなどの利用がむずかしいこと (どれに乗ったらいかがわからないなど)	まちがバリアフリーになっていないこと (段差や障害物がある、音声案内や点字プロ ツク、案内表示が整備されていないなど)	利用できるトイレが少ないこと	周囲の目が気になること	健康や体力面で不安がある、 疲れやすいこと	他人とのコミュニケーションが むずかしいこと	人の多いところでは精神的に 不安定になること	障がいや病気が原因で、突発的な 行動をすることがあること	外出の準備がたいへんなこと	交通ルールがわからないので 介助者が必要なこと	付き添いや介助者の確保が むずかしいこと	困ったときにどうしたらよいか わからないこと	新型コロナウイルスなどの 感染の心配があること	その他	特に困ることはない	無回答
総数 (N=880)	24.5%	8.4%	7.6%	15.1%	31.6%	31.7%	23.0%	13.4%	11.1%	14.3%	7.5%	26.3%	8.9%	7.6%	25.6%	2.4%
身体障がい・子ども (n=21)	52.4%	19.0%	4.8%	0.0%	9.0%	28.6%	0.0%	4.8%	4.8%	19.0%	4.8%	0.0%	14.3%	9.5%	28.6%	4.8%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	8.6%	26.2%	16.6%	10.3%	42.1%	14.5%	10.3%	6.2%	7.2%	6.2%	10.3%	11.0%	24.1%	10.3%	28.3%	2.8%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	11.4%	7.6%	9.5%	4.4%	28.5%	9.5%	5.1%	1.9%	5.1%	4.4%	1.3%	10.8%	7.7%	10.1%	47.5%	1.9%
知的障がい・子ども (n=106)	63.2%	2.8%	4.7%	15.1%	15.1%	63.2%	22.6%	32.1%	8.5%	43.4%	4.7%	51.9%	11.3%	3.8%	6.6%	1.9%
知的障がい・大人 (n=212)	41.5%	6.6%	9.4%	21.2%	8.4%	54.2%	27.4%	22.2%	9.9%	33.0%	18.9%	47.2%	24.5%	5.7%	17.0%	3.3%
精神障がい (n=265)	14.0%	3.0%	4.9%	22.6%	47.9%	31.7%	40.8%	13.2%	7.4%	3.4%	5.3%	23.4%	20.0%	9.1%	20.4%	2.6%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●外出の際に困ること×年齢別

「健康や体力面で不安がある、疲れやすいこと」については、概ね年齢が上がるにつれて高くなり、「他人とのコミュニケーションがむずかしいこと」については、年齢が上がるにつれて低くなっています。

	電車やバスなどの利用がむずかしいこと (どれに乗ったらいかがわからないなど)	まちがバリアフリーになっていないこと (段差や障害物がある、音声案内や点字プロ ツク、案内表示が整備されていないなど)	利用できるトイレが少ないこと	周囲の目が気になること	健康や体力面で不安がある、 疲れやすいこと	他人とのコミュニケーションが むずかしいこと	人の多いところでは精神的に 不安定になること	障がいや病気が原因で、突発的な 行動をすることがあること	外出の準備がたいへんなこと	交通ルールがわからないので 介助者が必要なこと	付き添いや介助者の確保が むずかしいこと	困ったときにどうしたらよいか わからないこと	新型コロナウイルスなどの 感染の心配があること	その他	特に困ることはない	無回答
総数 (N=880)	24.5%	8.4%	7.6%	15.1%	31.6%	31.7%	23.0%	13.4%	11.1%	14.3%	7.5%	26.3%	8.9%	7.6%	25.6%	2.4%
0～5歳(就学前) (n=19)	47.4%	5.3%	5.3%	26.3%	10.5%	63.2%	21.1%	47.4%	21.1%	47.4%	0.0%	26.3%	10.5%	10.5%	21.1%	0.0%
6～11歳(小学生) (n=40)	57.5%	5.0%	7.5%	17.5%	17.5%	62.5%	27.5%	37.5%	7.5%	40.0%	5.0%	50.0%	7.5%	5.0%	7.5%	7.5%
12～14歳(中学生) (n=42)	71.4%	9.5%	2.4%	9.5%	19.0%	47.6%	19.0%	23.8%	4.8%	35.7%	9.5%	45.2%	14.3%	2.4%	11.9%	0.0%
15～17歳(高校生など) (n=32)	46.9%	0.0%	3.1%	6.3%	9.4%	46.9%	9.4%	6.3%	3.1%	25.0%	0.0%	40.6%	12.5%	6.3%	18.8%	0.0%
18～29歳 (n=130)	30.8%	7.7%	10.8%	23.1%	20.8%	49.2%	32.3%	15.4%	16.2%	20.8%	15.4%	43.8%	18.5%	3.8%	22.3%	0.8%
30～39歳 (n=112)	21.4%	4.5%	4.5%	20.5%	36.6%	35.7%	26.8%	14.3%	12.5%	13.4%	9.8%	22.3%	21.4%	7.1%	26.8%	2.7%
40～49歳 (n=161)	24.8%	8.1%	6.8%	19.9%	35.4%	32.3%	28.0%	10.6%	14.3%	12.4%	9.9%	29.2%	25.5%	10.6%	25.5%	1.9%
50～59歳 (n=195)	10.8%	11.8%	9.7%	12.8%	44.1%	20.5%	24.1%	12.3%	8.7%	4.6%	4.1%	17.4%	19.5%	7.7%	27.7%	1.0%
60歳以上 (n=138)	10.1%	10.9%	8.7%	3.6%	32.6%	5.1%	7.2%	2.9%	8.7%	3.6%	3.6%	8.0%	16.7%	10.9%	37.7%	5.1%

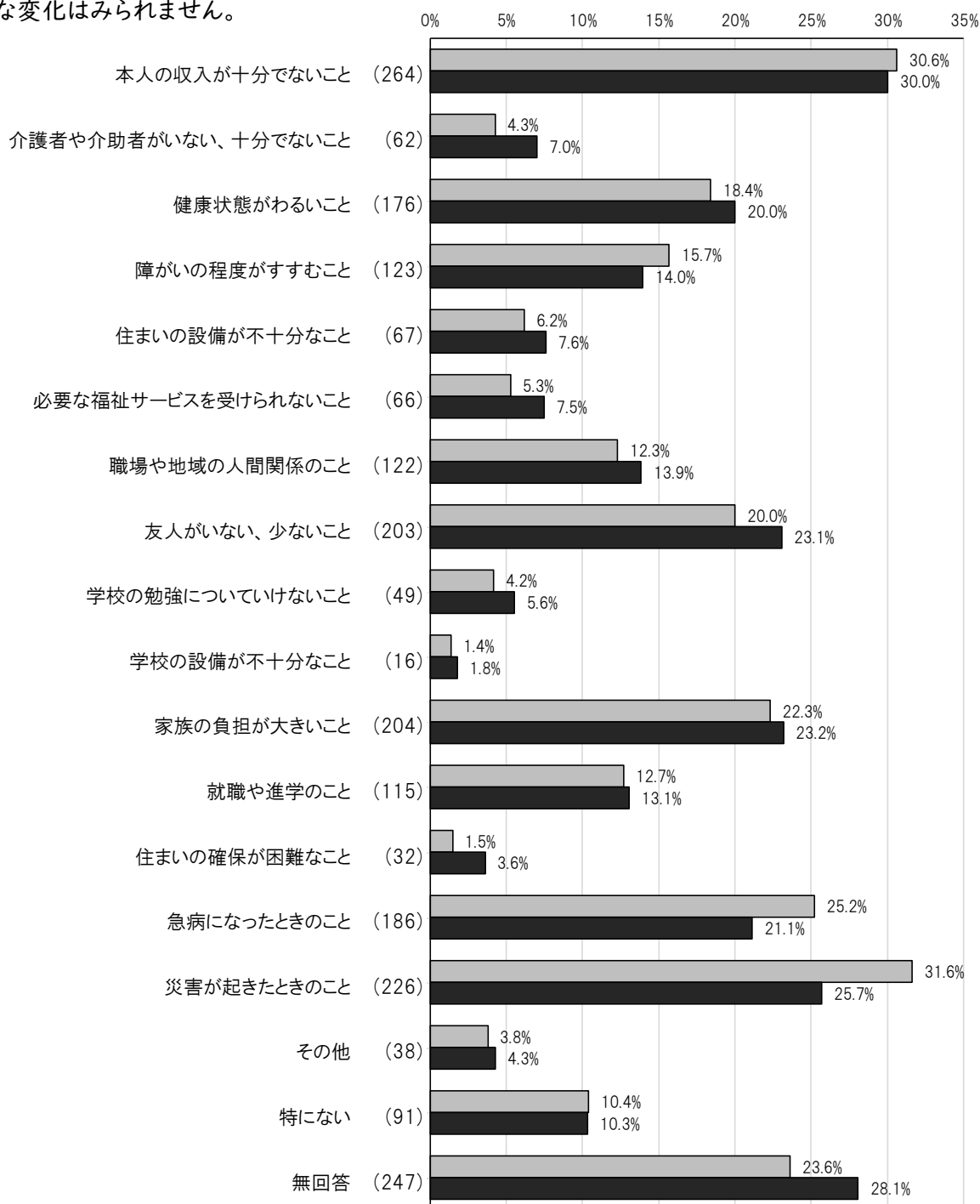
年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

問 17. 日常生活において困っていることや心配なことがありますか。
現在の困っていることと将来の心配、それぞれについてお答えください。

現在の困っていること【複数回答】

「本人の収入が十分でないこと」の比率が30.0%と最も高く、次いで「災害が起きたときのこと」が25.7%となっています。

前回調査と比べると、「災害が起きたときのこと」の回答比率が減少していますが、全体的な回答傾向として大きな変化はみられません。



前回調査(N=852)
今回調査(N=880)

●現在の困っていること×障がいの種別

「本人の収入が十分でないこと」については、精神障がいの比率が高くなっており、「健康状態がわるいこと」「友人がいない、少ないこと」についても同様に精神障がいの比率が高くなっています。

	本人の収入が十分でないこと	介護者や介護者がいない、十分でないこと	健康状態がわるいこと	障がいの程度がすすむこと	住まいの設備が不十分なこと	必要な福祉サービスを受けられないこと	職場や地域の人間関係のこと	友人がいない、少ないこと	学校の勉強についていけないこと	学校の設備が不十分なこと	家族の負担が大きいこと	就職や進学のこと	住まいの確保が困難なこと	急病になったときのこと	災害が起きたときのこと	その他	特にない	無回答
総数 (N=880)	30.0%	7.0%	20.0%	14.0%	7.6%	7.5%	13.9%	23.1%	5.6%	1.8%	23.2%	13.1%	3.6%	21.1%	25.7%	4.3%	10.3%	28.1%
身体障がい・子ども (n=21)	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	0.0%	0.0%	4.8%	4.8%	19.0%	28.6%	14.3%	4.8%	14.3%	19.0%	4.8%	4.8%	42.9%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	26.9%	8.3%	24.1%	20.7%	13.8%	10.3%	9.0%	11.7%	1.4%	2.1%	19.3%	4.8%	3.4%	27.6%	30.3%	3.4%	13.8%	33.8%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	22.8%	2.5%	15.8%	12.0%	5.7%	5.7%	7.0%	12.0%	0.0%	0.0%	10.8%	4.4%	1.3%	14.6%	19.0%	3.8%	19.0%	33.5%
知的障がい・子ども (n=106)	2.8%	4.7%	3.8%	12.3%	1.9%	4.7%	7.5%	28.3%	30.2%	3.8%	33.0%	24.5%	1.9%	16.0%	24.5%	0.9%	1.9%	34.0%
知的障がい・大人 (n=212)	28.3%	11.3%	10.8%	9.4%	6.1%	8.0%	7.0%	25.5%	1.4%	1.4%	26.9%	9.0%	4.7%	21.2%	32.5%	3.8%	7.1%	31.1%
精神障がい (n=265)	52.8%	8.3%	35.8%	17.0%	10.9%	10.6%	22.6%	35.8%	5.3%	1.9%	28.3%	21.9%	5.7%	27.2%	26.8%	8.3%	6.0%	17.4%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2ページ参照)。

●現在の困っていること×年齢別

「健康状態がわるいこと」については、概ね年齢が上がるにつれて高くなっています。

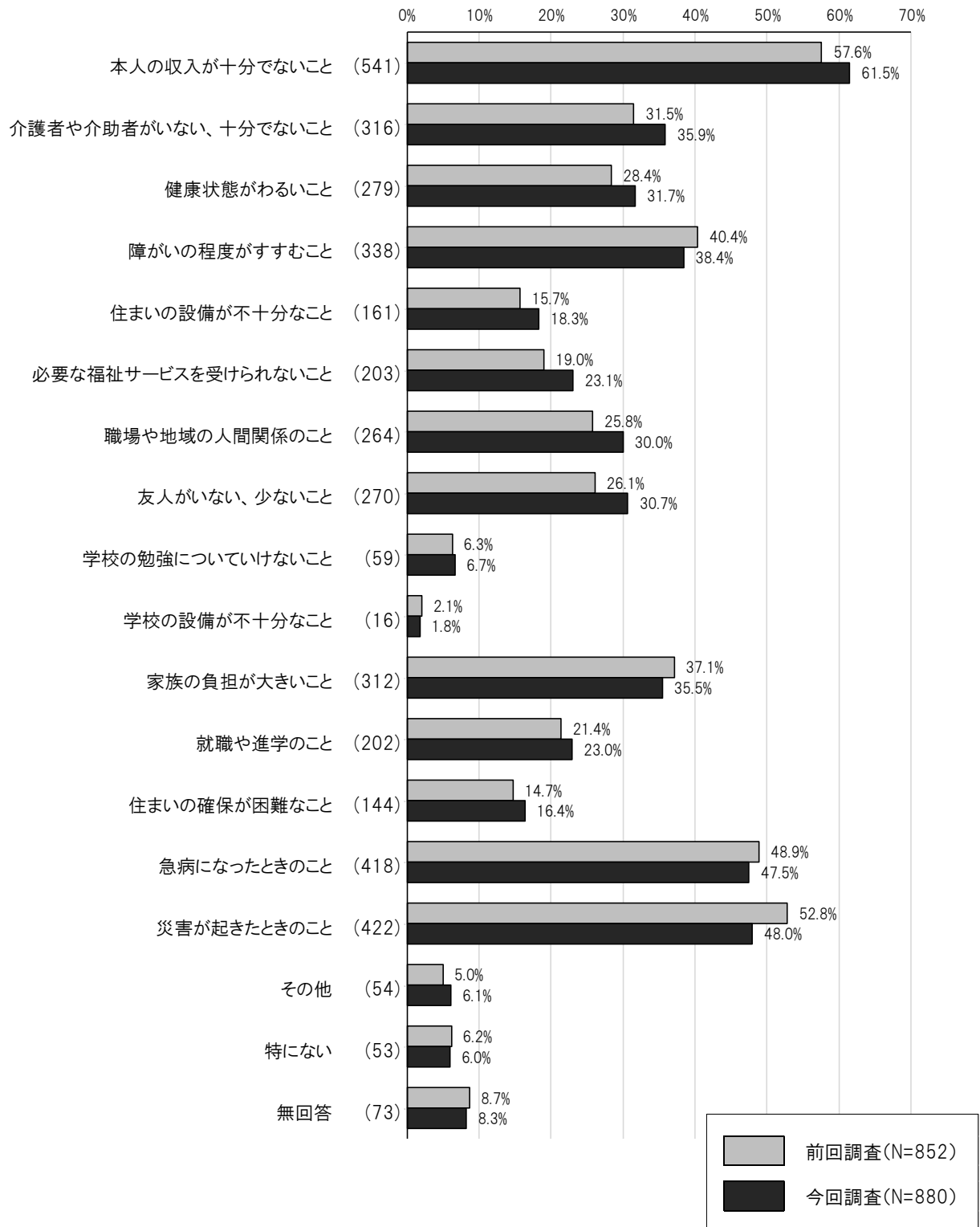
	本人の収入が十分でないこと	介護者や介護者がいない、十分でないこと	健康状態がわるいこと	障がいの程度がすすむこと	住まいの設備が不十分なこと	必要な福祉サービスを受けられないこと	職場や地域の人間関係のこと	友人がいない、少ないこと	学校の勉強についていけないこと	学校の設備が不十分なこと	家族の負担が大きいこと	就職や進学のこと	住まいの確保が困難なこと	急病になったときのこと	災害が起きたときのこと	その他	特にない	無回答
総数 (N=880)	30.0%	7.0%	20.0%	14.0%	7.6%	7.5%	13.9%	23.1%	5.6%	1.8%	23.2%	13.1%	3.6%	21.1%	25.7%	4.3%	10.3%	28.1%
0～5歳(就学前) (n=19)	0.0%	10.5%	5.3%	15.8%	0.0%	10.5%	5.3%	36.8%	15.8%	10.5%	42.1%	21.1%	0.0%	15.8%	31.6%	0.0%	0.0%	15.8%
6～11歳(小学生) (n=40)	2.5%	10.0%	2.5%	15.0%	2.5%	5.0%	12.5%	27.5%	40.0%	5.0%	32.5%	22.5%	2.5%	17.5%	22.5%	2.5%	0.0%	30.0%
12～14歳(中学生) (n=42)	2.4%	0.0%	4.8%	9.5%	4.8%	2.4%	2.4%	16.7%	26.2%	11.9%	26.2%	21.4%	0.0%	11.9%	16.7%	0.0%	4.8%	45.2%
15～17歳(高校生など) (n=32)	6.3%	3.1%	3.1%	3.1%	0.0%	0.0%	6.3%	18.8%	18.8%	0.0%	21.9%	25.0%	3.1%	12.5%	21.9%	3.1%	12.5%	37.5%
18～29歳 (n=130)	32.3%	8.5%	11.5%	10.8%	6.2%	9.2%	22.3%	30.0%	1.5%	0.8%	24.6%	20.0%	3.1%	18.5%	26.9%	2.3%	10.0%	26.9%
30～39歳 (n=112)	47.3%	10.7%	21.4%	8.9%	10.7%	4.5%	20.5%	27.7%	5.4%	1.8%	28.6%	15.2%	5.4%	25.0%	30.4%	4.5%	8.9%	19.6%
40～49歳 (n=161)	37.3%	6.8%	26.7%	16.8%	8.1%	11.2%	16.1%	25.5%	2.5%	1.2%	26.1%	12.4%	3.1%	24.2%	26.1%	6.8%	8.7%	24.2%
50～59歳 (n=195)	37.4%	9.2%	32.3%	17.9%	11.3%	8.2%	13.8%	23.1%	0.5%	1.0%	23.1%	9.2%	5.6%	24.1%	28.7%	5.6%	12.8%	24.6%
60歳以上 (n=138)	21.7%	2.2%	18.8%	16.7%	6.5%	6.5%	5.8%	10.1%	0.0%	0.0%	10.1%	2.2%	2.9%	21.0%	21.0%	3.6%	15.9%	37.7%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5ページ参照)。

将来の心配なこと【複数回答】

現在の困っていることと同様に「本人の収入が十分でないこと」の比率が61.5%と最も高く、次いで「災害が起きたときのこと」が48.0%となっています。

前回調査と比べて、全体的な回答傾向として大きな変化はみられません。



●将来の心配なこと×障がいの種別

「本人の収入が十分でないこと」については、現在の困っていることでも高い精神障がい（52.8%、38ページ上段参照）に加え、知的障がい・子ども、身体障がい・子どもの比率が高くなっています。また、「就職や進学のこと」についても同様に知的障がい・子ども、身体障がい・子どもの比率が高くなっています。

	本人の収入が十分でないこと	介護者や介護者がいない、十分でないこと	健康状態がわるいこと	障がいの程度がすすむこと	住まいの設備が不十分なこと	必要な福祉サービスを受けられないこと	職場や地域の人間関係のこと	友人がいない、少ないこと	学校の勉強についていけないこと	学校の設備が不十分なこと	家族の負担が大きいこと	就職や進学のこと	住まいの確保が困難なこと	急病になったときのこと	災害が起きたときのこと	その他	特にない	無回答
総数 (N=880)	61.5%	35.9%	31.7%	38.4%	18.3%	23.1%	30.0%	30.7%	6.7%	1.8%	35.5%	23.0%	16.4%	47.5%	48.0%	6.1%	6.0%	8.3%
身体障がい・子ども(n=21)	66.7%	38.1%	28.6%	47.6%	9.5%	19.0%	28.6%	23.8%	9.5%	0.0%	38.1%	71.4%	9.5%	61.9%	61.9%	4.8%	0.0%	0.0%
身体障がい(重度)・大人(n=145)	53.8%	35.9%	40.0%	51.0%	22.8%	20.7%	14.5%	23.4%	0.7%	1.4%	32.4%	4.8%	13.1%	50.3%	46.2%	4.8%	6.9%	7.6%
身体障がい(軽度)・大人(n=158)	46.2%	17.1%	25.9%	38.0%	14.6%	11.4%	14.6%	15.8%	0.6%	1.3%	19.0%	5.7%	4.4%	34.2%	39.2%	5.1%	12.0%	10.1%
知的障がい・子ども(n=106)	75.5%	52.8%	17.9%	40.6%	13.2%	38.7%	61.3%	49.1%	34.0%	7.5%	58.5%	77.4%	30.2%	54.7%	53.8%	1.9%	0.9%	6.6%
知的障がい・大人(n=212)	60.8%	48.1%	25.9%	28.8%	21.7%	26.4%	28.3%	28.3%	1.4%	0.0%	42.9%	14.6%	23.6%	52.4%	55.2%	5.7%	5.2%	9.0%
精神障がい(n=265)	71.3%	34.3%	43.0%	40.4%	19.2%	27.2%	37.0%	41.5%	5.7%	1.5%	33.6%	24.9%	16.2%	49.1%	46.8%	10.9%	2.6%	9.4%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2ページ参照)。

●将来の心配なこと×年齢別

「本人の収入が十分でないこと」「職場や地域の人間関係のこと」「就職や進学のこと」については、18歳未満の比率が総じて高くなっています。

	本人の収入が十分でないこと	介護者や介護者がいない、十分でないこと	健康状態がわるいこと	障がいの程度がすすむこと	住まいの設備が不十分なこと	必要な福祉サービスを受けられないこと	職場や地域の人間関係のこと	友人がいない、少ないこと	学校の勉強についていけないこと	学校の設備が不十分なこと	家族の負担が大きいこと	就職や進学のこと	住まいの確保が困難なこと	急病になったときのこと	災害が起きたときのこと	その他	特にない	無回答
総数 (N=880)	61.5%	35.9%	31.7%	38.4%	18.3%	23.1%	30.0%	30.7%	6.7%	1.8%	35.5%	23.0%	16.4%	47.5%	48.0%	6.1%	6.0%	8.3%
0～5歳(就学前) (n=19)	78.9%	63.2%	21.1%	78.9%	36.8%	57.9%	68.4%	57.9%	73.7%	26.3%	84.2%	89.5%	42.1%	57.9%	63.2%	5.3%	0.0%	0.0%
6～11歳(小学生) (n=40)	60.0%	50.0%	17.5%	50.0%	15.0%	45.0%	65.0%	47.5%	35.0%	7.5%	47.5%	80.0%	25.0%	52.5%	50.0%	2.5%	0.0%	10.0%
12～14歳(中学生) (n=42)	81.0%	42.9%	21.4%	28.6%	4.8%	31.0%	47.6%	42.9%	19.0%	0.0%	47.6%	78.6%	19.0%	52.4%	52.4%	0.0%	2.4%	2.4%
15～17歳(高校生など) (n=32)	71.9%	40.6%	6.3%	12.5%	3.1%	12.5%	59.4%	34.4%	18.8%	0.0%	43.8%	65.6%	21.9%	50.0%	46.9%	3.1%	6.3%	6.3%
18～29歳 (n=130)	71.5%	44.6%	23.1%	27.7%	20.0%	26.2%	43.1%	37.7%	3.1%	0.8%	40.8%	23.8%	27.7%	47.7%	53.8%	3.8%	6.2%	7.7%
30～39歳 (n=112)	69.6%	40.2%	29.5%	36.6%	20.5%	19.6%	26.8%	33.0%	4.5%	1.8%	35.7%	17.0%	16.1%	47.3%	50.0%	7.1%	4.5%	3.6%
40～49歳 (n=161)	59.0%	33.5%	41.6%	36.6%	17.4%	23.6%	26.7%	29.2%	3.7%	1.2%	37.3%	13.7%	15.5%	46.6%	46.6%	9.3%	6.8%	11.2%
50～59歳 (n=195)	57.4%	35.4%	42.6%	50.3%	22.6%	23.1%	21.0%	26.7%	0.0%	0.5%	31.3%	11.8%	13.3%	51.8%	51.8%	8.7%	6.2%	6.2%
60歳以上 (n=138)	46.4%	19.6%	31.2%	37.0%	17.4%	13.0%	10.1%	17.4%	0.7%	1.4%	18.8%	2.9%	4.3%	40.6%	37.0%	3.6%	10.1%	13.0%

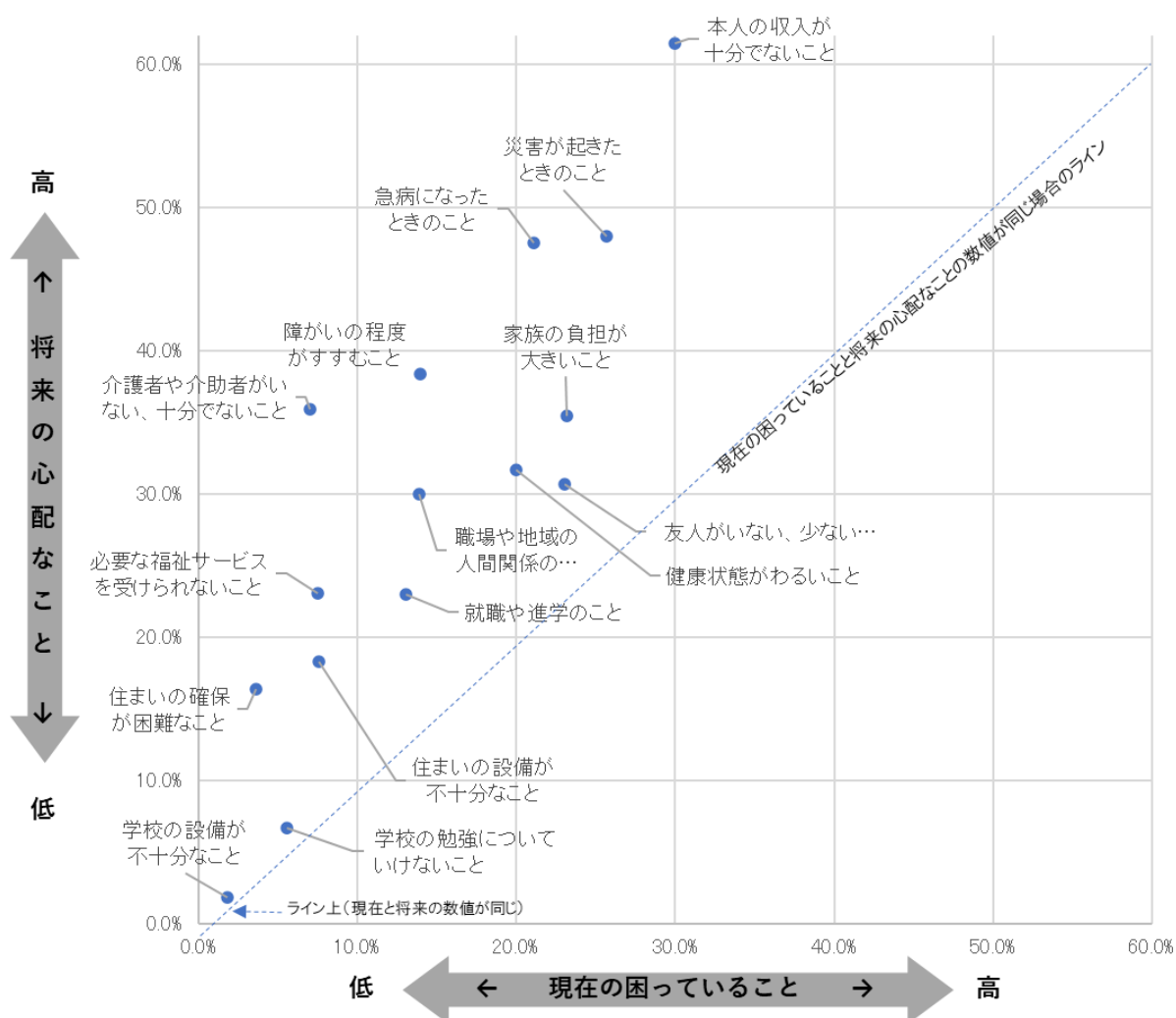
年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5ページ参照)。

★現在の困っていること、将来の心配なことの相関について

現在の困っていることと将来の心配なことの回答比率は相関関係にあり、総じて現在の困っていることに比べて将来の心配なことの回答比率が高くなっています。

「本人の収入が十分でないこと」「災害が起きたときのこと」「急病になったときのこと」については、現在、将来の双方で高く、特に「本人の収入が十分でないこと」については、将来の心配の増加が大きくなっています。

「障がいの程度がすすむこと」「介護者や介助者がいない、十分でないこと」については、現在困っていることとしては低めであるものの、「本人の収入が十分でないこと」と同様に将来の心配が大きく増加しています。



相関図の見方について

現在の困っていることと将来の心配なことの数値が同じ場合、右上がりの斜めの破線のライン上となります。

例:「学校の設備が不十分なこと」現在、将来ともに 1.8%

「学校の設備が不十分なこと」を除く全ての選択肢は、将来の心配なことが現在の困っていることを上回り、ラインよりも高い位置 (図の上側) にあります。ラインから上に離れるほど、将来の心配なことが現在の困っていることに比べて特に高くなっていることが示されています。

例:「本人の収入が十分でないこと」現在 30.0% → 将来 61.5%

「障がいの程度がすすむこと」現在 14.0% → 将来 38.4%

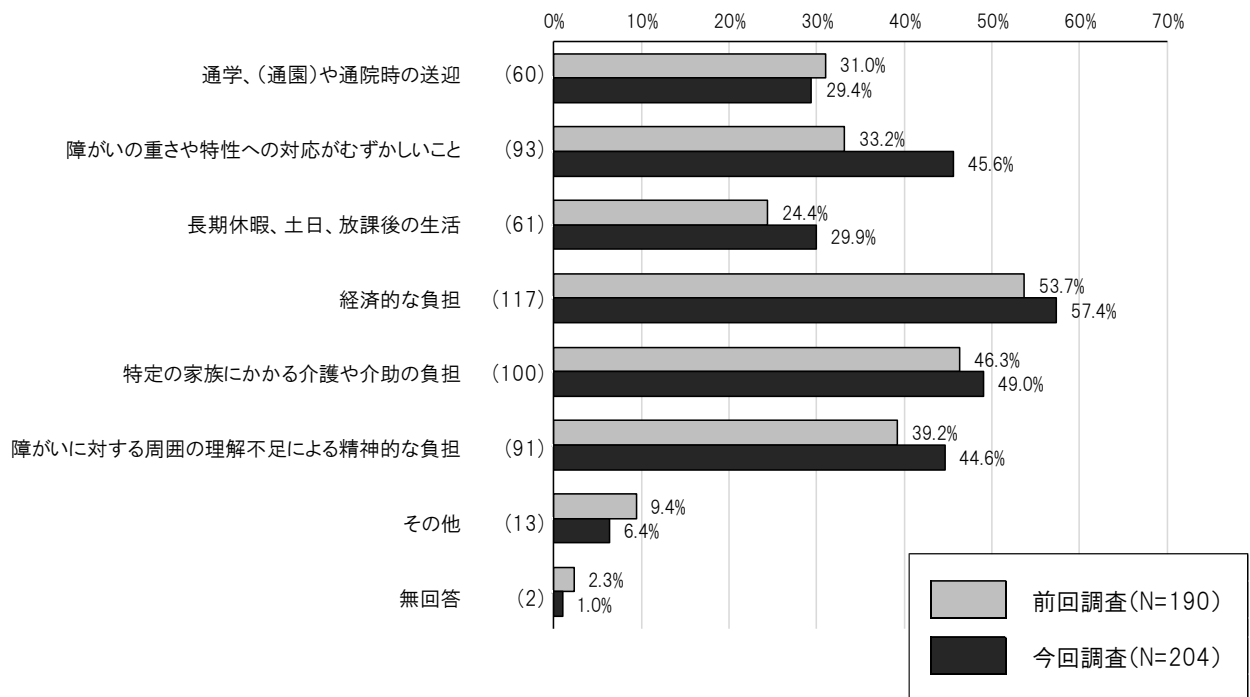
「介護者や介助者がいない、十分でないこと」現在 7.0% → 将来 35.9%

問 17 (現在の困っていること)で「家族の負担が大きいこと」と回答された方(204 件)におたずねします。

問 17-1. ご家族の負担の内容はどれですか。【複数回答】

「経済的な負担」の比率が57.4%と最も高く、次いで「特定の家族にかかる介護や介助の負担」が49.0%、「障がいの重さや特性への対応がむずかしいこと」が45.6%となっています。

前回調査と比べて、「障がいの重さや特性への対応がむずかしいこと」が大きく増加していますが、他の内容については回答傾向として大きな変化はみられません。



●家族の負担が大きいこと×障がいの種別

障がいの種別でみると、「障がいの重さや特性への対応がむずかしいこと」「障がいに対する周囲の理解不足による精神的な負担」については、知的障がいの比率が高くなっています。また、「経済的な負担」「特定の家族にかかる介護や介助の負担」については、身体障がいの比率が高くなっています。

	や通学、 通院時 (通園 送迎)	む特性 ずかへ いのの い対重 ことさ や	長 放 課 後 の 生 活、	経 済 的 な 負 担	特 定 の 家 族 に か か る 介 護 や 介 助 の 負 担	障 が い に 対 す る 周 囲 の 理 解 不 足 に よ る 精 神 的 な 負 担	そ の 他	無 回 答
総数 (N=204)	29.4%	45.6%	29.9%	57.4%	49.0%	44.6%	6.4%	1.0%
身体障がい・子ども (n=6)	83.3%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
身体障がい(重度)・大人 (n=28)	39.3%	32.1%	21.4%	60.7%	78.6%	25.0%	10.7%	0.0%
身体障がい(軽度)・大人 (n=17)	17.6%	35.3%	5.9%	76.5%	58.8%	23.5%	0.0%	5.9%
知的障がい・子ども (n=35)	60.0%	57.1%	62.9%	51.4%	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%
知的障がい・大人 (n=57)	29.8%	61.4%	52.6%	43.9%	59.6%	61.4%	8.8%	0.0%
精神障がい (n=75)	16.0%	42.7%	9.3%	65.3%	32.0%	48.0%	8.0%	1.3%

障がいの種別の回答数(n値)については、38ページ上段(現在の困っていること×障がいの種別)の図表内の各種別の回答数(n値)に「家族の負担が大きいこと」の回答割合を乗じた値です【例: 身体障がい・子ども n=6[n=21×28.6%]】。

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=204)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可はクロス集計の対象としていません。

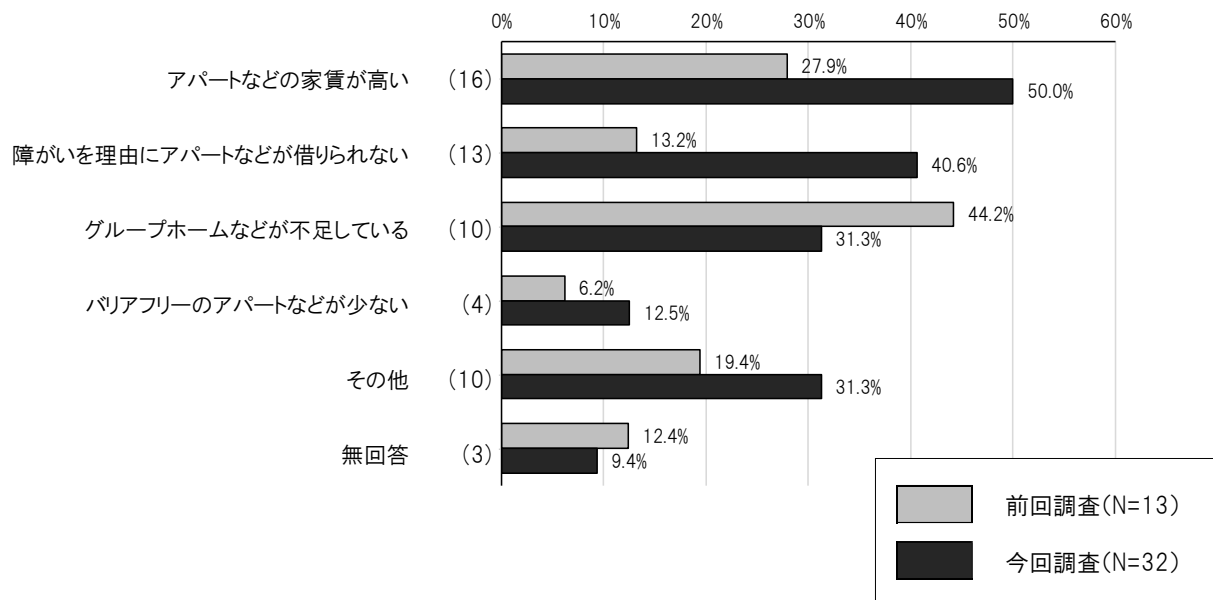
問 17 (現在の困っていること)で「住まいの確保が困難なこと」と回答された方 (32 件)におたずねします。

問 17-2. 困難な内容はどれですか。【複数回答】

「アパートなどの家賃が高い」の比率が50.0%と最も高く、次いで「障がいを理由にアパートなどが借りられない」が40.6%となっています。

「その他」の内訳については、「グループホーム等の家賃が高く、年金ではまかなえない」「保証人がいない」などとなっています。

(回答件数が少ないため、前回調査との比較検証は割愛)

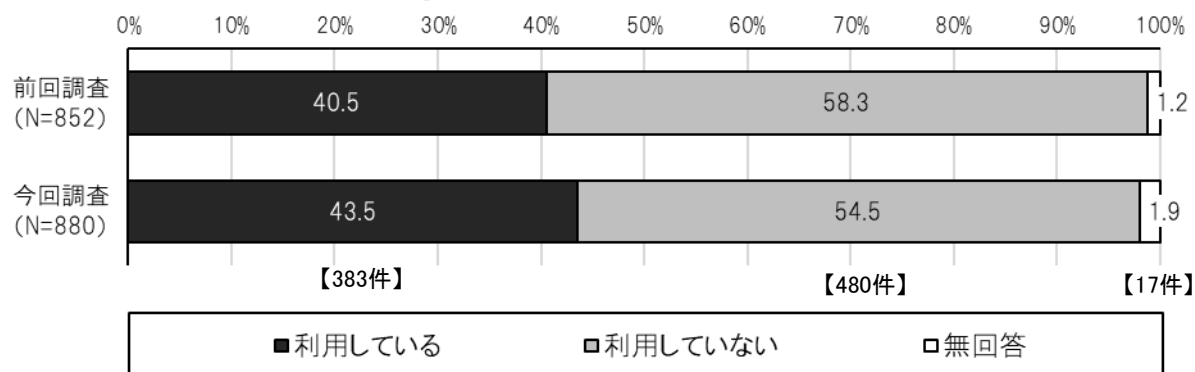


3. 障害福祉サービスなどの利用について

問 18. あなたは、現在、障害福祉サービス、児童通所サービスまたは地域生活支援事業を受けていますか。

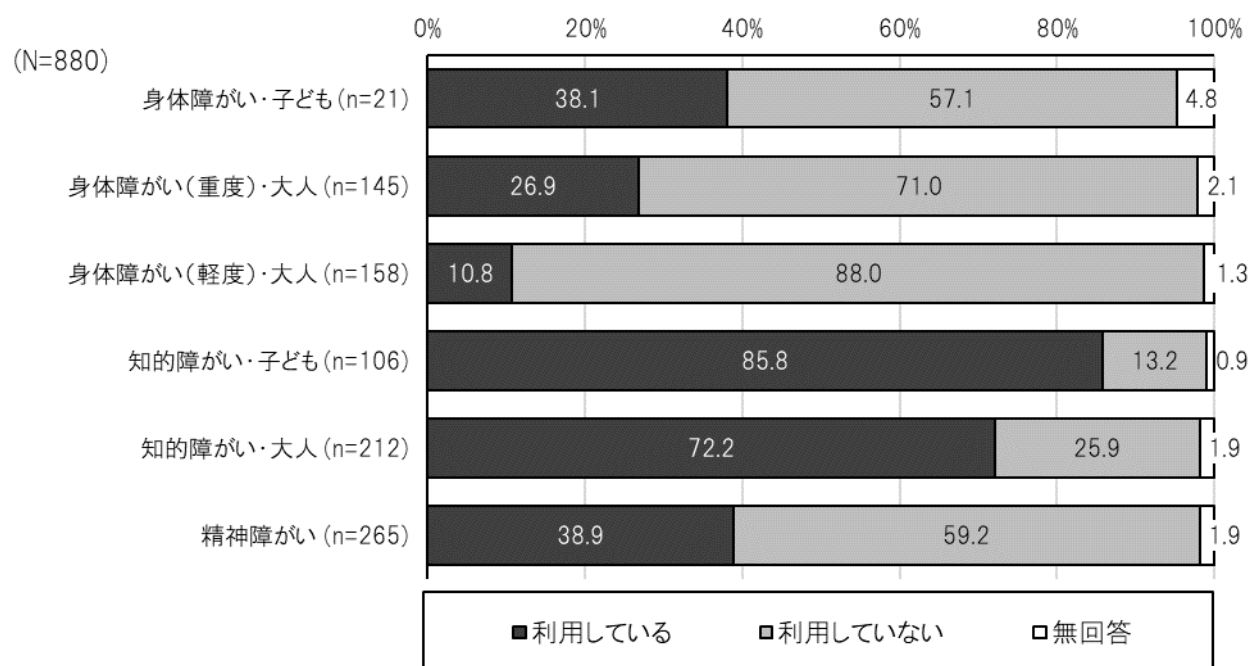
「利用している」が43.5%で、「利用していない」の54.5%を下回っています。

前回調査と比べると、「利用している」がやや増加しています。



● サービスの利用の有無×障がいの種別

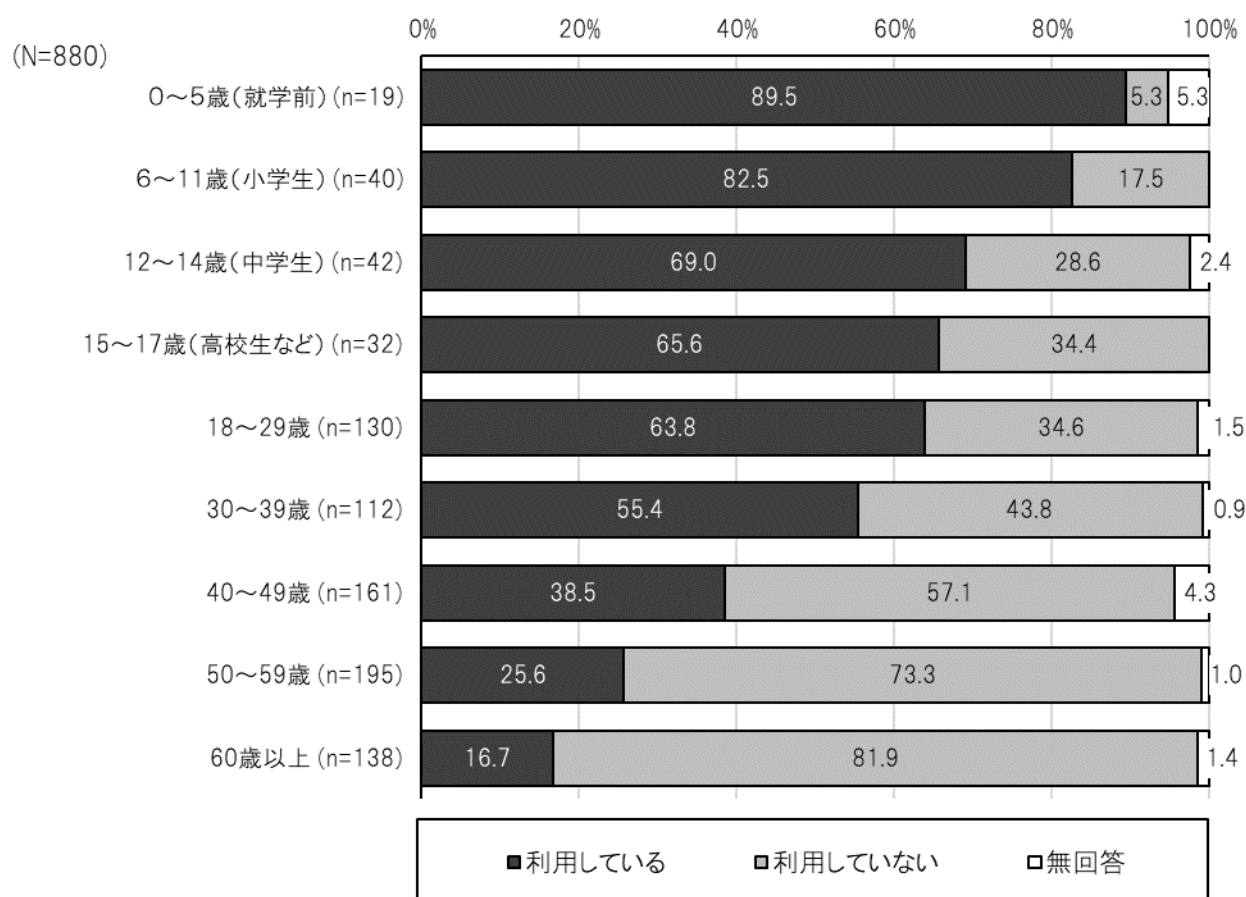
知的障がいの「利用している」が高くなっており、子どもが85.8%、大人が72.2%となっています。次いで精神障がい(軽度)が38.9%、身体障がい(軽度)が38.1%となっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●サービスの利用の有無×年齢別

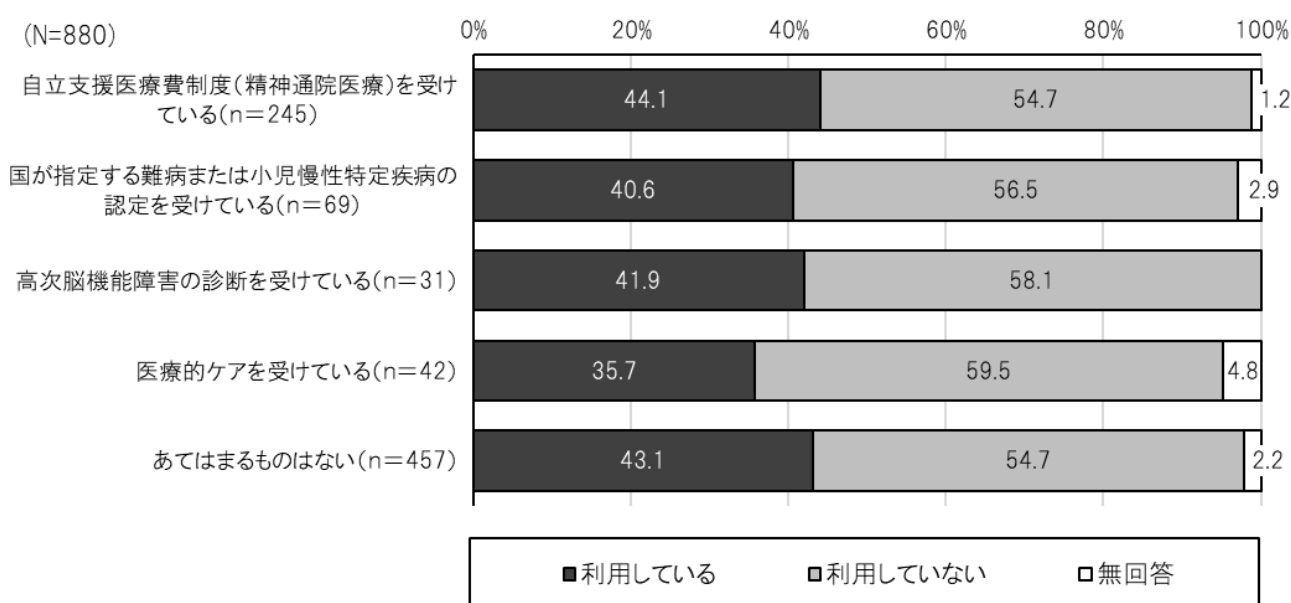
年齢が上がるにつれて、「利用している」の比率が小さくなっています。



年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

●サービスの利用の有無×疾病等の認定別

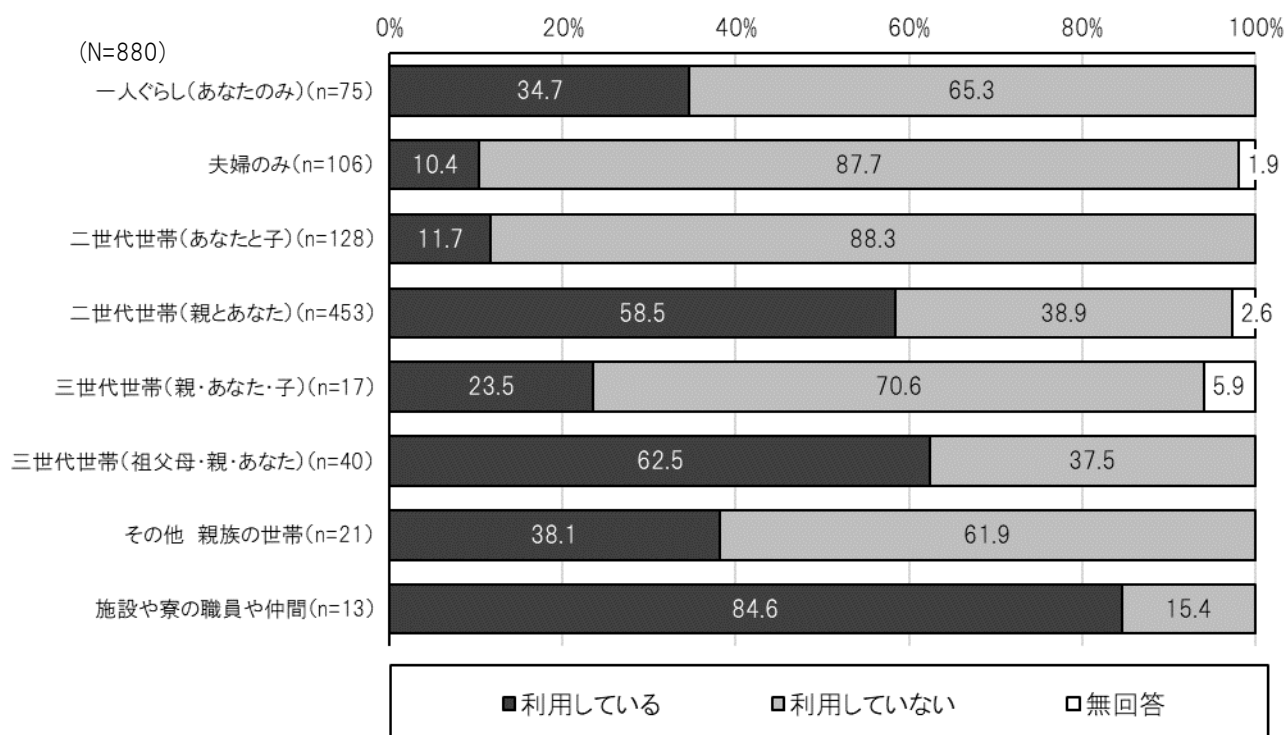
医療的ケアを受けている方の「利用している」の比率が小さくなっていますが、あてはまるものはない方も含めて、大きな差はありません。



疾病などの認定無回答(n=65)はクロス集計の対象としていません(9ページ上段参照)。また、疾病などの認定については、重複回答を含むため、件数の合計(無回答を含む)は母集団(N=880)の件数を上回ります。

●サービスの利用の有無×家族構成

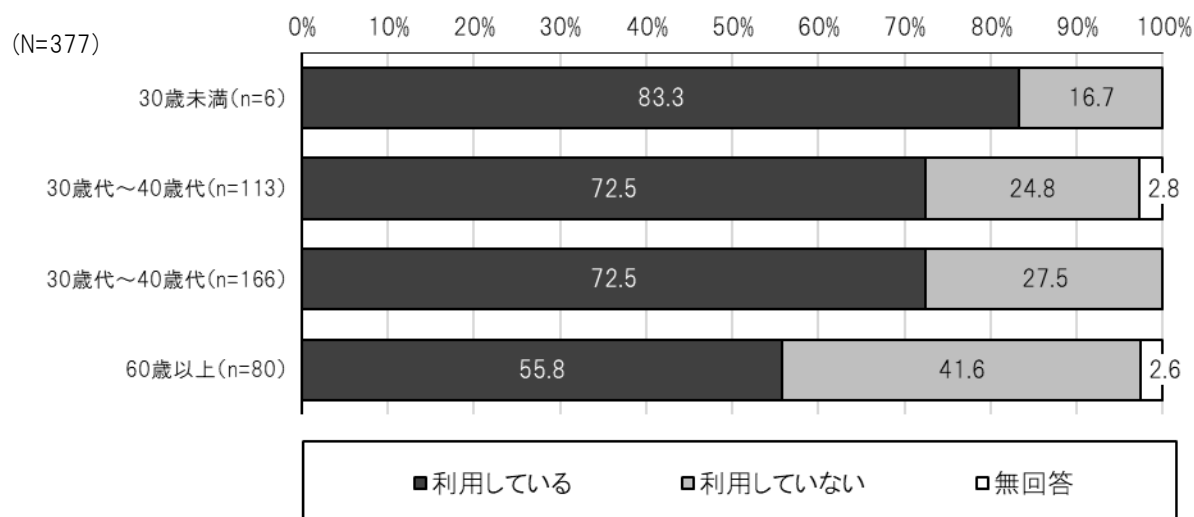
二世帯世帯（親とあなた）、三世帯世帯（祖父母・親・あなた）の「利用している」の比率が高い一方で、夫婦のみ、二世帯世帯（あなたと子）、三世帯世帯（親・あなた・子）の比率が低くなっています。



家族構成別については、家族構成無回答(n=27)をクロス集計の対象としていません(18 ページ参照)。

●サービスの利用の有無×介助者の年齢

調査対象者と同様に年齢が上がるにつれて「利用している」の比率が低くなっています。



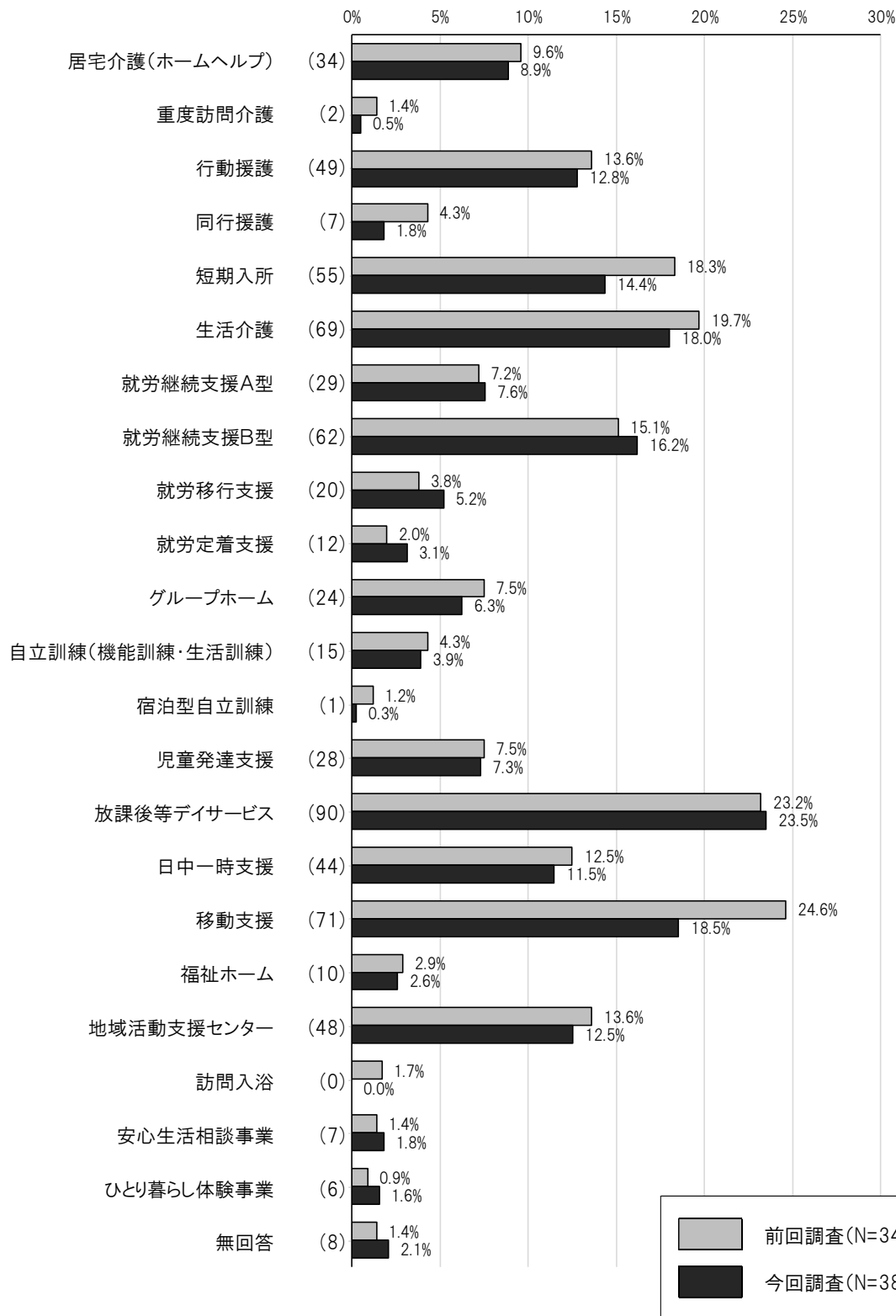
介助者の年齢無回答(n=12)をクロス集計の対象としていません(28 ページ上段参照)。

問 18 で「利用している」と回答された方 (383 件) におたずねします。

問 19. どのサービスを受けていますか。【複数回答】

「放課後等デイサービス」の比率が23.5%と最も高く、次いで「移動支援」が18.5%、「生活介護」が18.0%となっています。

前回調査と比べると、回答傾向として大きな変化はありませんが、「同行援護」「短期入所」「移動支援」の比率が際立って減少しています。



●利用しているサービス×障がいの種別（18歳以上）

「居宅介護（ホームヘルプ）」は身体障がい（重度）が高く、「行動支援」は知的障がい、「生活介護」は身体障がい（軽度）で高くなっています。就労継続支援 A 型、B 型については、身体障がい（重度）が他の障がいに比べて低い一方で、就労継続支援 A 型については精神障がい（軽度）、知的障がいに比べて高くなっています。

	（ホームヘルプ） 居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	短期入所	生活介護	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労移行支援	就労定着支援	グループホーム （機能訓練・生活訓練）	自立訓練 宿泊型自立訓練	児童発達支援	放課後等デイサービス	日中一時支援	移動支援	福祉ホーム	地域活動支援センター	安心生活相談事業	ひとり暮らし体験事業	その他	無回答	
総数（N=280）	12.1%	0.7%	15.0%	2.5%	17.5%	24.3%	10.0%	22.1%	7.1%	4.3%	8.6%	5.0%	0.4%	0.4%	2.1%	12.1%	19.6%	3.6%	17.1%	2.5%	2.1%	7.9%	2.9%
身体障がい（重度）・大人（n=39）	23.1%	5.1%	12.8%	0.3%	33.3%	30.8%	2.6%	7.7%	2.6%	0.0%	0.3%	10.3%	2.6%	0.0%	2.6%	12.8%	30.8%	7.7%	12.8%	5.1%	5.1%	7.7%	5.1%
身体障がい（軽度）・大人（n=17）	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%	5.9%	41.2%	5.9%	23.5%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	17.6%	11.8%	5.9%	17.6%	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%	
知的障がい・大人（n=153）	9.2%	0.0%	26.1%	2.6%	26.1%	36.6%	7.8%	24.8%	6.5%	1.3%	14.4%	3.3%	0.7%	0.0%	20.3%	29.4%	5.2%	16.3%	2.6%	3.9%	3.3%	2.6%	
精神障がい（n=97）	10.3%	1.0%	1.0%	1.0%	6.2%	7.2%	15.5%	23.7%	11.3%	10.3%	1.0%	5.2%	1.0%	1.0%	2.1%	2.1%	2.1%	1.0%	20.6%	2.1%	2.1%	11.3%	2.1%

18歳以上の対象としているため、総数(N)は、下表(利用しているサービス×年齢別(18歳以上))で示す280件となります。
障がいの種別の回答数(n値)については、44ページ下段(サービスの利用の有無×障がいの種別)のグラフ内の各種別の回答数(n値)に「利用している」の回答割合を乗じた値です【例：身体障がい(重度)・大人 n=39[n=145×26.9%]】。
なお、精神障がい(n値)については、18歳以上251件(3ページ参照)のうち「利用している」と回答した97件となります。
障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=280)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可はクロス集計の対象としていません。

●利用しているサービス×年齢別（18歳以上）

「居宅介護」は、概ね年齢が上がるにつれて高く、「移動支援」は年齢が上がるにつれて低くなっています。就労継続支援 A 型、B 型については60歳以上を除く年齢層では大きな差がみられませんが、就労継続支援 A 型は50～59歳、B 型は40～49歳が他の年齢層に比べて高くなっています。

	（ホームヘルプ） 居宅介護	重度訪問介護	行動支援	同行支援	短期入所	生活介護	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労移行支援	就労定着支援	グループホーム	（機能訓練・生活訓練） 自立訓練	宿泊型自立訓練	児童発達支援	放課後等デイサービス	日中一時支援	移動支援	福祉ホーム	地域活動支援センター	安心生活相談事業	ひとり暮らし体験事業	その他	無回答
総数（N=280）	12.1%	0.7%	15.0%	2.5%	17.5%	24.3%	10.0%	22.1%	7.1%	4.3%	8.6%	5.0%	0.4%	0.4%	2.1%	12.1%	19.6%	3.6%	17.1%	2.5%	2.1%	7.9%	2.9%
18～29歳（n=83）	4.8%	0.0%	20.5%	1.2%	24.1%	30.1%	10.8%	21.7%	12.0%	3.6%	3.6%	2.4%	0.0%	1.2%	3.6%	20.5%	25.3%	1.2%	10.8%	2.4%	4.8%	4.8%	2.4%
30～39歳（n=62）	6.5%	1.6%	14.5%	0.0%	22.6%	30.6%	8.1%	21.0%	9.7%	9.7%	14.5%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	9.7%	24.2%	6.5%	19.4%	1.6%	0.0%	4.8%	0.0%
40～49歳（n=62）	12.9%	0.0%	14.5%	4.8%	11.3%	19.4%	8.1%	30.6%	4.8%	4.8%	12.9%	8.1%	1.6%	0.0%	3.2%	6.5%	17.7%	6.5%	19.4%	4.8%	1.6%	6.5%	3.2%
50～59歳（n=50）	26.0%	0.0%	8.0%	6.0%	8.0%	14.0%	16.0%	24.0%	2.0%	0.0%	6.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%	6.0%	10.0%	0.0%	18.0%	2.0%	2.0%	16.0%	4.0%
60歳以上（n=23）	21.7%	4.3%	13.0%	0.0%	17.4%	21.7%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.4%	13.0%	4.3%	26.1%	0.0%	0.0%	13.0%	8.7%

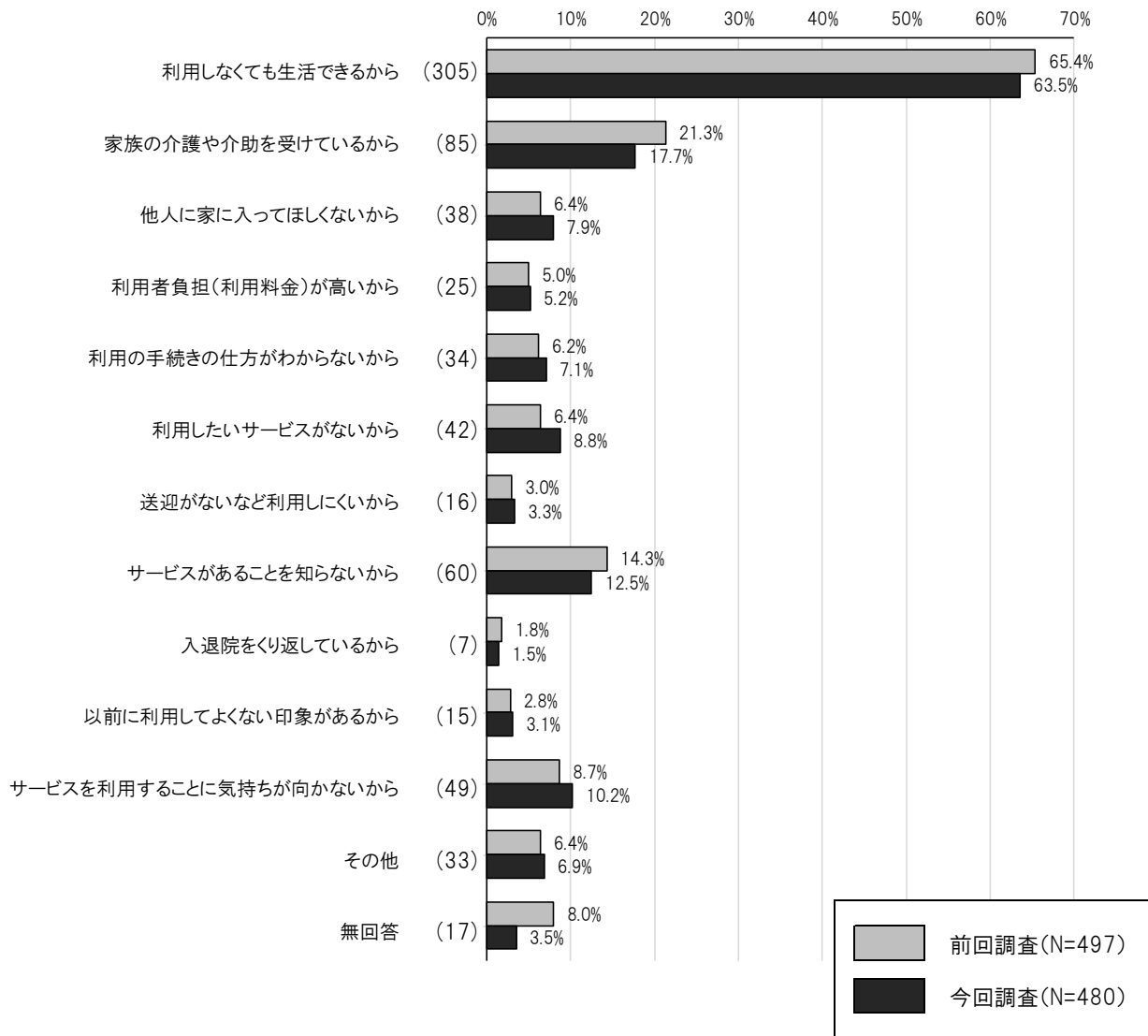
年齢別の回答数(n値)については、45 ページ上段(サービスの利用の有無×年齢別)のグラフ内の各種別の回答数(n値)に「利用している」の回答割合を乗じた値です【例：18～29 歳 n=83[n=130×63.8%]】。
年齢無回答はクロス集計の対象としていません。

問 18 で「利用していない」と回答された方(480 件)におたずねします。

問 20. 利用していない理由は何ですか。【複数回答】

「利用しなくても生活できるから」の比率が 63.5%と最も高く、次いで「家族の介護や介助を受けているから」が 17.7%、「サービスがあることを知らないから」が 12.5%となっています。

前回調査と比べると、回答傾向として大きな変化はありません。



●サービスを利用していない理由×障がいの種別

「利用しなくても生活できるから」は、身体障がい（子ども・大人（重度・軽度）ともに）の比率が高くなっています。また、「利用したいサービスがないから」は、知的障がい・子ども、「サービスがあることを知らないから」は精神障がいの比率が高くなっています。

	生活 利用 でき なく ても	家族 の介 護や 介 助 を 受 け て い る か ら	他 人 に 家 に 入 っ て ほ し く な い か ら	利 用 者 負 担 （利 用 料 金） が 高 い か ら	利 用 の 手 続 き の 仕 方 が わ か ら な い か ら	利 用 し た い サ ー ビ ス が な い か ら	送 迎 が な い な ど 利 用 し に く い か ら	サ ー ビ ス が あ る こ と を 知 ら な い か ら	入 退 院 を く り 返 し て い る か ら	以 前 に 利 用 し て よ く な い 印 象 が あ る か ら	サ ー ビ ス を 利 用 す る こ と に 気 持 ち が 向 か な い か ら	そ の 他	無 回 答
総数(N=480)	63.5%	17.7%	7.9%	5.2%	7.1%	8.8%	3.3%	12.5%	1.5%	3.1%	10.2%	6.9%	3.5%
身体障がい・子ども(n=12)	66.7%	41.7%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%
身体障がい(重度)・大人(n=103)	69.9%	19.4%	9.7%	5.8%	7.8%	8.7%	3.9%	8.7%	1.0%	1.9%	4.9%	3.9%	1.0%
身体障がい(軽度)・大人(n=139)	78.4%	6.5%	3.6%	4.3%	4.3%	5.0%	0.7%	7.9%	1.4%	0.7%	6.5%	5.8%	5.8%
知的障がい・子ども(n=14)	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	7.1%	14.3%	0.0%	0.0%	7.1%	14.3%	0.0%
知的障がい・大人(n=55)	50.9%	30.9%	9.1%	1.8%	5.5%	10.9%	3.6%	12.7%	0.0%	1.8%	9.1%	12.7%	7.3%
精神障がい(n=157)	47.1%	22.3%	12.1%	8.3%	14.0%	10.2%	6.4%	21.7%	2.5%	7.0%	17.2%	11.5%	2.5%

障がいの種別の回答数(n値)については、44ページ下段(サービスの利用の有無×障がいの種別)のグラフ内の各種別の回答数(n値)に「利用していない」の回答割合を乗じた値です【例：身体障がい・子ども n=12[n=21×57.1%]】。

●サービスを利用していない理由×年齢別

「利用したいサービスがないから」は 6～11 歳（小学生）、12～14 歳（中学生）、「送迎がないなど利用しにくいから」は 6～11 歳（小学生）の比率が高くなっています。

	生活 利用 でき なく ても	家族 の介 護や 介 助 を 受 け て い る か ら	他 人 に 家 に 入 っ て ほ し く な い か ら	利 用 者 負 担 （利 用 料 金） が 高 い か ら	利 用 の 手 続 き の 仕 方 が わ か ら な い か ら	利 用 し た い サ ー ビ ス が な い か ら	送 迎 が な い な ど 利 用 し に く い か ら	サ ー ビ ス が あ る こ と を 知 ら な い か ら	入 退 院 を く り 返 し て い る か ら	以 前 に 利 用 し て よ く な い 印 象 が あ る か ら	サ ー ビ ス を 利 用 す る こ と に 気 持 ち が 向 か な い か ら	そ の 他	無 回 答
総数(N=480)	63.5%	17.7%	7.9%	5.2%	7.1%	8.8%	3.3%	12.5%	1.5%	3.1%	10.2%	6.9%	3.5%
0～5歳(就学前)(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
6～11歳(小学生)(n=7)	42.9%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%
12～14歳(中学生)(n=12)	58.3%	25.0%	8.3%	0.0%	0.0%	25.0%	8.3%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%
15～17歳(高校生など)(n=11)	63.6%	27.3%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%
18～29歳(n=45)	57.8%	15.6%	4.4%	2.2%	4.4%	13.3%	2.2%	13.3%	0.0%	2.2%	13.3%	11.1%	6.7%
30～39歳(n=49)	69.4%	16.3%	12.2%	6.1%	14.3%	4.1%	2.0%	18.4%	2.0%	4.1%	16.3%	4.1%	0.0%
40～49歳(n=92)	58.3%	27.2%	10.9%	6.5%	9.8%	9.8%	2.2%	13.0%	1.1%	8.7%	10.9%	9.8%	3.3%
50～59歳(n=143)	62.9%	16.1%	7.7%	6.3%	7.7%	10.5%	4.9%	15.4%	2.1%	2.1%	9.1%	5.6%	3.5%
60歳以上(n=113)	74.3%	12.4%	7.1%	3.5%	4.4%	4.4%	1.8%	7.1%	1.8%	0.0%	7.1%	5.3%	4.4%

年齢別の回答数(n値)については、45ページ上段(サービスの利用の有無×年齢別)のグラフ内の各種別の回答数(n値)に「利用していない」の回答割合を乗じた値です【例：0～5歳(就学前)n=1[n=19×5.3%]】。

年齢無回答はクロス集計の対象としていません。

●サービスを利用していない理由×家族構成別

「利用しなくても生活できるから」は、夫婦のみ、二世帯世帯（あなたと子）の比率が高くなっています。また、「サービスがあることを知らないから」は、その他 親族の世帯、「サービスを利用することに気持ちが向かないから」は、一人暮らし（あなたのみ）、三世帯世帯（祖父母・親・あなた）の比率が高くなっています。

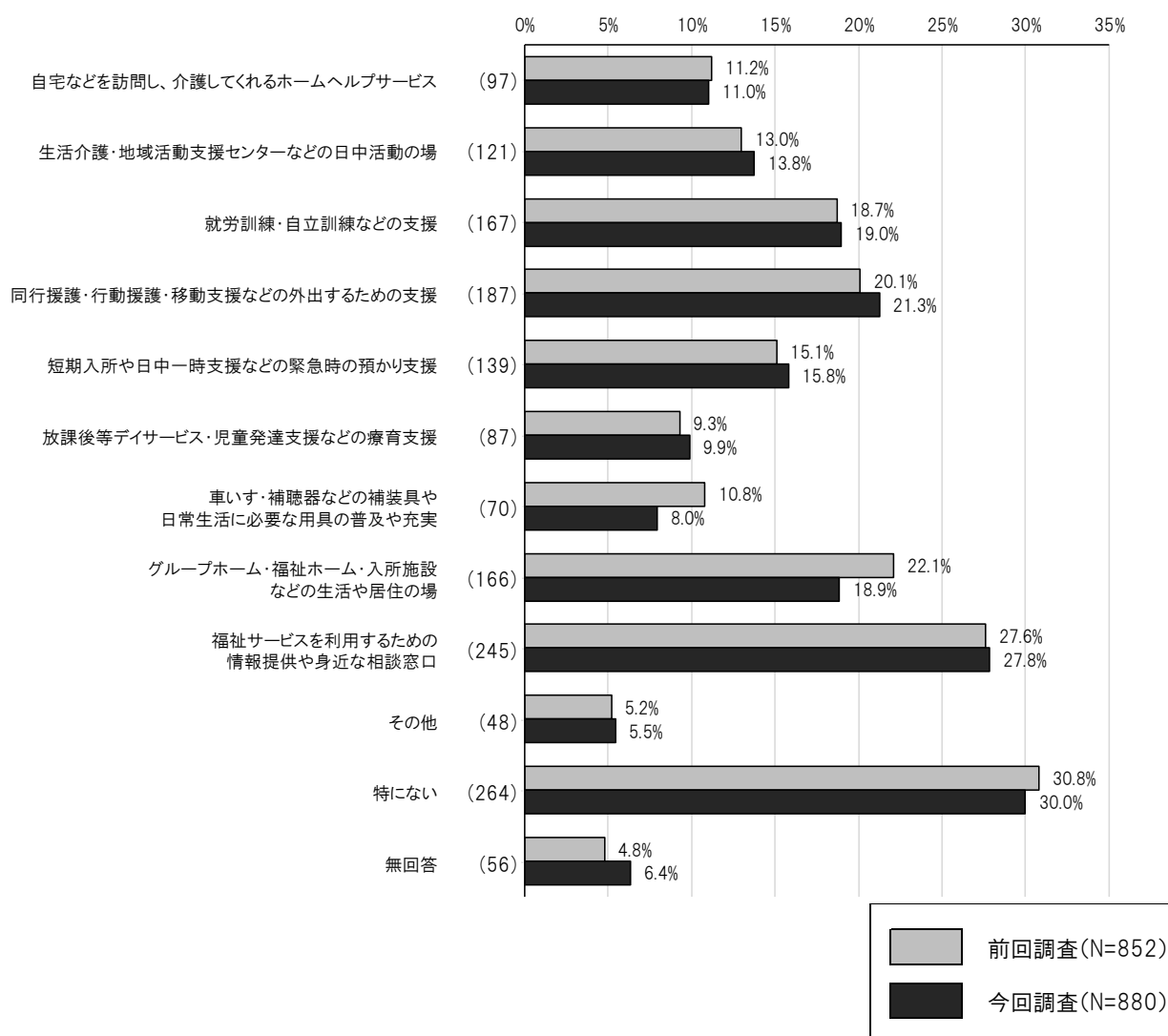
	利用しなくても生活できるから	家族の介護や介助を受けているから	他人に家に入ってほしくないから	利用者負担（利用料金）が高いから	利用の手続きの仕方がわからないから	利用したいサービスがないから	送迎がないなど利用しにくいから	サービスがあることを知らないから	入退院をくり返しているから	以前に利用してよくない印象があるから	サービスを利用することに気持ちが向かないから	その他	無回答
総数(N=480)	63.5%	17.7%	7.9%	5.2%	7.1%	8.8%	3.3%	12.5%	1.5%	3.1%	10.2%	6.9%	3.5%
一人暮らし(あなたのみ) (n=49)	61.2%	0.0%	12.2%	6.1%	12.2%	8.2%	2.0%	14.3%	0.0%	2.0%	22.4%	10.2%	2.0%
夫婦のみ (n=93)	78.5%	10.8%	4.3%	4.3%	4.3%	9.7%	3.2%	8.6%	1.1%	0.0%	8.6%	2.2%	4.3%
二世帯世帯(あなたと子) (n=113)	72.6%	18.6%	9.7%	7.1%	9.7%	5.3%	1.8%	12.4%	0.0%	1.8%	7.1%	2.7%	2.7%
二世帯世帯(親とあなた) (n=176)	52.3%	25.0%	7.4%	4.5%	6.3%	10.8%	4.5%	13.1%	2.8%	5.1%	8.5%	11.9%	4.0%
三世帯世帯(親・あなた・子) (n=12)	58.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%
三世帯世帯(祖父母・親・あなた) (n=15)	66.7%	13.3%	6.7%	6.7%	6.7%	13.3%	6.7%	13.3%	0.0%	6.7%	26.7%	0.0%	6.7%
その他 親族の世帯 (n=13)	38.5%	30.8%	23.1%	7.7%	7.7%	7.7%	7.7%	30.8%	0.0%	15.4%	23.1%	7.7%	0.0%
施設や寮の職員や仲間 (n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

家族構成別の回答数(n値)については、46 ページ上段(サービスの利用の有無×家族構成)のグラフ内の各種別の回答数(n値)に「利用していない」の回答割合を乗じた値です【例：一人暮らし n=49[n=75×65.3%]】。

家族構成無回答はクロス集計の対象としていません。

問 21.あなたが毎日生活を送るうえで、今後、特に必要な支援・サービスはどれですか。【複数回答】

「特にない」を除くと、「福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口」の比率が27.8%と最も高く、次いで「同行援護・行動援護・移動支援などの外出するための支援」が21.3%となっています。前回調査と比べると、回答傾向として大きな変化はありません。



●今後必要な支援・サービス×障がいの種別

「生活介護・地域活動支援センターなどの日中活動の場」は、知的障がい(子ども・大人ともに)の比率が高くなっています。「就労訓練・自立訓練などの支援」は、知的障がい(子ども)の比率が高くなっているものの、身体障がい・子どもでは低くなっており、障がいの種別によって差がみられます。また、「放課後等デイサービス・児童発達支援などの療育支援」についても知的障がい・子どもの比率が最も高く、次いで身体障がい・子どもとなっており、「就労訓練・自立訓練などの支援」とは異なる傾向となっています。

	自宅などを訪問し、介護してくれるホームヘルプサービス	生活介護・地域活動支援センターなどの日中活動の場	就労訓練・自立訓練などの支援	同行支援・行動支援・移動支援などの外出するための支援	短期入所や日中一時支援などの緊急時の預かり支援	放課後等デイサービス・児童発達支援などの療育支援	車いす・補聴器などの補装具や日常生活に必要な用具の普及や充実	グループホーム・福祉ホーム・入所施設などの生活や居住の場	福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口	その他	特にない	無回答
総数 (N=880)	11.0%	13.8%	19.0%	21.3%	15.8%	9.9%	8.0%	18.9%	27.8%	5.5%	30.0%	6.4%
身体障がい・子ども(n=21)	0.0%	14.3%	9.5%	42.9%	19.0%	28.6%	38.1%	14.3%	23.8%	0.0%	33.3%	0.0%
身体障がい(重度)・大人(n=145)	11.7%	10.3%	6.2%	23.4%	15.2%	0.0%	20.0%	11.7%	20.7%	2.1%	42.8%	9.0%
身体障がい(軽度)・大人(n=158)	8.2%	5.7%	6.3%	8.9%	5.7%	0.0%	12.7%	5.7%	25.9%	5.1%	49.4%	6.3%
知的障がい・子ども(n=106)	5.7%	24.5%	49.1%	36.8%	32.1%	69.8%	3.8%	30.2%	34.9%	0.0%	3.8%	3.8%
知的障がい・大人(n=212)	9.4%	25.0%	15.6%	38.2%	33.5%	0.9%	4.7%	45.3%	29.7%	4.2%	17.0%	7.1%
精神障がい(n=265)	18.1%	11.7%	24.9%	12.8%	7.9%	3.4%	3.4%	10.2%	32.8%	10.6%	26.0%	6.0%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2ページ参照)。

●今後必要な支援・サービス×年齢別

年齢が上がるにつれて、今後必要な支援・サービスの比率が低くなるものが多くなっています。ただし、「就労訓練・自立訓練などの支援」「グループホーム・福祉ホーム・入所施設などの生活や居住の場」「福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口」については、12～14歳、15～17歳の比率が高くなっています。

	自宅などを訪問し、介護してくれるホームヘルプサービス	生活介護・地域活動支援センターなどの日中活動の場	就労訓練・自立訓練などの支援	同行援護・行動援護・移動支援などの外出するための支援	短期入所や日中一時支援などの緊急時の預かり支援	放課後等デイサービス・児童発達支援などの療育支援	車いす・補聴器などの補装具や日常生活に必要な用具の普及や充実	グループホーム・福祉ホーム・入所施設などの生活や居住の場	福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口	その他	特にない	無回答
総数 (N=880)	11.0%	13.8%	19.0%	21.3%	15.8%	9.9%	8.0%	18.9%	27.8%	5.5%	30.0%	6.4%
0～5歳(就学前) (n=19)	15.8%	15.8%	42.1%	31.6%	42.1%	94.7%	15.8%	15.8%	26.3%	0.0%	5.3%	0.0%
6～11歳(小学生) (n=40)	7.5%	20.0%	37.5%	35.0%	20.0%	80.0%	5.0%	17.5%	25.0%	0.0%	5.0%	2.5%
12～14歳(中学生) (n=42)	0.0%	23.8%	42.9%	38.1%	21.4%	50.0%	9.5%	28.6%	33.3%	0.0%	11.9%	7.1%
15～17歳(高校生など) (n=32)	0.0%	25.0%	46.9%	28.1%	31.3%	31.3%	3.1%	34.4%	40.6%	3.1%	15.6%	3.1%
18～29歳 (n=130)	8.5%	18.5%	22.3%	30.0%	31.5%	0.8%	5.4%	30.8%	29.2%	5.4%	32.3%	3.1%
30～39歳 (n=112)	8.9%	16.1%	24.1%	26.8%	16.1%	0.0%	4.5%	25.9%	26.8%	6.3%	26.8%	5.4%
40～49歳 (n=161)	14.9%	14.9%	15.5%	18.6%	12.4%	1.9%	5.6%	19.9%	21.7%	7.5%	31.7%	6.8%
50～59歳 (n=195)	14.4%	8.7%	11.8%	13.3%	7.2%	0.5%	9.7%	10.3%	32.8%	6.7%	33.8%	7.2%
60歳以上 (n=138)	13.0%	5.8%	3.6%	12.3%	7.2%	0.0%	14.5%	8.0%	25.4%	4.3%	42.0%	10.1%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5ページ参照)。

●今後必要な支援・サービス×疾病などの認定別

「同行援護・行動援護・移動支援などの外出するための支援」「車いす・補聴器などの補装具や日常生活に必要な用具の普及や充実」については、国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている方の比率が高くなっていますが、全体として大きな差はみられません。

	自宅などを訪問し、介護してくるホームヘルプサービス	生活介護・地域活動支援センターなどの日中活動の場	就労訓練・自立訓練などの支援	同行援護・行動援護・移動支援などの外出するための支援	短期入所や日中一時支援などの緊急時の預かり支援	児童放課後等デイサービス・児童発達支援などの療育支援	車いす・補聴器などの補装具や日常生活に必要な用具の普及や充実	入所施設などの生活や居住の場	福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口	その他	特にない	無回答
総数 (N=880)	11.0%	13.8%	19.0%	21.3%	15.8%	9.9%	8.0%	18.9%	27.8%	5.5%	30.0%	6.4%
自立支援医療費制度(精神通院医療)を受けている (n=245)	18.8%	15.5%	25.7%	17.1%	9.4%	2.0%	3.7%	13.9%	31.8%	9.4%	24.1%	5.7%
国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている (n=69)	11.6%	18.8%	13.0%	36.2%	23.2%	14.5%	26.1%	15.9%	23.2%	5.8%	26.1%	4.3%
高次脳機能障害の診断を受けている (n=31)	19.4%	12.9%	12.9%	19.4%	19.4%	3.2%	12.9%	19.4%	32.3%	9.7%	25.8%	12.9%
医療的ケアを受けている (n=42)	16.7%	9.5%	14.3%	19.0%	19.0%	4.8%	2.4%	11.9%	21.4%	4.8%	28.6%	9.5%
あてはまるものはない (n=457)	6.3%	12.7%	17.1%	22.1%	16.6%	14.4%	8.3%	21.2%	27.6%	3.7%	33.9%	5.3%

疾病などの認定無回答(n=65)はクロス集計の対象としていません(9ページ上段参照)。また、重複回答を含むため、件数の合計(無回答を含む)は母集団(N=880)の件数を上回ります。

●今後必要な支援・サービス×家族構成別

夫婦のみ、二世帯世帯(あなたと子)では、今後必要な支援・サービスは「特にない」の比率が高くなっています。また、「車いす・補聴器などの補装具や日常生活に必要な用具の普及や充実」については、他の家族構成に比べて比率が高くなっています。

	自宅などを訪問し、介護してくるホームヘルプサービス	生活介護・地域活動支援センターなどの日中活動の場	就労訓練・自立訓練などの支援	同行援護・行動援護・移動支援などの外出するための支援	短期入所や日中一時支援などの緊急時の預かり支援	児童放課後等デイサービス・児童発達支援などの療育支援	車いす・補聴器などの補装具や日常生活に必要な用具の普及や充実	入所施設などの生活や居住の場	福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口	その他	特にない	無回答
総数(N=880)	11.0%	13.8%	19.0%	21.3%	15.8%	9.9%	8.0%	18.9%	27.8%	5.5%	30.0%	6.4%
一人暮らし(あなたのみ) (n=75)	18.7%	6.7%	24.0%	10.7%	2.7%	0.0%	2.7%	5.3%	34.7%	6.7%	34.7%	6.7%
夫婦のみ (n=106)	13.2%	3.8%	6.6%	11.3%	3.8%	0.0%	16.0%	4.7%	23.6%	1.9%	50.0%	7.5%
二世帯世帯(あなたと子) (n=128)	5.5%	4.7%	8.6%	10.2%	5.5%	3.1%	13.3%	1.6%	23.4%	7.0%	43.8%	7.0%
二世帯世帯(親とあなた) (n=453)	11.0%	19.4%	24.3%	28.7%	24.1%	15.7%	6.0%	27.2%	29.6%	5.5%	22.3%	4.6%
三世帯世帯(親・あなた・子) (n=17)	11.8%	11.8%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	11.8%	5.9%	35.3%	5.9%	29.4%	11.8%
三世帯世帯(祖父母・親・あなた) (n=40)	7.5%	15.0%	27.5%	15.0%	15.0%	17.5%	5.0%	25.0%	25.0%	2.5%	27.5%	0.0%
その他 親族の世帯 (n=21)	28.6%	14.3%	9.5%	4.8%	9.5%	0.0%	0.0%	23.8%	19.0%	14.3%	33.3%	4.8%
施設や寮の職員や仲間 (n=13)	0.0%	30.8%	0.0%	61.5%	30.8%	0.0%	7.7%	76.9%	38.5%	7.7%	7.7%	0.0%

家族構成別については、家族構成無回答(n=27)をクロス集計の対象としていません(18ページ参照)。

●今後必要な支援・サービス×サービスの受給有無別

利用していない方の「特にない」の比率が特に高くなっている一方で、「自宅などを訪問し、介護してくれるホームヘルプサービス」「車いす・補聴器などの補装具や日常生活に必要な用具の普及や充実」「福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口」については、利用している、利用していない方の比率の差が小さくなっています。

		生活介護・地域活動支援センター などの日中活動の場	就労訓練・自立訓練などの支援	同行援護・行動援護・移動支援 などの外出するための支援	短期入所や日中一時支援 などの緊急時の預かり支援	放課後等デイサービス・ 児童発達支援などの療育支援	車いす・補聴器などの補装具や日 常生活に必要な用具の普及や充実	グループホーム・福祉ホーム・ 入所施設などの生活や居住の場	福祉サービスを利用するため の情報提供や身近な相談窓口	その他	特にない	無回答
総数 (N=880)	11.0%	13.8%	19.0%	21.3%	15.8%	9.9%	8.0%	18.9%	27.8%	5.5%	30.0%	6.4%
利用している (n=383)	12.5%	24.5%	27.2%	36.0%	29.8%	20.9%	7.3%	32.9%	31.6%	4.4%	11.0%	6.0%
利用していない (n=480)	10.2%	5.6%	12.1%	10.0%	4.6%	1.5%	8.8%	7.7%	25.6%	6.5%	45.6%	5.6%

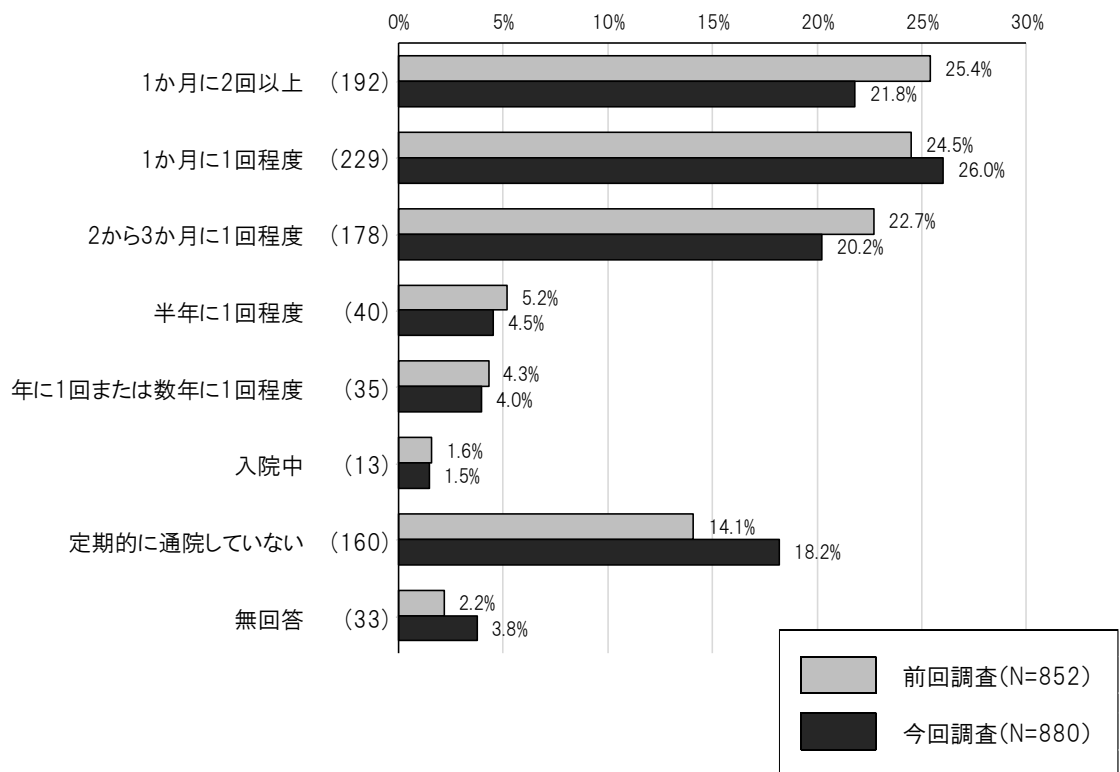
サービスの受給有無別については、受給の有無無回答(n=17)をクロス集計の対象としていません(44 ページ上段参照)。

4. 保健・医療について

問 22. あなたの現在の通院状況（リハビリを含む）は、どれですか。

「1か月に1回程度」が26.0%と最も高く、次いで「1か月に2回以上」が21.8%となっています。

前回調査と比べると、回答傾向として大きな変化はありませんが、「1か月に2回以上」が減少し、「定期的に通院していない」が増加しており、通院の頻度が低くなっています。



●通院状況×障がいの種別

「1か月に2回以上」は、身体障がい・子どもと身体障がい（重度）・大人の比率が高くなっています。「定期的に通院していない」は知的障がい、身体障がい（軽度）・大人での比率が高くなっており、通院の頻度は、身体障がい・子どもと身体障がい（重度）・大人と知的障がいで差がみられます。また、「1か月に1回程度」は精神障がいの比率が最も高くなっています。

	1か月に2回以上	1か月に1回程度	2から3か月に1回程度	半年に1回程度	年に1回または数年に1回程度	入院中	定期的に通院していない	無回答
総数 (N=880)	21.8%	26.0%	20.2%	4.5%	4.0%	1.5%	18.2%	3.8%
身体障がい・子ども (n=21)	47.6%	0.0%	19.0%	9.5%	9.5%	0.0%	9.5%	4.8%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	34.5%	21.4%	21.4%	3.4%	3.4%	2.8%	9.0%	4.1%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	11.4%	17.1%	24.7%	5.7%	8.2%	1.3%	25.9%	5.7%
知的障がい・子ども (n=106)	18.9%	14.2%	19.8%	11.3%	4.7%	0.0%	29.2%	1.9%
知的障がい・大人 (n=212)	10.8%	24.5%	26.4%	4.7%	2.8%	1.4%	22.2%	7.1%
精神障がい (n=265)	31.3%	41.5%	12.1%	1.1%	0.8%	3.4%	7.9%	1.9%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●通院状況×年齢別

「1か月に2回以上」は0～5歳（就学前）の比率が特に高くなっており、次いで40～49歳、50～59歳が高くなっています。

	1か月に 2回以上	1か月に 1回程度	2から3か月に 1回程度	半年に 1回程度	年に1回または 数年に1回程度	入院中	定期的に 通院して いない	無回答
総数 (N=880)	21.8%	26.0%	20.2%	4.5%	4.0%	1.5%	18.2%	3.8%
0～5歳(就学前) (n=19)	68.4%	10.5%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%
6～11歳(小学生) (n=40)	15.0%	25.0%	17.5%	7.5%	0.0%	0.0%	32.5%	2.5%
12～14歳(中学生) (n=42)	14.3%	14.3%	21.4%	19.0%	9.5%	0.0%	21.4%	0.0%
15～17歳(高校生など) (n=32)	6.3%	6.3%	25.0%	9.4%	9.4%	0.0%	37.5%	6.3%
18～29歳 (n=130)	10.8%	23.1%	23.8%	5.4%	5.4%	0.0%	28.5%	3.1%
30～39歳 (n=112)	18.8%	31.3%	18.8%	3.6%	0.9%	0.9%	23.2%	2.7%
40～49歳 (n=161)	30.4%	28.6%	16.1%	3.7%	3.7%	1.2%	12.4%	3.7%
50～59歳 (n=195)	26.7%	31.3%	21.0%	3.6%	2.1%	2.1%	9.7%	3.6%
60歳以上 (n=138)	19.6%	23.2%	23.2%	0.7%	7.2%	4.3%	15.9%	5.8%

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

●通院状況×疾病などの認定別

「1か月に2回以上」は、医療的ケアを受けている方、「1か月に1回程度」は、自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている方の比率が最も高くなっています。

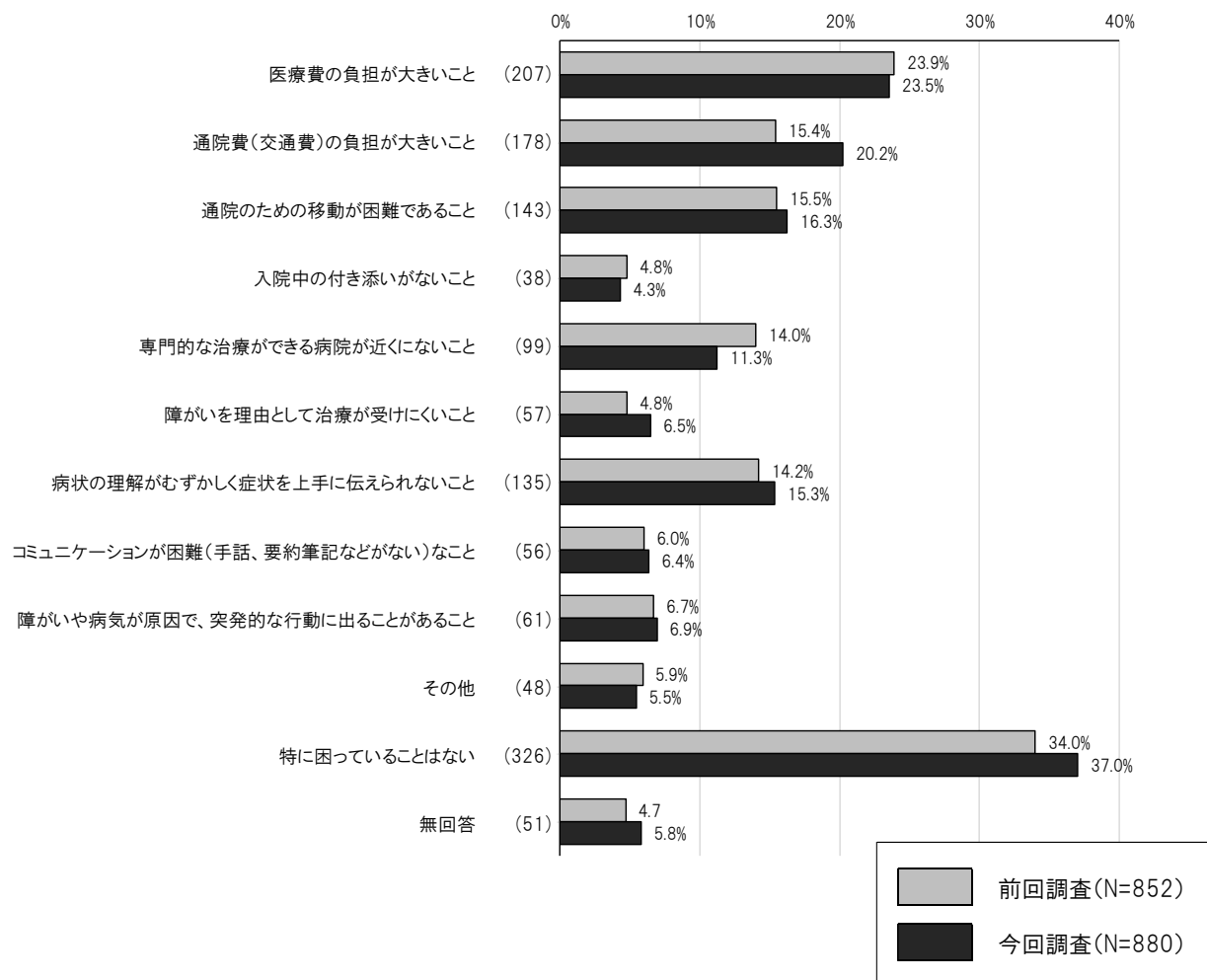
	1か月に 2回以上	1か月に 1回程度	2から3か月に 1回程度	半年に 1回程度	年に1回または 数年に1回程度	入院中	定期的に 通院して いない	無回答
総数 (N=880)	21.8%	26.0%	20.2%	4.5%	4.0%	1.5%	18.2%	3.8%
自立支援医療費制度(精神通院医療)を受けている (n=245)	34.7%	46.1%	13.9%	1.2%	0.0%	1.6%	1.2%	1.2%
国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている (n=69)	26.1%	24.6%	30.4%	5.8%	4.3%	1.4%	4.3%	2.9%
高次脳機能障害の診断を受けている (n=31)	32.3%	16.1%	29.0%	0.0%	6.5%	3.2%	6.5%	6.5%
医療的ケアを受けている (n=42)	35.7%	19.0%	19.0%	0.0%	2.4%	11.9%	4.8%	7.1%
あてはまるものはない (n=457)	14.2%	16.8%	21.7%	6.3%	5.7%	1.1%	30.2%	3.9%

疾病などの認定無回答(n=65)はクロス集計の対象としていません(9ページ上段参照)。また、疾病などの認定については、重複回答を含むため、件数の合計(無回答を含む)は母集団(N=880)の件数を上回ります。

問 23. 医療を受ける上で困っていることはありますか。【複数回答(3つまで)】

「特に困っていることはない」を除くと、「医療費の負担が大きいこと」が23.5%と最も高く、次いで「通院費(交通費)の負担が大きいこと」が20.2%となっています。

前回調査と比べると、「通院費(交通費)の負担が大きいこと」が増加していますが、回答傾向として大きな変化はありません。



●医療を受ける上で困っていること×障がいの種別

「医療費の負担が大きいこと」については、身体障がい・大人（重度・軽度ともに）の比率が高く、次いで精神障がいとなっています。また、「通院費（交通費）の負担が大きいこと」については、身体障がい・子どもの比率が高く、次いで精神障がい、身体障がい（重度）・大人が高くなっており、医療費、通院費については、身体障がい、精神障がいの比率が高くなっています。「専門的な治療ができる病院が近くにないこと」については、身体障がい・子どもの比率が特に高くなっています。

	医療費の負担が大きいこと	通院費（交通費）の負担が大きいこと	通院のための移動が困難であること	入院中の付き添いがいないこと	専門的な治療ができる病院が近くにないこと	障がいを受けにくいこと	障がいの理解がむずかしく症状を上手に伝えられないこと	（手話、要約筆記などがない）なこと	コミュニケーションが困難な行動に出ることがあること	障がいや病気が原因で、突発的な行動に出ることがあること	その他	特に困っていることはない	無回答
総数 (N=880)	23.5%	20.2%	16.3%	4.3%	11.3%	6.5%	15.3%	6.4%	6.9%	5.5%	37.0%	5.8%	
身体障がい・子ども (n=21)	9.5%	38.1%	23.8%	0.0%	38.1%	0.0%	4.8%	19.0%	0.0%	14.3%	23.8%	4.8%	
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	25.5%	23.4%	26.9%	6.2%	13.8%	5.5%	9.7%	6.9%	3.4%	4.8%	35.2%	4.8%	
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	32.3%	14.6%	10.1%	1.9%	8.2%	2.5%	3.8%	5.1%	0.6%	3.2%	51.3%	3.8%	
知的障がい・子ども (n=106)	12.3%	13.2%	20.8%	3.8%	17.0%	17.9%	23.6%	14.2%	17.9%	4.7%	29.2%	6.6%	
知的障がい・大人 (n=212)	21.7%	13.7%	17.0%	8.5%	8.0%	12.3%	26.9%	11.8%	9.9%	3.8%	31.1%	9.4%	
精神障がい (n=265)	23.8%	32.1%	15.8%	3.8%	13.2%	1.9%	16.6%	1.9%	7.5%	8.7%	32.8%	4.5%	

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●医療を受ける上で困っていること×年齢別

「医療費の負担が大きいこと」「通院費（交通費）の負担が大きいこと」については、0～5歳、50～59歳、60歳以上が高くなっています。また、「通院のための移動が困難であること」については、6～11歳、「専門的な治療ができる病院が近くにないこと」については、6～11歳、12～14歳の比率が高くなっています。

	医療費の負担が大きいこと	通院費（交通費）の負担が大きいこと	通院のための移動が困難であること	入院中の付き添いがいないこと	専門的な治療ができる病院が近くにないこと	障がいを理由として治療を受けにくいこと	病状の理解がむずかしく症状を上手に伝えられないこと	（手話、要約筆記などがない）なこと	コミュニケーションが困難な行動に出ることがあること	障がいや病気が原因で、突発的な行動に出ることがあること	その他	特に困っていることはない	無回答
総数 (N=880)	23.5%	20.2%	16.3%	4.3%	11.3%	6.5%	15.3%	6.4%	6.9%	5.5%	37.0%	5.8%	
0～5歳（就学前）（n=19）	23.5%	20.2%	16.3%	4.3%	11.3%	6.5%	15.3%	6.4%	6.9%	5.5%	37.0%	5.8%	
6～11歳（小学生）（n=40）	5.3%	15.8%	36.8%	10.5%	21.1%	15.8%	21.1%	26.3%	26.3%	0.0%	15.8%	5.3%	
12～14歳（中学生）（n=42）	7.5%	12.5%	15.0%	2.5%	20.0%	22.5%	20.0%	12.5%	20.0%	2.5%	35.0%	5.0%	
15～17歳（高校生など）（n=32）	14.3%	23.8%	26.2%	2.4%	16.7%	11.9%	14.3%	14.3%	11.9%	7.1%	31.0%	4.8%	
18～29歳（n=130）	15.6%	12.5%	9.4%	0.0%	18.8%	6.3%	21.9%	6.3%	6.3%	9.4%	37.5%	9.4%	
30～39歳（n=112）	23.1%	13.1%	17.7%	5.4%	7.7%	8.5%	24.6%	12.3%	6.9%	4.6%	36.2%	4.6%	
40～49歳（n=161）	16.1%	16.1%	15.2%	5.4%	8.0%	6.3%	21.4%	4.5%	8.0%	5.4%	43.8%	7.1%	
50～59歳（n=195）	23.6%	28.0%	15.5%	4.3%	11.2%	5.0%	16.1%	3.1%	5.0%	7.5%	36.0%	6.2%	
60歳以上（n=138）	29.7%	26.2%	13.3%	5.6%	11.8%	2.6%	12.3%	4.6%	4.6%	6.2%	35.4%	4.1%	

年齢無回答(n=11)はクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

●医療を受ける上で困っていること×疾病などの認定別

疾病などの認定別でみると、「医療費の負担が大きいこと」については、医療的ケアを受けている方が特に高くなっています。また、「通院費（交通費）の負担が大きいこと」については、自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている方、国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている方が高くなっています。

	医療費の負担が大きいこと	通院費（交通費）の負担が大きいこと	通院のための移動が困難であること	入院中の付き添いがいないこと	専門的な治療ができる病院が近くにないこと	障がいを受けにくいこと	障がいを理由として治療が受けにくいこと	症状を上手に伝えられないこと	病状の理解がむずかしく、病状を上手に伝えられないこと	（手話、要約筆記などができない）なこと	障がいや病気が原因で、突発的な行動に出ることがあること	その他	特に困っていることはない	無回答
総数 (N=880)	23.5%	20.2%	16.3%	4.3%	11.3%	6.5%	15.3%	6.4%	6.9%	5.5%	37.0%	5.8%		
自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている (N=245)	24.5%	35.9%	18.4%	4.9%	13.1%	2.9%	17.1%	2.9%	9.0%	9.0%	29.0%	5.7%		
国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている (N=69)	20.3%	30.4%	31.9%	2.9%	24.6%	7.2%	14.5%	5.8%	7.2%	5.8%	29.0%	7.2%		
高次脳機能障害の診断を受けている (N=31)	25.8%	12.9%	19.4%	3.2%	12.9%	0.0%	19.4%	3.2%	3.2%	3.2%	29.0%	3.2%		
医療的ケアを受けている (N=42)	42.9%	21.4%	16.7%	4.8%	16.7%	9.5%	16.7%	7.1%	7.1%	4.8%	28.6%	2.4%		
あてはまるものはない (N=457)	22.1%	13.3%	12.7%	5.0%	9.8%	7.7%	14.9%	7.7%	5.7%	4.4%	42.2%	5.3%		

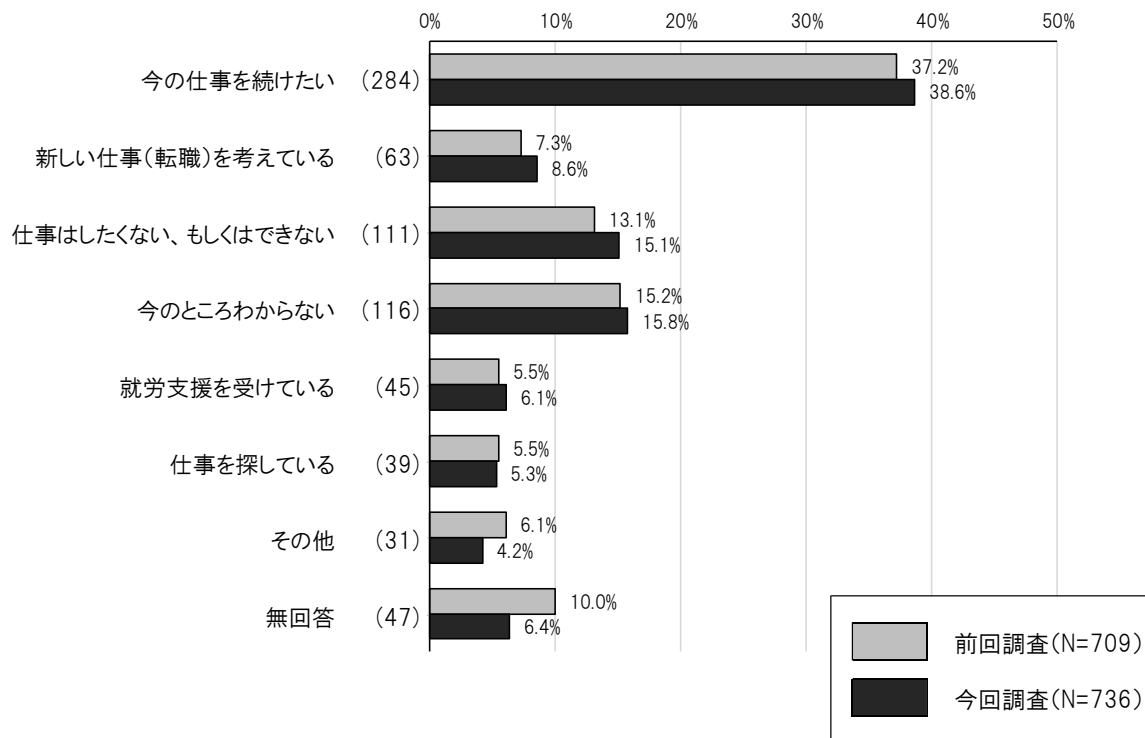
疾病などの認定無回答(n=65)はクロス集計の対象としていません(9ページ上段参照)。また、重複回答を含むため、件数の合計(無回答を含む)は母集団(N=880)の件数を上回ります。

5. 就労支援について（18 歳以上の方（736 件、5 ページ参照）のみ）

問 24. あなたは、収入を得る仕事を継続もしくは今後したいとお考えですか。

「今の仕事を続けたい」が38.6%と最も高く、次いで「今のところわからない」が15.8%。「仕事はしたくない、もしくはできない」が15.1%となっています。

前回調査と比べると、回答傾向として大きな変化はありません。



●仕事の継続の意向×障がいの種別

「今の仕事を続けたい」の比率は、身体障がい（軽度・大人）で高くなっており、「仕事はしたくない、もしくはできない」は、身体障がい（重度・大人）で高くなっています。

	今の仕事を続けたい	新しい仕事(転職)を考えている	仕事はしたくない、もしくはできない	今のところわからない	就労支援を受けている	仕事を探している	その他	無回答
総数 (N=736)	38.6%	8.6%	15.1%	15.8%	6.1%	5.3%	4.2%	6.4%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	37.2%	4.8%	24.1%	17.2%	2.1%	5.5%	4.1%	4.8%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	49.4%	11.4%	10.1%	13.3%	0.0%	3.8%	3.2%	8.9%
知的障がい・大人 (n=212)	37.7%	5.7%	13.2%	14.2%	12.3%	1.9%	4.7%	10.4%
精神障がい (n=251)	31.1%	10.4%	17.9%	15.1%	7.6%	8.0%	5.6%	4.4%

18 歳以上の障がいの種別の回答数(n値)については、3 ページ上段(障がいの種別(6 区分)の年齢 3 区分別の件数)参照。

重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=736)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可はクロス集計の対象としていません。

●仕事の継続の意向×年齢別

「今の仕事を続けたい」「今のところわからない」の比率に大きな差はなく、「仕事はしたくない、もしくはできない」は年齢が上がるにつれて高くなっています。

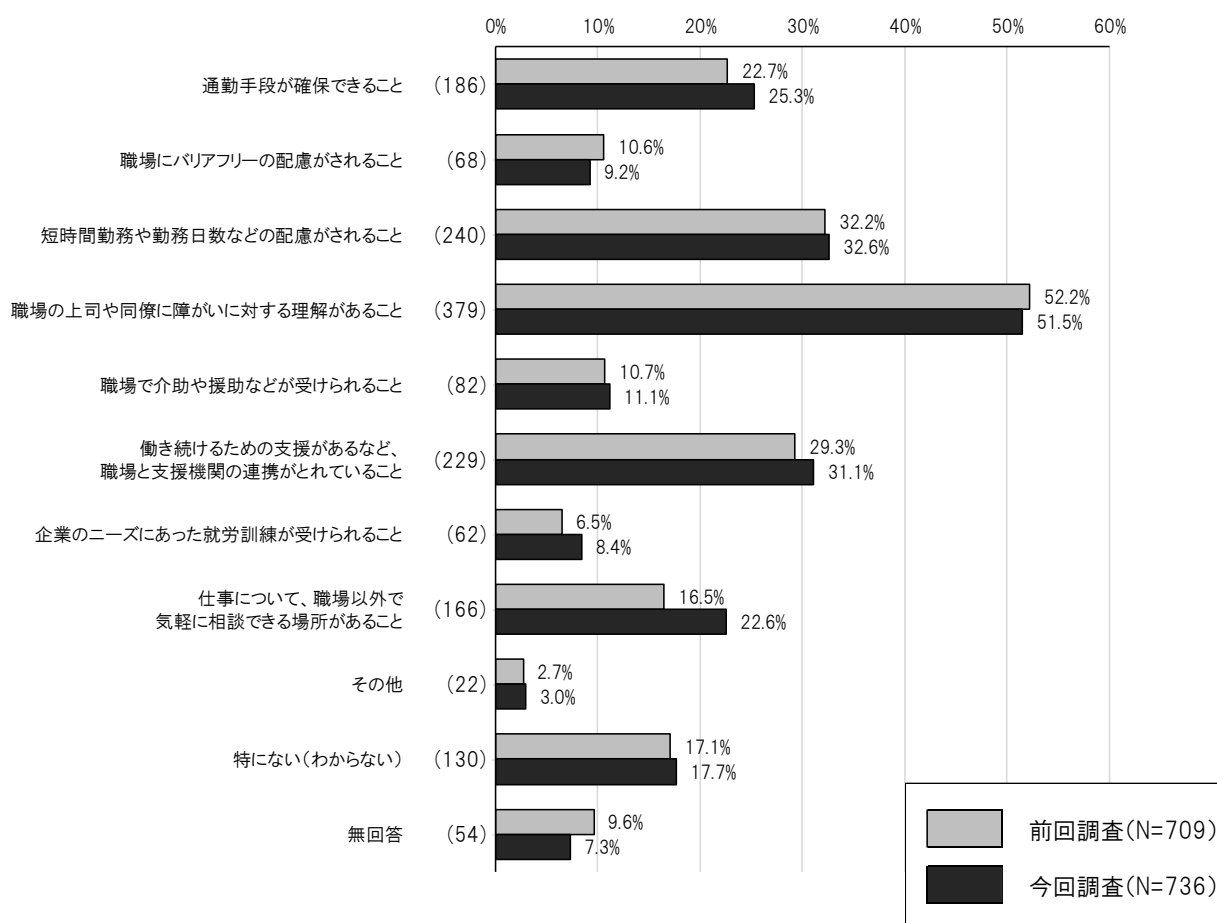
	今の仕事を続けたい	新しい仕事(転職)を考えている	仕事はしたくない、もしくはできない	今のところわからない	就労支援を受けている	仕事を探している	その他	無回答
総数 (N=736)	38.6%	8.6%	15.1%	15.8%	6.1%	5.3%	4.2%	6.4%
18～29歳 (n=130)	40.8%	10.8%	6.2%	12.3%	13.1%	3.1%	7.7%	6.2%
30～39歳 (n=112)	37.5%	10.7%	12.5%	17.9%	8.0%	4.5%	2.7%	6.3%
40～49歳 (n=161)	38.5%	8.7%	16.1%	17.4%	6.2%	6.8%	1.2%	5.0%
50～59歳 (n=195)	40.0%	8.2%	16.4%	13.8%	4.6%	6.2%	5.6%	5.1%
60歳以上 (n=138)	35.5%	5.1%	22.5%	18.1%	0.0%	5.1%	3.6%	10.1%

18歳以上の年齢別の回答数(n値)については、5ページ参照。

問 25. あなたは、障がい者の就労支援としてどのようなことが必要だと思いますか。【複数回答(3つまで)】

「職場の上司や同僚に障がいに対する理解があること」が51.5%と最も高く、次いで「短時間勤務や勤務日数などの配慮がされること」が32.6%。「働き続けるための支援があるなど、職場と支援機関の連携がとれていること」が31.1%となっています。

前回調査と比べると、「仕事について、職場以外で気軽に相談できる場所があること」が増加していますが、回答傾向として大きな変化はありません。



●就労支援で必要なこと×障がいの種別

「短時間勤務や勤務日数などの配慮がされること」「職場の上司や同僚に障がいに対する理解があること」「働き続けるための支援があるなど、職場と支援機関の連携がとれていること」「仕事について、職場以外で気軽に相談できる場所があること」については、精神障がいの比率が高くなっています。

	通勤手段が確保できること	職場に配慮がされ、バリアフリーの環境が整っていること	短時間勤務や勤務日数などの配慮がされること	職場の上司や同僚に障がいに対する理解があること	職場で介助や援助などを受けられること	働き続けるための支援機関が連携がとれていること	企業や事業主がニーズにあった就労支援が受けられること	仕事に相談できる職場以外での相談先があること	その他	特になし（わからない）	無回答
総数 (N=736)	25.3%	9.2%	32.6%	51.5%	11.1%	31.1%	8.4%	22.6%	3.0%	17.7%	7.3%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	35.9%	19.3%	38.6%	38.6%	10.3%	18.6%	5.5%	13.8%	2.1%	17.2%	9.7%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	26.6%	14.6%	24.7%	50.0%	8.9%	22.2%	8.9%	17.1%	1.3%	24.7%	4.4%
知的障がい・大人 (n=212)	25.5%	5.2%	20.3%	45.8%	19.8%	34.9%	2.8%	18.9%	0.5%	19.3%	14.2%
精神障がい (n=251)	19.9%	2.8%	44.6%	60.6%	8.4%	40.2%	13.1%	32.7%	6.0%	12.0%	4.0%

18歳以上の障がいの種別の回答数(n値)については、3 ページ上段(障がいの種別(6 区分)の年齢 3 区分別の件数)参照。また、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=736)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可はクロス集計の対象としていません。

●就労支援で必要なこと×年齢別

「職場の上司や同僚に障がいに対する理解があること」「働き続けるための支援があるなど、職場と支援機関の連携がとれていること」については、18～29歳の比率が高くなっています。

	通勤手段が確保できること	職場に配慮がされ、バリアフリーの環境が整っていること	短時間勤務や勤務日数などの配慮がされること	職場の上司や同僚に障がいに対する理解があること	職場で介助や援助などを受けられること	働き続けるための支援機関が連携がとれていること	企業や事業主がニーズにあった就労支援が受けられること	仕事に相談できる職場以外での相談先があること	その他	特になし（わからない）	無回答
総数 (N=736)	25.3%	9.2%	32.6%	51.5%	11.1%	31.1%	8.4%	22.6%	3.0%	17.7%	7.3%
18～29歳 (n=130)	23.8%	7.7%	28.5%	65.4%	19.2%	46.2%	5.4%	30.0%	1.5%	9.2%	4.6%
30～39歳 (n=112)	19.6%	6.3%	35.7%	53.6%	9.8%	31.3%	10.7%	26.8%	3.6%	17.9%	8.9%
40～49歳 (n=161)	21.7%	6.8%	31.7%	48.4%	9.9%	29.2%	7.5%	19.3%	5.6%	22.4%	7.5%
50～59歳 (n=195)	31.8%	11.8%	34.9%	50.3%	8.7%	27.2%	10.3%	22.1%	2.1%	16.9%	6.2%
60歳以上 (n=138)	26.1%	12.3%	31.9%	42.0%	9.4%	24.6%	8.0%	16.7%	2.2%	21.0%	10.1%

18歳以上の年齢別の回答数(n値)については、5 ページ参照。

●就労支援で必要なこと×仕事の継続の意向

「働き続けるための支援があるなど、職場と支援機関の連携がとれていること」については、就労支援を受けている方が高く、「短時間勤務や勤務日数などの配慮がされること」「職場の上司や同僚に障がいに対する理解があること」については、仕事を探している方の比率が高くなっています。

	通勤手段が確保できること	職場にバリアフリーの配慮がされること	短時間勤務や勤務日数などの配慮がされること	職場の上司や同僚に障がいに対する理解があること	職場で介助や援助などが受けられること	働き続けるための支援があること	企業へのニーズにあった就業訓練が受けられること	仕事について、職場以外で気軽に相談できること	その他	特にない（わからない）	無回答
総数 (N=736)	25.3%	9.2%	32.6%	51.5%	11.1%	31.1%	8.4%	22.6%	3.0%	17.7%	7.3%
今の仕事を続けたい (n=284)	23.2%	10.2%	28.9%	56.3%	12.7%	35.2%	6.7%	22.2%	2.8%	19.7%	2.8%
新しい仕事(転職)を考えている (n=63)	23.8%	7.9%	38.1%	57.1%	6.3%	36.5%	22.2%	30.2%	3.2%	6.3%	1.6%
仕事はしたくない、もしくはできない (n=111)	31.5%	15.3%	36.0%	43.2%	12.6%	18.9%	4.5%	17.1%	5.4%	24.3%	9.0%
今のところわからない (n=116)	24.1%	10.3%	41.4%	54.3%	11.2%	26.7%	6.0%	24.1%	1.7%	21.6%	0.9%
就労支援を受けている (n=45)	37.8%	4.4%	20.0%	51.1%	11.1%	46.7%	8.9%	35.6%	2.2%	8.9%	2.2%
仕事を探している (n=39)	30.8%	5.1%	56.4%	61.5%	7.7%	38.5%	20.5%	23.1%	2.6%	7.7%	0.0%
その他 (n=31)	25.8%	3.2%	29.0%	45.2%	16.1%	29.0%	9.7%	19.4%	3.2%	32.3%	3.2%

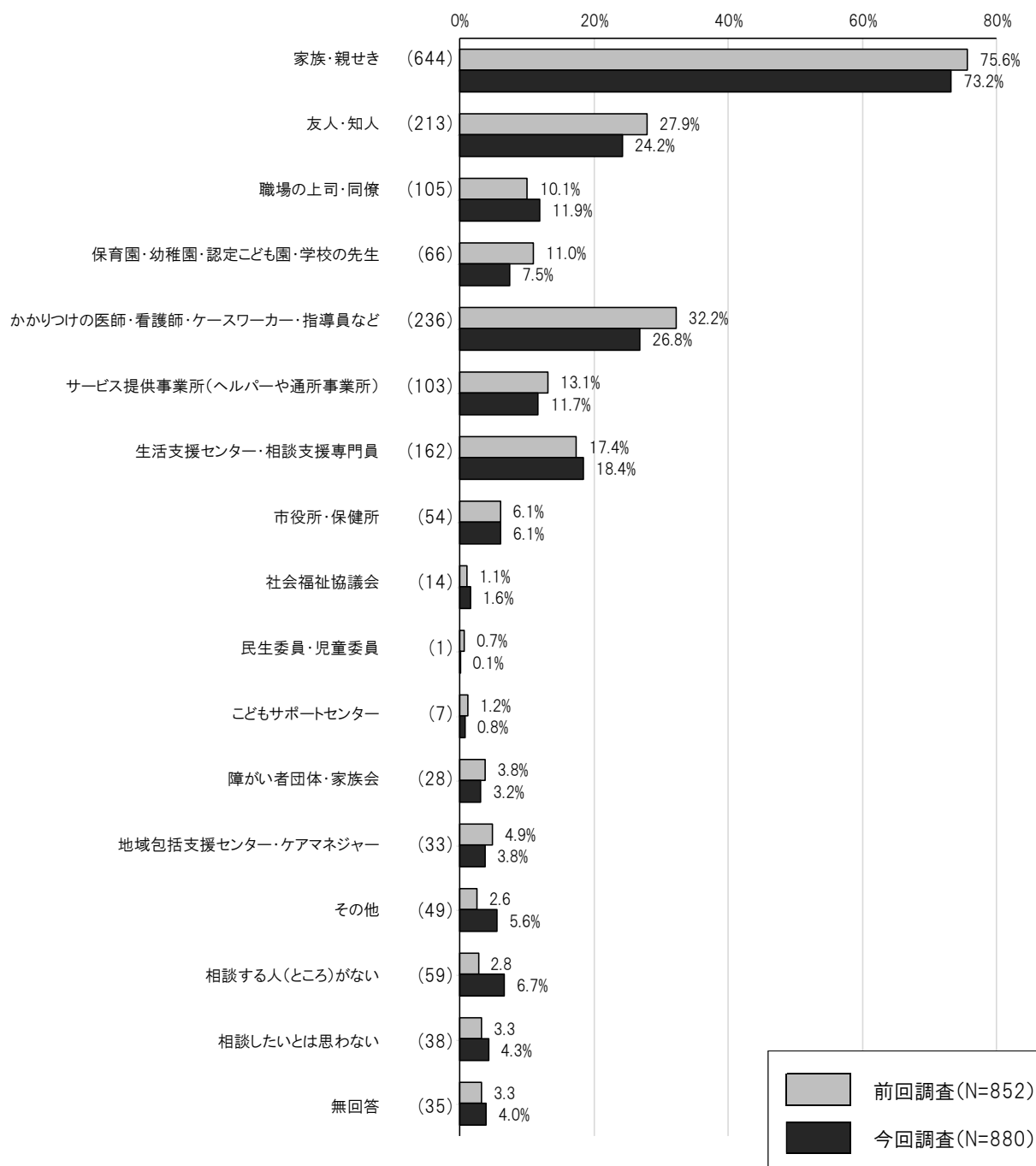
仕事の継続意向無回答(n=47)はクロス集計の対象としていません(61ページ上段参照)。

6. 相談支援や情報について

問 26. あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、どなた（どこ）に相談しますか。【複数回答】

「家族・親せき」が 73.2%と最も高く、次いで「かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など」が 26.8%。「友人・知人」が 24.2%となっています。

前回調査と比べると、回答傾向として大きな変化はありません。



●悩みごと等の相談先×障がいの種別

「かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など」については精神障がいが高く、「友人・知人」については知的障がい（子ども、大人ともに）が低くなっています。「生活支援センター・相談支援専門員」については知的障がい・大人が高くなっています。

	家族・親せき	友人・知人	職場の上司・同僚	保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生	かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など	サービス提供事業所（ヘルパーや通所事業所）	生活支援センター・相談支援専門員	市役所・保健所	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	こどもサポートセンター	障がい者団体・家族会	地域包括支援センター・ケアマネジャー	その他	相談する人（ところ）がない	相談したいとは思わない	無回答
総数 (N=880)	73.2%	24.2%	11.9%	7.5%	26.8%	11.7%	18.4%	6.1%	1.6%	0.1%	0.8%	3.2%	3.8%	5.6%	6.7%	4.3%	4.0%
身体障がい・子ども (n=21)	85.7%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	9.5%	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	4.8%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	72.4%	29.7%	8.3%	0.7%	24.8%	7.6%	8.3%	7.6%	0.7%	0.0%	0.0%	2.1%	6.2%	1.4%	6.9%	3.4%	3.4%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	74.1%	35.4%	12.7%	0.0%	19.0%	3.8%	7.6%	3.8%	0.6%	0.0%	0.0%	3.8%	3.2%	3.2%	8.2%	5.7%	3.8%
知的障がい・子ども (n=106)	83.0%	10.4%	1.9%	50.9%	12.3%	19.8%	19.8%	2.8%	0.9%	0.0%	1.9%	1.5%	0.9%	8.5%	0.9%	0.9%	5.7%
知的障がい・大人 (n=212)	75.0%	15.6%	15.6%	1.4%	19.8%	25.5%	39.2%	5.7%	1.4%	0.5%	0.5%	8.5%	5.2%	2.8%	4.2%	5.2%	4.7%
精神障がい (n=265)	66.8%	25.7%	15.5%	1.9%	46.4%	9.1%	17.0%	9.8%	3.0%	0.0%	1.5%	1.1%	3.4%	9.4%	10.2%	3.4%	3.8%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団 (N=880) の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可 (n=33) はクロス集計の対象としていません (2 ページ参照)。

●悩みごと等の相談先×年齢別

「保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生」については 18 歳未満の回答でほぼ占められています。「かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など」については、40～49 歳、50～59 歳とともに、0～5 歳も高くなっています。

	家族・親せき	友人・知人	職場の上司・同僚	保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生	かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など	サービス提供事業所（ヘルパーや通所事業所）	生活支援センター・相談支援専門員	市役所・保健所	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	こどもサポートセンター	障がい者団体・家族会	地域包括支援センター・ケアマネジャー	その他	相談する人（ところ）がない	相談したいとは思わない	無回答
総数 (N=880)	73.2%	24.2%	11.9%	7.5%	26.8%	11.7%	18.4%	6.1%	1.6%	0.1%	0.8%	3.2%	3.8%	5.6%	6.7%	4.3%	4.0%
0～5歳(就学前) (n=19)	68.4%	10.5%	5.3%	42.1%	26.3%	10.5%	31.6%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	5.3%	5.3%	10.5%
6～11歳(小学生) (n=40)	80.0%	12.5%	0.0%	52.5%	12.5%	25.0%	22.5%	2.5%	2.5%	0.0%	2.5%	2.5%	2.5%	10.0%	0.0%	0.0%	7.5%
12～14歳(中学生) (n=42)	88.1%	21.4%	2.4%	35.7%	11.9%	9.5%	9.5%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	2.4%
15～17歳(高校生など) (n=32)	93.8%	18.8%	0.0%	46.9%	9.4%	18.8%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	6.3%	6.3%	0.0%	6.3%	0.0%
18～29歳 (n=130)	82.3%	26.9%	20.0%	2.3%	19.2%	17.7%	33.1%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%	4.6%	1.5%	5.4%	4.6%	5.4%	2.3%
30～39歳 (n=112)	64.3%	23.2%	18.8%	1.8%	28.6%	14.3%	23.2%	8.0%	0.9%	0.0%	0.9%	4.5%	1.8%	7.1%	8.0%	7.1%	3.6%
40～49歳 (n=161)	70.2%	25.5%	13.7%	1.2%	36.0%	10.6%	21.1%	6.8%	1.9%	0.0%	1.9%	3.7%	7.5%	6.8%	10.6%	5.6%	3.7%
50～59歳 (n=195)	69.7%	26.2%	12.3%	0.0%	33.3%	8.7%	14.4%	7.7%	3.6%	0.5%	0.0%	2.6%	4.1%	5.6%	8.2%	1.5%	4.1%
60歳以上 (n=138)	70.3%	26.1%	5.8%	0.0%	23.9%	4.3%	4.3%	5.1%	1.4%	0.0%	0.0%	2.9%	4.3%	2.2%	7.2%	5.8%	5.1%

年齢別については、年齢無回答 (n=11) をクロス集計の対象としていません (5 ページ参照)。

●悩みごと等の相談先×家族構成別

一人暮らし(あなたのみ)の方は、「家族・親せき」の比率が低い一方で、「かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など」「相談する人(ところ)がない」の比率が高くなっています。

「生活支援センター・相談支援専門員」については、二世世代世帯(親とあなた)、三世世代世帯(祖父母・親・あなた)の比率が高くなっています。

	家族・親せき	友人・知人	職場の上司・同僚	保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生	かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など	サービス提供事業所(ヘルパーや通所事業所)	生活支援センター・相談支援専門員	市役所・保健所	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	こどもサポートセンター	障がい者団体・家族会	地域包括支援センター・ケアマネジャー	その他	相談する人(ところ)がない	相談したいとは思わない	無回答
総数(N=880)	73.2%	24.2%	11.9%	7.5%	26.8%	11.7%	18.4%	6.1%	1.6%	0.1%	0.8%	3.2%	3.8%	5.6%	6.7%	4.3%	4.0%
一人暮らし(あなたのみ) (n=75)	44.0%	32.0%	14.7%	1.3%	38.7%	9.3%	18.7%	9.3%	10.7%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	12.0%	14.7%	9.3%	1.3%
夫婦のみ (n=106)	79.2%	32.1%	9.4%	0.0%	29.2%	1.9%	1.9%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	2.8%	3.8%	6.6%	2.8%	0.9%
二世世代世帯(あなたと子) (n=128)	75.8%	28.1%	10.2%	3.1%	29.7%	3.1%	4.7%	6.3%	0.8%	0.0%	3.9%	0.0%	3.1%	2.3%	10.9%	2.3%	4.7%
二世世代世帯(親とあなた) (n=453)	77.5%	19.2%	12.6%	11.0%	23.2%	15.9%	24.3%	5.7%	0.7%	0.2%	0.2%	3.5%	3.1%	6.2%	5.1%	5.1%	3.5%
三世世代世帯(親・あなた・子) (n=17)	70.6%	35.3%	17.6%	5.9%	17.6%	5.9%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	11.8%	0.0%	11.8%	0.0%	5.9%
三世世代世帯(祖父母・親・あなた) (n=40)	77.5%	35.0%	20.0%	15.0%	17.5%	10.0%	27.5%	5.0%	2.5%	0.0%	0.0%	7.5%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	7.5%
その他 親族の世帯 (n=21)	57.1%	33.3%	4.8%	9.5%	42.9%	4.8%	19.0%	4.8%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	9.5%	9.5%	4.8%	4.8%	9.0%
施設や寮の職員や仲間 (n=13)	46.2%	7.7%	7.7%	7.7%	38.5%	46.2%	61.5%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	23.1%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%

家族構成別については、家族構成無回答(n=27)をクロス集計の対象としていません(18 ページ参照)。

●悩みごと等の相談先×サービス受給の有無別

サービスを利用していない方は「保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生」「サービス提供事業所(ヘルパーや通所事業所)」「生活支援センター・相談支援専門員」を相談先としている方の比率が低い一方で、「家族・親せき」「かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など」「職場の上司・同僚」を相談先としている方は、サービスの利用の有無にかかわらず同じくらいの比率となっています。

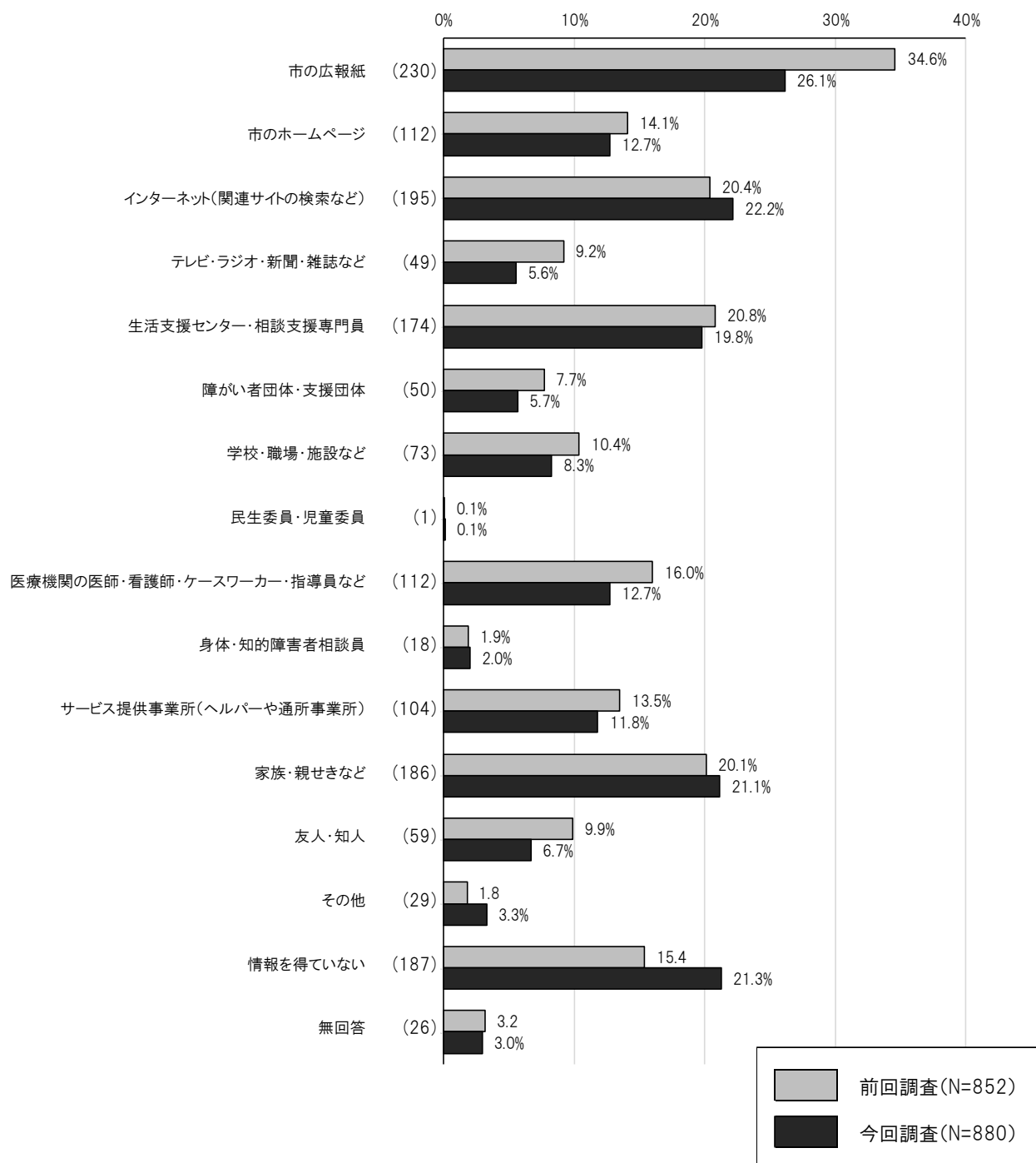
	家族・親せき	友人・知人	職場の上司・同僚	保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生	かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など	サービス提供事業所(ヘルパーや通所事業所)	生活支援センター・相談支援専門員	市役所・保健所	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	こどもサポートセンター	障がい者団体・家族会	地域包括支援センター・ケアマネジャー	その他	相談する人(ところ)がない	相談したいとは思わない	無回答
総数 (n=880)	73.2%	24.2%	11.9%	7.5%	26.8%	11.7%	18.4%	6.1%	1.6%	0.1%	0.8%	3.2%	3.8%	5.6%	6.7%	4.3%	4.0%
利用している (n=383)	72.6%	17.5%	13.6%	13.6%	26.9%	25.6%	37.3%	6.8%	2.9%	0.3%	1.0%	5.7%	5.2%	5.7%	3.4%	3.4%	5.0%
利用していない (n=480)	74.0%	29.8%	11.0%	2.7%	26.7%	0.8%	3.8%	5.8%	0.6%	0.0%	0.6%	1.3%	2.3%	5.6%	9.6%	5.2%	2.7%

サービスの受給有無別については、受給の有無無回答(n=17)をクロス集計の対象としていません(44 ページ上段参照)。

問 27. あなたは、福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。【複数回答】

「市の広報紙」が 26.1%と最も高く、次いで「インターネット(関連サイトの検索など)」が 22.2%。「情報得ていない」が 21.3%となっています。

前回調査と比べると、「市の広報紙」が減少し、「情報を得ていない」が増加していますが、回答傾向として大きな変化はありません。



●福祉サービスなどの情報の入手先×障がいの種別

「生活支援センター・相談支援専門員」については知的障がい・大人が高く、「学校・職場・施設など」については知的障がい(子ども)が高くなっています。

	市の広報紙	市のホームページ	(関連サイトの検索など) インターネット	テレビ・ラジオ・ 新聞・雑誌など	生活支援センター・ 相談支援専門員	障がい者団体・支援団体	学校・職場・施設など	民生委員・児童委員	医療機関の医師・看護師・ ケースワーカー・指導員など	身体・知的障害者相談員	サービス提供事業所 (ヘルパーや通所事業所)	家族・親せきなど	友人・知人	その他	情報を得ていない	無回答
総数 (N=880)	26.1%	12.7%	22.2%	5.6%	19.8%	5.7%	8.3%	0.1%	12.7%	2.0%	11.8%	21.1%	6.7%	3.3%	21.3%	3.0%
身体障がい・子ども (n=21)	23.8%	14.3%	9.5%	0.0%	9.5%	9.5%	14.3%	0.0%	14.3%	4.8%	4.8%	23.8%	4.8%	0.0%	23.8%	0.0%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	31.7%	24.1%	29.0%	6.9%	11.0%	5.5%	3.4%	0.0%	11.0%	1.4%	7.6%	18.6%	6.9%	5.5%	19.3%	2.1%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	38.6%	20.9%	32.9%	9.5%	7.6%	3.2%	3.8%	0.0%	8.2%	0.6%	2.5%	12.0%	7.6%	0.6%	33.5%	1.9%
知的障がい・子ども (n=106)	16.0%	4.7%	14.2%	0.0%	28.3%	1.9%	34.9%	0.0%	7.5%	2.8%	18.9%	27.4%	11.3%	3.8%	18.9%	4.7%
知的障がい・大人 (n=212)	17.5%	4.2%	6.1%	6.1%	45.3%	14.6%	6.6%	0.5%	5.2%	5.2%	22.2%	32.1%	8.0%	1.4%	14.2%	4.2%
精神障がい (n=265)	24.9%	11.3%	27.2%	5.3%	12.5%	2.3%	4.2%	0.4%	24.2%	0.8%	10.9%	19.6%	4.9%	4.9%	21.9%	2.6%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●福祉サービスなどの情報の入手先×年齢別

「学校・職場・施設など」については 6～11 歳、12～14 歳、15～17 歳が高くなっています。「市の広報誌」については、概ね年齢が上がるにつれて高くなっています。

	市の広報紙	市のホームページ	(関連サイトの検索など) インターネット	テレビ・ラジオ・ 新聞・雑誌など	生活支援センター・ 相談支援専門員	障がい者団体・支援団体	学校・職場・施設など	民生委員・児童委員	医療機関の医師・看護師・ ケースワーカー・指導員など	身体・知的障害者相談員	サービス提供事業所 (ヘルパーや通所事業所)	家族・親せきなど	友人・知人	その他	情報を得ていない	無回答
総数 (N=880)	26.1%	12.7%	22.2%	5.6%	19.8%	5.7%	8.3%	0.1%	12.7%	2.0%	11.8%	21.1%	6.7%	3.3%	21.3%	3.0%
0～5歳(就学前) (n=19)	15.8%	0.0%	21.1%	0.0%	36.8%	0.0%	10.5%	0.0%	21.1%	0.0%	10.5%	31.6%	31.6%	5.3%	21.1%	5.3%
6～11歳(小学生) (n=40)	22.5%	7.5%	20.0%	0.0%	30.0%	5.0%	32.5%	0.0%	5.0%	2.5%	12.5%	22.5%	5.0%	5.0%	15.0%	7.5%
12～14歳(中学生) (n=42)	11.9%	4.8%	9.5%	0.0%	23.8%	0.0%	23.8%	0.0%	4.8%	0.0%	14.3%	33.3%	9.5%	2.4%	19.0%	2.4%
15～17歳(高校生など) (n=32)	9.4%	6.3%	9.4%	0.0%	9.4%	3.1%	43.8%	0.0%	9.4%	6.3%	23.1%	34.4%	3.1%	0.0%	21.9%	0.0%
18～29歳 (n=130)	15.4%	6.2%	12.3%	3.8%	38.5%	7.7%	4.6%	0.8%	6.9%	1.5%	18.5%	30.8%	7.7%	1.5%	16.9%	1.5%
30～39歳 (n=112)	15.2%	8.0%	23.2%	1.8%	25.0%	7.1%	2.7%	0.0%	13.4%	2.7%	16.1%	21.4%	3.6%	2.7%	18.8%	3.6%
40～49歳 (n=161)	27.3%	14.9%	23.6%	9.9%	18.6%	5.0%	8.1%	0.0%	15.5%	3.1%	12.4%	21.1%	7.5%	4.3%	23.6%	2.5%
50～59歳 (n=195)	35.4%	14.9%	25.6%	6.7%	13.3%	6.2%	3.6%	0.0%	15.4%	1.5%	7.2%	15.9%	5.1%	3.1%	25.1%	2.6%
60歳以上 (n=138)	42.8%	25.4%	32.6%	8.7%	5.1%	5.8%	2.9%	0.0%	13.8%	1.4%	2.9%	10.9%	6.5%	4.3%	22.5%	2.9%

年齢別については、年齢無回答(n=11)をクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

●福祉サービスなどの情報の入手先×サービス受給の有無別

「生活支援センター・相談支援専門員」「サービス提供事業所（ヘルパーや通所事業所）」を情報入手先としている方は、サービスを利用していない方が特に低くなっている一方で、「市の広報誌」「市のホームページ」「インターネット（関連サイトの検索など）」を情報入手先としている方は、利用していない方の比率が高くなっています。

	市の広報誌	市のホームページ	（関連サイトの検索など） インターネット	テレビ・ラジオ・ 新聞・雑誌など	生活支援センター・ 相談支援専門員	障がい者団体・支援団体	学校・職場・施設など	民生委員・児童委員	医療機関の医師・看護師・ ケースワーカー・指導員など	身体・知的障害者相談員	（ヘルパーや通所事業所） サービス提供事業所	家族・親せきなど	友人・知人	その他	情報を得ていない	無回答
総数 (N=880)	26.1%	12.7%	22.2%	5.6%	19.8%	5.7%	8.3%	0.1%	12.7%	2.0%	11.8%	21.1%	6.7%	3.3%	21.3%	3.0%
利用している (n=383)	19.8%	6.8%	12.5%	5.0%	40.5%	10.7%	15.9%	0.3%	11.5%	3.1%	25.6%	25.6%	9.9%	3.7%	11.2%	3.4%
利用していない (n=480)	31.5%	17.7%	30.0%	6.3%	3.5%	1.7%	2.3%	0.0%	13.8%	0.8%	1.0%	17.9%	4.2%	3.1%	29.4%	2.1%

サービスの受給有無別については、受給の有無無回答(n=17)をクロス集計の対象としていません(44 ページ上段参照)。

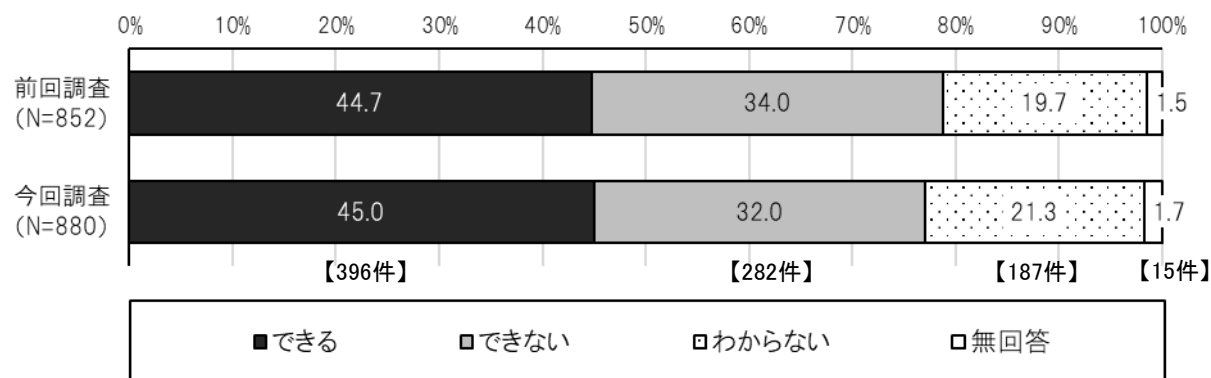
7. 災害時の避難などについて

問 28. 災害時におけるあなたの状況についておたずねします。

① 一人で避難できますか。

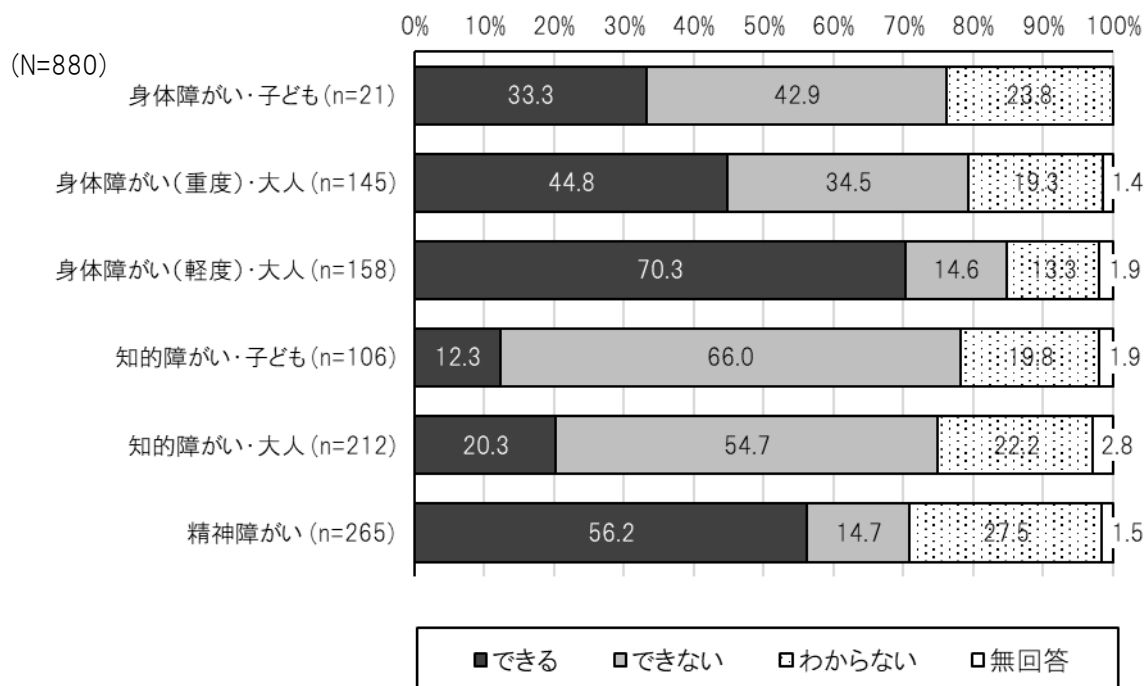
「できる」が45.0%、「できない」が32.0%、「わからない」が21.3%となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はありません。



●一人で避難できるか×障がいの種別

「できる」については身体障がい（軽度）・大人の比率が最も高く、次いで精神障がい、身体障がい（重度）・大人となっており、知的障がい（子ども・大人ともに）の「できる」が低くなっています。

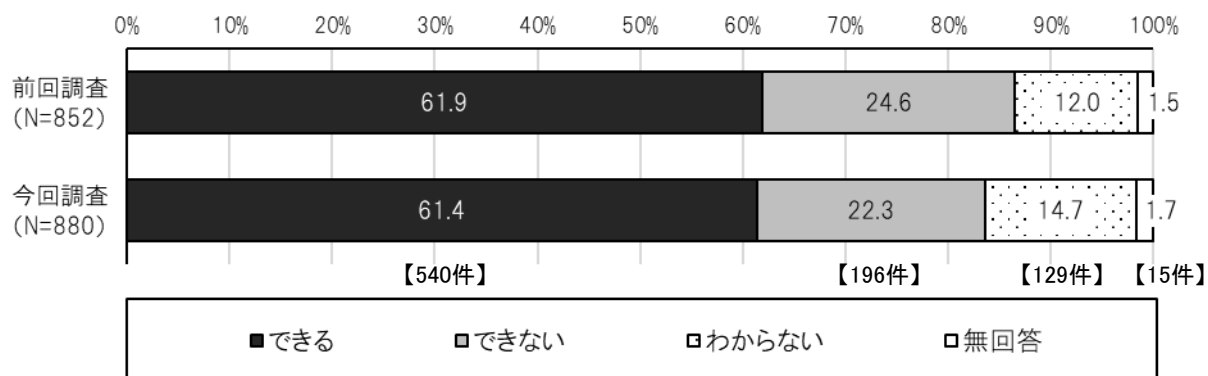


障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

② 周囲の人に居場所を知らせることができますか。(機器などによる通知を含む)

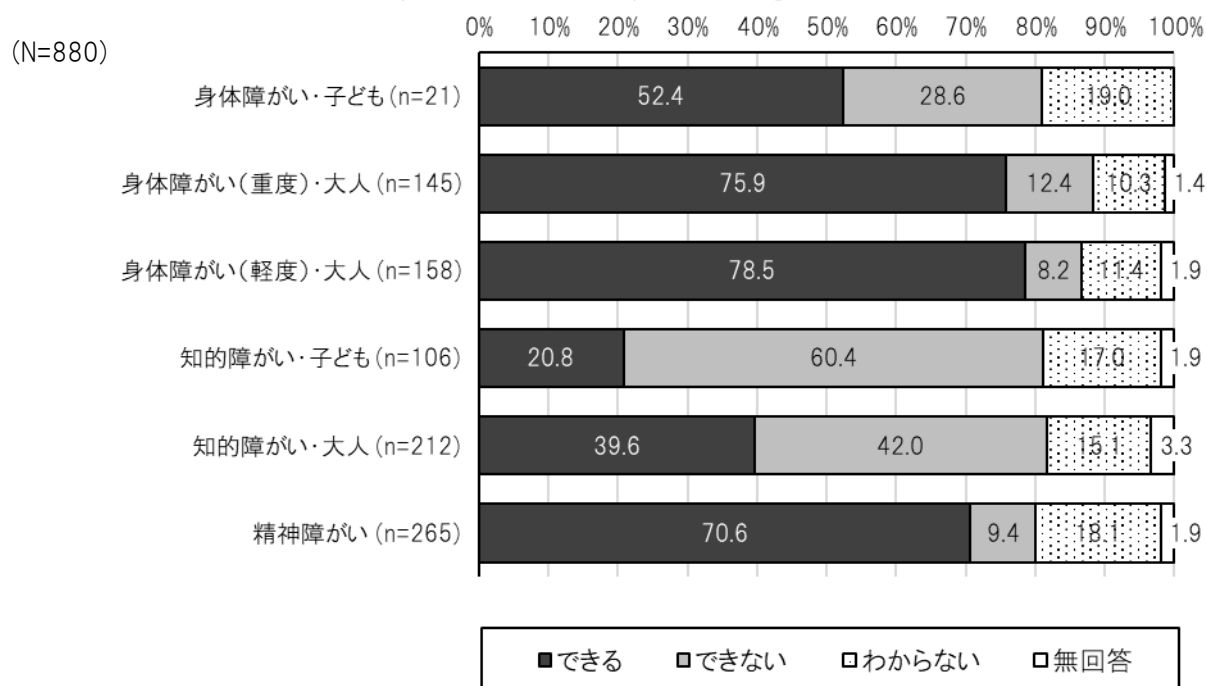
「できる」が61.4%、「できない」が22.3%、「わからない」が14.7%となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はありません。



●居場所を知らせることができるか×障がいの種別

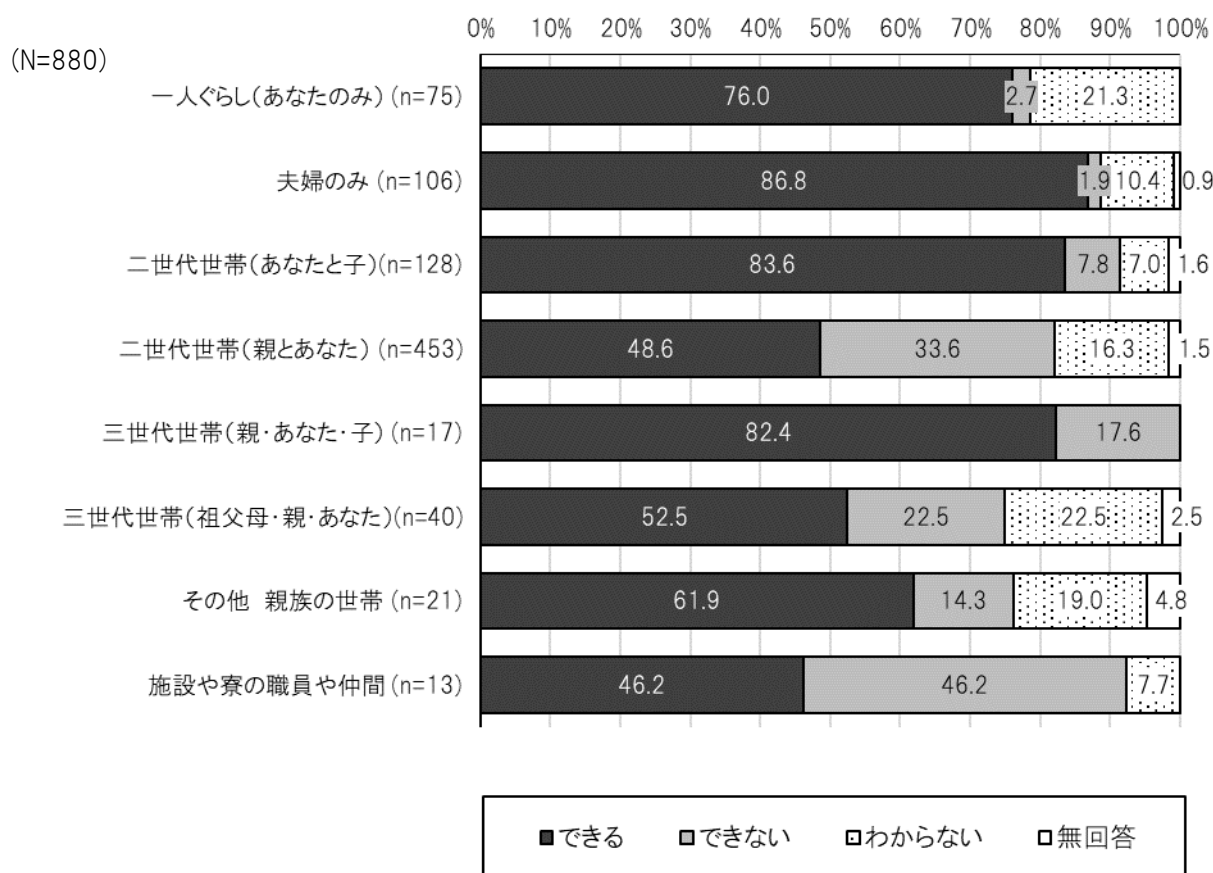
「できる」については身体障がい(軽度)・大人の比率が最も高く、次いで身体障がい(重度)・大人、精神障がい、となっており、知的障がい(子ども・大人ともに)の「できる」が低くなっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●居場所を知らせることができるか×家族構成別

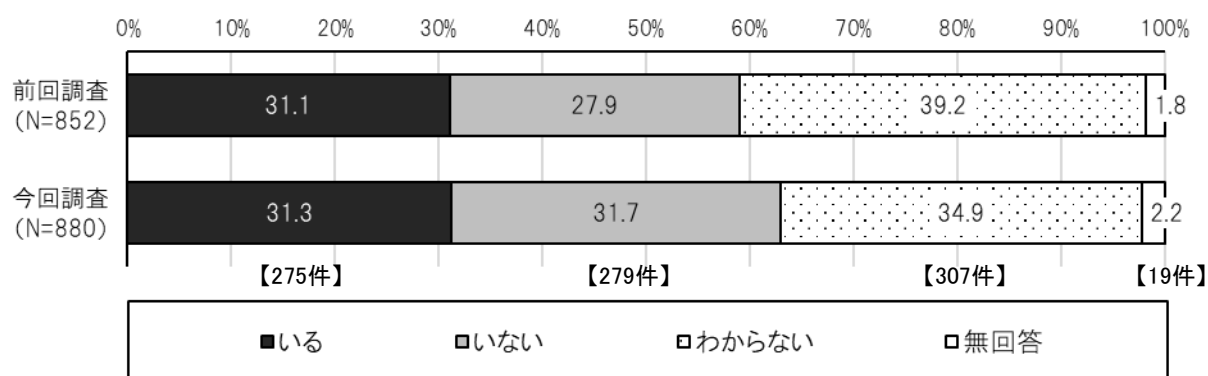
夫婦のみ、二世代会世帯（あなたと子）、三世代会世帯（親・あなた・子）の「できる」が8割以上を占め、回答傾向に大きな差がみられず、一人暮らし（あなたのみ）についても「できる」が8割弱となっています。一方で、二世代会世帯（親とあなた）、三世代会世帯（祖父母・親・あなた）の「できる」が5割前後と低くなっています。



家族構成別については、家族構成無回答(n=27)をクロス集計の対象としていません(18 ページ参照)。

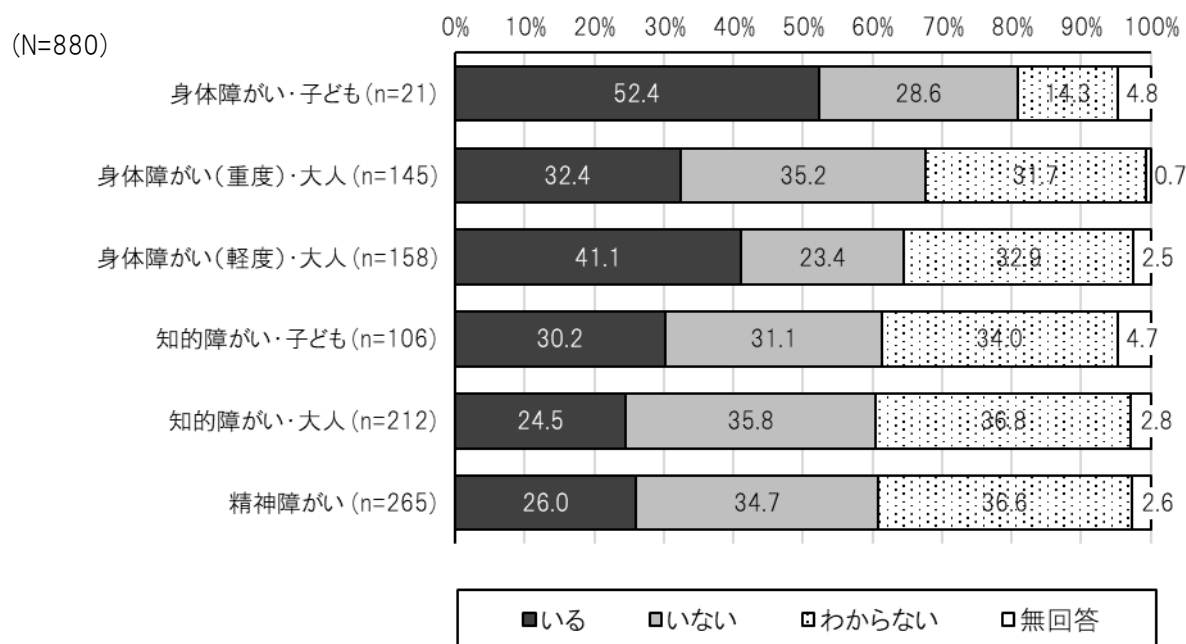
③ 近所に助けてくれる人がいますか。

「いる」が31.3%、「いない」が31.7%、「わからない」が34.9%となっています。
前回調査と比べると、大きな変化はありません。



●近所に助けてくれる人がいるか×障がいの種別

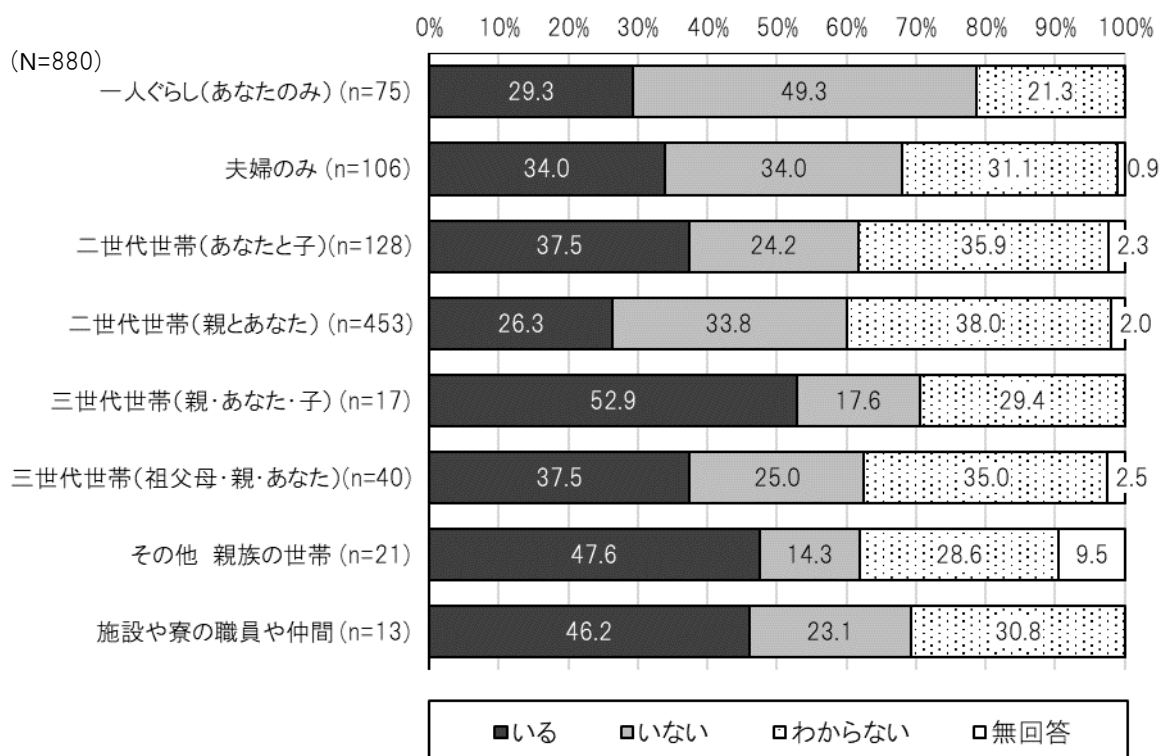
「いる」については身体障がい・子どもの比率が最も高く、次いで身体障がい(軽度)・大人、身体障がい(重度)・大人となっており、身体障がいと知的障がい(子ども・大人ともに)、精神障がいとは差がみられます。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●近所に助けてくれる人がいるか×家族構成別

「いる」については、二世世代世帯(親とあなた)の比率が低くなっており、「いない」は一人暮らし(あなたのみ)の比率が高くなっています。

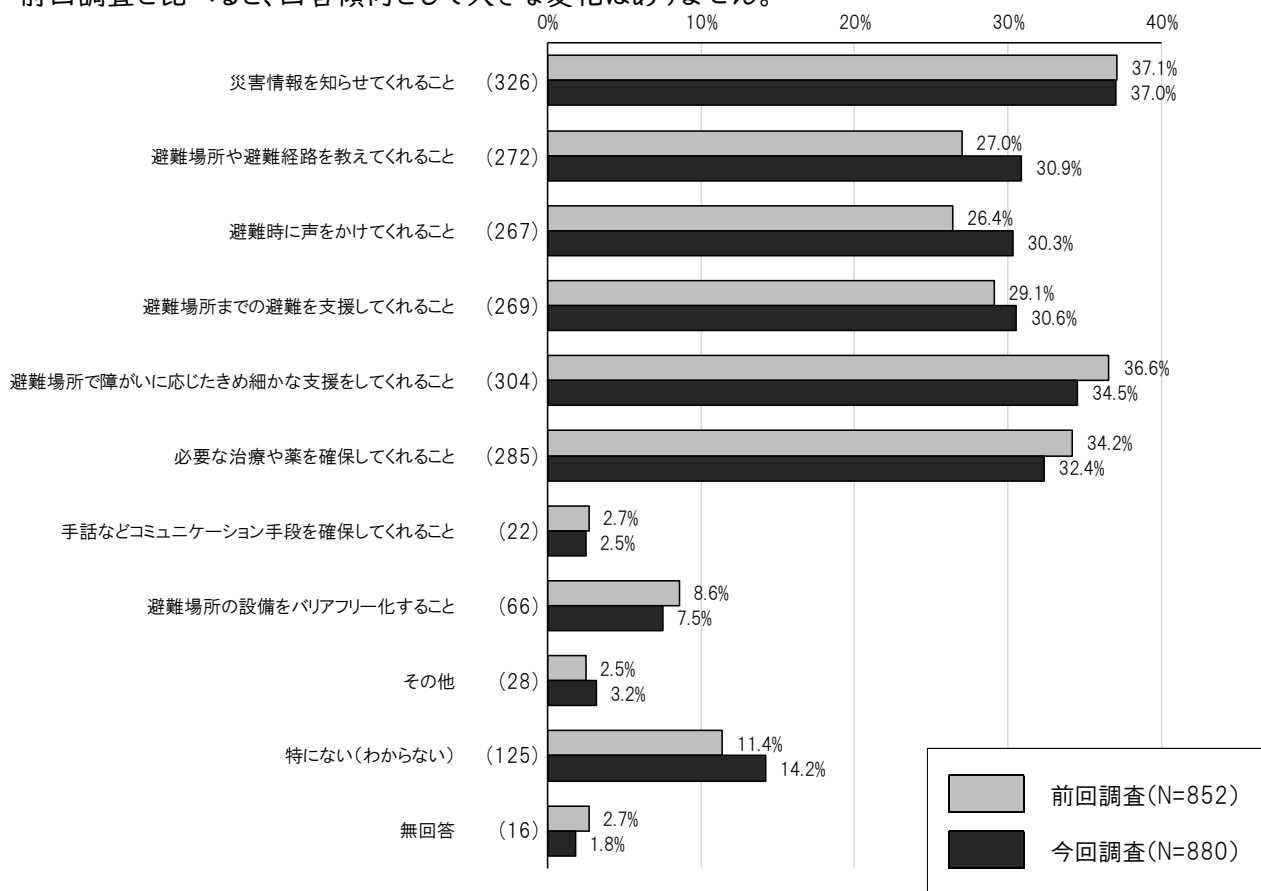


家族構成別については、家族構成無回答(n=27)をクロス集計の対象としていません(18 ページ参照)。

問 29. 災害発生時にあなたが支援してほしいことは何ですか。【複数回答(3つまで)】

「災害情報を知らせてくれること」が37.0%と最も高く、次いで「避難場所や障がいに応じたきめ細かな支援をしてくれること」が34.5%、「必要な治療や薬を確保してくれること」が32.4%となっています。

前回調査と比べると、回答傾向として大きな変化はありません。



●災害発生時に支援してほしいこと×障がいの種別

「避難場所や避難経路を教えてください」「避難時に声をかけてくれること」「避難場所で障がいに応じたきめ細かな支援をしてくれること」については、知的障がい(子ども、大人ともに)で高くなっています。また、「必要な治療や薬を確保してくれること」については、精神障がい、身体障がい(重度)・大人で高くなっています。

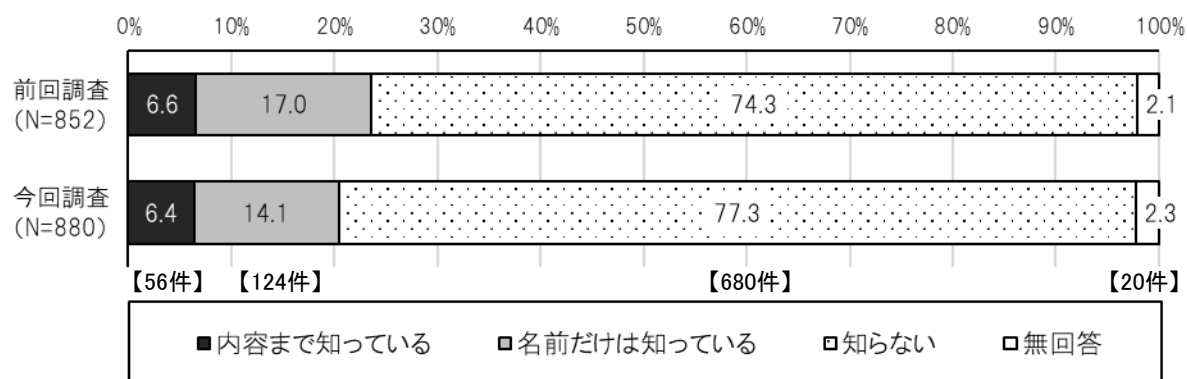
	災害情報を知らせてくれること	避難場所や避難経路を教えてください	避難時に声をかけてくれること	避難場所までの避難を支援してくれること	避難場所で障がいに応じたきめ細かな支援をしてくれること	必要な治療や薬を確保してくれること	手話などコミュニケーション手段を確保してくれること	避難場所の設備をバリアフリー化すること	その他	特にない(わからない)	無回答
総数 (N=880)	37.0%	30.9%	30.3%	30.6%	34.5%	32.4%	2.5%	7.5%	3.2%	14.2%	1.8%
身体障がい・子ども (n=21)	33.3%	9.5%	28.6%	33.3%	23.8%	19.0%	28.6%	23.8%	4.8%	19.0%	0.0%
身体障がい(重度)・大人 (n=145)	31.0%	20.7%	16.6%	34.5%	33.8%	40.7%	3.4%	19.3%	4.8%	11.7%	2.8%
身体障がい(軽度)・大人 (n=158)	44.3%	24.1%	17.1%	17.1%	24.7%	30.4%	0.6%	9.5%	2.5%	22.2%	1.3%
知的障がい・子ども (n=106)	22.6%	34.0%	56.6%	54.7%	52.8%	15.1%	5.7%	1.9%	2.8%	5.7%	2.8%
知的障がい・大人 (n=212)	32.5%	33.0%	47.6%	42.9%	51.4%	26.9%	1.9%	3.8%	1.9%	9.4%	2.4%
精神障がい (n=265)	46.0%	40.0%	26.4%	19.2%	25.3%	42.6%	0.4%	2.6%	3.4%	15.1%	1.5%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2ページ参照)。

問 30. 生駒市災害時要援護者避難支援事業」を知っていますか。

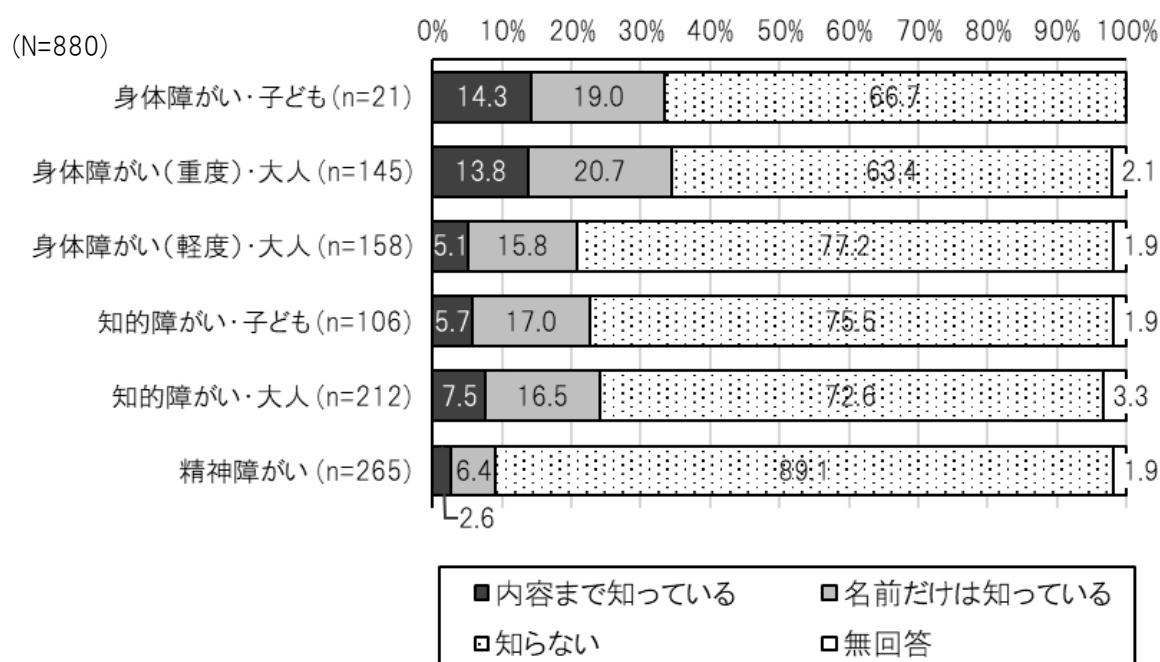
「知らない」が77.3%、「名前だけは知っている」が14.1%、「内容まで知っている」が6.4%となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はありませんが、「知らない」の比率が増加しています。



● 生駒市災害時要援護者避難支援事業を知っているか×障がいの種別

「内容まで知っている」については、身体障がい・子ども、身体障がい（重度）・大人の比率が高くなっています。「名前だけは知っている」については、精神障がいを除くと大きな差はありません。精神障がいの「知らない」が他の障がいに比べて高くなっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2ページ参照)。

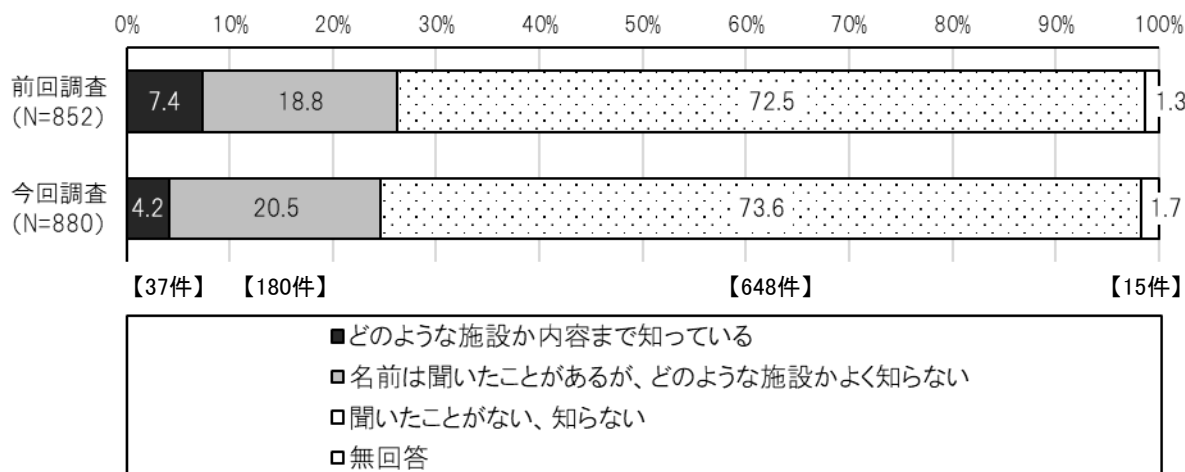
8. 権利擁護などについて

問 31. あなたは、次の制度などについて知っていますか。また利用したいと思いますか。

① 日常生活に不安のある障がい者や高齢者に対して、金銭管理などの日常生活に関する支援や成年後見制度などの相談を行う『生駒市権利擁護支援センター（福祉センター内）』について。

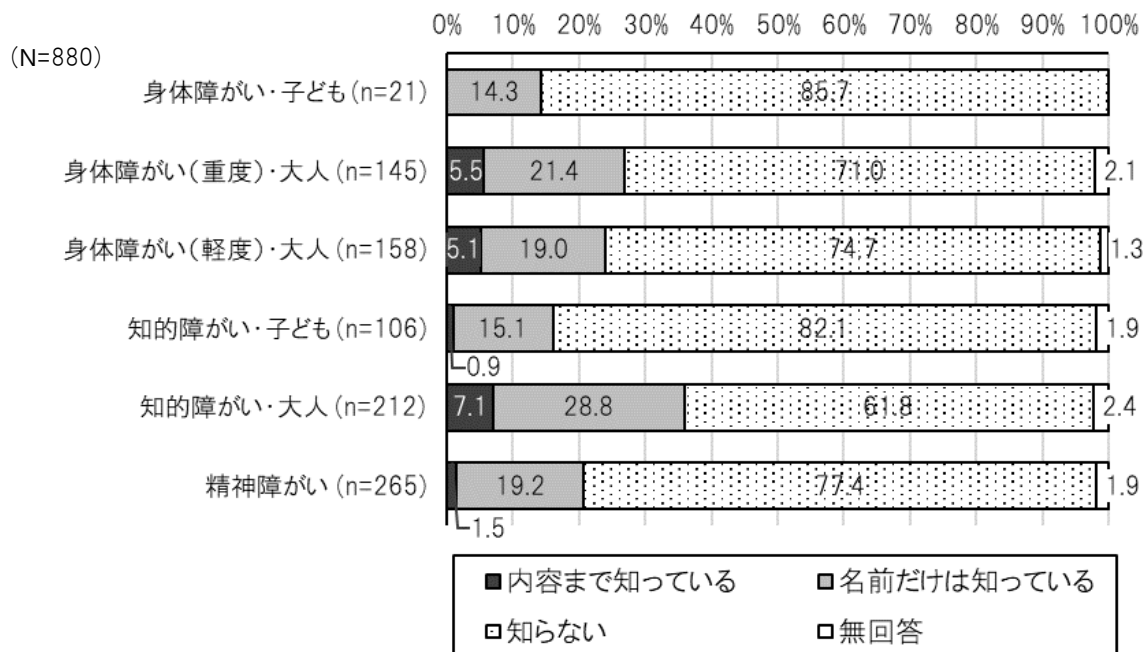
「どのような施設か内容まで知っている」が4.2%、「名前は聞いたことがあるが、どのような施設かよく知らない」が20.5%、「聞いたことがない、知らない」が73.6%となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はありませんが、「どのような施設か内容まで知っている」の比率が小さくなっています。



● 生駒市権利擁護支援センターの認知×障がいの種別

「内容まで知っている」については、身体障がい（重度）・大人、身体障がい（軽度）・大人、知的障がい・大人の比率が高くなっており、大人と子どもで大きな差がみられます。

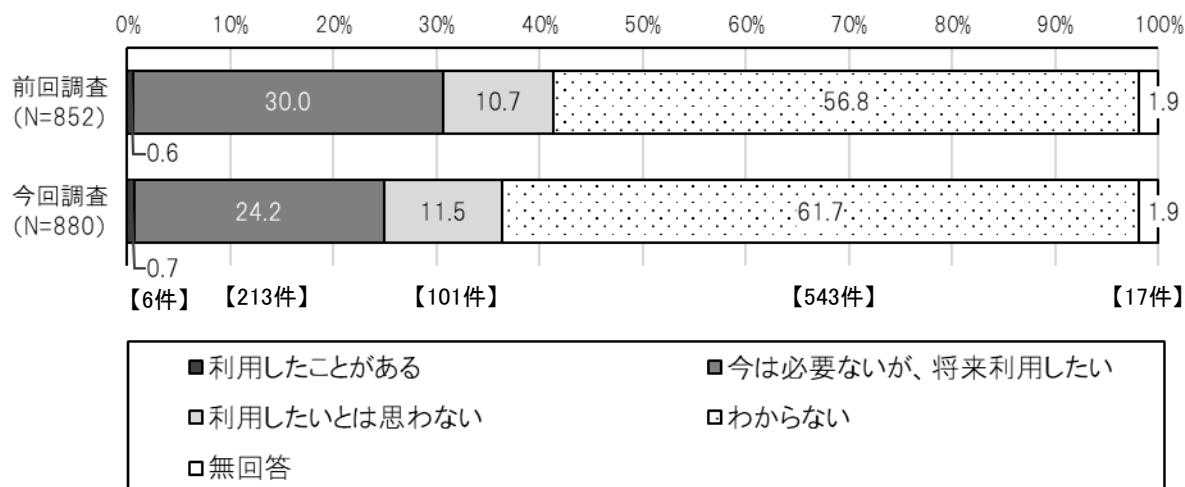


障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団 (N=880) の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可 (n=33) はクロス集計の対象としていません (2 ページ参照)。

② 『生駒市権利擁護支援センター』の利用について。

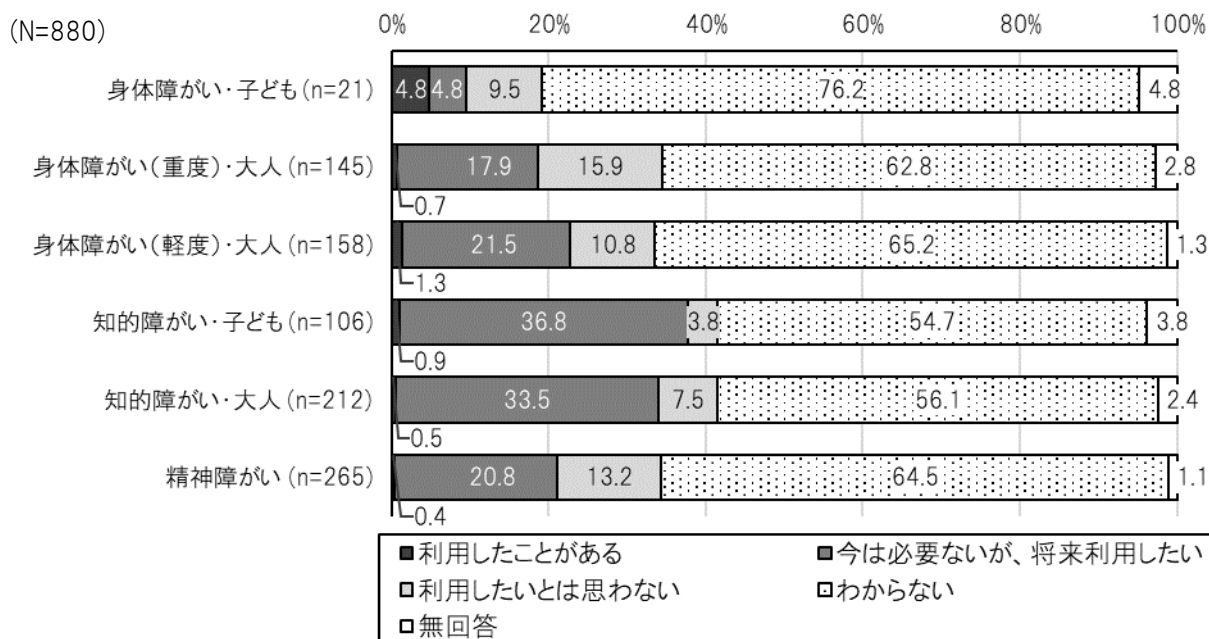
「利用したことがある」が 0.7%にとどまっているものの、「今は必要ないが、将来利用したい」が 24.2%となっており、将来においては利用増が見込まれます。

前回調査と比べると、大きな変化はありませんが、「わからない」の比率が大きくなっています。



● 生駒市権利擁護支援センターの利用×障がいの種別

「利用したことがある」については、母集団は少ないものの身体障がい・子どもの比率が高くなっています。「今は必要ないが、将来利用したい」は知的障がい（子ども・大人ともに）の比率が高くなっています。

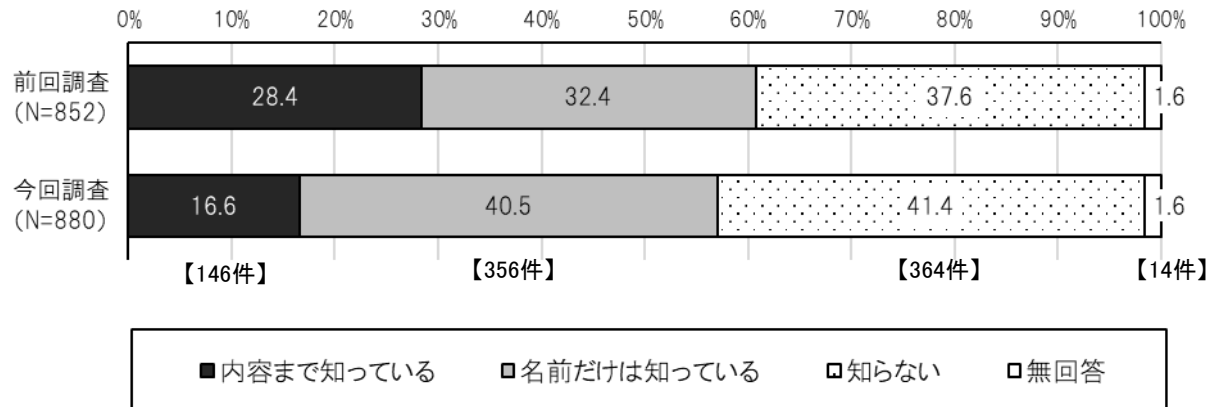


障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

③ 知的障がい、精神障がい、認知症などにより判断能力が十分でない方が不利益を受けないように家庭裁判所に申立てをして、その方を援助してくれる人を付けてもらう『成年後見制度』について。

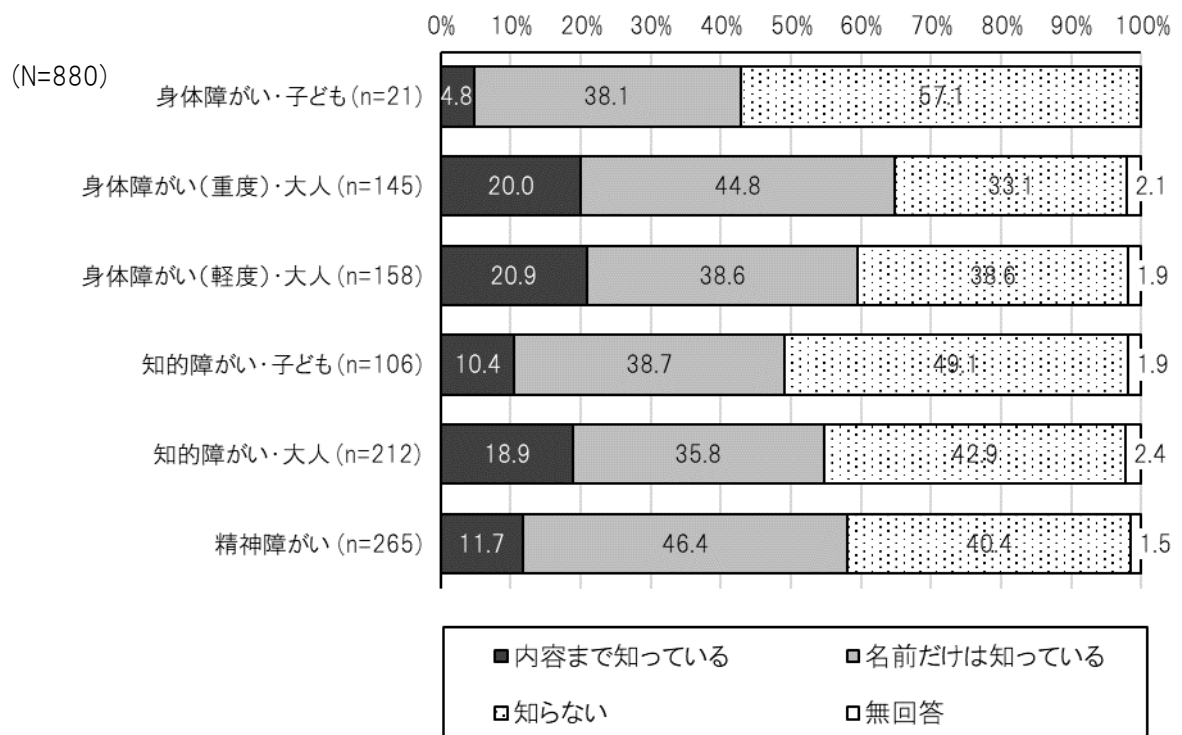
「知らない」が41.4%と最も高く、次いで「名前だけは知っている」が40.5%、「内容まで知っている」が16.6%となっています。

前回調査と比べると、「内容まで知っている」の比率が小さくなっており、「名前だけは知っている」の比率が大きくなっています。



●成年後見制度の認知×障がいの種別

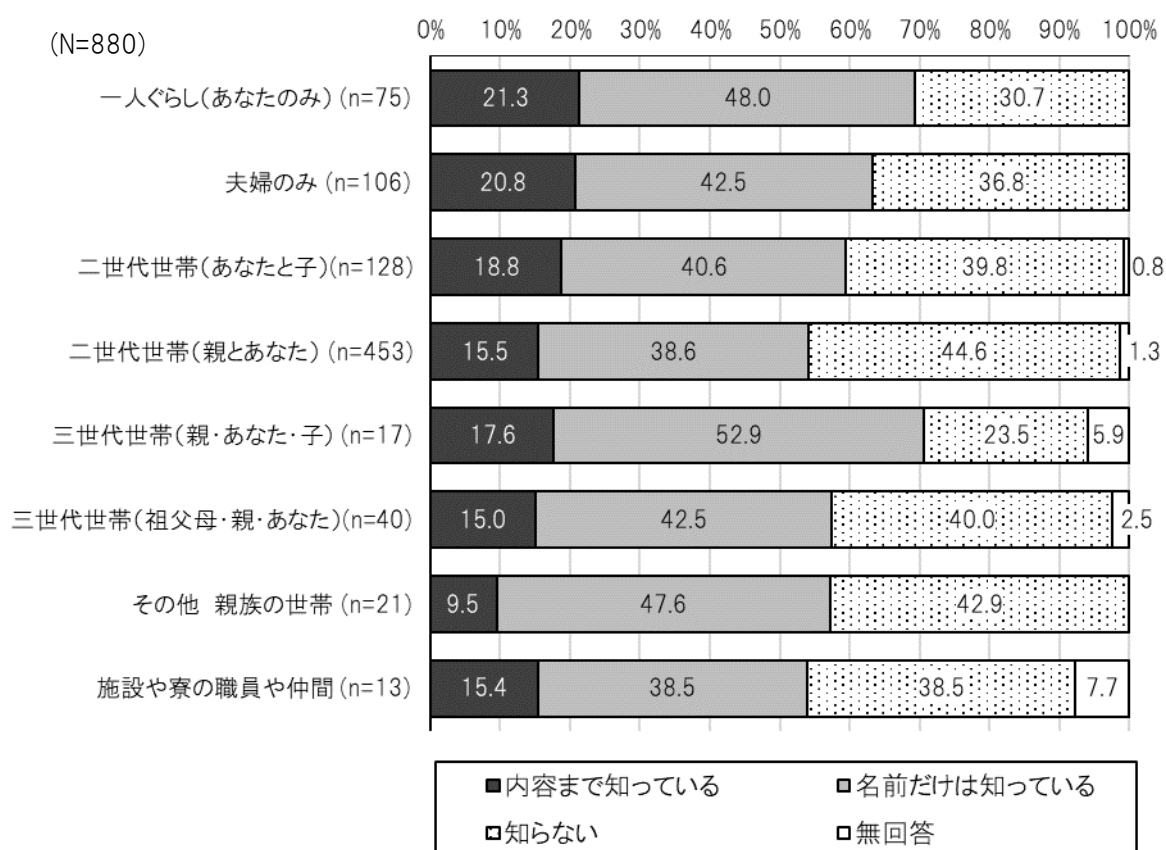
「内容まで知っている」については、身体障がい（重度）・大人、身体障がい（軽度）・大人、知的障がい・大人の比率が高くなっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●成年後見制度の認知×家族構成別

「内容まで知っている」については、一人暮らし（あなたのみ）、夫婦のみの比率が高く、「知らない」については、二世代世帯（親とあなた）の比率が高くなっていますが、家族構成別では大きな差がみられません。

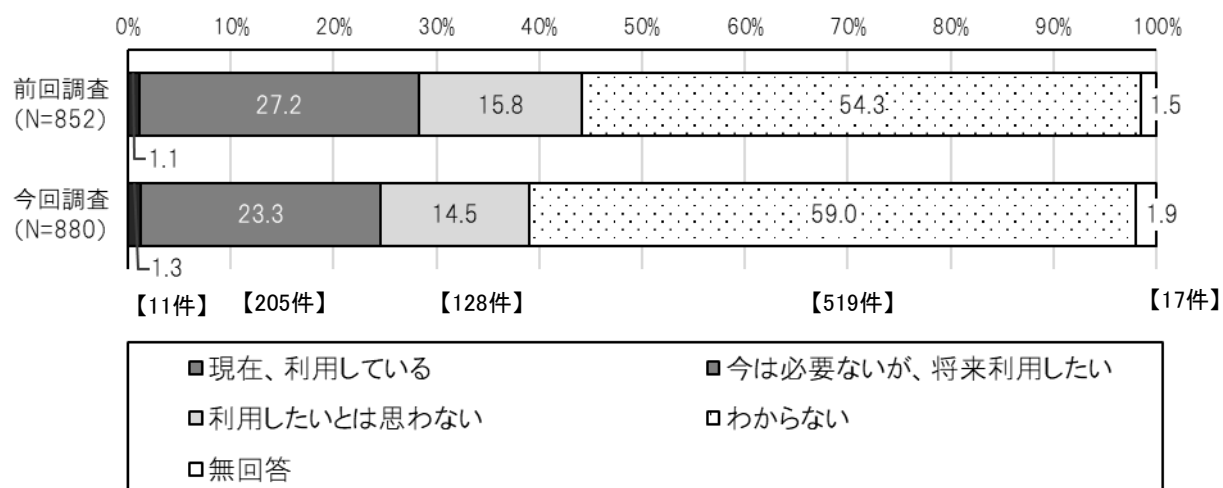


家族構成別については、家族構成無回答(n=27)をクロス集計の対象としていません(18 ページ参照)。

④『成年後見制度』の利用について。

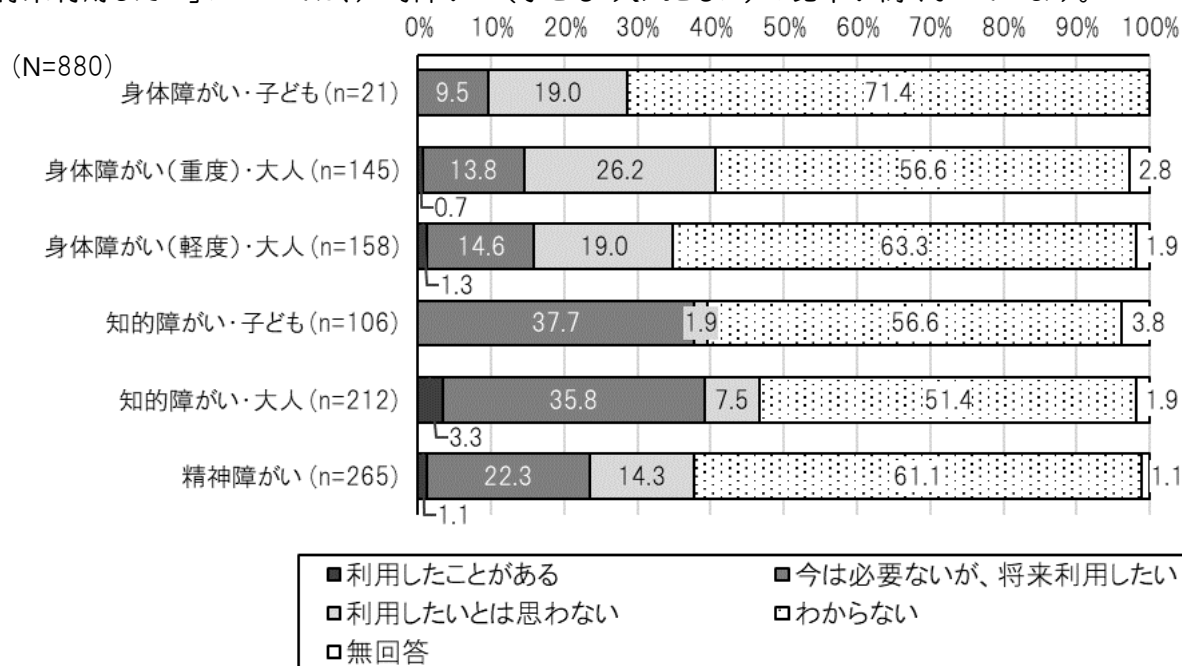
「現在、利用している」が1.3%にとどまっており、「今は必要ないが、将来利用したい」が23.3%となっています。

前回調査と比べると、「わからない」の比率が大きくなっていますが、回答傾向として大きな差がみられません。



●成年後見制度の利用×障がいの種別

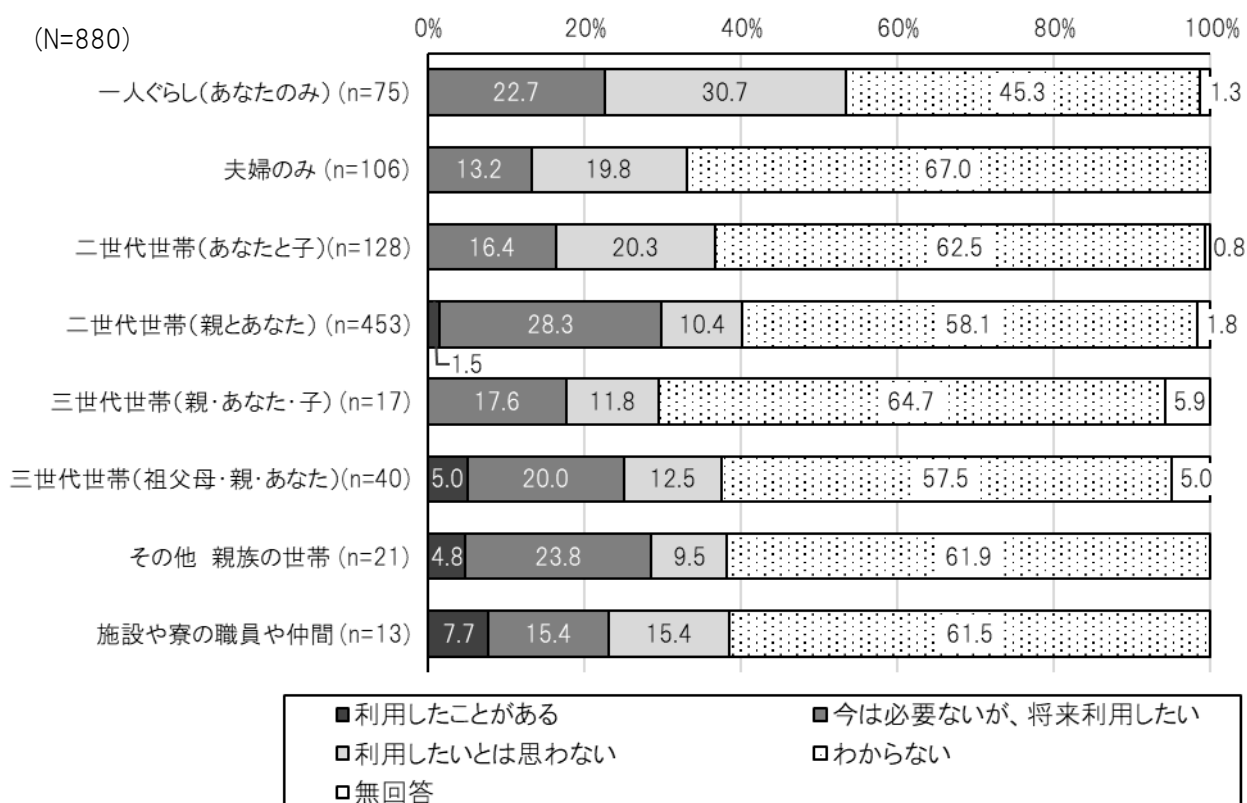
「利用したことがある」については、知的障がい・大人の比率が最も高くなっており、「今は必要ないが、将来利用したい」については、知的障がい（子ども・大人ともに）の比率が高くなっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●成年後見制度の利用×家族構成別

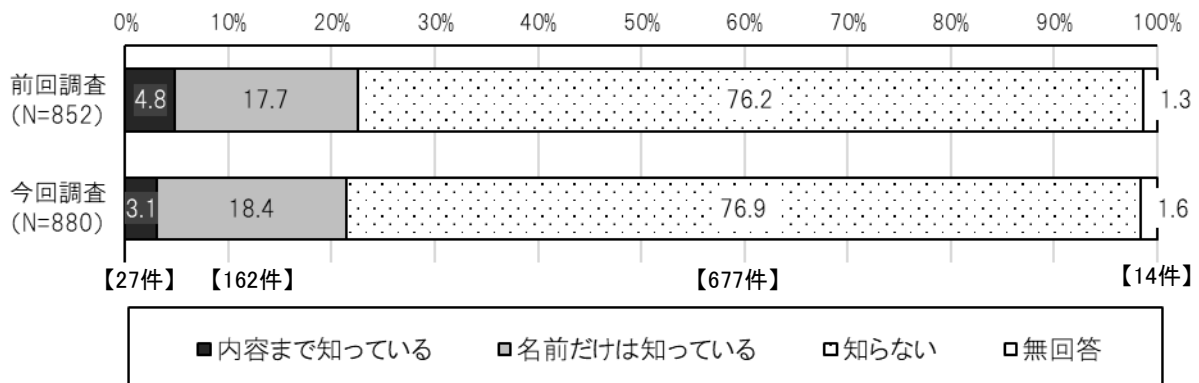
「利用したことがある」については、母集団は少ないものの、施設や寮の職員や仲間と暮らしている方が最も高くなっています。「今は必要ないが、将来利用したい」については、二世世代世帯(親とあなた)の比率が高くなっています。



家族構成別については、家族構成無回答(n=27)をクロス集計の対象としていません(18 ページ参照)。

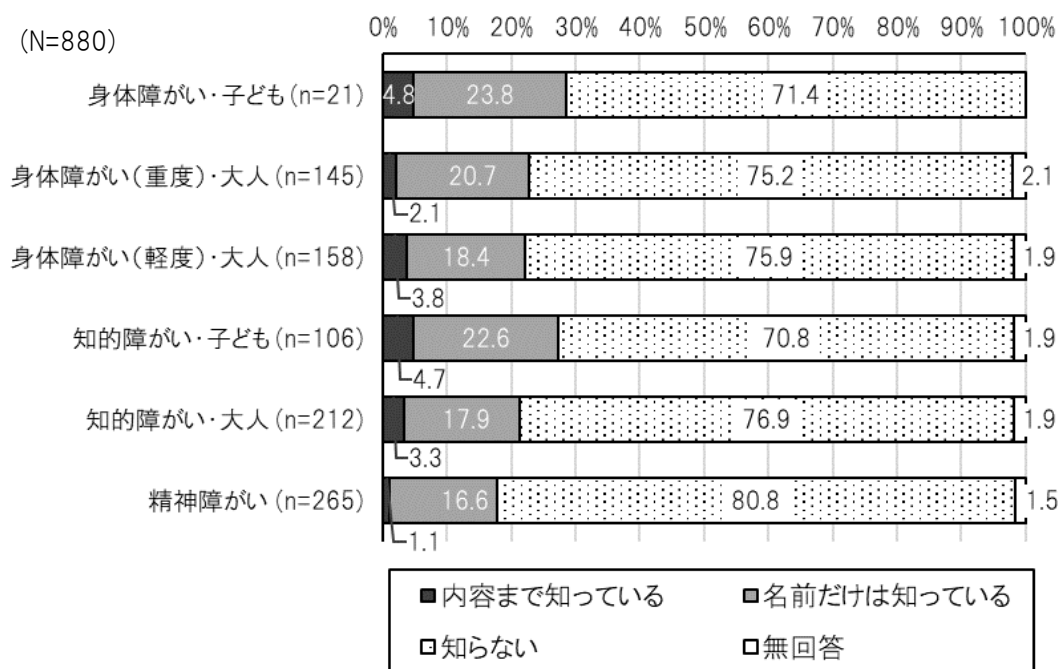
⑤ 障がい者虐待について、相談・通報の連絡先として市役所内に設置している『障害者虐待防止センター（虐待通報窓口）』について。

「内容まで知っている」が3.1%、「名前だけは知っている」が18.4%となっています。
前回調査と比べると、大きな差がみられません。



●障害者虐待防止センターの認知×障がいの種別

「内容まで知っている」については、身体障がい・子ども、知的障がい・子どもの比率がやや高く、「知らない」については、精神障がいの比率がやや高くなっていますが、障がいの種別では大きな差がみられません。

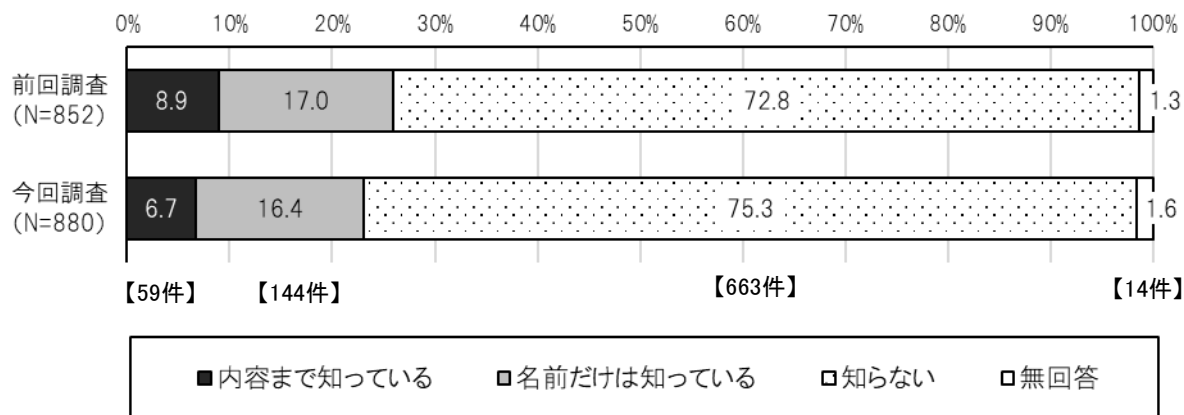


障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2ページ参照)。

**問 32. 役所や事業者に「障がいのある人に対するバリアを取り除くための配慮（合理的配慮）」を求める
障害者差別解消法について知っていますか。**

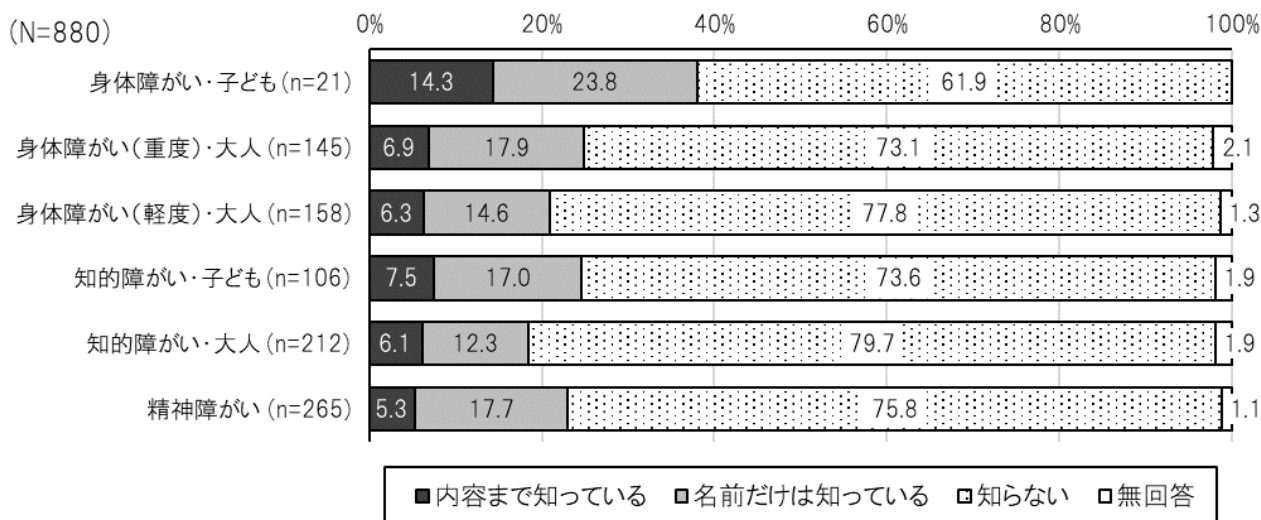
「内容まで知っている」が6.7%、「名前だけは知っている」が16.4%、「知らない」が75.3%となっています。

前回調査と比べると、「知らない」がやや増加していますが、大きな変化はありません。



●障害者差別解消法の認知×障がいの種別

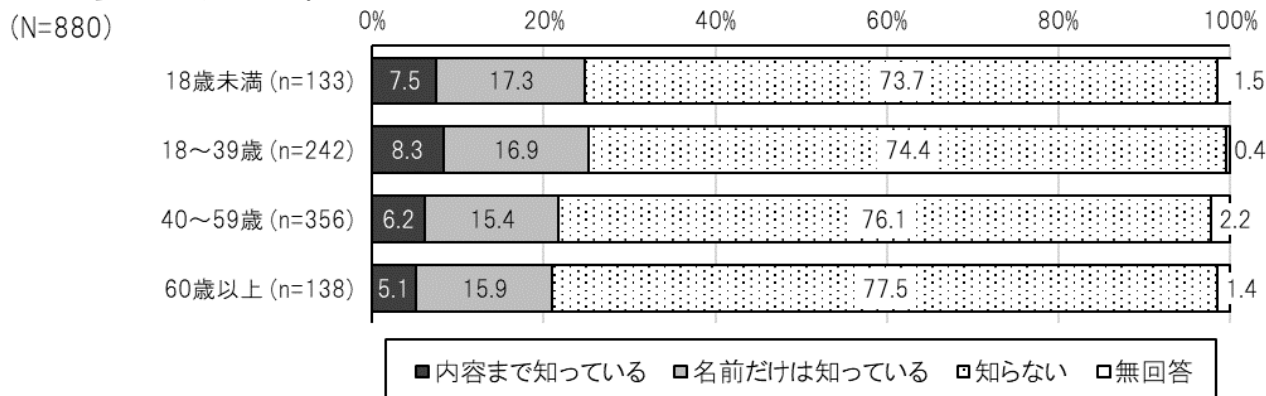
「内容まで知っている」については、身体障がい・子どもの比率が高くなっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●障害者差別解消法の認知×年齢別(4区分)

18～39歳の「内容まで知っている」の比率がやや高くなっていますが、回答傾向としては、各年齢層で大きな差はみられません。

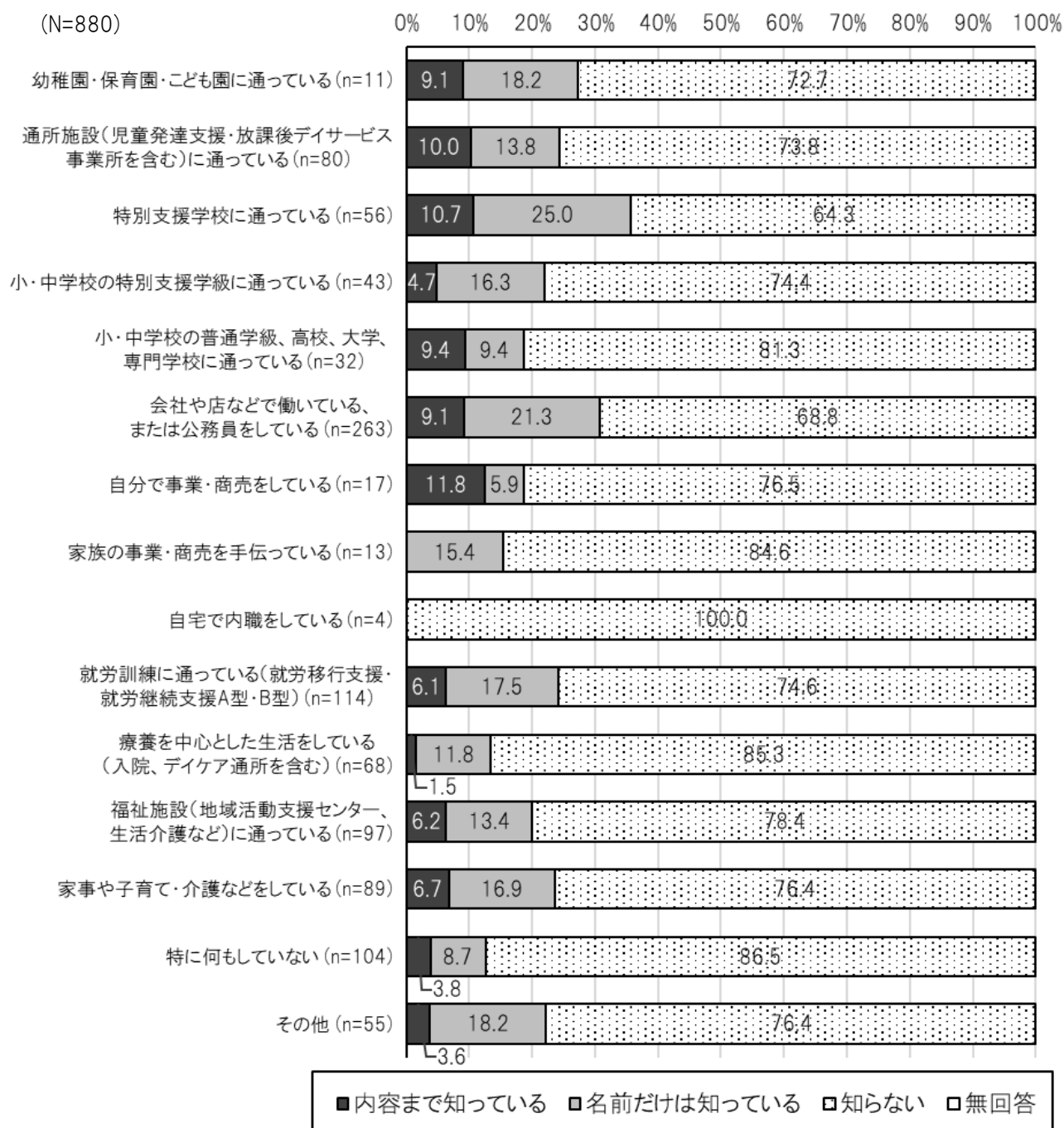


年齢別については、年齢無回答(n=11)をクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

●障害者差別解消法の認知×就労状況別（日中の過ごし方別）

「内容まで知っている」については、自分で事業・商売をしている方の比率が最も高くなっています。また、特別支援学校に通っている方などの回答比率も高く、学生（もしくは保護者）への認知が一定進んでいることがうかがえます。

「名前だけは知っている」については、特別支援学校に通っている方、会社や店などで働いている、または公務員をしている方の比率が高くなっています。



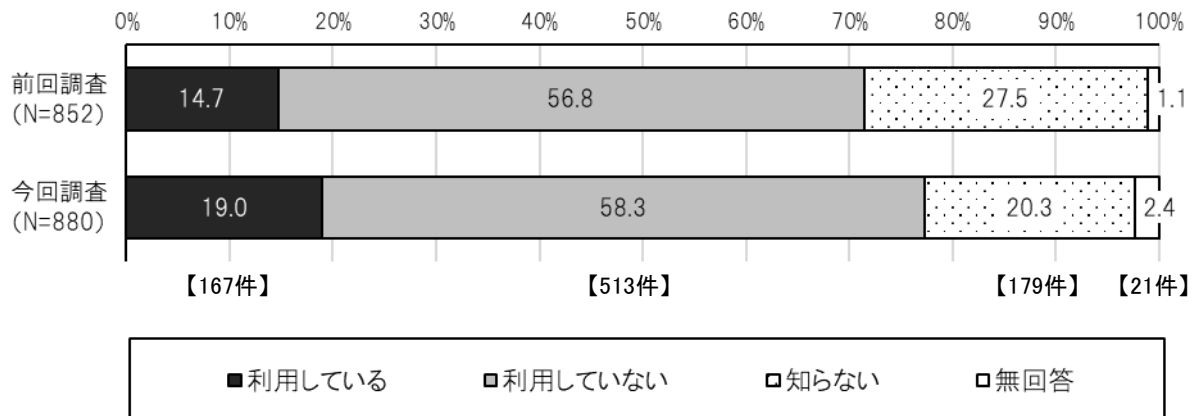
日中の過ごし方無回答(n=16)はクロス集計の対象としていません(29ページ参照)。また、重複回答を含むため、件数の合計(無回答を含む)は母集団(N=880)の件数を上回ります。

問 33. 生駒市では「外見から分からなくても配慮や援助を必要としている方」が身につけたり所持したりすることで、配慮などを必要としていることを示す「ヘルプマーク」「ヘルプカード」の携帯をすすめています。また、ちょっとした手助けをしてくださる方を増やすために「あいサポーター養成講座」を実施し、「あいサポートバッジ」を配布しています。

① 「ヘルプマーク」「ヘルプカード」を利用していますか。

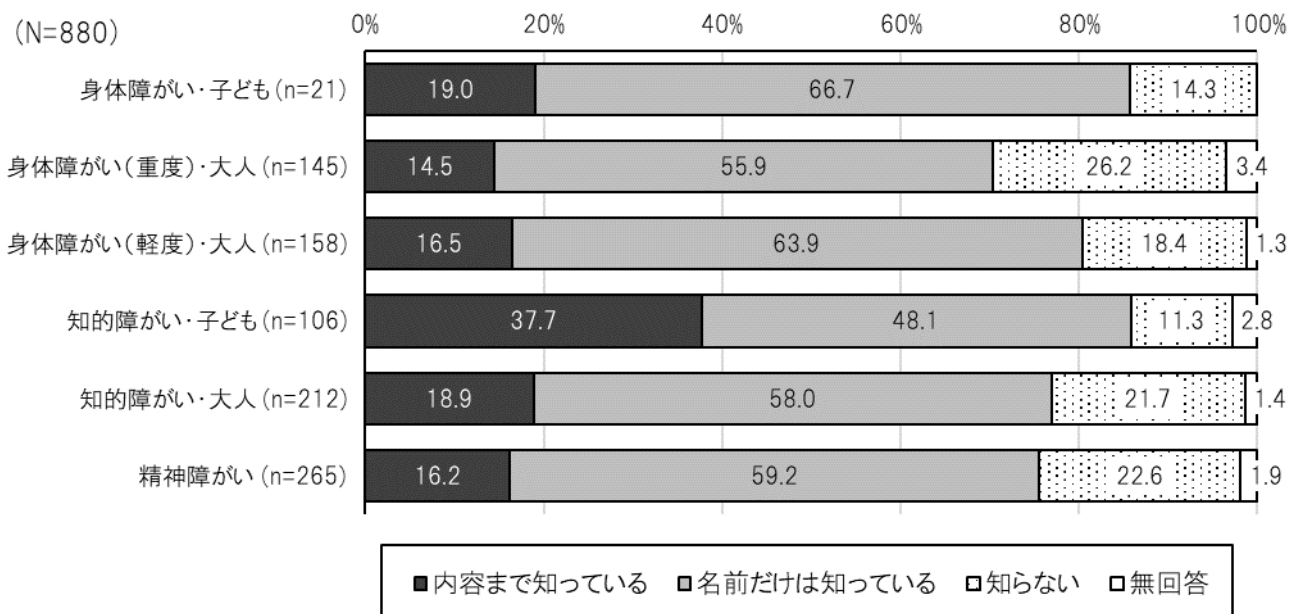
「利用している」が19.0%、「利用していない」が58.3%となっています。

前回調査と比べると、「利用している」「利用していない」の比率がともにやや大きくなり、「知らない」の比率が低くなっています。



● ヘルプマーク、ヘルプカードの利用×障がいの種別

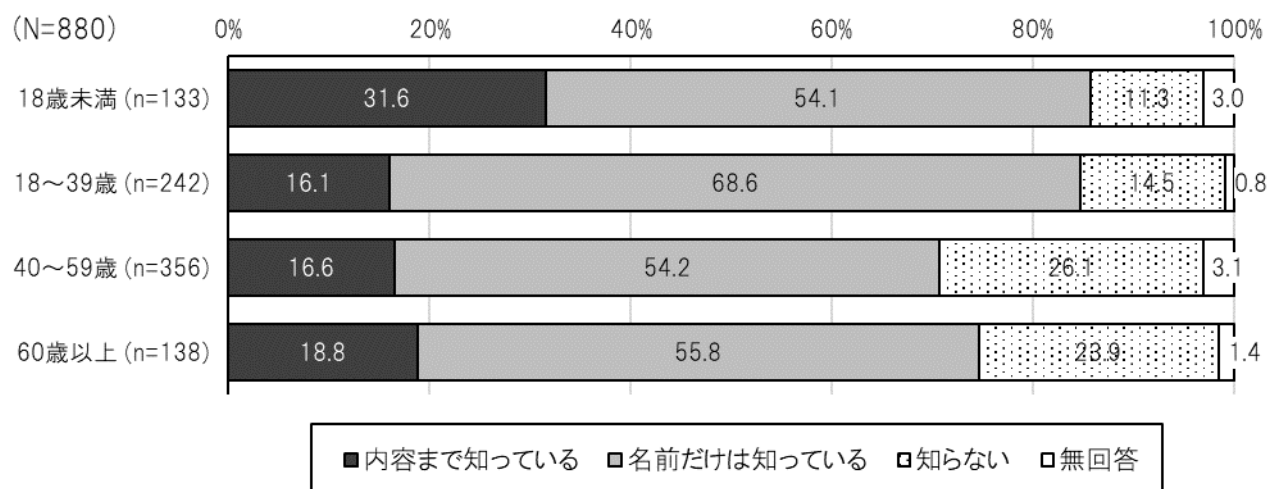
「内容まで知っている」については、知的障がい・子どもが特に高く、次いで身体障がい・子ども、知的障がい・大人となっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●ヘルプマーク、ヘルプカードの利用×年齢別（4区分）

「知らない」については、40～59歳、60歳以上で高くなっていますが、「内容まで知っている」については、18歳未満が高くなっています。

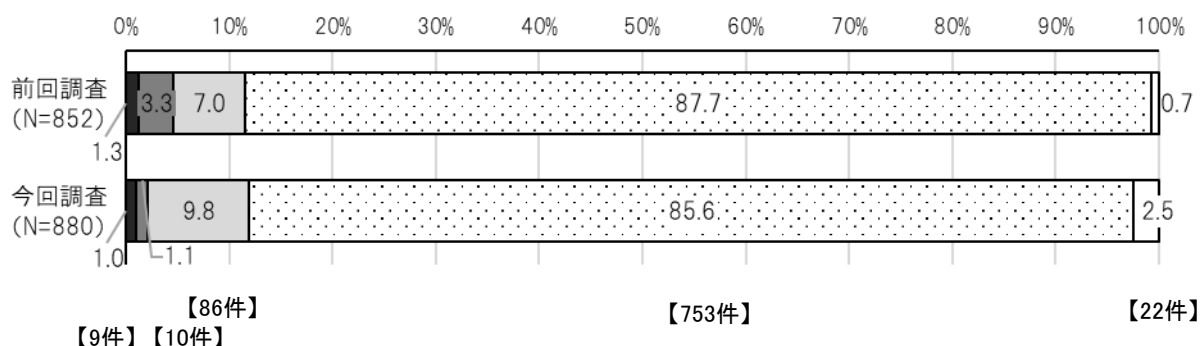


年齢別については、年齢無回答(n=11)をクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

②「あいサポーター養成講座」についてお答えください。

「受講した」は1.0%、「受講したことはないが、講座内容まで知っている」は1.1%にとどまっており、「知らない」が85.6%と最も高くなっています。

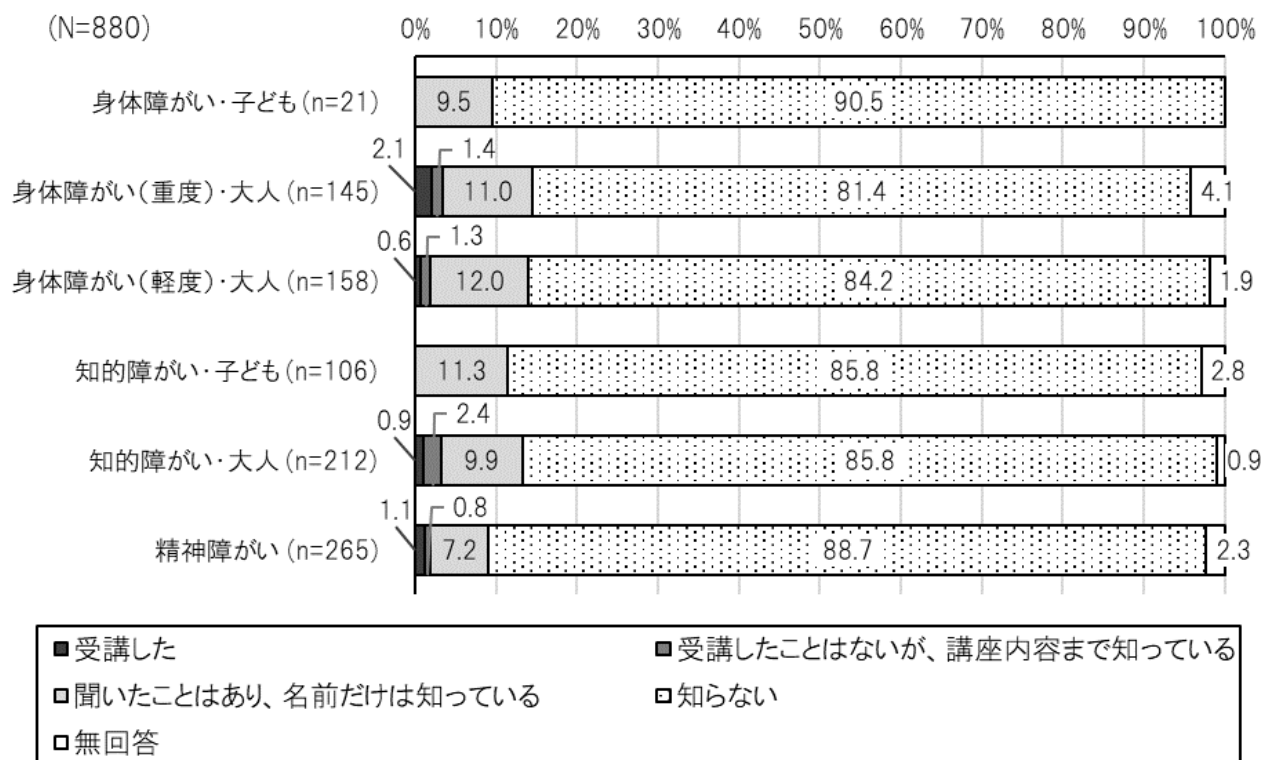
前回調査と比べると、大きな差はみられません。



- 受講した
- 受講したことはないが、講座内容まで知っている
- 聞いたことはあり、名前だけは知っている
- 知らない
- 無回答

●あいサポーター養成講座の受講×障がいの種別

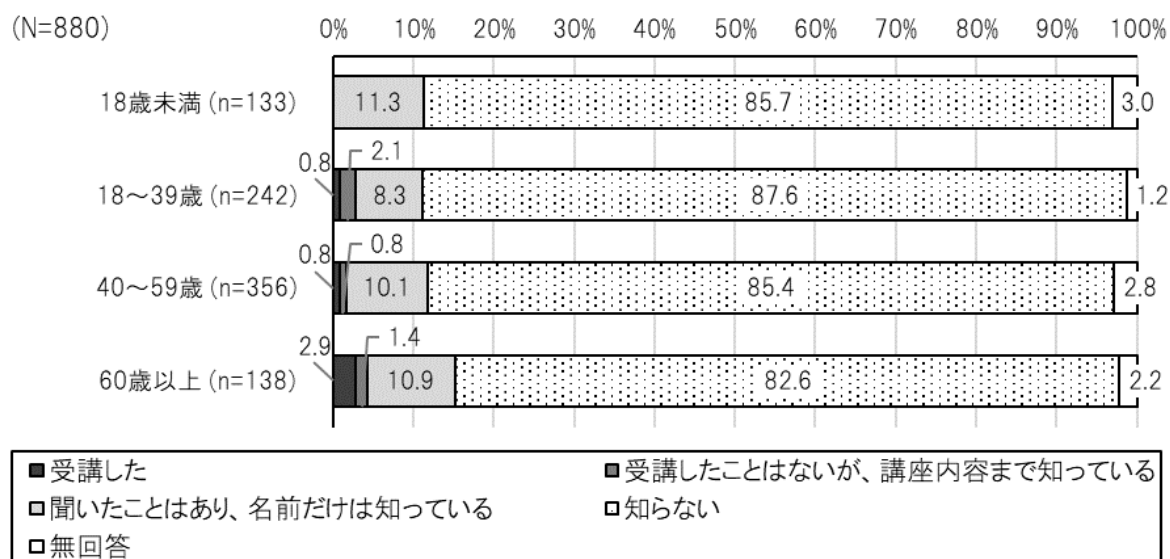
「知らない」については、全体として大きな差がみられませんが、「聞いたことはあり、名前だけ知っている」については、身体障がい（軽度）・大人、知的障がい・子どもの比率が高くなっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●あいサポーター養成講座の受講×年齢別(4区分)

「受講した」「受講したことはないが講座内容まで知っている」については、18歳未満の回答が0件となっていますが、それ以外では回答傾向に大きな差はみられません。

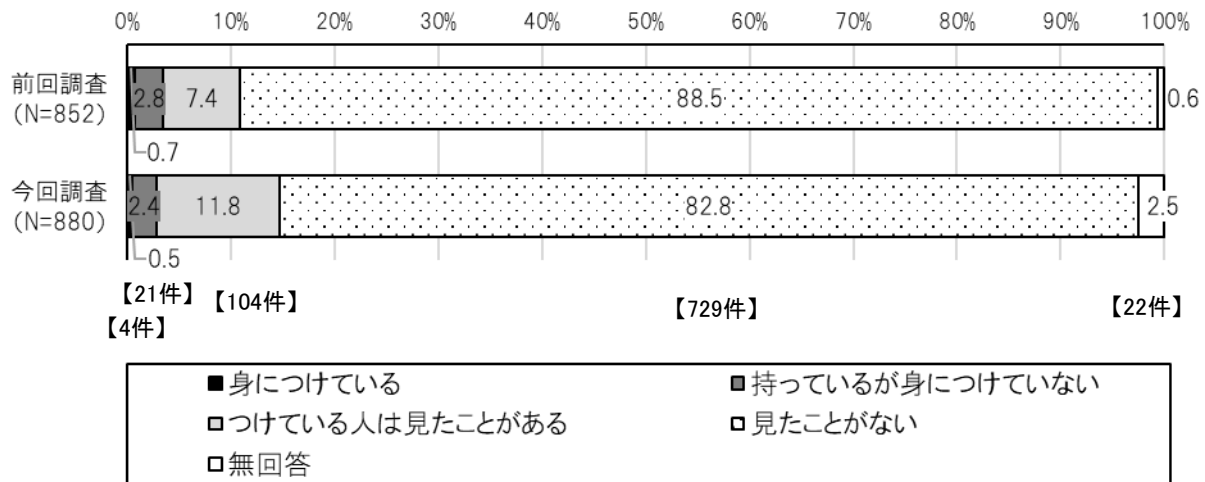


年齢別については、年齢無回答(n=11)をクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

③ あいサポーターには「あいサポートバッジ」を身につけていただくことをすすめています。
バッジについてお答えください。

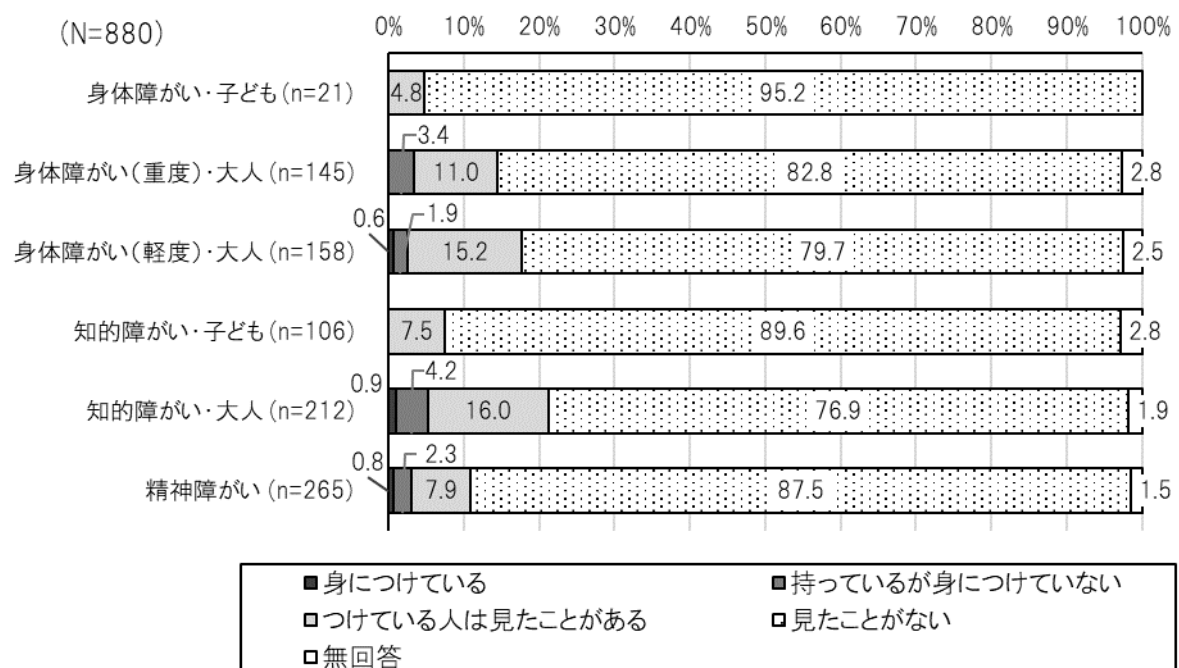
「身につけている」は0.5%、「持っているが身につけていない」は2.4%にとどまっており、「見たことがない」が82.8%と最も高くなっています。

前回調査と比べると、「見たことがない」の比率が低くなる一方で、「つけている人は見たことがある」の比率がやや高くなっています。



● あいサポーターバッジについて×障がいの種別

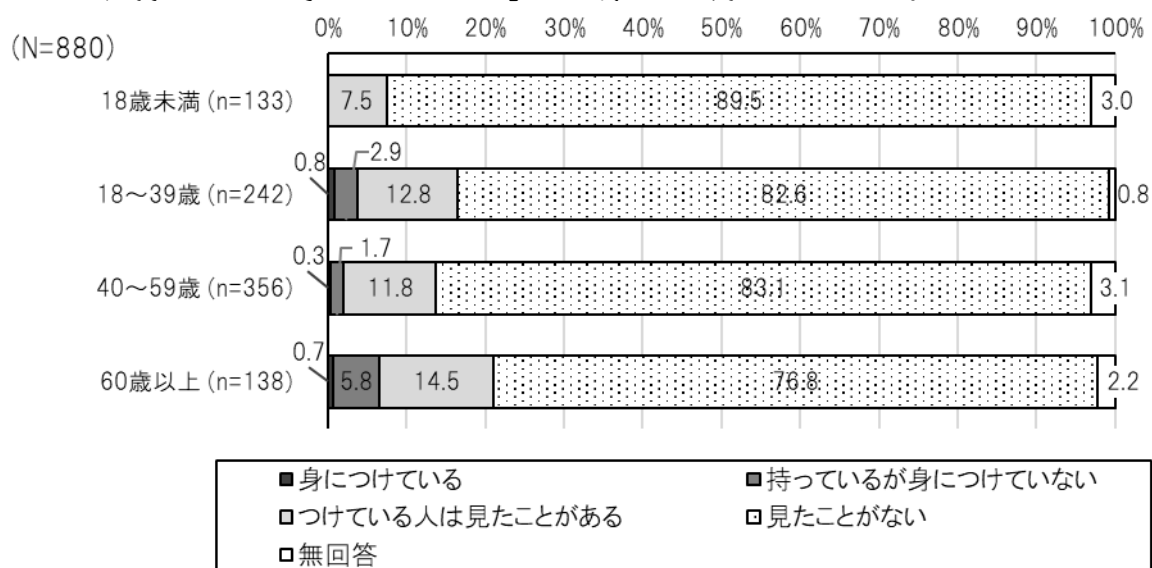
知的障がい・大人、身体障がい・大人（重度、軽度ともに）の「持っているが身につけていない」「つけている人は見たことがある」が他の種別に比べて高めとなっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●あいサポーターバッジについて×年齢別（4区分）

「身につけている」は18歳未満の回答がありませんでした。18歳以上では回答傾向に大きな差がみられませんが、「持っているが身につけていない」は60歳以上で高くなっています。

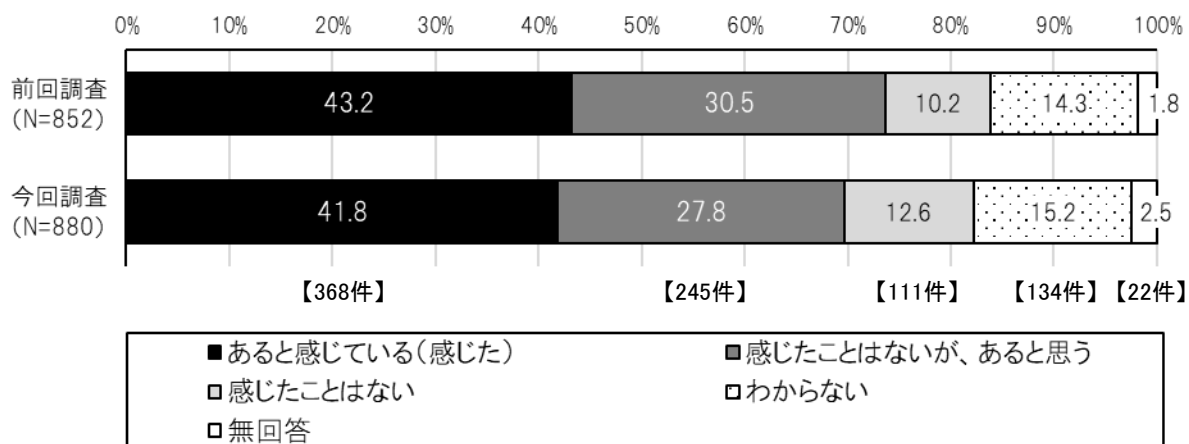


年齢別については、年齢無回答(n=11)をクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

問 34. あなたは、普段の暮らしの中で、障がい者への差別や偏見があると感じますか。

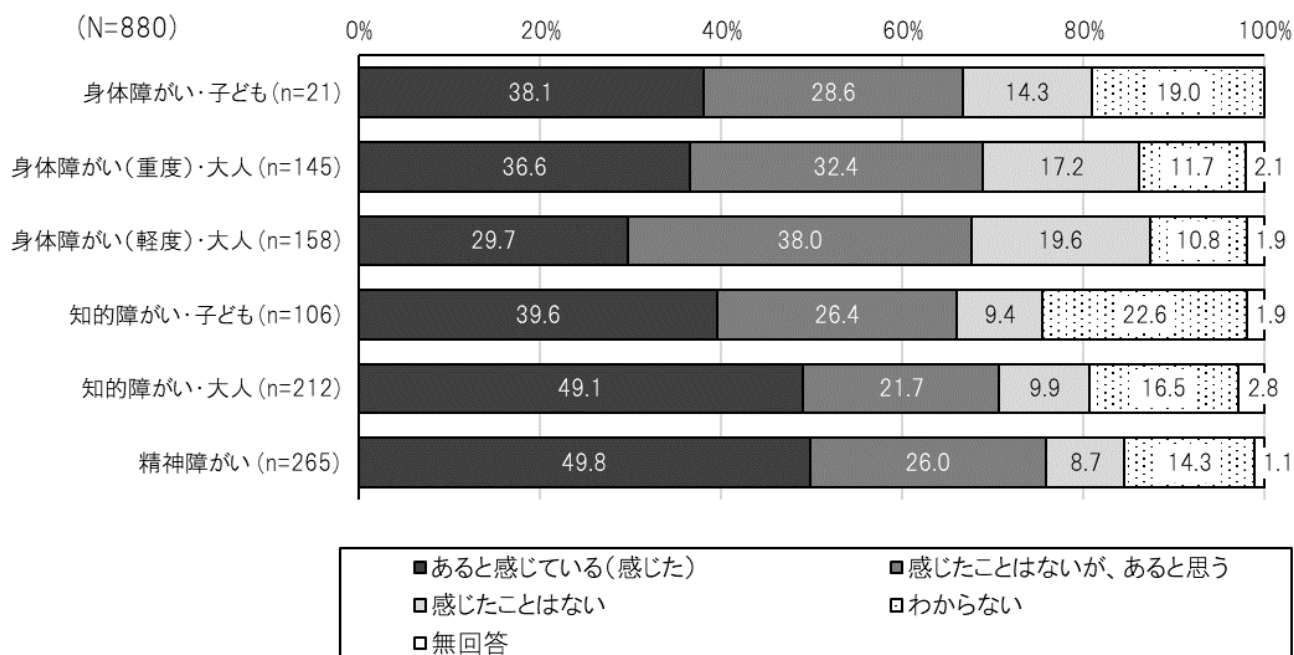
「あると感じている(感じた)」は41.8%が最も高く、次いで「感じたことはないが、あると思う」が27.8%となっています。

前回調査と比べると、「感じたことはない」がやや増加し、「あると感じている(感じた)」「感じたことはないが、あると思う」がやや減少していますが、大きな差はありません。



●差別や偏見の実感×障がいの種別

精神障がい、知的障がい・大人の「あると感じている（感じた）」が高くなっていますが、「あると感じている（感じた）」と「感じたことはないが、あると思う」を合わせると、大きな差はみられません。

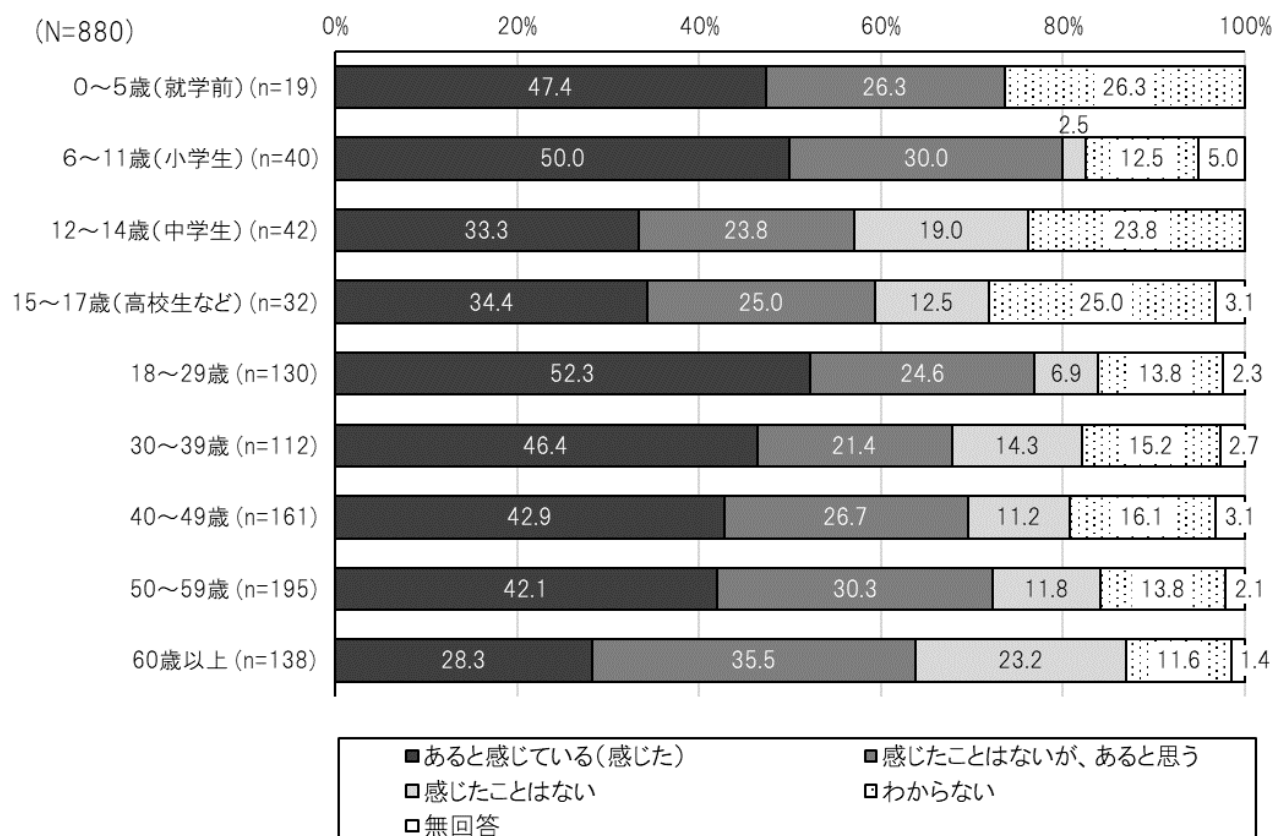


障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●差別や偏見の実感×年齢別

「あると感じている（感じた）」は18～29歳で最も高く、次いで6～11歳、0～5歳が高くなっている一方で、その間の12～14歳、15～17歳では低くなっています。

30歳以上では、年齢が上がるにつれて「あると感じている（感じた）」の比率が小さくなっています。

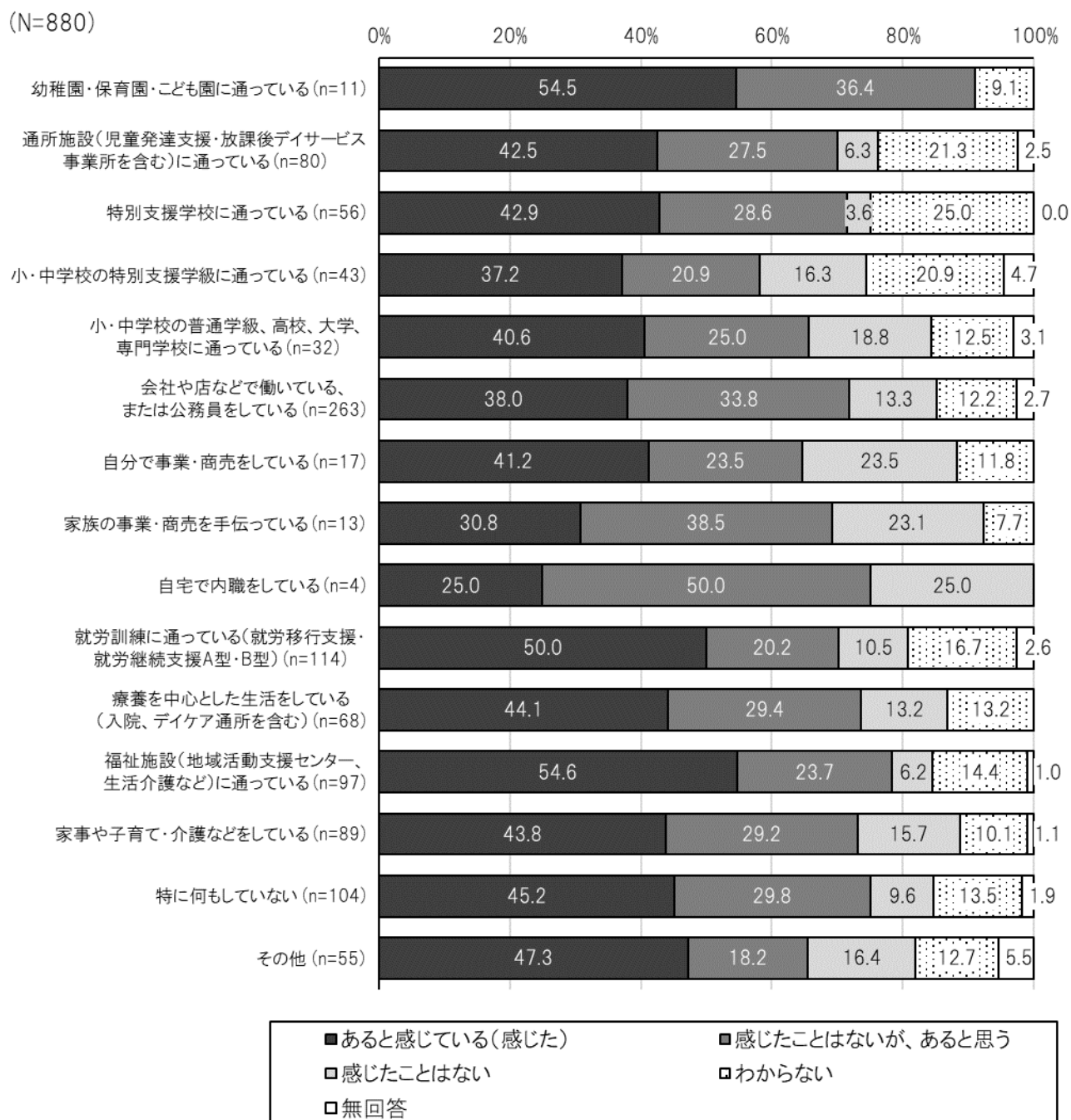


年齢別については、年齢無回答(n=11)をクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

●差別や偏見の実感×日中の過ごし方別

日中の過ごし方別でみると、福祉施設（地域活動支援センター、生活介護など）に通っている方、幼稚園・保育園・こども園に通っている方、就労訓練に通っている（就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型）方の「あると感じている（感じた）」が高くなっています。

特別支援学校に通っている方の「感じたことはない」は、小・中学校の特別支援学級に通っている方、小・中学校の普通学級、高校・大学・専門学校に通っている方に比べて低くなっていますが、「あると感じている（感じた）」「感じたことはないが、あると思う」では大きな差はみられませんでした。



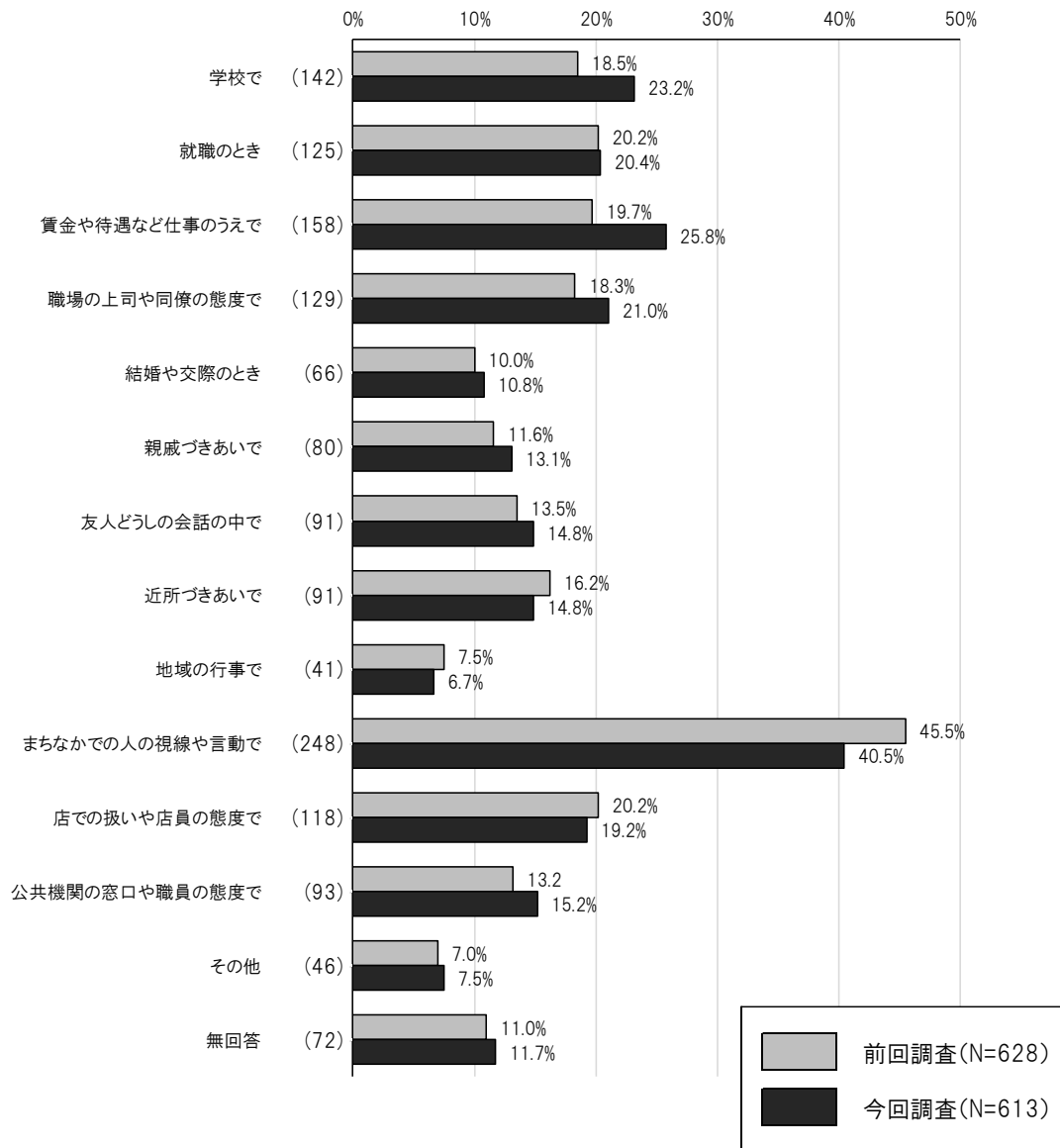
日中の過ごし方無回答(n=16)はクロス集計の対象としていません(29ページ参照)。また、重複回答を含むため、件数の合計(無回答を含む)は母集団(N=880)の件数を上回ります。

問 34 で差別や偏見がある（「あると感じている（感じた）」「感じたことはないが、あると思う」）と回答された方（613 件）におたずねします。

問 34-1 差別や偏見をどのような機会や場所で感じましたか。【複数回答】

「まちなかでの人の視線や言動で」は40.5%が最も高く、次いで「賃金や待遇など仕事のうえで」が25.8%、「学校で」が23.2%となっています。

前回調査と比べると、「学校で」「賃金や待遇など仕事のうえで」が増加していますが、回答傾向として大きな差はありません。



●差別や偏見を感じた機会・場所×日中の過ごし方別

「まちなかでの人の視線や言動で」は、福祉施設（地域活動支援センター、生活介護など）に通っている方で高くなっています。

「学校で」は、特別支援学校に通っている方と、小・中学校の特別支援学級に通っている方、小・中学校の普通学級、高校、大学、専門学校に通っている方の両方で差がみられます。

「結婚や交際のとき」は、自分で事業・商売をしている方、家族の事業・商売を手伝っている方で高くなっています。

	学校で	就職のとき	賃金や待遇など仕事のうえで	職場の上司や同僚の態度で	結婚や交際のとき	親戚づきあいで	友人どうしの会話の中で	近所づきあいで	地域の行事で	まちなかでの人の視線や言動で	店での扱いや店員の態度で	公共機関の窓口や職員の態度で	その他	無回答
総数 (N=613)	18.4%	24.9%	33.8%	31.3%	16.4%	19.4%	20.9%	21.4%	4.0%	28.9%	17.9%	18.9%	11.9%	8.5%
幼稚園・保育園・こども園に通っている (n=10)	0.0%	10.0%	20.0%	20.0%	0.0%	30.0%	20.0%	20.0%	10.0%	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%
通所施設(児童発達支援・放課後デイサービス事業所を含む)に通っている (n=56)	25.0%	3.6%	16.1%	8.9%	5.4%	10.7%	17.9%	12.5%	10.7%	53.6%	19.6%	14.3%	7.1%	8.9%
特別支援学校に通っている (n=40)	30.0%	12.5%	22.5%	7.5%	7.5%	10.0%	20.0%	10.0%	15.0%	55.0%	22.5%	5.0%	10.0%	2.5%
小・中学校の特別支援学級に通っている (n=25)	64.0%	16.0%	12.0%	0.0%	8.0%	0.0%	16.0%	8.0%	4.0%	40.0%	12.0%	8.0%	0.0%	8.0%
小・中学校の普通学級、高校、大学、専門学校に通っている (n=21)	71.4%	14.3%	19.0%	4.8%	9.5%	4.8%	28.6%	4.8%	0.0%	23.8%	0.0%	0.0%	4.8%	9.5%
会社や店などで働いている、または公務員をしている (n=189)	20.1%	28.0%	31.7%	31.2%	10.6%	6.9%	12.7%	9.5%	4.8%	31.7%	19.0%	12.2%	7.9%	13.8%
自分で事業・商売をしている (n=11)	27.3%	45.5%	36.4%	36.4%	36.4%	9.1%	27.3%	36.4%	18.2%	54.5%	27.3%	36.4%	9.1%	18.2%
家族の事業・商売を手伝っている (n=9)	11.1%	33.3%	11.1%	22.2%	33.3%	11.1%	11.1%	22.2%	0.0%	22.2%	11.1%	22.2%	22.2%	22.2%
自宅で内職をしている (n=3)	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
就労訓練に通っている(就労移行支援・就労継続支援A型・B型) (n=80)	28.8%	26.3%	40.0%	22.5%	16.3%	18.8%	17.5%	20.0%	5.0%	38.8%	20.0%	13.8%	8.8%	8.8%
療養を中心とした生活をしている(入院、デイケア通所を含む) (n=50)	16.0%	28.0%	26.0%	28.0%	24.0%	22.0%	22.0%	22.0%	6.0%	40.0%	22.0%	16.0%	10.0%	14.0%
福祉施設(地域活動支援センター、生活介護など)に通っている (n=76)	23.7%	9.2%	19.7%	11.8%	7.9%	18.4%	7.9%	23.7%	11.8%	65.8%	26.3%	14.5%	6.6%	9.2%
家事や子育て・介護などをしている (n=65)	16.9%	23.1%	23.1%	29.2%	9.2%	23.1%	18.5%	20.0%	7.7%	32.3%	15.4%	30.8%	7.7%	13.8%
特に何もしていない (n=78)	14.1%	14.1%	20.5%	24.4%	6.4%	15.4%	16.7%	14.1%	5.1%	41.0%	19.2%	19.2%	10.3%	10.3%
その他 (n=36)	13.9%	16.7%	19.4%	33.3%	11.1%	16.7%	5.6%	27.8%	13.9%	44.4%	13.9%	13.9%	13.9%	5.6%

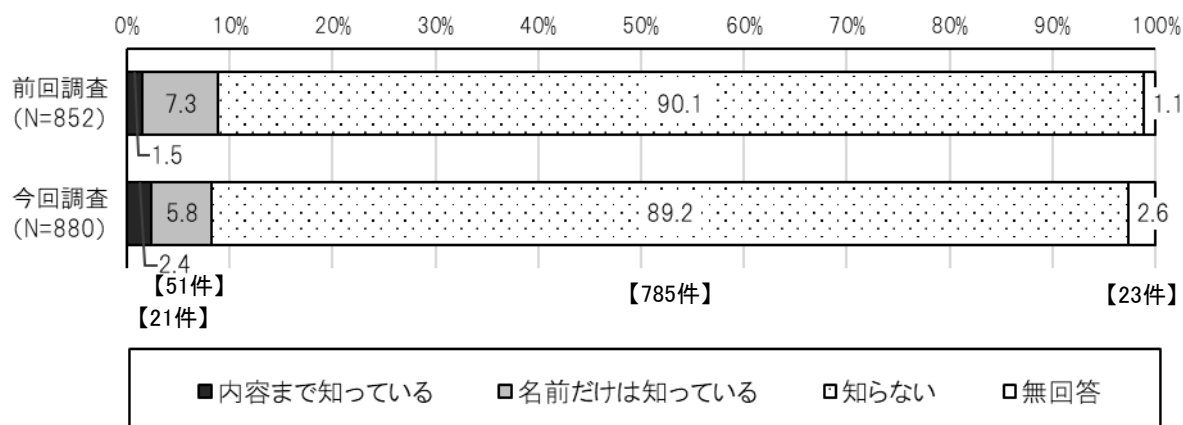
日中の過ごし方別の回答数(n値)については、91ページ(差別や偏見の実感×日中の過ごし方別)のグラフ内の各日中の過ごし方別の回答数(n値)に「あると感じている(感じた)」と「感じたことはないが、あると思う」の回答割合の合計を乗じた値です【例：幼稚園・保育園・こども園に通っている n=10[n=11×(54.5%+36.4%)]】。

重複回答を含むため、件数の合計(無回答を含む)は母集団(N=613)の件数を上回ります。

9. コミュニケーションについて

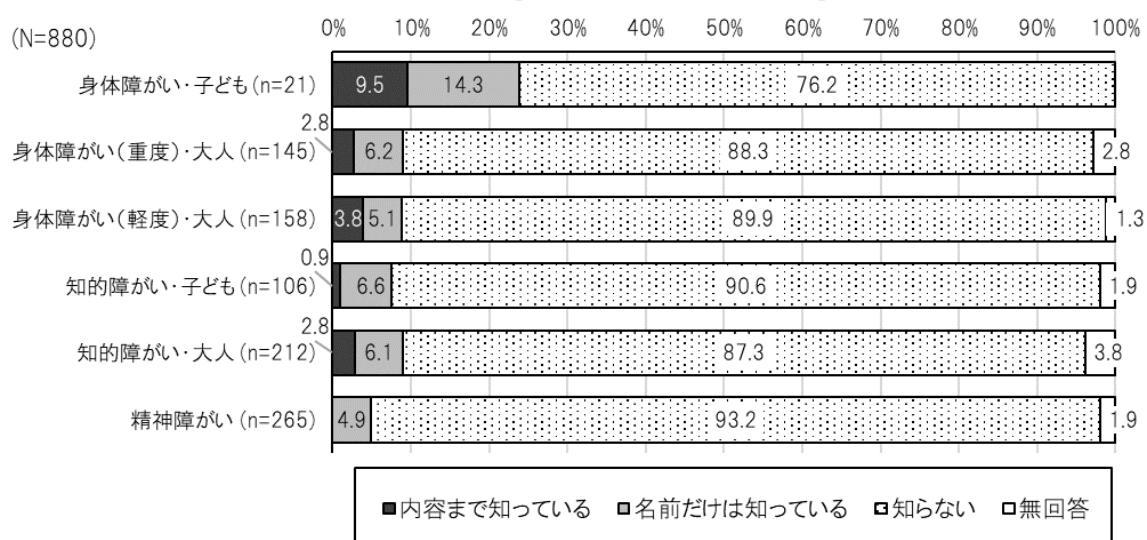
問 35. 令和2年4月1日に「生駒市手話言語の普及並びに障がいの特性に応じた多様なコミュニケーション手段の理解及び利用の促進に関する条例」が施行されましたが、このことを知っていますか。

「内容まで知っている」が2.4%、「名前だけは知っている」が5.8%、「知らない」が89.2%となっています。前回調査と比べると、大きな変化はありません。



● 条例の認知×障がいの種別

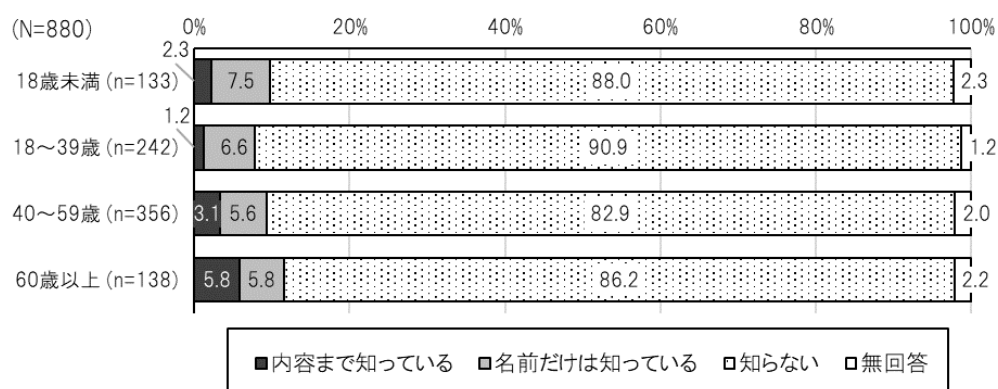
身体障がい・子どもの「内容まで知っている」「名前だけは知っている」が高くなっています。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2ページ参照)。

● 条例の認知×年齢別(4区分)

60歳以上の「内容まで知っている」が他の年齢層に比べて高くなっていますが、回答傾向として大きな差はみられません。

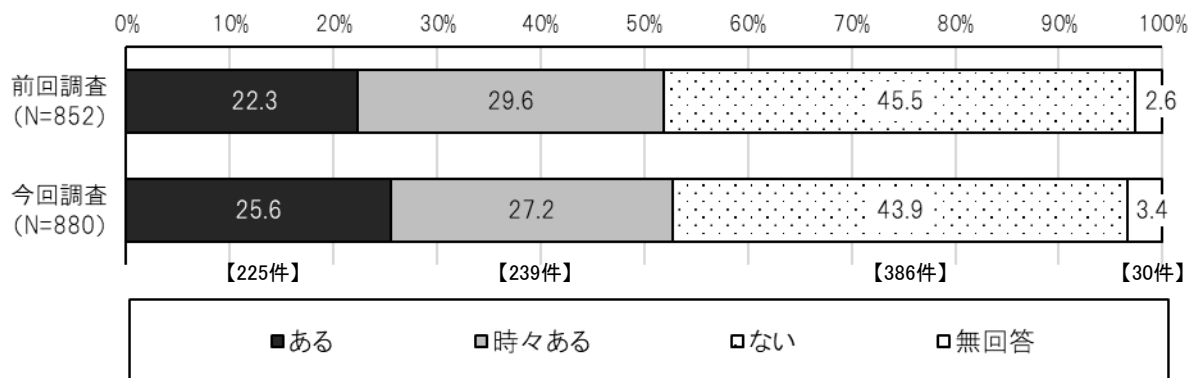


年齢別については、年齢無回答(n=11)をクロス集計の対象としていません(5ページ参照)。

問 36. コミュニケーションに支障を感じることがありますか。

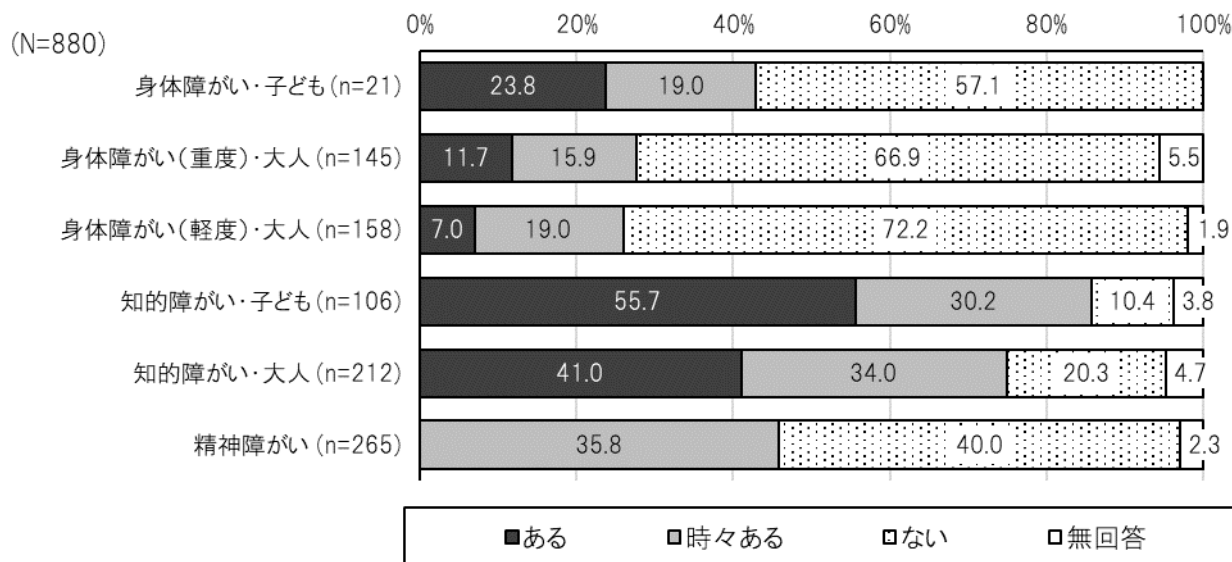
「ある」が25.6%、「時々ある」が27.2%、「ない」が43.9%となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はありません。



●コミュニケーションに支障を感じる×障がいの種別

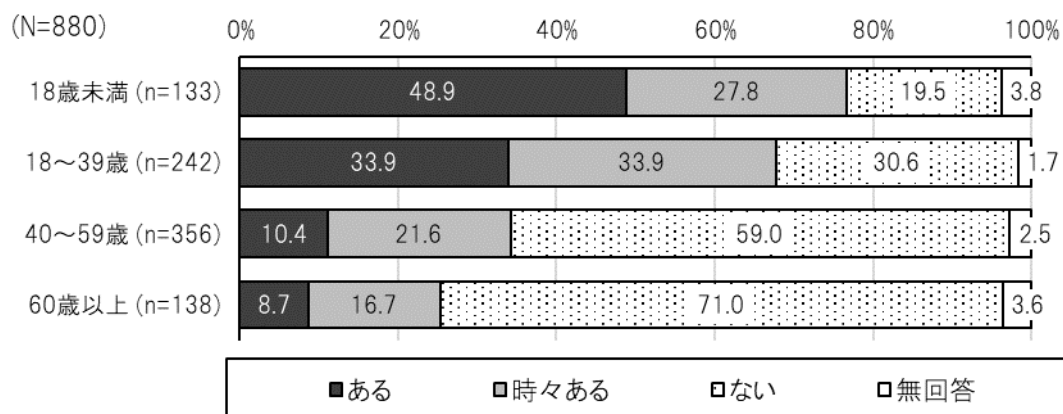
子ども・大人ともに知的障がいの方の「ある」が高くなっています。精神障がいの方は「ある」の回答がありませんでした。



障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●コミュニケーションに支障を感じる×年齢別(4区分)

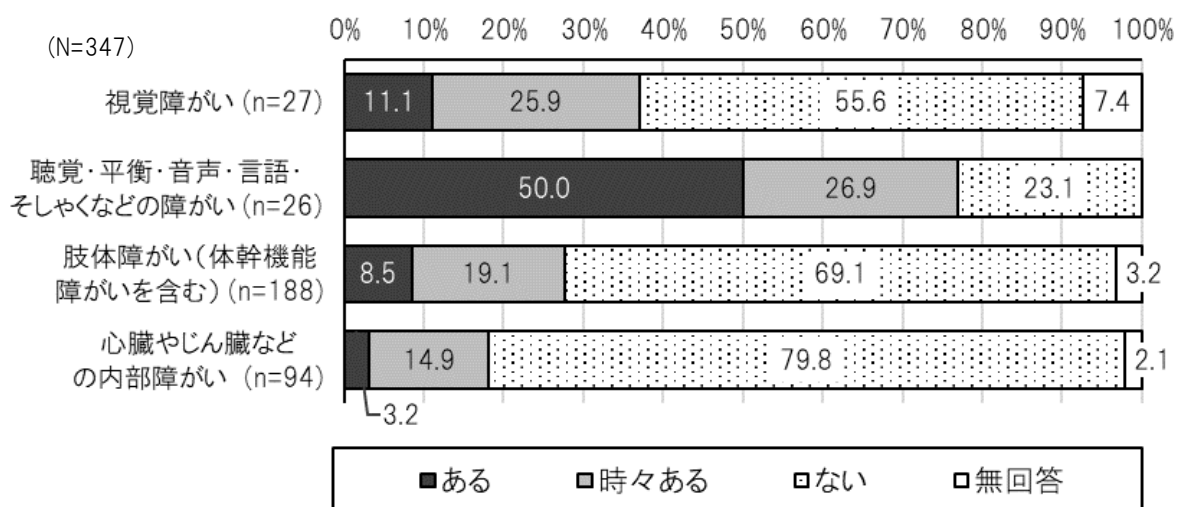
年齢が上がるにつれて、「ある」「時々ある」いずれも小さくなっています。



年齢別については、年齢無回答(n=11)をクロス集計の対象としていません(5 ページ参照)。

●コミュニケーションに支障を感じる×身体障害者手帳所持者の障がいの内容別

身体障害者手帳所持者の方の障がいの内容別でみると、聴覚・平衡・音声・言語・そしゃくなどの障がいの方の「ある」が特に高くなっています。



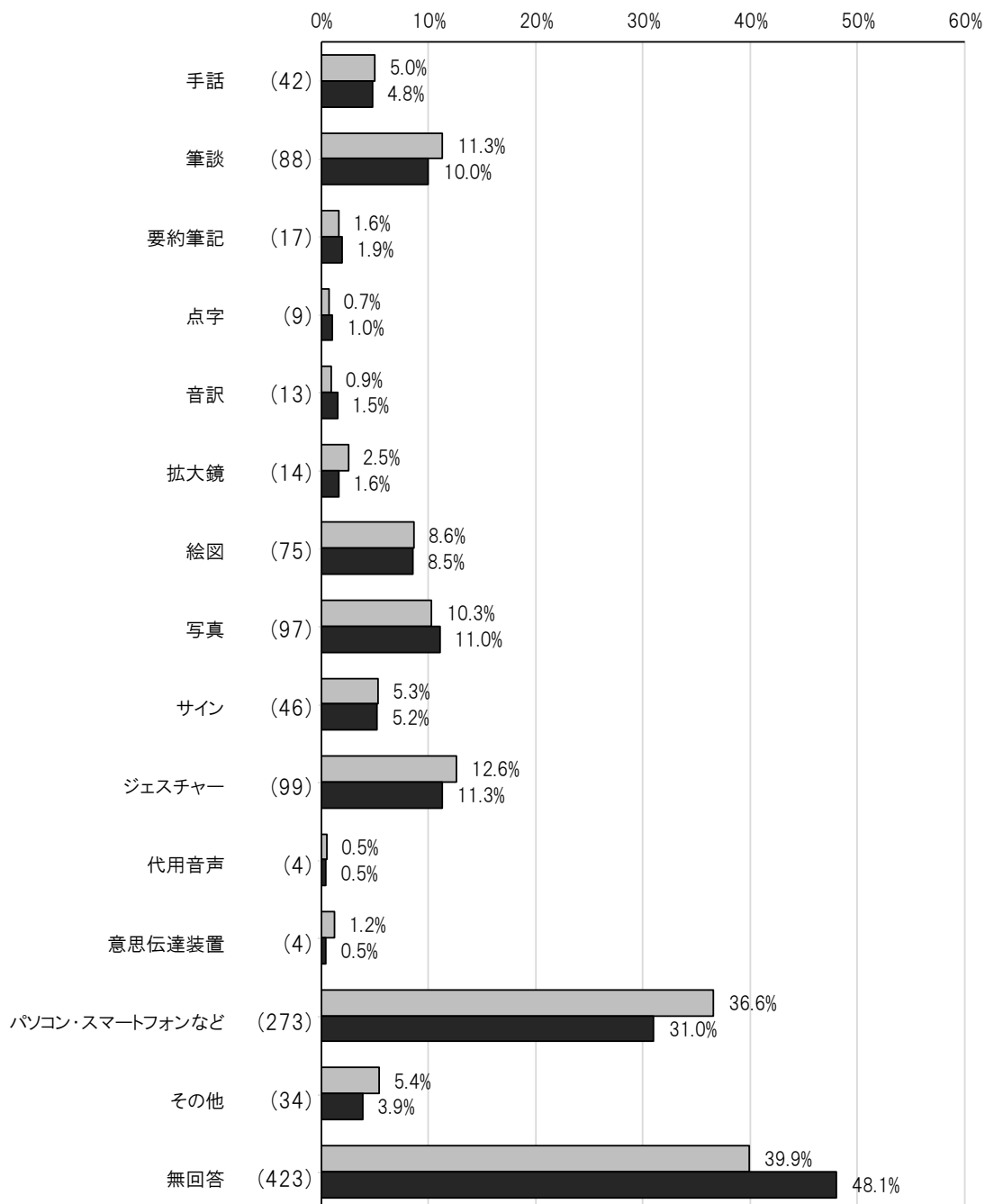
障がいの内容無回答(n=27)はクロス集計の対象としていません(7ページ上段参照)。また、重複回答を含むため、件数の合計(無回答を含む)は母集団(N=347)の件数を上回ります。

問 37. 利用したことがあるコミュニケーション手段は何ですか。また、今後利用してみたいコミュニケーション手段は何ですか。

①利用したことがあるコミュニケーション手段【複数回答】

「パソコン・スマートフォンなど」が31.0%と最も高く、次いで「ジェスチャー」が11.3%、「写真」が11.0%、「筆談」が10.0%となっています。

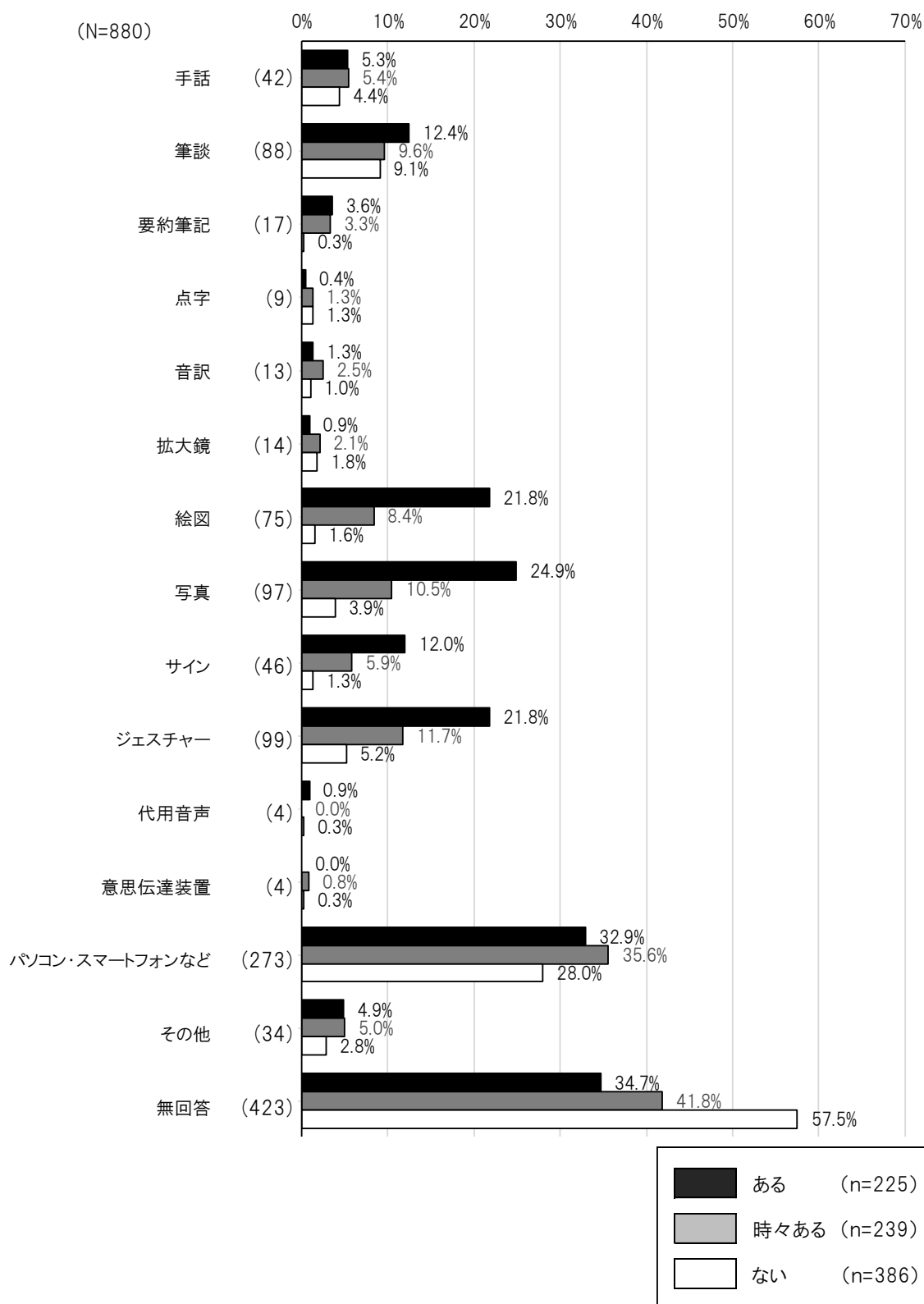
前回調査と比べると、回答傾向として大きな変化はありません。



前回調査(N=852)
今回調査(N=880)

●利用したことがあるコミュニケーション手段×コミュニケーション支障の有無別

コミュニケーション支障の有無別でみると、「絵図」「写真」「サイン」「ジェスチャー」では、支障の有無によって差がみられます。

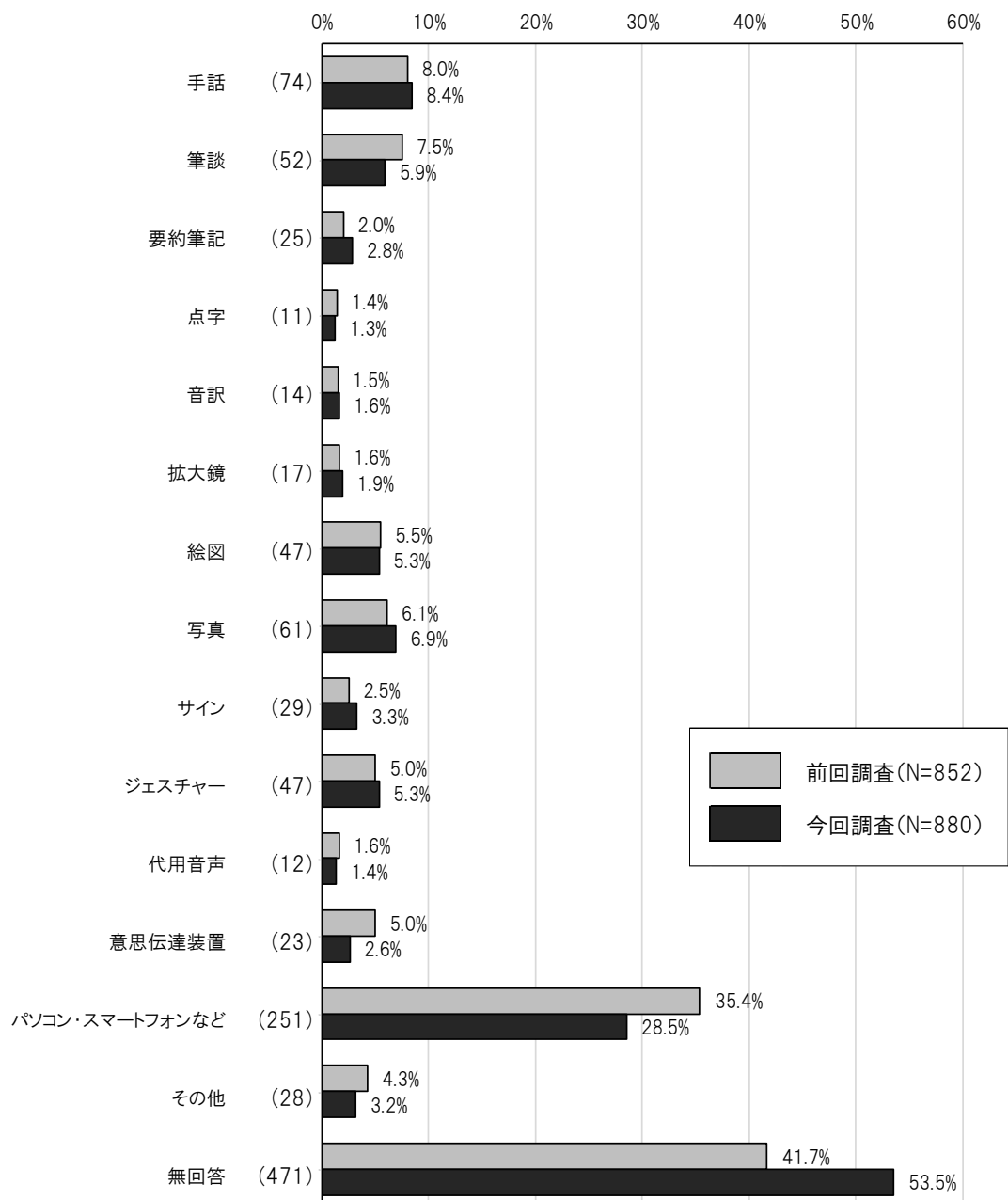


コミュニケーションに支障を感じるの無回答(n=30)を集計の対象としていません(95 ページ上段参照)。

②今後利用してみたいコミュニケーション手段【複数回答】

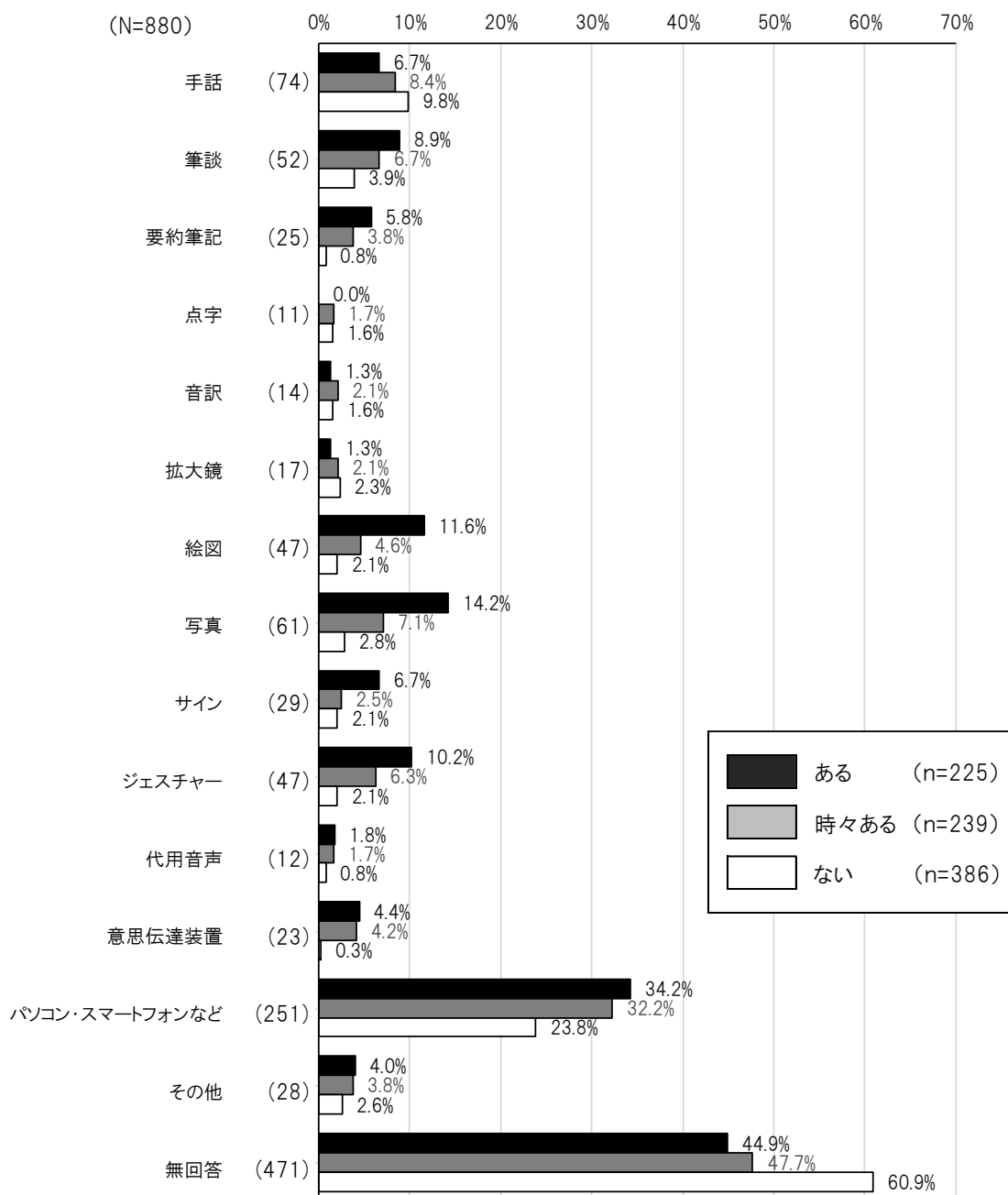
「パソコン・スマートフォンなど」が28.5%と最も高く、次いで「手話」が8.4%、「写真」が6.9%となっています。

前回調査と比べると、回答傾向として大きな変化はありません。



●今後利用してみたいコミュニケーション手段×コミュニケーション支障の有無別

コミュニケーション支障の有無別でみると、現在利用している手段と同様に、「絵図」「写真」「サイン」「ジェスチャー」では、支障の有無によって差がみられます。



コミュニケーションに支障を感じるの無回答(n=30)を集計の対象としていません(95 ページ上段参照)。

●利用したことがあるコミュニケーション手段(回答が多いもののみ抽出)×障がいの種別

「ジェスチャー」「写真」「絵図」「サイン」については、知的障がい・子どもの比率が高くなっています。

	パソコン・スマートフォンなど	ジェスチャー	写真	筆談	絵図	サイン	手話
総数 (N=880)	31.0%	11.3%	11.0%	10.0%	8.5%	5.2%	4.8%
身体・子ども (n=21)	42.9%	14.3%	19.0%	14.3%	4.8%	4.8%	23.8%
身体(重度)・大人 (n=145)	27.6%	9.0%	9.0%	8.3%	4.1%	4.8%	4.1%
身体(軽度)・大人 (n=158)	29.7%	8.2%	5.1%	13.3%	3.8%	3.2%	5.1%
知的・子ども (n=106)	27.4%	26.4%	32.1%	5.7%	30.2%	21.7%	4.7%
知的・大人 (n=212)	21.2%	13.2%	12.7%	7.5%	11.3%	3.3%	4.2%
精神 (n=265)	40.8%	9.1%	6.4%	10.2%	4.5%	2.6%	3.4%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)については本集計の対象としていません(2 ページ参照)。

●今後利用してみたいコミュニケーション手段(回答が多いもののみ抽出)×障がいの種別

現在利用している手段と同様に「ジェスチャー」「写真」「絵図」「サイン」については、知的障がい・子どもの比率が高くなっていますが、総じて現在利用している手段に比べて低くなっているため、他の障がい種別との差が小さくなっています。

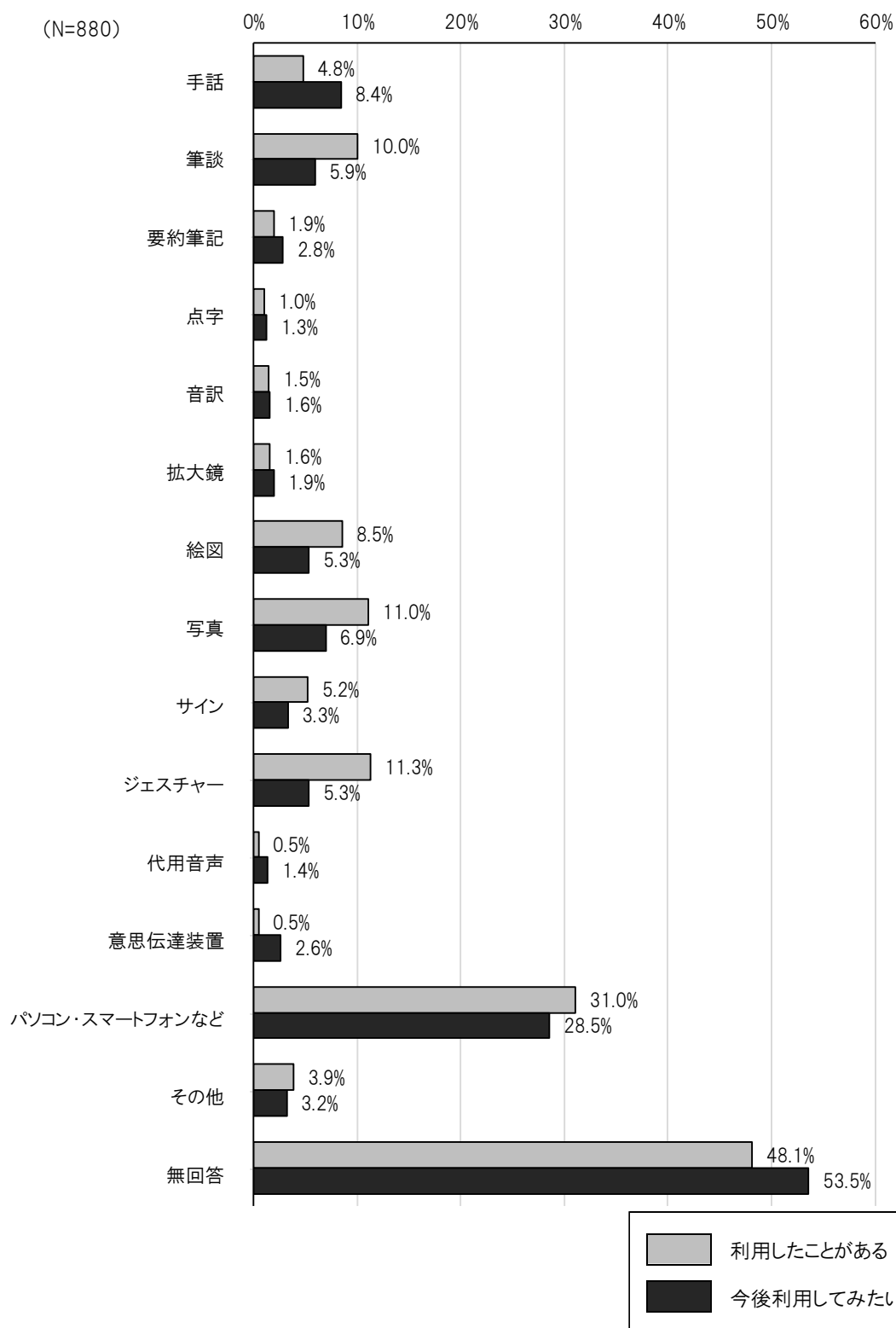
	パソコン・スマートフォンなど	ジェスチャー	写真	筆談	絵図	サイン	手話
総数 (N=880)	28.5%	5.3%	6.9%	5.9%	5.3%	3.3%	8.4%
身体・子ども (n=21)	38.1%	9.5%	14.3%	14.3%	4.8%	0.0%	19.0%
身体(重度)・大人 (n=145)	28.3%	3.4%	4.1%	5.5%	2.8%	2.8%	4.1%
身体(軽度)・大人 (n=158)	26.6%	4.4%	2.5%	6.3%	3.2%	2.5%	11.4%
知的・子ども (n=106)	29.2%	10.4%	17.0%	3.8%	15.1%	8.5%	7.5%
知的・大人 (n=212)	22.2%	7.1%	8.5%	2.8%	8.0%	4.2%	7.5%
精神 (n=265)	33.2%	4.5%	6.8%	7.9%	3.8%	2.6%	9.4%

障がいの種別については、重複所持者を含むため、件数の合計は母集団(N=880)の件数を上回ります。また、障がいの種別区分不可(n=33)については本集計の対象としていません(2 ページ参照)。

★利用したことがあるコミュニケーション手段と今後利用してみたいコミュニケーション手段の比較

「パソコン・スマートフォンなど」は、双方で最も高くなっていますが、利用したことがあるに比べて今後利用してみたいの比率がやや低くなっています。

「手話」については、利用したことがある手段が4.8%である一方で、今後利用してみたい手段としては8.4%と高くなっています。



利用したことがあるコミュニケーション手段は 97 ページ参照、今後利用してみたいコミュニケーション手段は 99 ページ参照。

問 38. この条例に関して、ご意見があればご記入ください。【自由意見】

「特になし」などを除く記入件数は39件となっています。

障がい種別による回答件数は以下のとおりであり、身体障がい（軽度）・大人、精神障がいの方の回答が多くなっています。

●障がいの種別による回答件数

記入内容の分類	件数	備考
身体障がい・子ども	1 件	
身体障がい（重度）・大人	4 件	
身体障がい（軽度）・大人	10 件	うち 2 件重複（知的）
身体障がい（程度無回答）・大人	2 件	
知的障がい・子ども	2 件	
知的障がい・大人	6 件	重複 2 件を除く
精神障がい	14 件	

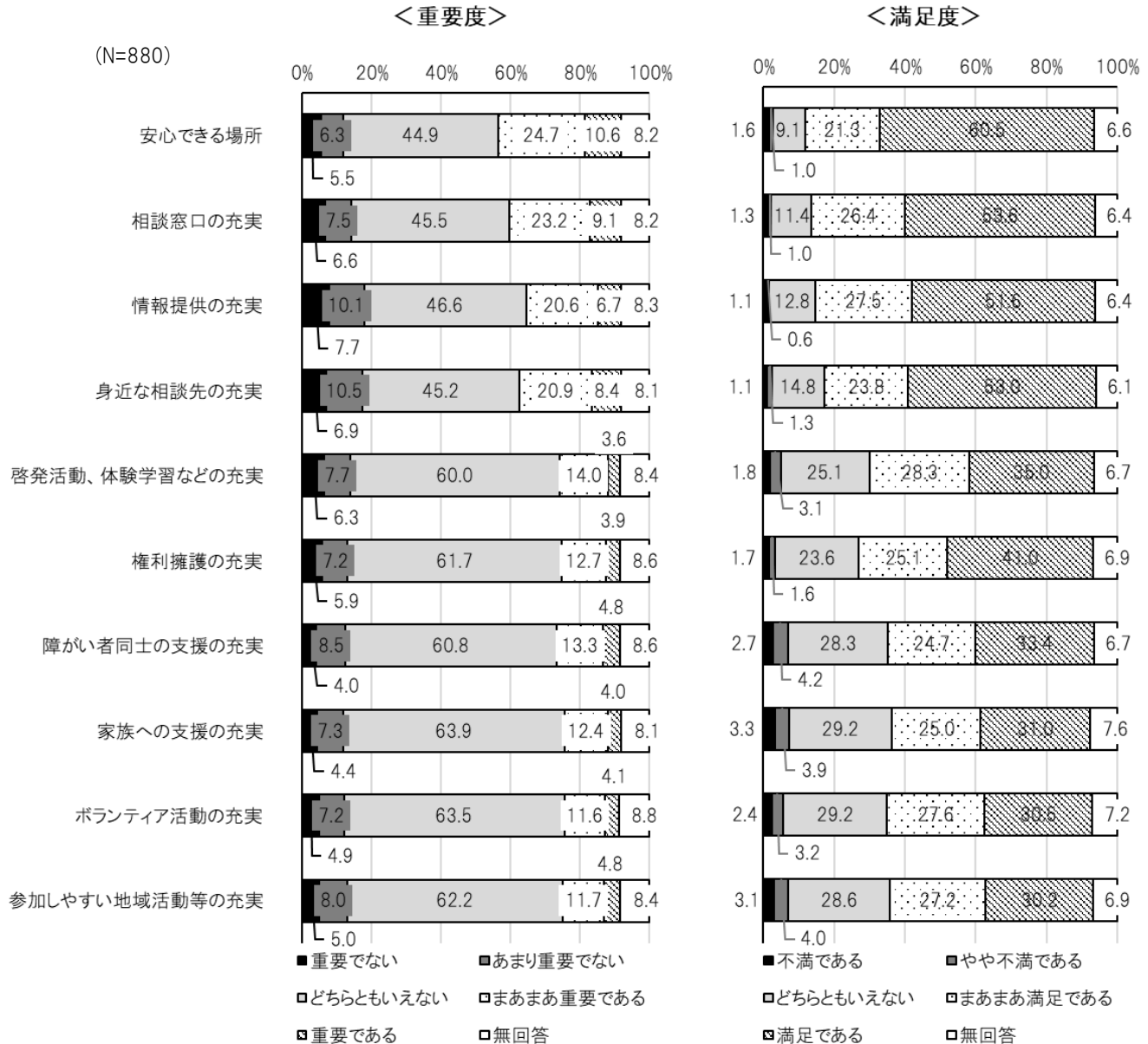
記入内容に基づく分類は以下のとおりです。

記入内容の分類	件数
手話を身近に感じ、学べる場の機会づくりなど。	13 件
音声認識の向上、音声文字変換アプリ使用などの技術の向上。	8 件
周知の不足、地道な啓発活動などが必要。	3 件
障がい者とのコミュニケーションのきっかけづくり。	3 件
障がい者側からも積極的な交流を行うことが必要。	3 件
わからない。	3 件
補聴器の性能が充分でない（音を聞き取るのに限界がある）。	2 件
よいと思う。	2 件
その他。	2 件

10. 生駒市の障がい福祉施策について

問 39. 今後、生駒市が推進する障がい福祉サービスについて、あなたの思う「重要度」「満足度」について、それぞれあてはまるものを1つずつお答えください。

「重要度」「満足度」とともに「安心できる場所」「相談窓口の充実」「身近な相談先の充実」「情報提供の充実」については、「重要である」「満足である」と評価が高くなっています。



●各施策の重要度×満足度

上記の各施策の回答内容（5段階評価）に応じて、次のようにウェイト付けして点数化します。重要度と満足度の点数を図化すると次ページのとおとなります。

$$\left(\begin{array}{|c|} \hline \text{重要でない} \\ \hline \text{不満である} \end{array} \times 0 + \begin{array}{|c|} \hline \text{あまり重要でない} \\ \hline \text{やや不満である} \end{array} \times 25 + \begin{array}{|c|} \hline \text{どちらとも} \\ \hline \text{いえない} \end{array} \times 50 + \begin{array}{|c|} \hline \text{まあまあ重要である} \\ \hline \text{まあまあ満足である} \end{array} \times 75 + \begin{array}{|c|} \hline \text{重要である} \\ \hline \text{満足である} \end{array} \times 100 \right) \div \begin{array}{|c|} \hline \text{回答数} \\ \hline \text{(無回答除く)} \end{array}$$

算出例：「安心できる場所」重要度 57.8 点

集計値 $0 \times 48 + 25 \times 55 + 50 \times 395 + 75 \times 217 + 100 \times 93 = 0 + 1,375 + 19,750 + 16,275 + 9,300 = 46,700$

回答数 $880 - 880 \times 8.2\% \text{ (無回答の比率)} = 880 - 72 = 808$

$46,700 \text{ (集計値)} \div 808 \text{ (回答数)} = 57.79$

算出例：「安心できる場所」満足度 86.9 点

集計値 $0 \times 14 + 25 \times 9 + 50 \times 80 + 75 \times 187 + 100 \times 532 = 0 + 225 + 4,000 + 14,025 + 53,200 = 71,450$

回答数 $880 - 880 \times 6.6\% \text{ (無回答の比率)} = 880 - 58 = 822$

$71,450 \text{ (集計値)} \div 822 \text{ (回答数)} = 86.92$

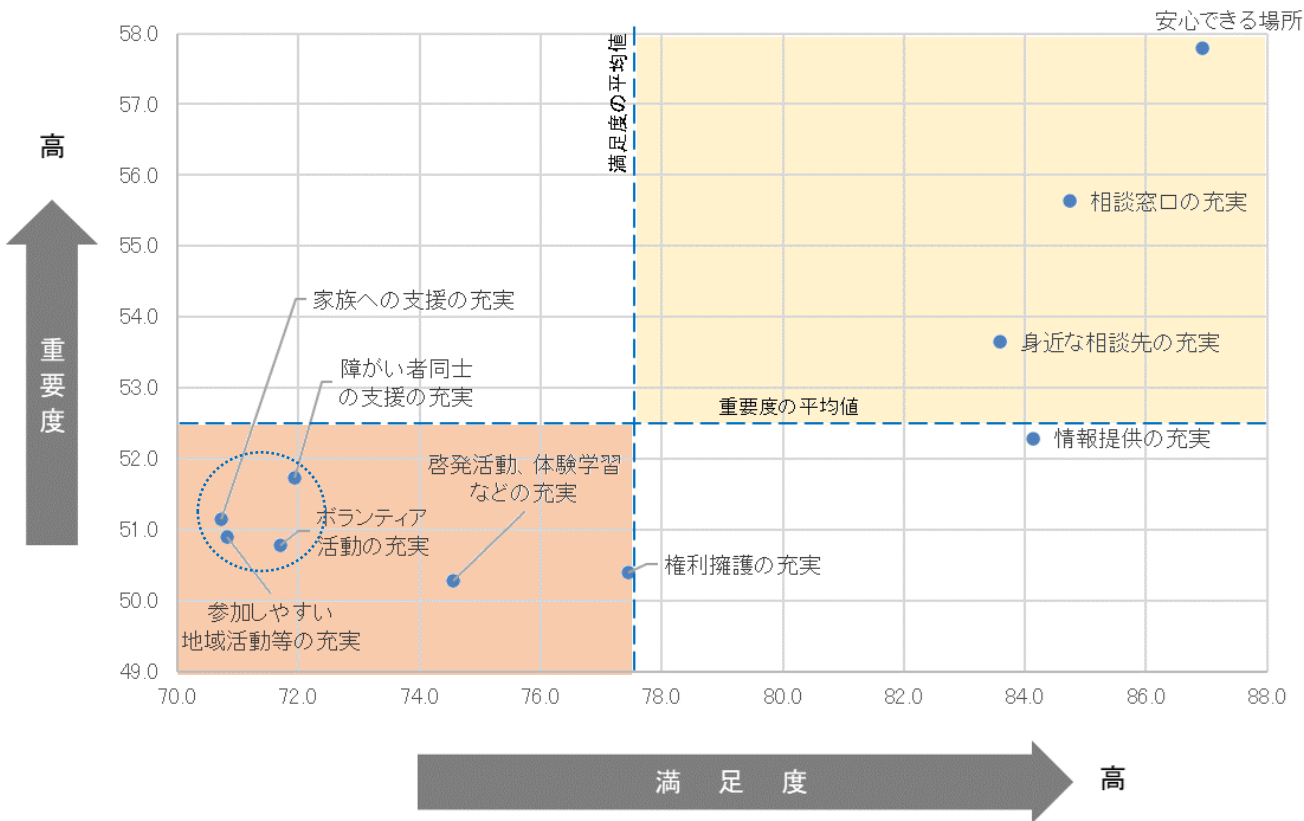
5段階評価の回答件数に応じた各施策の重要度、満足度の点数

施策名	<重要度>						点数	<満足度>						点数
	重要でない	あまり重要でない	どちらともいえない	まあまあ重要である	重要である	集計値 回答数		不満である	やや不満である	どちらともいえない	まあまあ満足である	満足である	集計値 回答数	
	×0	×25	×50	×75	×100			×0	×25	×50	×75	×100		
安心できる場所	0 48	1,375 55	19,750 395	16,275 217	9,300 93	46,700 808	57.8	0 14	225 9	4,000 80	14,025 187	53,200 532	71,450 822	86.9
相談窓口の充実	0 58	1,650 66	20,000 400	15,300 204	8,000 80	44,950 808	55.6	0 11	225 9	5,000 100	17,400 232	47,200 472	69,825 824	84.7
情報提供の充実	0 68	2,225 89	20,500 410	13,575 181	5,900 59	42,200 807	52.3	0 10	125 5	5,650 113	18,150 242	45,400 454	69,325 824	84.1
身近な相談先の充実	0 61	2,300 92	19,900 398	13,800 184	7,400 74	43,400 809	53.6	0 10	275 11	6,500 130	15,675 209	46,600 466	69,050 826	83.6
啓発活動、体験学習などの充実	0 55	1,700 68	26,400 528	9,225 123	3,200 32	40,525 806	50.3	0 16	675 27	11,050 221	18,675 249	30,800 308	61,200 821	74.5
権利擁護の充実	0 52	1,575 63	27,150 543	8,400 112	3,400 34	40,525 804	50.4	0 15	350 14	10,400 208	16,575 221	36,100 361	63,425 819	77.4
障がい者同士の支援の充実	0 35	1,875 75	26,750 535	8,775 117	4,200 42	41,600 804	51.7	0 24	925 37	12,450 249	16,275 217	29,400 294	59,050 821	71.9
家族への支援の充実	0 39	1,600 64	28,100 562	8,175 109	3,500 35	41,375 809	51.1	0 29	850 34	12,850 257	16,500 220	27,300 273	57,500 813	70.7
ボランティア活動の充実	0 43	1,575 63	27,950 559	7,650 102	3,600 36	40,775 803	50.8	0 21	700 28	12,850 257	18,225 243	26,800 268	58,575 817	71.7
参加しやすい地域活動等の充実	0 44	1,750 70	27,350 547	7,725 103	4,200 42	41,025 806	50.9	0 27	875 35	12,600 252	17,925 239	26,600 266	58,000 819	70.8
平均値							52.5							77.7

「安心できる場所」「相談窓口の充実」「身近な相談先の充実」については、重要度も満足度がとても高い状況にあり、引き続き取り組み継続することが望まれていると考えられます。

「障がい者同士の支援の充実」「家族への支援の充実」「参加しやすい地域活動等の充実」「ボランティア活動の充実」については、重要度が平均より低く、満足度が低い状況にあるため、ニーズに合わせた実施内容の転換が望まれていると考えられます。

各施策の重要度、満足度の相関図（散布図）



●各施策の重要度、満足度×障がいの種別

今後の福祉施策を検討するため、各施策（問39の10施策、104ページ参照）については、障がいの種別に応じた重要度、満足度のクロス集計を実施します。

なお、集計については、次の方法で実施し、その結果を次ページ以降に示します。

・問39では、重要度、満足度とも5段階評価ですが、次ページ以降では右表のように3段階評価に再集計します。

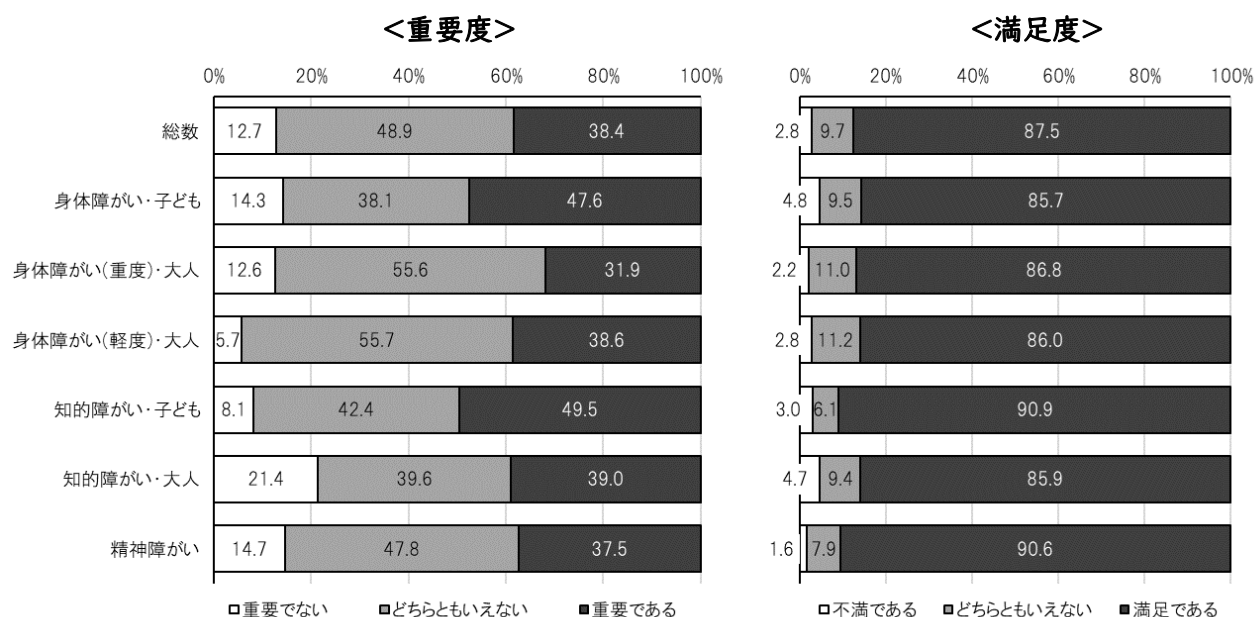
	次ページ以降の集計	問39(104ページ)の集計
重要度	『重要である』	= 「まあまあ重要である」+「重要である」
	『どちらともいえない』	= 「どちらともいえない」
	『重要でない』	= 「あまり重要でない」+「重要でない」
満足度	『満足である』	= 「まあまあ満足である」+「満足である」
	『どちらともいえない』	= どちらともいえない
	『不満である』	= 「やや不満である」+「不満である」

- ・問39の各施策への無回答はクロス集計に対象としていません。
- ・障がいの種別区分不可(n=33)はクロス集計に対象としていません(2ページ参照)。

①安心できる場所

「重要である」の評価については、身体障がい・子ども、知的障がい・子どもが他に比べて高くなっています。

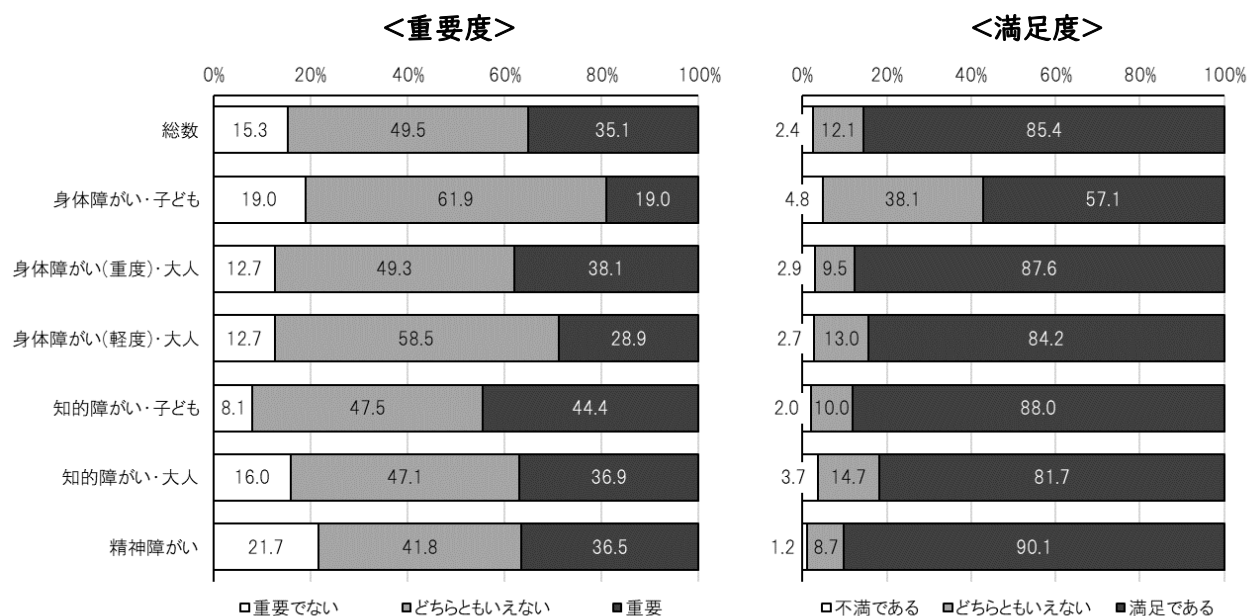
「満足である」の評価については、知的障がい・子ども、精神障がい・子どもが他に比べて高くなっていますが、大きな差はありません。



②相談窓口の充実

「重要である」の評価については、知的障がい・子どもが他に比べて高く、身体障がい・子どもが低くなっています。

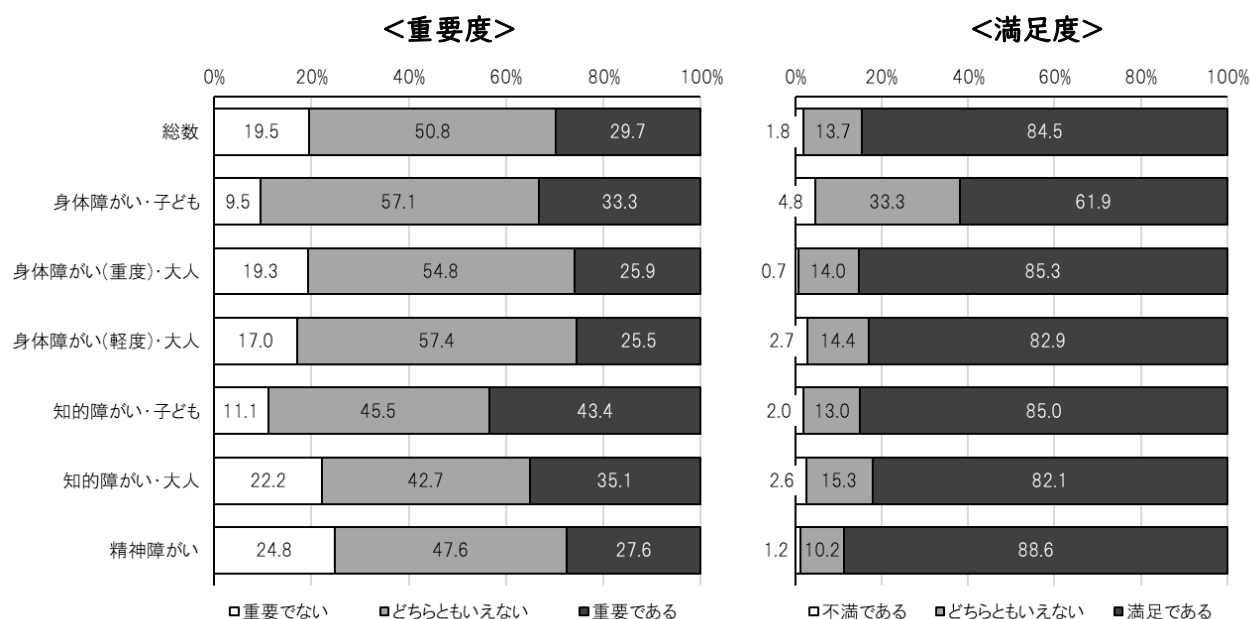
「満足である」の評価については、身体障がい・子どもが低くなっています。



③情報提供の充実

「重要である」の評価については、知的障がい・子どもが他に比べて高くなっています。

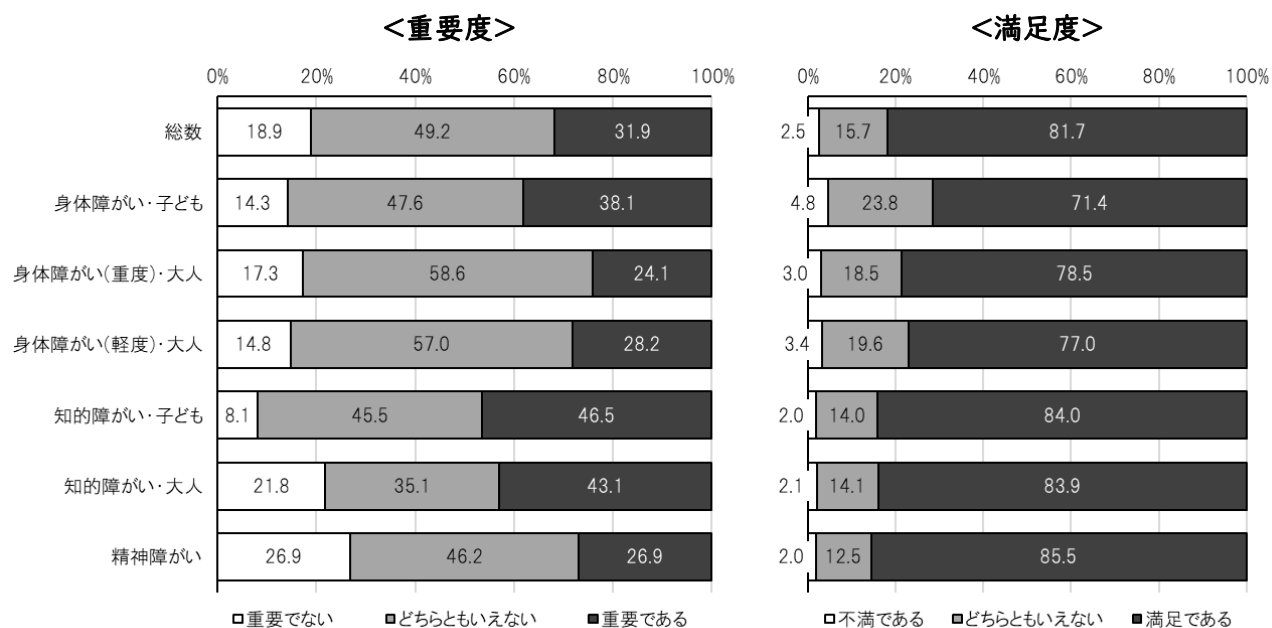
「満足である」の評価については、身体障がい・子どもが低くなっています。



④身近な相談先の充実

「重要である」の評価については、知的障がい・子ども、知的障がい・大人が他に比べて高くなっています。

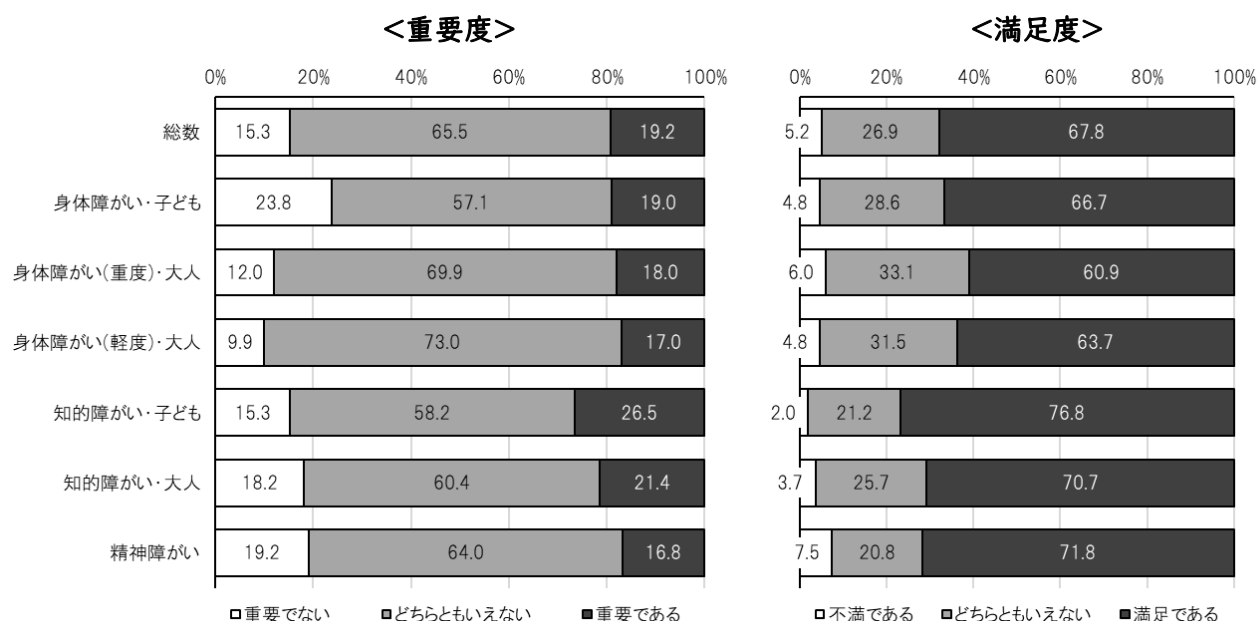
「満足である」の評価については身体障がい・子どもが、他に比べて低くなっていますが、大きな差はありません。



⑤啓発活動、体験学習などの充実

「重要である」の評価については、知的障がい・子どもが他に比べて高くなっています。

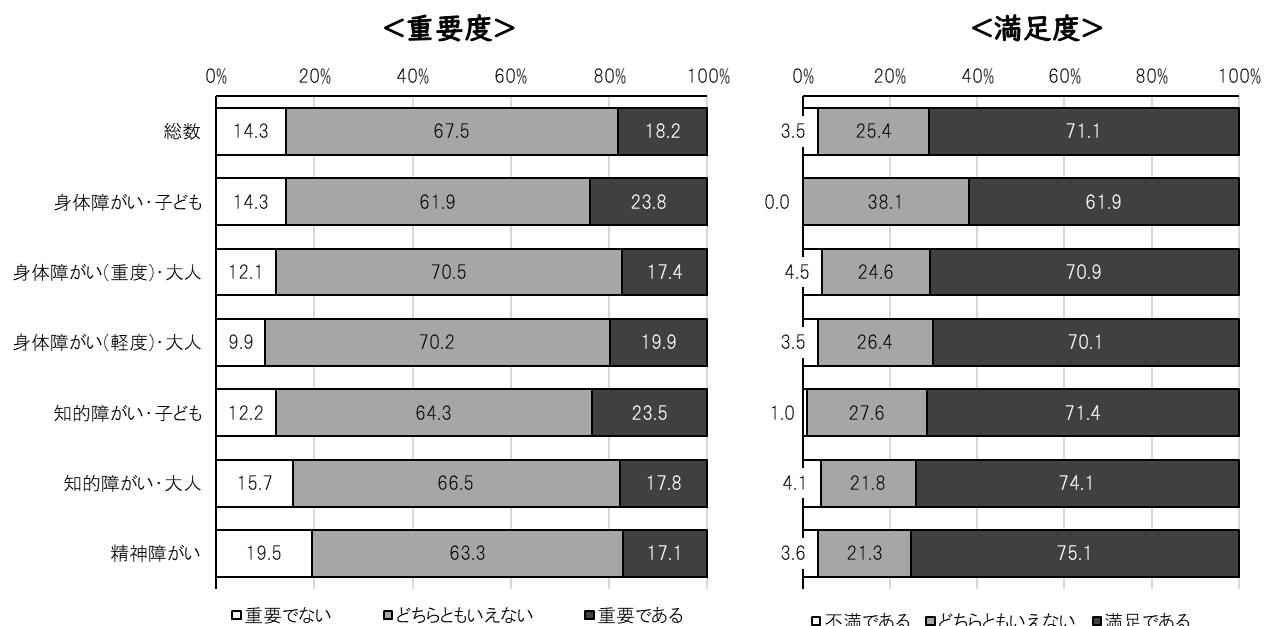
「満足である」の評価についても、知的障がい・子どもが他に比べて高くなっています。



⑥権利擁護の充実

「重要である」の評価については、身体障がい・子ども、知的障がい・子どもが他に比べてやや高くなっていますが、大きな差がありません。

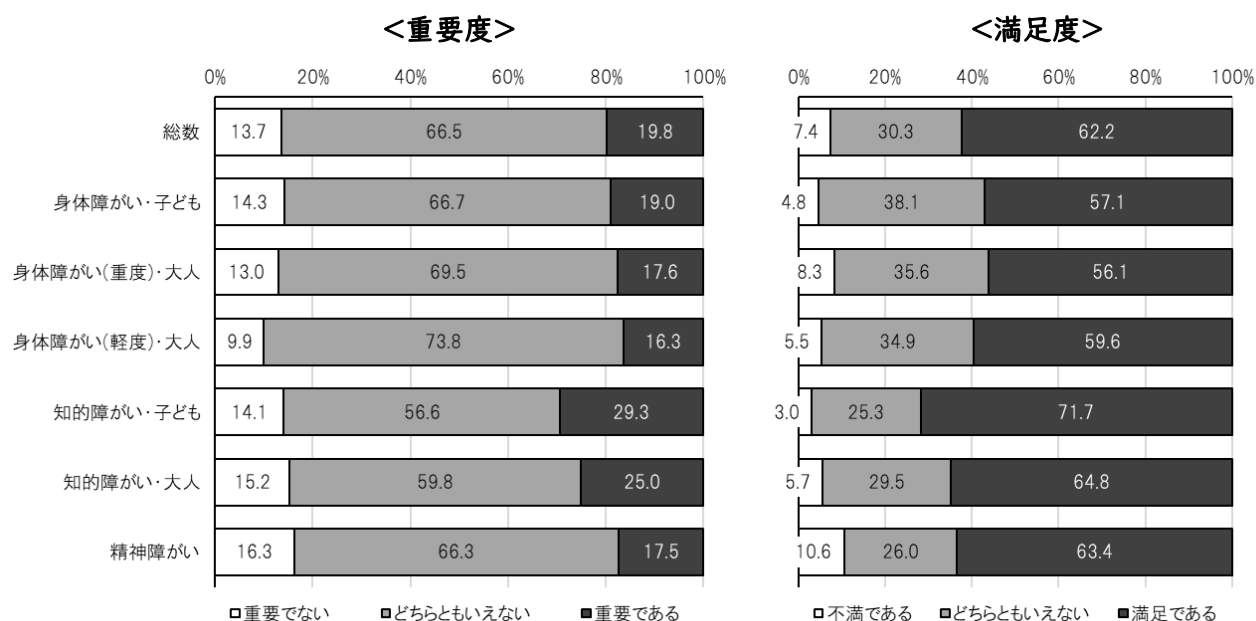
「満足である」の評価については身体障がい・子どもが他に比べて低くなっていますが、大きな差はありません。



⑦障がい者同士の支援の充実

「重要である」の評価については、知的障がい・子ども、知的障がい・大人が他に比べて高くなっています。

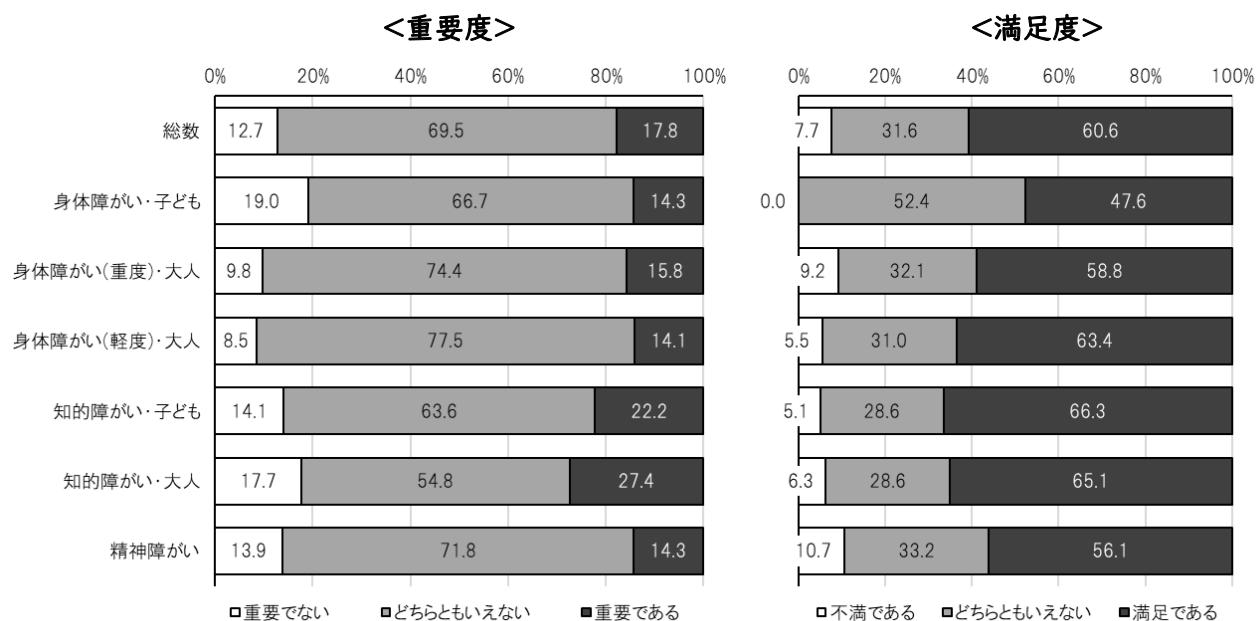
「満足である」の評価については知的障がい・子どもが他に比べて高くなっています。



⑧家族への支援の充実

「重要である」の評価については、知的障がい・子ども、知的障がい・大人が他に比べて高くなっています。

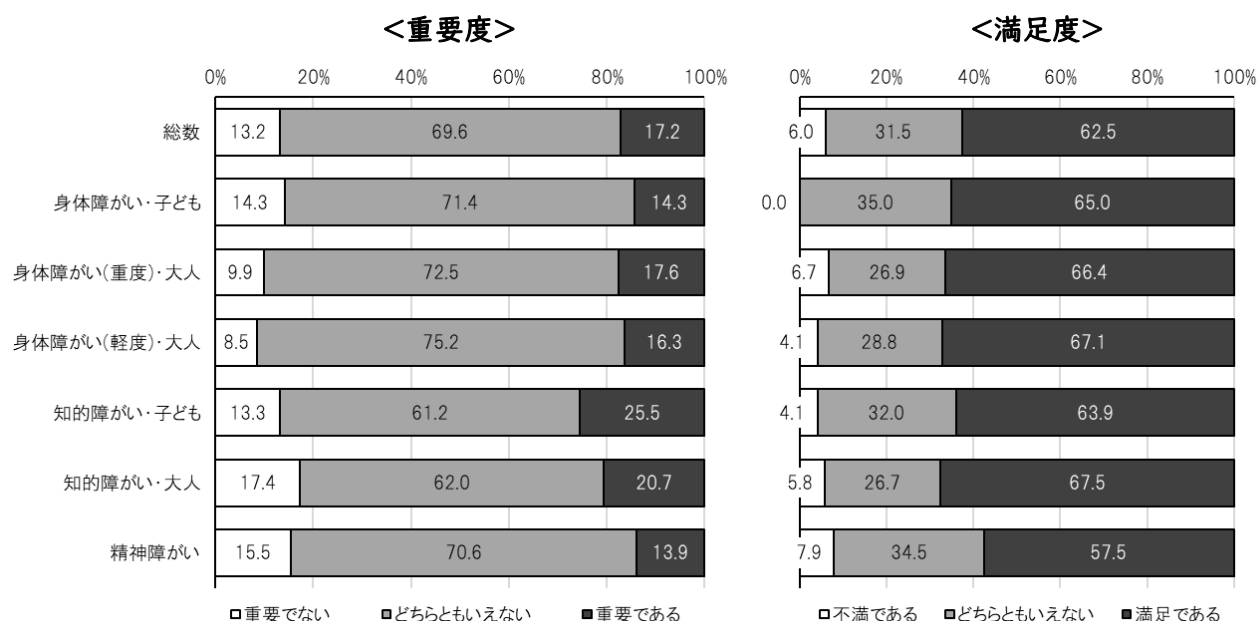
「満足である」の評価についても、身体障がい・子ども、精神障がい者が他に比べて低くなっています。



⑨ボランティア活動の充実

「重要である」の評価については、知的障がい・子ども、知的障がい・大人が他に比べて高くなっています。

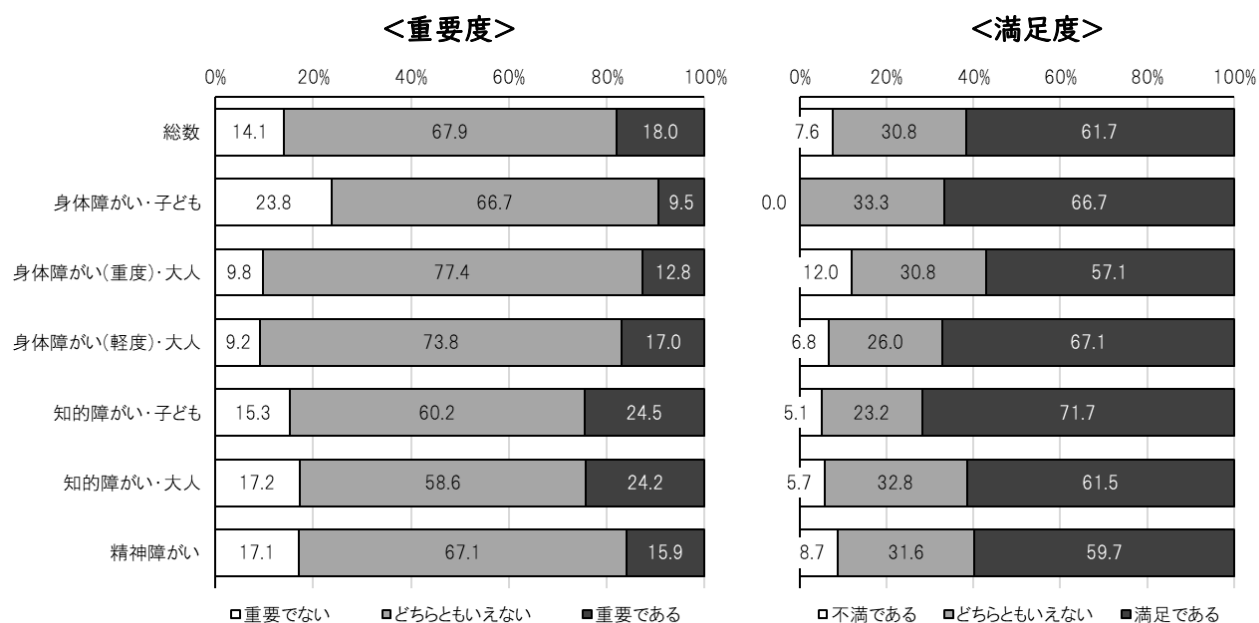
「満足である」の評価については、精神障がい者が他に比べて低くなっています。



⑩参加しやすい地域活動等の充実

「重要である」の評価については、知的障がい・子ども、知的障がい・大人が他に比べて高くなっています。

「満足である」の評価については知的障がい・子どもが他に比べて高く、身体障がい(重度)・大人、精神障がい者が他に比べて低くなっています。



11. 自由意見

回答総数 880 件において、250 件の記入があり、うち複数の意見を記載している方がいたため、意見の総数が 288 件となっています。

記入内容を踏まえて分類した 288 件の内訳については以下のとおりです。

1. 計画全般に関する内容(65 件)

将来への不安(親亡き後のことも含む)。	22 件
市の障がい福祉施策全般に対すること(主に評価できる内容)。	20 件
市の障がい福祉施策全般に対すること(主に不満などの内容)。	15 件
各事業所の人材、サービス(各ヘルパーや職員の対応)の格差など。	7 件
高齢者福祉も含めて関連すること。	1 件

2. 「生涯を通じた保健・医療サービスと療育・教育・保育の充実」に関する内容(14 件)

●早期教育・保育・療育の充実

主に障がい児福祉に関すること。	14 件
-----------------	------

3. 「地域生活のための総合的な支援体制の充実」に関する内容(136 件)

●生活支援にかかるサービスの充実

グループホームや通所施設等の福祉施設に関すること。	13 件
経済的支援に関すること。	22 件
受給手続きなどの煩雑さ。	10 件
福祉サービスに関する市からの情報発信の不足。	8 件

●相談支援の充実

主に相談支援事業などに関すること。	4 件
-------------------	-----

●生活環境の充実

主に移動手段や交通利用に関すること。	25 件
障がい者に配慮した施設の利用、開放など。	7 件

4. 「障がい者の理解促進と権利擁護の推進」に関する内容(18 件)

●啓発・交流による障がい者理解

障がいに対する偏見、差別の解消。	12 件
ヘルプマーク・ヘルプカード、あいサポート等の支援。	4 件

●権利擁護に対する支援

成年後見人制度の充実。	2 件
-------------	-----

5. 「障がい者の社会参加と就労支援の推進」に関する内容(14 件)

●就労支援の充実

主に就労支援に関すること。	14 件
---------------	------

6. 「生きいきクーポン」に関する内容(47 件)

使える商品や店舗等の拡大。	15 件
対象者、利用条件の拡充。	12 件
増額の要望。	7 件
その他。	13 件

7. その他(41 件)

アンケート調査に関する意見(難しい、分かりにくいなど)。	17 件
その他、自身の生活状況などに関するさまざまな意見。	24 件

意見の内容(抜粋)

1. 計画全般に関する内容

将来への不安(親なき後のことも含む)

定年後の生活について、大変不安を感じています。定年時には、子どもが大学生と高校生になっており、金銭面と就職(定年後の)があるかどうか不安であり、定年後の就職支援のサポートを大いに期待します。生駒市が障がい者の定年後の就職支援に手を差し伸べてほしいと思います。
現状何とか年金とパートで生きていけますが、物価がこれ以上上がれば親子2人障がい者なので不安です。災害時の福祉避難所は、1ヶ所だけで大丈夫ですか？ 足が悪くて台風の時など、どうすれば良いか不安です。
私たち(親)は、70歳半ばとなり、親亡き後の子どもの生活を心配しています。できれば生まれ育ち関わって下さった人たちが、沢山いる生駒で暮らさせてやりたいと思います。
障がいを持つ子どもが、親亡き後も幸福に暮らして欲しいと切に願っています。親が活着ている間に、どの子もグループホームが決まっていれば、親も伸び伸び過ごせると思っています。
自分は、家族もいない1人暮らしですが、もし入院などで保証人が必要になった時、頼む人がいない場合、どうしたら良いのか分かりません。

市の障がい福祉施策全般に対すること

同じ障がい者でも、障がいの内容によってサービスの格差があると感じる。「知的障がい」で使用できても、「精神障がい」で使用できないサービスが多すぎる。もっと精神障がい者でも使用できるサービスを充実させてほしい。また、子どもが使用できるサービスは多いものの、大人が使用できるサービスが少なく、不便なことも多い。
障がいの程度が軽いため、とくに支援してもらいたいことがあっても、利用できないことが多いと感じる。
介護認定を受けている高齢者には、ケアマネージャーが定期的に訪問してくれ、ケアプランなどその都度相談出来るのに、障がいの程度が3級の障がい者には、相談出来る人がいません。介護保険制度に比重を置きすぎではないかと思ひます。
家族が倒れ、何もできなくなった時の支援が何もない。窓口に相談しても、シルバー人材センターの家事支援しか受けられず、障がいに応じた支援が何ひとつ受けられないと知り、ショックを受けた。
高齢者福祉は充実していると思うが、難病や障がい者への対応が十分ではない。

各事業所の人材、サービス(各ヘルパーや職員の対応)の格差など

福祉施設ができて、それを支える人材の確保が困難だと聞いています。職員の処遇を改善するため、人材に関わる補助金の増額など、処遇改善を図っていただきたい。
強度行動障がいの方の家族は、24時間対応に疲弊されている。事業所も強度行動障がいに対応できるところが、少ない。休日や夜間に対応できる事業所はあまりない。
事業所により援助の内容がまちまちで、担当いただくヘルパーさんもちかなりたくさん変わられて、落ち着かず、その度に説明し、慣れるまで気も使い、かなり疲れます。事業所の支援内容等を統一するガイドラインとかは、ないのでしょうか。

2. 「生涯を通じた保健・医療サービスと療育・教育・保育の充実」に関する内容

主に障がい児福祉に関すること

小学校の支援学級の環境を、改善して欲しい。現場の先生の頑張りには感謝しているが、職員が足りていないように感じる。制度だけ先走り、現場が追いついていないように感じる。
児童発達支援はありがたいが、受給日数などの制限もあり、選択肢が限られていると感じる。
中学校までは、支援教室もあったが、高校からは支援を受けるなら養護学校しかなく、高校からは普通に通うとなると、何のサポートもなくなってしまうのが不安です。もっと高校や大学、就職に対してもサポートしてもらえるような福祉サービスがほしいです。
障がい者本人への福祉は、色々あり活用も出来てきていると思うが、それを支える親への福祉も充実してほしい。
障がいの程度が軽度のため、選択肢が少ない。同じ境遇(状態)の人が少なく、進学相談をにくい。支援学校と支援級の間の施設があれば、うれしい(特に中学校)。

3. 「地域生活のための総合的な支援体制の充実」に関する内容

グループホームや通所施設等の福祉施設に関すること

グループホームをもっと増やしてほしい。60歳を過ぎると介護施設に移ることとなっていますが、現実介護施設では受入れてもらえない。障がい者専用の介護施設が必要だと思う。

強度行動障がい者への理解、支援、対応ができる、病院や通所施設、グループホームがないので、地域で生活していけるように、福祉の拡大をお願いしたいです。

通所していた施設が、今年4月から急にショートステイをやめてしまいました。市役所から紹介してもらった施設にも当たってみましたが、受け入れてもらえないのが現状です。家族にとって、少しゆっくり出来る時間がなくなって、とても困っています。不測の事態が起こった時等、預かっていただく所がなく不安です。

経済的支援に関すること

各種障がい者への施策（利用料無料等）がありますが、過剰なサービスも多いと思います。例えば、駐車場の無料、拝観料の無料、NHKの受信料減免などがあり、市の対策ではないものも多いと思いますが、その分の予算は別なところに使う（バリアフリーなど）方が良いと思います。

障がい者は、医療費を助成してもらえる権利があるが、奈良県では、生駒市のみ収入により制限される制度があり、収入によって受けられたり、受けられなかったりします。県民全員が平等に受けられる様にしてほしいです。

受給手続きなどの煩雑さ

自立支援医療受給者証の更新、福祉医療の受給資格証の更新、障害者手帳の更新、障害年金の更新、これらの手続きを簡単にまとめて、できれば1度でできるようにしてほしい。

要介護の区分が変わったりすると、サービス（レンタル等）が変わるため困っています。具体的には、今までレンタルしていた車イスが、使用できなくなる事がありました。

福祉サービスに関する市からの情報発信の不足

他市から転入しましたが、そもそもどのような福祉サービスがあるのか全く知らない。自分から調べない方が悪いと言われればそれまでですが、例えば障がい者手帳の交付を受けている人へのプッシュ通知があっても良いのではと思います。

今後、障がい者が進行するのは確実なので、将来的に必要な支援にどのようなものがあるのかを具体的に知りたいです。例えば、白杖の歩行訓練や買い物に同行してくれるような支援などがあるなら利用したいです。進行する前から知っていれば安心できるので。

相談支援事業などに関すること

相談できる場所が少なすぎる。必要な情報を教えて貰えず、十年近くの間を無駄にした。本人の為になる情報を教えてくれたら、障がい者が幾分か和らいて寛解したかもしれないのに。市役所の障がい福祉課の方の対応は、いつも気遣いがあると感じています。

移動手段や交通利用に関すること

生駒市は、坂道が多く歩いて行くのが困難です（足の障がいの為）。車の運転は苦手なので、細い道や駐車場が狭いと行く気になれません。高齢の両親を連れて行くのも大変です。最近はタクシーの確保も難しくなっています（人手不足のためらしい）。

一定規模以上の施設の新設の際には、車いすで利用できる幅の広い障がい者等用駐車スペースの設置が、義務付けられていますが、現在でも当該駐車スペースに障がいのない人が駐車し、障がいのある人（障がい者、妊産婦、けが人等）の円滑な利用が、かなり阻害されて不自由しています。

鉄道乗車時に障がい者割引を受けていますが、鉄道会社ごとに方法がまちまちで、自販機で切符を買うのも困難です。全国的な統一をお願いしたいと思います。

障がい者に配慮した施設の利用、開放など

私は、医者からうつ状態と診断されており、症状の改善のため日中の散歩を勧められています。近所の公園によく散歩に行きますが、少し環境が悪く感じます。喫煙者の方があると、健康を害することになり、もう少し良い環境の中で、療養のための散歩ができれば良いと思っています。

図書館の休日に、福祉事業所の利用者さん向けに解放している日があるようですが、できれば他の障がい者にもその日に、図書館を解放していただけたらうれしいです。ぜひご検討の程、よろしくお願いいたします。

4. 「障がい者の理解促進と権利擁護の推進」に関する内容

障がいに対する偏見、差別の解消

ASD・ADHD・LDなどの精神障がいに対する偏見、差別が SNS などインターネット上で横行しており、これらへの対策や啓発を行ってほしい。

障害の「がい」を平仮名で記載されていることがあるが、そこは正しく漢字で表してほしい。本人にとって支障となっているから障害なのであって、変に気を遣われていると感じる。

障がいはひとくくりではなく、障がい者それぞれに困りごとが違うことを、役所や学校に理解してほしい

障がい者でも、見た目（外見）が変わらず、話が出来ると周りの人は不親切で、周りの人がしっかり障がいについて勉強してくれたら良いと思う。

自閉スペクトラム症に特有の症状（チック運動）を周りの人々が理解するのは、非常に困難な場合が多い。
<例>「眼をパチパチさせる」→「眠たい」と誤解される など。

ヘルプマーク・ヘルプカード、あいサポート等の支援

ヘルプカード（マーク）を普段からでもつけやすいデザインや色に変えてほしい。

行政は、あいサポーターなどのボランティア育成に予算を割いているが、それらを終了した人が現にボランティア活動に繋がっているケースは少ない。セミナーなどは取っ掛かりであり、そこを入り口としてボランティア活動に引き込むことまで、行政が積極的にやらなければ予算の無駄である。

成年後見人制度の充実

配偶者と子どもの家族2名が障がい者です。2人分の成年後見人の費用の負担が重いので、費用を市で負担してほしい。

障がい児のいる親の意見として、成年後見人制度を充実させてほしい。

5. 「障がい者の社会参加と就労支援の推進」に関する内容

主に就労支援に関すること

奈良市内の就労支援施設に通っています。訓練を受けに行くと交通費がかかるため、赤字になります。A型を使いたくても、市内になく交通費があまり出ないため使えません。選択肢を増やす支援が必要だと思います。

生駒市には就労支援施設等が少なく、障害雇用も少ない。

知的障がいや発達障がいのある人たちが、市内で活躍できる場があればと常々思っています。

就労に向けての情報をもっとしっかり伝えてほしい。何も知らされずにいるため不安である。

6. 「生きいきクーポン」に関する内容

使える商品や店舗等の拡大

生きいきクーポン券は、老人向けの品物が多く、使える物が少ない。自分で車を運転しているので、ガソリン代などにも使用できるようにしてほしい。

交通費の支援は、以前の様に現金にしてほしい。移動手段が自家用車だけで、電車やバス・タクシーを日常使わないので。

生きいきクーポン券は、使える物が老人向けの品物が多い。外出は、車でしか出来ないのがガソリン券や、体が小さいので、大人用紙オムツだけでなく、子供用紙オムツ（ビッグ）でも使えるようにしてほしい。

生きいきクーポン券ですが、子どもが使える施設で利用できるように増やしていただけると助かります。

生きいきクーポンの額を増やしてほしい。どのコンビニでも生きいきクーポンのチャージができてほしい。

対象者、利用条件の拡充

生きいきクーポンについては、等級が下がると無くなると通達されたが、等級に関係なく、障害者手帳を持っている人には配布してほしい。

生きいきクーポンは、高齢者と同様に障害者や難病の人にも申請なしに送るようにしてほしい。
生きいきクーポンの使用できる場所が少ない。障害があるのに、公共交通機関は使用しにくいので、タクシー、バスなどの乗り物を利用するのですが、使えないです。障がい者本人が利用できるのはありがたいですが、その家族などの負担も大きいので、家族も支援できるような物にしてもらいたい。
以前、生きいきクーポンで支払ったとき「おつり」が出たと思います。その方が使用しやすいので戻してほしい。
障がい者と付添人が利用できる交通系電子マネーに、生きいきクーポンでチャージできるようにしてほしい。
生きいきカードは、6月～2月までの半年間しか使えないが、1年使えるようにしてほしい。
生きいきクーポンを送付して頂ける地域が、縮小されてしまっており、非常に残念。

増額の要望

以前年末ぐらいに支給されていた「生駒市の福祉年金」を復活させて欲しい。
電車等の値上がりもあり、生きいきクーポン券の金額を上げて欲しい。
通勤の交通費として使わせていただき、助かっていますが電車代も生活必需品も値上がりして、コロナ後の収入も減ったので、戻してもらえると正直助かりますがいただけるだけでもありがたいことだなとも思っています。
生きいきクーポン券の金額を1人1万円の所を3万円にしてほしい。

その他

生きいきクーポンには感謝しています。大変ありがたいです。
生きいきクーポン券って何かわからないし、私には使い方もわからない。
生きいきクーポンや手帳をみせてバスに乗る時、とても勇気がいるのであきらめてしまいます。以前、タクシーで手帳を出した時、申し訳ないな一と思ったり、不機嫌な態度をとられると怖いので、どんなに辛くても歩いて帰ったりしていました。年齢的にも体力的にもしんどかったです。
1000円で電車の乗車区間で利用できるというサービスは良いが、乗車区間外で駅員に伝えと、過去に駅員さんとのコミュニケーションがかみ合わないことでパニックになった。伝えるのが苦手になるので、すみませんと言って、乗車区間内の券を駅員に提示することにしてほしい。区間外でどこで乗ったかを紙に書いて駅員に渡すことにしてほしいです。

7. その他

自閉症の息子宛に届いたアンケートに、どう答えて良いか分からない部分が多すぎます。子ども用と大人用のアンケート用紙は、別のものにしたい方が良くと思います。
重度障がい者の家族です。意志疎通の難しい障がいを持つ家族や介護者のアンケートは、実施されないでしょうか。本人の意思をくみ取れるようなアンケート内容ではないため、毎回、回答をためらいます。
市役所と不動産屋が連携して、障がいを持つ人でも、住居を借りやすいような仕組みを作ってほしい。
私自身は身体障がいを有しており、同居の家族は精神障がいを有しています。単身世帯で暮らしていた時よりも、ともに障がいをもつ2人世帯となった現在の方が生活に困る事が増えています。 1つの障がい・1人の障がい者に対する支援と見るのではなく、世帯として複合的な視点での支援を受ける事が出来れば良いと思うことがあります。高齢者世帯の老老介護だけでなく、障がい者が2人の世帯でも同じような問題がある事を認識いただきたい。

だい きい こまししょう しゃふくしけいかく かん
第7期生駒市 障がい者福祉計画に関する
しみん ちょうさ ねが
市民アンケート調査のお願い

みなさま ひごろ しせいぜんばん りかい きょうりよく
皆様には、日頃から市政全般にわたり、ご理解、ご協力 をいただき、ま
ことにありがとうございます。

いこまし みなさま こえ れいわ ねん がつ にち
生駒市では、これまでも皆様のお声をいただきながら令和2年4月1日に
「生駒市手話言語の普及並びに 障がいの特性に応じた多様なコミュニケー
ション手段の理解及び利用の促進に関する 条例」の制定などにも取り組み、
しょう ふくししやく すいしん こんご しさく すす
障がい福祉施策を推進してきたところです。今後もこれらの施策をさらに進
めていくため、だい きい こまししょう しゃふくしけいかく けいかくきかん れいわ ねんど
めていくため、第7期生駒市 障がい者福祉計画(計画期間:令和6～8年度)
を策定することになりました。

つきましては、みなさま せいかつじょうきょう かんが うかが けいかく
つきましては、皆様の生活状況やお考えなどを伺い、この計画づく
りに反映するため、アンケート調査を実施いたします。

このアンケート調査の対象者は、生駒市にお住まいの各種障 害者手帳
をお持ちの方から無作為に選ばせていただきました。ちょうさ きにゆう
調査でご記入いただ
いた内容は、すべて統計的に処理いたしますので、個々の回答内容を公表し
たり、調査目的以外に使用したりすることはございません。

たよう きょうりよく
ご多用のところ、まことに恐縮ではございますが、本アンケート調査にご
協力 いただきますよう、よろしくお願いいたします。

れいわ ねん がつ
令和5年8月

いこまし しょう ふくしか
生駒市 障がい福祉課

きにゆう ちょうさひよう がつ にち もく へんそう
ご記入いただきました調査票は、8月31日(木)までに返送して
くださいますようお願いいたします。

うらめん さんしょう
裏面もご参照ください

このアンケートは、インターネットでのWEBアンケートも実施しています

パソコンやスマートフォンからの回答も可能です

パソコンで回答される方は、下記のURLを入力し、画面を開いてください。

<https://forms.gle/5XVmPbv7sreUVKhU7>

タブレット、スマートフォンでの回答の場合は、右のQRコード
を読み取ってください。



画面が表示されましたら、別冊のアンケート調査票の右上に記載している回答用英数字

(5つの半角数字・アルファベット) を入力して回答を開始してください。

※この英数字は重複回答を避けるためのもので、個人を特定するものではありません。

WEB回答画面です

調査票1ページ右上の英数字

WEBアンケート回答用 英数字 → ****

【市民アンケート調査
に関するお願い】

が対象となります。
きない場合は、ご家族の方などに代筆
し重て代わってご回答していただく
て名のご本人が18歳未満の場合は、

方は、以下をご利用ください。
スマートフォン・パソコンなどでインター
ネットでも回答いただけます。
（添付の裏面）をご参照ください。

全ての質問で、回答文および選択肢の音声流れる静止画がご覧いただけます。

視聴をご希望の方は、画面の下にある「再生」をクリックしてください。

全ての回答を終えるには、約25分を要する見込みです（自由記入回答を除く）。

回答の途中で画面を閉じることなく、最後の質問まで回答いただき、送信をクリッ
クしてください。なお、送信後は、回答の変更はできませんので、ご了承ください。

WEBアンケートで回答される方は **9月3日(日)まで** にご回答ください。

WEBアンケートで回答された方は、調査票用紙への記入、返信は不要です。

WEBアンケート^{かいとうよう えいすうじ}回答用 英数字 →

だい き い こ ま し し ょ う し ゃ ふ く し け い か く か ん し み ん ちょうさ
第7期生駒市 障がい者福祉計画に関する市民アンケート調査
 きにゆう ねが
【ご記入にあたってのお願い】

ちょうさひょう きにゆう
 ◇調査票の記入について

- ・この調査は封筒のあて名のご本人が対象となります。
- ・なんらかの事情でご本人が記入できない場合は、ご家族の方などに代筆していただくか、ご本人の意思を尊重して代わってご回答していただく方をお願いいたします。また、あて名のご本人が18歳未満の場合は、保護者の方がご記入ください。
- ・アンケートの回答に支援が必要な方は、以下をご利用ください。
 - ①質問の読み上げが必要な方やスマートフォン・パソコンなどでインターネットができる方は、WEBアンケートでも回答いただけます。
 かいとうほうほう べっし いらいぶん うらめん さんしょう
回答方法については、別紙(依頼文の裏面)をご参照ください。
 - ②視覚障がいの方で代読・代筆が必要な方は、下記問い合わせ先にご連絡ください。個別に対応させていただきます。
- ・令和5年4月1日現在の内容でご記入ください。
- ・設問に選択肢のあるものは、あてはまる番号に○をつけてください。お答えが「その他」にあてはまる場合は、()内に具体的に記入ください。
- ・設問によって、○をつけていただく数を()内に指定していますので、ご注意ください。

ちょうさひょう かいしゅう
 ◇調査票の回収について

きにゆう ちょうさひょう どうふう へんしんようふうとう い がつ にち
 ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、**8月31日**
(木)までに返送していただきますようお願いいたします。(切手は不要です)

ちょうさ しつもん か き と あ
 ◇調査についてのご質問などは、下記までお問い合わせください。

いこまし しょう ふくしか ー630-0288 いこましひがしんまち
 生駒市 障がい福祉課 〒630-0288 生駒市 東新町8-38
 でんわ ないせん
 電話：0743-74-1111(内線7260) FAX：0743-74-1600

生駒市 障がい者福祉計画に関する市民アンケート

○このアンケートは、どなたが記入されますか。(○は1つだけ)

1. ご本人が回答
2. ご本人の意思に従い家族(支援者)が代筆
3. ご本人の意思確認がむずかしいため、本人の意思をくみ取って家族(支援者)が回答

○あなた(ご本人)のことについて

問1. あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

1. 男性
2. 女性
3. その他※

※「分からない」「答えたくない」などを含みます

問2. あなたの年齢はおいくつですか。令和5年4月1日現在の年齢でお答えください。(○は1つだけ)

1. 0～5歳(就学前)
2. 6～11歳(小学生)
3. 12～14歳(中学生)
4. 15～17歳(高校生など)
5. 18～29歳
6. 30～39歳
7. 40～49歳
8. 50～59歳
9. 60歳以上

問3. お持ちの障害者手帳の種類すべてと手帳に書かれている障害の程度に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 身体障害者手帳					
1-1. 障害の内容					
1. 視覚障害					
2. 聴覚・平衡・音声・言語・そしゃくなどの障害					
3. 肢体障害(体幹機能障害を含む)					
4. 心臓やじん臓などの内部障害					
1-2. 障害の程度					
1. 1級	2. 2級	3. 3級	4. 4級	5. 5級	6. 6級
2. 療育手帳					
障害の程度					
1. A	2. A1	3. A2	4. B	5. B1	6. B2
3. 精神障害者保健福祉手帳					
障害の程度					
1. 1級	2. 2級	3. 3級			

問4. あなたの疾病の認定などについて、おうかがいします。次のうち、あてはまるものすべてお選びください。(あてはまるものすべてに○)

1. 自立支援医療費制度(精神通院医療)を受けている									
2. 国が指定する難病または小児慢性特定疾病の認定を受けている									
3. 高次脳機能障害の診断を受けている									
4. 医療的ケアを受けている → ケアの内容も以下よりお選びください									
<table border="1"> <tr> <td>① 経管栄養(経鼻胃管・腸ろう・胃ろうなど)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② かくたん吸引(口腔・鼻腔・気管カニューレ内部などの吸引)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 吸入・ネブライザー</td> <td>④ 気管切開部の管理</td> </tr> <tr> <td>⑤ 人工呼吸器の管理</td> <td>⑥ その他()</td> </tr> </table>		① 経管栄養(経鼻胃管・腸ろう・胃ろうなど)		② かくたん吸引(口腔・鼻腔・気管カニューレ内部などの吸引)		③ 吸入・ネブライザー	④ 気管切開部の管理	⑤ 人工呼吸器の管理	⑥ その他()
① 経管栄養(経鼻胃管・腸ろう・胃ろうなど)									
② かくたん吸引(口腔・鼻腔・気管カニューレ内部などの吸引)									
③ 吸入・ネブライザー	④ 気管切開部の管理								
⑤ 人工呼吸器の管理	⑥ その他()								
5. あてはまるものはない									

問5. あなたは、発達障害の診断を受けていますか。
(自閉スペクトラム症、広汎性発達障害、学習障害など)
(○は1つだけ)

1. 受けている(疑いを含む) → 問5-1へ	2. 受けていない → 問6へ
-------------------------	-----------------

問5-1. 問5で「1. 受けている（疑いを含む）」を回答した方におうかがいします。

診断結果について、次よりあてはまるものをお選びください。

（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|-------------------|------------------|------------|
| 1. 自閉スペクトラム症（ASD） | 2. 注意欠如多動症（ADHD） | |
| 3. 学習障がい（LD） | 4. 知的障がい | 5. 運動機能障がい |
| 6. その他（ ） | | |
| 7. 診断名特になし | | |

問6. 18歳以上の方におたずねします。現在、障害者総合支援法の障害支援区分の認定を受けていますか。（○は1つだけ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 受けている | 2. 受けていない |
|----------|-----------|

問6-1. 認定された障害支援区分はどれですか。

- | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1. 区分1 | 2. 区分2 | 3. 区分3 | 4. 区分4 | 5. 区分5 | 6. 区分6 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|

問7. 40歳以上の方におたずねします。

現在、介護保険法の要支援・要介護認定を受けていますか。（○は1つだけ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 受けている | 2. 受けていない |
|----------|-----------|

問7-1. 認定された要支援・要介護認定区分はどれですか。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 要支援1 | 2. 要支援2 | 3. 要介護1 | 4. 要介護2 |
| 5. 要介護3 | 6. 要介護4 | 7. 要介護5 | |

問8. 家族構成はどれですか。あなたを中心にお答えください。

なお、結婚されている場合は配偶者も含みます。（○は1つだけ）

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 一人暮らし（あなたのみ） | 2. 夫婦のみ |
| 3. 二世帯世帯（あなたと子） | 4. 二世帯世帯（親とあなた） |
| 5. 三世帯世帯（あなた・子・孫） | 6. 三世帯世帯（親・あなた・子） |
| 7. 三世帯世帯（祖父母・親・あなた） | 8. あなたと兄弟姉妹 |
| 9. 施設や寮の職員や仲間 | |
| 10. その他（具体的に： ） | |

問9. あなたが、現在^{げんざい}住^すんでいるお住^すまいはどれですか。(○は1つだけ)

- | | |
|--|---|
| 1. 持 ^も ち家 ^{いえ} (家 ^か 族 ^{ぞく} や親 ^{しん} 族 ^{ぞく} の持 ^も ち家 ^{いえ} も含 ^{ふく} む) | 2. 賃 ^{ちん} 貸 ^{たい} 住 ^{じゅう} 宅 ^{たく} |
| 3. 市 ^し 営 ^{えい} 住 ^{じゅう} 宅 ^{たく} ・県 ^{けん} 営 ^{えい} 住 ^{じゅう} 宅 ^{たく} | 4. グループホー ^ム |
| 5. 福 ^{ふく} 祉 ^し ホー ^ム | 6. 寮 ^{りょう} ・社 ^{しゃ} 宅 ^{たく} など |
| 7. 病 ^{びょう} 院 ^{いん} (1年 ^{いじょう} 以上 ^{ちゅう} の長 ^{ちよう} 期 ^{きに} 入 ^い 院 ^{いん}) | |
| 8. その他 (具 ^た 体 ^ぐ 的 ^{たい} に: _____) | |

問10. あなたやご家^か族^{ぞく}のイン^{かん}ター^{きよう}ネ^とット^{くわん}環^{かん}境^{きやう}についておたずねします。

(○は1つだけ)

1. 自^じ分^{ぶん}のスマ^とート^ふォン^ん・タ^ぶレ^っト^とま^たはパ^そコン^を持^もっ^てい^る
2. 自^じ分^{ぶん}は持^もっ^てい^ない^が、家^か族^{ぞく}がスマ^とート^ふォン^ん・タ^ぶレ^っト^とま^たはパ^そコン^を持^もっ^てい^る
3. 誰^{だれ}も持^もっ^てい^ない

○ あなたの^{にちじようせい}日^{にち}常^{じよう}生^{せい}活^{かつ}について

問11. 普^ふ段^{だん}の生^{せい}活^{かつ}で支^し援^{えん}を必^{ひつ}要^{よう}と^なして^いる^こは^な何^にで^すか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---|---|---|
| 1. 起 ^き 床 ^{しょう} ・就 ^{しゅう} 寝 ^{しん} | 2. 排 ^{はい} 泄 ^{せつ} (トイ ^れ など) | 3. 洗 ^{せん} 顔 ^{がん} ・歯 ^は 磨 ^{みが} き |
| 4. 食 ^{しょく} 事 ^じ | 5. 着 ^き 替 ^が え | 6. 入 ^{にゅう} 浴 ^{よく} |
| 7. 屋 ^{おく} 内 ^{ない} 移 ^い 動 ^{どう} | 8. 服 ^{ふく} 薬 ^{やく} | 9. 外 ^{がい} 出 ^{しゅつ} |
| 10. 買 ^か い物 ^{もの} | 11. 通 ^{つう} 院 ^{いん} | 12. 見 ^み 守 ^{まも} りな ^ど の生 ^{せい} 活 ^{かつ} 全 ^{ぜん} 般 ^{ぱん} |
| 13. 人 ^{ひと} と ^の コ ^ミ ュ ^ニ ケー ^{ション} | 14. 家 ^か 事 ^じ (掃 ^{そう} 除 ^じ ・洗 ^{せん} 濯 ^{たく} ・料 ^{りょう} 理 ^り) | |
| 15. お金 ^{かね} の管 ^{かん} 理 ^り | 16. 情 ^{じょう} 報 ^{ほう} の収 ^{しゅう} 集 ^{しゅう} | 17. 各 ^{かく} 種 ^{しゅ} 手 ^て 続 ^{つづ} き関 ^{かん} 係 ^{けい} |
| 18. その他 (具 ^た 体 ^ぐ 的 ^{たい} に: _____) | | |
| 19. 特 ^{とく} に支 ^し 援 ^{えん} を必 ^{ひつ} 要 ^{よう} と ^す る ^こ は ^な い | | |

問12. 普^ふ段^{だん}、支^し援^{えん}や世^せ話^わを^あっ^てい^ます^か。(○は1つだけ)

- | | |
|--|--|
| 1. 受 ^う け ^て い ^る → 問12-1へ | 2. 受 ^う け ^て い ^な い → 問13へ |
|--|--|

問12-1 問12で「1. 受けている」と答えた方にお聞きします。

主にどなたが支援や世話をしていますか。(〇は1つだけ)

1. 親または祖父母	2. 配偶者	3. 兄弟姉妹
4. 子または子の配偶者	5. その他の親せき	6. ボランティア
7. 施設の職員	8. ホームヘルパー	9. 近所の人・知人
10. その他(具体的に: _____)		

問12-2 問12-1で「1. 親または祖父母」「2. 配偶者」「3. 兄弟姉妹」「4. 子または子の配偶者」「5. その他の親せき」と答えた方にお聞きします。
主な介助・支援者の年齢はおいくつですか。(〇は1つだけ)

1. 30歳未満	2. 30歳代～40歳代
3. 50歳代～60歳代	4. 70歳以上

問13. 普段の日中、どのようにお過ごしですか。(あてはまるものすべてに〇)

学校などに通っている	1. 幼稚園・保育園・こども園に通っている
	2. 通所施設(児童発達支援・放課後デイサービス事業所を含む)に通っている
	3. 特別支援学校に通っている
	4. 小・中学校の特別支援学級に通っている
	5. 小・中学校の普通学級、高校、大学、専門学校に通っている
働いている	6. 会社や店などで働いている、または公務員をしている
	7. 自分で事業・商売をしている
	8. 家族の事業・商売を手伝っている
	9. 自宅で内職をしている
その他	10. 就労訓練に通っている(就労移行支援・就労継続支援A型・B型)
	11. 療養を中心とした生活をしている(入院、デイケア通所を含む)
	12. 福祉施設(地域活動支援センター、生活介護など)に通っている
	13. 家事や子育て・介護などをしている
	14. 特に何もしていない
	15. その他(具体的に: _____)

問14. 普段、どのような目的で外出しますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 通園・通学・通勤のため | 2. 通所施設や作業所に通うため |
| 3. 買い物などの日常的な用事のため | 4. 病院での診察やデイケアに行くため |
| 5. 市役所など公的な手続きのため | 6. 趣味の活動やスポーツのため |
| 7. グループ活動に参加するため | 8. 友人と会ったり、遊んだりするため |
| 9. 習いごとや塾などのため | 10. 散歩のため |
11. その他(具体的に: _____)
12. 特に目的は決まっていない

問15. 普段どのくらいの割合で外出しますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2~4回程度 | 3. 週に1回程度 |
| 4. 月に1~2回程度 | 5. 年に数回程度 | 6. ほとんど外出しない |

問16. 外出したり、外出しようとするときに困ることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 電車やバスなどの利用がむずかしいこと(どれに乗ったらいいかわからないなど)
2. まちがバリアフリーになっていないこと
(段差や障害物がある、音声案内や点字ブロック、案内表示が整備されていないなど)
3. 利用できるトイレが少ないこと
4. 周囲の目が気になること
5. 健康や体力面で不安がある、疲れやすいこと
6. 他人とのコミュニケーションがむずかしいこと
7. 人の多いところでは精神的に不安定になること
8. 障がいや病気が原因で、突発的な行動をすることがあること
9. 外出の準備がたいへんなこと
10. 交通ルールがわからないので介助者が必要なこと
11. 付き添いや介助者の確保がむずかしいこと
12. 困ったときにどうしたらよいかわからないこと
13. 新型コロナウイルスなどの感染の心配があること
14. その他(具体的に: _____)
15. 特に困ることはない

問17. 日常生活において困っていることや心配なことがありますか。
 現在の困っていることと将来の心配、それぞれについてお答えください。
 (それぞれあてはまるものすべてに○)

	現在の 困っていること	将来の心配
1. 本人の収入が十分でないこと	1	1
2. 介護者や介助者がいない、十分でないこと	2	2
3. 健康状態がわるいこと	3	3
4. 障がい ^{しょうがい} の程度 ^{ていど} がすすむこと	4	4
5. 住まい ^{すまい} の設備 ^{せつび} が不十分 ^{ふじゅうぶん} なこと	5	5
6. 必要 ^{ひつよう} な福祉 ^{ふくし} サービス ^{サービス} を受けられないこと	6	6
7. 職場 ^{しょくば} や地域 ^{ちいき} の人間関係 ^{にんげんかんけい} のこと	7	7
8. 友人 ^{ゆうじん} がいない、少 ^{すく} ないこと	8	8
9. 学校 ^{がっこう} の勉強 ^{べんきょう} についていけないこと	9	9
10. 学校 ^{がっこう} の設備 ^{せつび} が不十分 ^{ふじゅうぶん} なこと	10	10
11. 家族 ^{かぞく} の負担 ^{ふたん} が大きいこと	11	11
12. 就職 ^{しゅうしょく} や進学 ^{しんがく} のこと	12	12
13. 住まい ^{すまい} の確保 ^{かくほ} が困難 ^{こんなん} なこと	13	13
14. 急病 ^{きゅうびょう} になったときのこと	14	14
15. 災害 ^{さいがい} が起きたときのこと	15	15
16. その他 ^た (具体的に：)	16	16
17. 特 ^{とく} にない	17	17

問17-1. 問17で「11. 家族の負担が大きいこと」と回答された方におたずねします。

ご家族の負担の内容はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 通学、(通園)や通院時の送迎
2. 障がい者の重さや特性への対応がむずかしいこと
3. 長期休暇、土日、放課後の生活
4. 経済的な負担
5. 特定の家族にかかる介護や介助の負担
6. 障がいに対する周囲の理解不足による精神的な負担
7. その他(具体的に: _____)

問17-2. 問17で「13. 住まいの確保が困難なこと」と回答された方におたずねします。

困難な内容はどれですか(あてはまるものすべてに○)

1. アパートなどの家賃が高い
2. 障がいを理由にアパートなどが借りられない
3. グループホームなどが不足している
4. バリアフリーのアパートなどが少ない
5. その他(具体的に: _____)

○ 障害福祉サービスなどの利用について

問18. あなたは、現在、障害福祉サービス、児童通所サービスまたは地域生活支援事業を利用していますか。(○は1つだけ)

1. 利用している ⇒ 問19にお進みください。
2. 利用していない ⇒ 問20にお進みください。

問19. 問18で「1. 利用している」と回答された方におたずねします。

どのサービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 居宅介護 (ホームヘルプ)	2. 重度訪問介護
3. 行動援護	4. 同行援護
5. 短期入所	6. 生活介護
7. 就労継続支援A型	8. 就労継続支援B型
9. 就労移行支援	10. 就労定着支援
11. グループホーム	12. 自立訓練 (機能訓練・生活訓練)
13. 宿泊型自立訓練	14. 児童発達支援
15. 放課後等デイサービス	16. 日中一時支援
17. 移動支援	18. 福祉ホーム
19. 地域活動支援センター	20. 訪問入浴
21. 安心生活相談事業	22. ひとり暮らし体験事業
23. その他 ()	

問20. 問18で「2. 利用していない」と回答された方におたずねします。

利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 利用しなくても生活できるから	2. 家族の介護や介助を受けているから
3. 他人に家に入ってほしくないから	4. 利用者負担 (利用料金) が高いから
5. 利用の手続きの仕方がわからないから	6. 利用したいサービスがないから
7. 送迎がないなど利用しにくいから	8. サービスがあることを知らないから
9. 入退院をくり返しているから	10. 以前に利用してよくない印象があるから
11. サービスを利用することに気持ちが向かないから	
12. その他 (具体的に: _____)	

問21. あなたが毎日の生活を送るうえで、今後、特に必要な支援・サービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自宅などを訪問し、介護してくれるホームヘルプサービス
2. 生活介護・地域活動支援センターなどの日中活動の場
3. 就労訓練・自立訓練などの支援
4. 同行援護・行動援護・移動支援などの外出するための支援
5. 短期入所や日中一時支援などの緊急時の預かり支援
6. 放課後等デイサービス・児童発達支援などの療育支援
7. 車いす・補聴器などの補装具や日常生活に必要な用具の普及や充実
8. グループホーム・福祉ホーム・入所施設などの生活や居住の場
9. 福祉サービスを利用するための情報提供や身近な相談窓口
10. その他(具体的に: _____)
11. 特になし

○ 保健・医療について

問22. あなたの現在の通院状況(リハビリを含む)は、どれですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. 1か月に2回以上 | 2. 1か月に1回程度 |
| 3. 2～3か月に1回程度 | 4. 半年に1回程度 |
| 5. 年に1回または数年に1回程度 | 6. 入院中 |
| 7. 定期的に通院していない | |

問23. 医療を受ける上で困っていることはありますか。(○は主なもの3つまで)

1. 医療費の負担が大きいこと
2. 通院費(交通費)の負担が大きいこと
3. 通院のための移動が困難であること
4. 入院中の付き添いがいないこと
5. 専門的な治療ができる病院が近くにないこと
6. 障がいや理由として治療を受けにくいこと
7. 病状の理解がむずかしく症状を上手に伝えられないこと
8. コミュニケーションが困難(手話、要約筆記などがない)なこと
9. 障がいや病気が原因で、突発的な行動に出ることがあること
10. その他(具体的に: _____)
11. 特に困っていることはない

問24、問25は18歳以上の方のみお答えください
18歳未満の方は次のページ（問26）へお進みください

○ 就労支援について

問24. あなたは、収入を得る仕事を継続もしくは今後したいとお考えですか。
(○は1つだけ)

1. 今の仕事を続けたい
2. 新しい仕事（転職）を考えている
3. 仕事はしたくない、もしくはできない
4. 今のところわからない
5. 就労支援を受けている
6. 仕事を探している
7. その他（具体的に：_____）

問25. あなたは、障がい者の就労支援としてどのようなことが必要だと思いますか。
(○は主なもの3つまで)

1. 通勤手段が確保できること
2. 職場にバリアフリーの配慮がされること
3. 短時間勤務や勤務日数などの配慮がされること
4. 職場の上司や同僚に障がいに対する理解があること
5. 職場で介助や援助などが受けられること
6. 働き続けるための支援があるなど、職場と支援機関の連携がとれていること
7. 企業のニーズにあった就労訓練が受けられること
8. 仕事について、職場以外で気軽に相談できる場所があること
9. その他（具体的に：_____）
10. 特にない（わからない）

○ 相談支援や情報について

問26. あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、どなた（どこ）に相談しますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1. 家族・親せき | 2. 友人・知人 |
| 3. 職場の上司・同僚 | 4. 保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生 |
| 5. かかりつけの医師・看護師・ケースワーカー・指導員など | |
| 6. サービス提供事業所（ヘルパーや通所事業所） | |
| 7. 生活支援センター・相談支援専門員 | 8. 市役所・保健所 |
| 9. 社会福祉協議会 | 10. 民生委員・児童委員 |
| 11. こどもサポートセンター | 12. 障がい者団体・家族会 |
| 13. 地域包括支援センター・ケアマネジャー | |
| 14. その他（具体的に：_____） | |
| 15. 相談する人（ところ）がない | 16. 相談したいとは思わない |

問27. あなたは、福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1. 市の広報紙 | 2. 市のホームページ |
| 3. インターネット（関連サイトの検索など） | 4. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌など |
| 5. 生活支援センター・相談支援専門員 | 6. 障がい者団体・支援団体 |
| 7. 学校・職場・施設など | 8. 民生委員・児童委員 |
| 9. 医療機関の医師・看護師・ケースワーカー・指導員など | |
| 10. 身体・知的障害者相談員 | |
| 11. サービス提供事業所（ヘルパーや通所事業所） | |
| 12. 家族・親せきなど | 13. 友人・知人 |
| 14. その他（具体的に：_____） | |
| 15. 情報を得ていない | |

質問はあと少しです。
よろしくお願いします。



○ 災害時の避難などについて

問28. 災害時におけるあなたの状況についておたずねします。

① 一人で避難できますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------|---------|----------|
| 1. できる | 2. できない | 3. わからない |
|--------|---------|----------|

② 周囲の人に居場所を知らせることができますか。(機器などによる通知を含む)
(○は1つだけ)

- | | | |
|--------|---------|----------|
| 1. できる | 2. できない | 3. わからない |
|--------|---------|----------|

③ 近所に助けてくれる人がいますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. いる | 2. いない | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

問29. 災害発生時にあなたが支援してほしいことは何ですか。

(○は主なもの3つまで)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 災害情報を知らせてくれること |
| 2. 避難場所や避難経路を教えてくれること |
| 3. 避難時に声をかけてくれること |
| 4. 避難場所までの避難を支援してくれること |
| 5. 避難場所での障がいに応じたきめ細かな支援をしてくれること |
| 6. 必要な治療や薬を確保してくれること |
| 7. 手話などコミュニケーション手段を確保してくれること |
| 8. 避難場所の設備をバリアフリー化すること |
| 9. その他(具体的に: _____) |
| 10. 特にない(わからない) |

問30. 「生駒市災害時要援護者避難支援事業」を知っていますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 名前だけは知っている | 3. 知らない |
|--------------|---------------|---------|

※「生駒市災害時要援護者避難支援事業」とは

自然災害(原則として風水害や土砂災害)が発生した場合やそのおそれがある時に備えて、避難支援を必要とする人の情報を、市や自治会などで事前に共有することで、避難時の手助けなどを地域の中ですばやく行えるよう、地域での助け合い(共助)による支援体制を整備するものです。

○ 権利擁護などについて

問31. あなたは、次の制度などについて知っていますか。また利用したいと思いますか。

- ① 日常生活に不安のある障がい者や高齢者に対して、金銭管理などの日常生活に関する支援や成年後見制度などの相談を行う『生駒市権利擁護支援センター（福祉センター内）』について。（○は1つだけ）

- | |
|--------------------------------|
| 1. どのような施設か内容まで知っている |
| 2. 名前は聞いたことがあるが、どのような施設かよく知らない |
| 3. 聞いたことがない、知らない |

- ② 『生駒市権利擁護支援センター』の利用について。（○は1つだけ）

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 利用したことがある | 2. 今は必要ないが、将来利用したい |
| 3. 利用したいとは思わない | 4. わからない |

- ③ 知的障がい、精神障がい、認知症などにより判断能力が十分でない方が不利益を受けないように家庭裁判所に申立てをして、その方を援助してくれる人を付けてもらう『成年後見制度』について。（○は1つだけ）

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 名前だけは知っている | 3. 知らない |
|--------------|---------------|---------|

- ④ 『成年後見制度』の利用について。（○は1つだけ）

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 現在、利用している | 2. 今は必要ないが、将来利用したい |
| 3. 利用したいとは思わない | 4. わからない |

- ⑤ 障がい者虐待について、相談・通報の連絡先として市役所内に設置している『障害者虐待防止センター（虐待通報窓口）』について。（○は1つだけ）

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 名前だけは知っている | 3. 知らない |
|--------------|---------------|---------|

問32. 役所や事業者に「障がいのある人に対するバリアを取り除くための配慮（合理的配慮）」を求める障害者差別解消法について知っていますか。

（○は1つだけ）

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 名前だけは知っている | 3. 知らない |
|--------------|---------------|---------|

問33. 生駒市では「外見から分からなくても配慮や援助を必要としている方」が身につけたり所持したりすることで、配慮などを必要としていることを示す「ヘルプマーク」「ヘルプカード」の携帯をすすめています。また、ちょっとした手助けをしてくださる方を増やすために「あいサポーター養成講座」を実施し、「あいサポートバッジ」を配布しています。

①「ヘルプマーク」「ヘルプカード」を利用していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
| 3. 知らない | |

「ヘルプマーク」



「ヘルプカード」



②「あいサポーター養成講座」についてお答えください。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------------|--|
| 1. 受講した | |
| 2. 受講したことはないが、講座内容まで知っている | |
| 3. 聞いたことはあり、名前だけは知っている | |
| 4. 知らない | |

③あいサポーターには「あいサポートバッジ」を身につけていただくことをすすめています。バッジについてお答えください(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 身につけている | 2. 持っているが身につけていない |
| 3. つけている人は見たことがある | 4. 見たことがない |

「あいサポートバッジ」



問34. あなたは、普段のくらしの中で、障がい者への差別や偏見があると感じますか。

(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. あると感じている (感じた) | 2. 感じたことはないが、あると思う |
| 3. 感じたことはない | 4. わからない |

問34-1. 問34で差別や偏見があると回答された方におたずねします。

差別や偏見をどのような機会や場所で感じましたか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 学校で | 2. 就職のとき |
| 3. 賃金や待遇など仕事のうえで | 4. 職場の上司や同僚の態度で |
| 5. 結婚や交際のとき | 6. 親戚づきあいで |
| 7. 友人どうしの会話の中で | 8. 近所づきあいで |
| 9. 地域の行事で | 10. まちなかでの人の視線や言動で |
| 11. 店での扱いや店員の態度で | 12. 公共機関の窓口や職員の態度で |
| 13. その他 (具体的に: _____) | |

○ コミュニケーションについて

問35. 令和2年4月1日に「生駒市手話言語の普及並びに障がいの特性に応じた多様なコミュニケーション手段の理解及び利用の促進に関する条例」が施行されましたが、このことを知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 名前だけは知っている |
| 3. 知らない | |

※「生駒市手話言語の普及並びに障がいの特性に応じた多様なコミュニケーション手段の理解及び利用の促進に関する条例」とは
手話が言語であることの普及並びに障がいの特性に応じた情報の取得又は利用、意思の表示やコミュニケーションの手段の理解及び利用の促進を図ることにより、全ての市民が障がいの有無にかかわらず、互いに人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現するための条例です。

問36. コミュニケーションに支障を感じるがありますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------|---------|-------|
| 1. ある | 2. 時々ある | 3. ない |
|-------|---------|-------|

問37. 利用したことがあるコミュニケーション手段は何ですか。また、今後利用してみたいコミュニケーション手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

①利用したことがあるコミュニケーション手段

1. 手話	2. 筆談
3. 要約筆記	4. 点字
5. 音訳	6. 拡大鏡
7. 絵図	8. 写真
9. サイン	10. ジェスチャー
11. 代用音声	12. 意思伝達装置
13. パソコン・スマートフォンなど	
14. その他(具体的に: _____)	

※代用音声とは

食道発声、人工喉頭による発声、シャント発声などの声の代わりに音を出す方法のことです。

②今後利用してみたいコミュニケーション手段

1. 手話	2. 筆談
3. 要約筆記	4. 点字
5. 音訳	6. 拡大鏡
7. 絵図	8. 写真
9. サイン	10. ジェスチャー
11. 代用音声	12. 意思伝達装置
13. パソコン・スマートフォンなど	
14. その他(具体的に: _____)	

問38. 手話をはじめとした多様なコミュニケーション手段の理解・利用促進について、ご意見があればご記入ください。

○ 生駒市の取組について

問39. 今後、生駒市が推進する障がい福祉施策について、あなたの思う「重要度」「満足度」についてそれぞれあてはまるものを1つずつお答えください。

こ う 目 項 目	重 要 度					満 足 度				
	重 要 で な い	あ ま り 重 要 で な い	ど ち ら と も い え な い	ま あ ま あ 重 要 で あ る	重 要 で あ る	不 満 で あ る	や や 不 満 で あ る	ど ち ら と も い え な い	ま あ ま あ 満 足 で あ る	満 足 で あ る
1. 地域で安心して生活できる場所の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. サービスについての相談窓口 (苦情の相談も含む)の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. 施設やサービスの内容についての 情報提供の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. 身近で相談できる場所や人の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 障がい者理解のための啓発活動や 体験学習などの充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6. 自分の権利を守る権利擁護の しくみの充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7. 障がい者どうしの活動の支援の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8. 親の会・家族会など家族への支援の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9. 障がい者にかかわるボランティア活動の 充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10. 障がい者が参加しやすい地域活動や レクリエーションなどの充実支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11. その他 (具体的に：_____)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

○ ^い生きいきクーポン^もをお持ちの方へ^{かた}

生きいきクーポン券について、ご意見・ご要望があればコールセンター 0120-381-288
へお伝えください。(祝日を除く平日9時～17時)
なお、お電話が困難な場合は、以下にお書きいただいても構いません。

○ 障^{しょう}がい^{ふくし}福祉^{いけん}について、ご意見^{じゆう}などをご自由^かにお書きください。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

8月31日(木)までに同封の封筒に入れ、切手を貼らずにポストに
入れてください。

きょうりょく
ご協力ありがとうございました。